に從ふ。

乙酉、將軍吳子陽、魏の元英と、(三九)白沙に戰ふ。子陽・敗績す。

魏の東荆州の蠻樊素安、亂を作す。乙酉、左衞將軍李崇を以て鎭南將軍・都督征蠻諸軍事と爲し、步騎を將ゐて之を討たしむ。

馮翊の吉狗の父、(四〇)原鄕の令と爲る。姦吏の誣ふる所と爲り、逮せられて廷尉に詣る。罪、死に當る。狗、年十五、登聞鼓を撾ち、父の命に代らんと乞ふ。上、其の幼なるを以て、人之を敎へしならんと疑ひ、廷尉卿蔡法度をして、嚴に誘脅を加へ、(四一)其の欵實を取らしむ。法度、盛に拷訊の具を陳し、狗を詰りて曰はく、『爾、父に代るを求む。敕して已に相許せり。審に能く死するや不や。且つ爾は童騃なり。若し人の敎ふる所と爲りしならば、亦(四二)悔異を聽さん』と。狗曰はく、『四、愚幼なりと雖も、豈に死の憚る可きを知らざらんや。顧だ父の極刑を見るに忍びず、故に之に代るを求む。此れ細故に非ず。奈何ぞ人の敎を受けんや。明詔して・代るを聽さるるは、登仙に異ならず。豈に(四三)回貳有らんや』と。法度乃ち更に顏を和げ之を誘うて曰はく、『主上、尊侯の・罪無きを知る。行くゆく當に釋さるるを得べし。君を觀るに佳童と爲すに足る。今若し辭を轉せば、幸に・父子同じく濟はる可からん』と。狗

【三九】白沙。今の湖北省江漢道黃陂縣に在り。
【四〇】厚鄕。縣の名。
【四一】欵實。眞實の事情。
【四二】悔異。猶ほ律文の所謂讞異のごとし。前に申立てしことを取り消すこと。
【四三】回は前說を反すをいひ、貳は前說に異なるをいふ。

曰はく、『父は深劾に掛る。必ず刑書を正されん。四は瞑目して領を引き、唯だ大戮に聽せん。言の復た對ふる無し』と。時に狗、備に杻械を加へらる。法度、之を愍み、命じて更めて小なる者を著けしむ。狗聽かずして曰はく、『死罪の囚は、唯だ宜しく械を益すべし。豈に減ず可けんや』と。竟に・脫せず。法度具に以て聞す。上乃ち其の父の罪を宥す。丹楊の尹王志、其の廷尉に在るの事を求め、幷せて(四四)鄕里を問ひ、歲首に於て擧げて純孝に充てんと欲す。狗曰はく、『異なるかな王尹、何ぞ狗を量るの薄きや。父辱めらるれば子死するは、道固に當に然るべし。若し狗、此の擧に當らば、乃ち是れ父に因りて名を取るなり。何の辱か之に如かん』と。固く拒みて止む。

魏主、高肇の兄偃の女を納れて貴嬪と爲す。

魏の散騎常侍趙脩、寒賤にして暴に貴く、寵を恃みて驕恣に、王公を陵轢し、衆の疾む所と爲る。魏主、脩の爲めに第舍を治め、諸王に擬す。鄕居、地を獻ずる者は、或は超えて大郡に補す。脩、請うて告歸して其の父を葬る。凡そ財役の須ふる所、竝に官給に從ふ。(四五)脩、道に在りて淫縱なり。左右、其の外に出づるに乘じ、頗る其の罪惡を發く。還るに及び、舊寵小しく衰ふ。高肇密に其の罪を構成す。侍中領御史中尉甄琛・黃門郎李憑・廷尉卿陽平王顯、素より皆脩に諂附す。是に至りて、相連及せんことを懼れ、爭うて肇を助けて之を攻む。帝、尙書元紹に命じて檢訊

【四四】鄕里を問ふ。魏晉以來、士を擧ぐるに、皆、州鄕に由る、故に其の鄕里を問ふ。
【四五】脩、洛より趙郡に歸り、道に在りて淫縱なり。

せしむ。詔を下して其の姦惡を暴き、死を免し、鞭うつこと一百、敦煌に徙して兵と爲す。而るに脩・愚疎にして、初め之を知らず。方に領軍于勁の第に在りて樗蒲す。羽林數人、詔と稱して之を呼び、送りて領軍の府に詣らしむ。甄琛・王顯、罰を監し、先づ㊃問事の有力の者五人を具へ、迭に之を鞭うち、必ず死せしめんと欲す。脩素より肥壯にして、楚毒を堪忍す。密に鞭を加へて三百に至れども死せず。卽ち驛馬を召し、之を促して道に上らしむ。城を出で、自ら勝へず、㊄擧縛して鞍中に置き、急に之を驅る。行くこと八十里にして乃ち死す。帝、之を聞き、元紹が重ねて聞せざるを責む。紹曰はく、『脩の佞幸なるは、國の深蠹と爲す。臣、釁に因りて之を除かずんば、恐らくは陛下、萬世の謗を受けん』と。帝、其の言の正しきを以て、罪せざるなり。紹出づ。廣平王懷、之を拜して曰はく、㊅『翁の直なるは、汲黯に過ぐ』と。紹曰はく、『但だ恨むらくは之を戮することの稍晩かりしを。以て愧と爲すなるのみ』と。紹は㊆素の孫なり。明日、甄琛・李憑、脩の黨なるを以て、皆、坐して官を免ぜらる。左右、脩と連坐し、死黜せらるる者二十餘人。散騎常侍高聰、脩と素より親狎す。而れども又、宗人にして高肇に諂事するを以て、故に獨り・免るるを得たり。

【四六】問事。杖を行ふ者。
【四七】脩、困極して、自ら乘騎に勝ふる能はず、兩人對擧してこれを馬上に置き、鞍上に縛す。
【四八】翁。廣平王懷は孝文の子。族屬長幼の次を以て紹を呼びて翁と爲す。
【四九】常山王素は、一百二十二卷宋の文帝元嘉十一年に見ゆ。

三年、春正月庚戌、征虜將軍趙祖悅、魏の江州の刺史陳伯之と、東關に戰ふ。祖悅・敗績す。癸丑、尙書右僕射王瑩を以て左僕射と爲し、太子の詹事柳惔を右僕射と爲す。丙辰、魏の東荊州の刺史楊大眼、叛蠻樊季安等を擊ち、大に之を破る。季安は素安の弟なり。

丙寅、魏・大赦し、正始と改元す。

蕭寶寅、行きて汝陰の東城に及ぶ。已に梁の取る所と爲る。乃ち壽陽の棲賢寺に屯す。二月戊子、將軍姜慶眞、㈠魏の任城王澄が外に在るに乘じ、壽陽を襲ひ、其の外郭に據る。長史韋纘、倉猝にして圖を失ふ。任城の太妃孟氏、兵を勒して陣に登り、先づ㈡要便を守り、文武を激厲し、㈢新舊を安慰す。將士咸奮志有り。太妃親ら城守を巡り、矢石を避けず。蕭寶寅、兵を引きて至り、州軍と與に、之を合擊す。四鼓より戰ひ、㈣下晡に至る。慶眞・敗走す。韋纘、坐して官を免ぜらる。任城王澄、鍾離を攻む。上、冠軍將軍張惠紹等を遣はし、兵五千を將ゐて、糧を送りて鍾離に詣らしむ。澄、平遠將軍劉思祖等を遣はして之を邀ふ。丁酉、㈤邵陽に戰ひ、大に梁の兵を敗り、惠紹等十將を俘にし、士卒を殺虜し殆ど盡く。思祖は㈥芳の從子なり。尙書、思祖の功を論じ、應に

【一】去年、魏、澄を遣はして入寇せしめ、師に外に宿す。
【二】要便。敵の必ず攻むる所、我の必ず守る所を要と曰ふ。形勝にして據りて敵を制するに便なる可きの處を便と曰ふなり。要害の地。
【三】新舊。新は壽陽の兵民、舊は北來の將士。一說に、新は新附、舊は舊民なりと。
【四】下晡。日未だ入らざるの前を下晡と爲す。
【五】邵陽。卽ち邵陽洲なり。
【六】劉芳は儒學を以て太和の間に親重せらる。

千戸侯に封ずべしとす。侍中領右衛將軍元暉、二婢を思祖に求むれども得ず。(七)事遂に寢む。暉は素の孫なり。上、平西將軍曹景宗・(八)後軍王僧炳等を遣はし、步騎三萬を帥ゐて義陽を救はしむ。僧炳、二萬人を將ゐて(九)鑒峴に據り、景宗、萬人を將ゐて後繼を爲す。元英、冠軍將軍元逞等を遣はし、樊城に據らしめ、以て之を拒ぐ。三月壬申、大に僧炳を樊城に破り、俘斬四千餘人。魏、任城王澄に詔するに、『四月、淮水將に漲らんとし、舟行、礙る無く、南軍、時を得。利を味り以て後悔を取る勿かれ』といふを以てす。會〻大に雨ふり、淮水暴に漲る。澄、兵を引きて壽陽に還る。魏の軍還りて既に狼狽し、失亡すること四千餘人。中書侍郎齊郡の賈思伯、澄の軍司と爲り、後に居り殿を爲す。澄、其の儒者なるを以て、之を必ず死せりと謂へり。至るに及び、大に喜びて曰はく、(一〇)『仁者は必ず勇有りとは、軍司に於て之を見る』と。思伯、(一一)託するに道を失ふを以てし、其の功に伐らず。有司・奏し、澄の開府を奪ひ、仍て三階を降す。上、獲る所の魏の將士を以て、張惠紹に易へんことを魏に請ふ。魏人、之を歸す。

魏の太傅領司徒錄尚書北海王詳、驕奢にして聲色を好み、貪冒にして厭く無く、廣く第舍を營み、人の居室を奪ひ、左右を嬖昵し、所在・請託し、中外・嗟怨す。魏主、其の尊親なるを以て、恩禮すること替る無し。軍國の大事、皆、參決に與り、奏請する所、開允せざるは無し。魏主が初めて政を親らするや、(一二)兵を以て諸叔を召す。詳、咸陽・彭城王と與に、車を共にして入る。防衛嚴固なり。高太妃大に懼れ、車に乘り隨つて之を哭す。既にして免るるを得、詳に謂つて曰はく、『今より富貴を願はず、但だ母子をして相保せしめ、汝と與に市を掃うて生を爲さんのみ』と。(一三)詳が再び政を執るに及び、太妃、復た前事を念はず、專ら詳を助けて貪虐を爲す。冠軍將軍茹皓、巧思を以て帝に寵有り、常に左右に在り、門下の奏事を(一四)傳可し、權を弄し賄を納れ、朝野、之を憚る。詳も亦これに附く。皓、尚書令高肇の從妹を娶り、皓の妻の姊は、詳の從父安定王燮の妃と爲る。詳、燮妃に(一五)烝す。是に由りて皓と益〻相昵狎す。直閤將軍劉胄は、本詳が引薦する所、殿中將軍常季賢は、善く馬を養ふを以て、陳掃靜は(一六)櫛を掌り、皆、幸を帝に得、皓と相表裏して權勢を賣る。高肇は本高麗に出で、時望、之を輕んず。帝既に(一七)六輔を黜け、咸陽王禧を誅し、專ら事を肇に委ぬ。肇、在朝の親族至つて少きを以て、乃ち朋援を邀結す。之に附く者は、旬月に超擢し、附かざる者は、陷るるに大辜を以てす。尤も諸王を忌み、詳の位其の上に居るを以て、之を去りて獨り朝政を取らんと欲す。乃

【七】魏の賞罰、當を失ふ。
【八】後軍。後軍將軍なり。
【九】鑒峴。關南に在り。今の河南省汝陽道信陽縣の南に在り。
【一〇】仁者は必ず勇有り。論語憲問篇の孔子の言。
【一一】道に迷ひたるが故に後れたりと稱する也。

【一二】事、前卷齊の和帝中興元年に見ゆ。
【一三】齊の和帝中興元年正月、魏主、政を親らし、十一月、詳、司徒と爲る。
【一四】傳可。詔を傳へて裁可するなり。
【一五】烝。下、上に姪するをいふ。
【一六】櫛。髮を梳る也。
【一七】六輔。魏の高祖殂するとき、六人をして遺を受けて幼主を輔けしむる事、一百四十二卷齊の東昏侯永元元年に見ゆ。

ち之を帝に譖して云はく、『詳、皓胄・季賢・掃静と與に、逆亂を爲さんと謀る』と。夏四月、帝、夜、中尉崔亮を召して禁中に入らしめ、詳が貪淫奢縱なること・及び皓等四人が權を怙み貪横なることを彈奏せしめ、皓等を收へて（一八）南臺に繫ぎ、虎賁百人を遣はして、詳の第を圍守せしめ、又、詳が驚き懼れて逃逸せんことを慮り、左右郭翼を遣はして、金墉門を開き、馳せて出でて旨を諭し、示すに中尉の彈狀を以てせしむ。詳曰はく、『審し中尉の糾す所の如くんば、何ぞ憂へんや。正に、更に大罪の横至する有らんことを恐れしのみ。人、我に物を與へ、我實に之を受けたり』と。詰朝、有司・奏し、皓等の罪を處し、皆、死を賜ふ。帝、高陽王雍等五王を引き、入りて詳の罪を議す。詳、單車防衛し、華林園に送らる。母妻隨つて入る。小奴弱婢數人を給す。圍守甚だ嚴にして、内外、通せず。五月丁未朔、詔を下して詳の死を宥し、免じて庶人と爲す。之を頃くして、詳を太府寺に徙し、圍禁彌〻急なり。母妻皆南第に還る。五日に一たび來りて之を視る。初め詳、宋王劉昶の女を娶り、之を待すること疎薄なり。詳既に禁せられ、高太妃乃ち安定の高妃の事を知り、大に怒りて曰はく、『汝、妻妾の盛多なること此の如し。安んぞ彼の高麗の婢を用ひ、罪に陷ること此に至れる』と。之を杖つこと百餘、創を被り膿潰し、旬餘にして乃ち能く立つ。又、劉妃を杖つこと數十。曰はく、『婦人は皆妬む。何ぞ獨り・妬まざる』と。劉妃笑つて罰を受け、卒に・言ふ所無し。詳の家奴數人、陰に黨輩を結び、詳を劫出せんと欲し、密に姓名を

【一八】南臺。御史臺。

書し、侍婢に託して詳に通ず。詳始めて・（一九）執省するを得たり。而して（二〇）門防主司、遙に見て突入し、詳の手中に就き、攪り得て之を奏す。詳、慟哭すること數聲、暴に卒す。有司に詔して、禮を以て殯葬す。是より先、（二一）典事史元顯、雞雛の四翼四足なるを獻ず。詔して、以て侍中崔光に問ふ。光・上表して曰はく、『漢の元帝の初元中、丞相府史の家の雌雞、（二二）子を伏し、漸く化して雄と爲り、（二三）冠距鳴將す。（二四）永光中、雄雞の・角を生ずるを獻ずる有り。劉向以爲はく、「雞は小畜、（二五）時に人を起居するを主司す。小臣、事を執り政を爲すの象なり」と。竟寧元年、石頭、辜に伏す。此れ其の效なり。（二六）靈帝の光和元年、南宮寺の雌雞、化して雄と爲らんと欲し、但だ頭冠のみ未だ變せず。詔して以て議郎蔡邕に問ふ。對へて曰はく、「頭は元首と爲す。人君の象なり。今、雞、一身已に變じ、未だ頭に至らず、而して上、之を知る。是れ將に其の事有らんとして、而も遂に成らざるの象なり。若し之に應ずること精しからず、政、改むる所無く、頭冠或は成らば、患を成すこと滋〻大ならん」と。是の後、黄巾、四方を破壞し、天下遂に大に亂る。今の雞の狀は、漢と同じからずと雖も、而も其の應は頗る相類す。誠に・畏る可きなり。臣、向・邕の言を以て之を推すに、

【一九】執省。執りて視る也。
【二〇】門防主司。門衛を主るの兵、以て詳を防守する者。
【二一】典事史。官名。吏職なり。
【二二】子を伏す。鳥、卵を覆ふ也。卵をあたたむること。
【二三】距は雞のけづめ。將は其の羣を帥領するを謂ふ。鷄冠・けづめ皆雄雞の如く、又、雄雞の如く鳴き、其の羣を率領する也。
【二四】永光中云云。事、漢書五行志に見ゆ。
【二五】時に至りて鳴き、以て人の起居の節を爲す。
【二六】靈帝の光和元年云云。事、後漢書蔡邕傳に見ゆ。

翼足衆多なるは、亦、羣下相扶助するの象。雛にして未だ大ならず、足羽差小ならば、亦其の勢尚は微にして、制御し易きなり。臣聞く、災異の見はるるは、皆、吉凶を示す所以なり。明君は之を覩て懼る、乃ち能く福を致す。闇主は之を覩て慢る、禍を致す所以なり。或は今亦、賤よりして貴く・政事に關預すること・前世の石顯の比の如き者有らんか。願はくは陛下、賢を進め佞を黜けんことを。則ち妖弭み慶集まらん』と。後數日にして、皓等、誅に伏す。(三七)帝愈〻光を重んず。高肇、帝に說き、宿衞隊主をして羽林虎賁を帥ゐて、諸王の第を守らしめ、殆ど幽禁に同じ。彭城王勰・切諫すれども、聽かず。勰、志尙高邁にして、榮勢を樂しまず、事を避けて家居し、而して出でては山水の適無く、處りては知己の遊無く、獨り妻子に對し、常に鬱鬱として・樂しまず。

魏人、義陽を圍む。城中の兵、五千人に滿たず、食纔に半歲を支ふ。魏の軍、之を攻め、晝夜、息まず。刺史蔡道恭、方に隨つて抗禦し、皆、手に應じて摧却す、相持すること百餘日。(三八)前後斬獲すること、勝げて計ふ可からず。魏の軍、之を憚り、將に退かんとす。會〻道恭、疾篤し。乃ち從弟驍騎將軍靈恩・兄の子尙書郎僧勰及び諸將佐を呼び、謂つて曰はく、『吾、國の厚恩を受け、寇賊を攘滅する能はず。今、(三九)苦しむ所轉た篤し。勢、久しきを支へじ。汝等當に死を以て節を固くすべし、吾をして沒して遺恨有らしむる無かれ』と。衆皆流涕す。道恭・卒す。靈恩、州事を攝行し、之に代りて城守す。

【三七】胡三省曰はく、魏主、茹皓等が誅に伏するを以て光の言の驗と爲す。高肇獨り、賤よりして貴く政事に關預する者に非ざるかと。

【三八】魏、去年十月より義陽を圍み、蔡道恭、今年五月に卒す。此より以上は、道恭の病未だ甚だしからざるの前を謂ふ。

【三九】苦しむ所。疾病をいふなり。

六月癸未、大赦す。

魏大に旱す。散騎常侍兼尙書邢巒奏して稱す、『昔者明王は、粟帛を重んじ、金玉を輕んず。何となれば則ち粟帛は民を養ひて國を安んじ、金玉は用無くして德を敗るが故なり。先帝、深く奢泰を鑒み、務めて節儉を崇び、紙絹を以て(三〇)帳扆を爲り、銅鐵をもて轡勒を爲るに至り、府藏の金は、裁に給すれば已み、復た買積して以て國資を費さず。景明の初に逮び、升平の業を承け、四境清晏に、遠邇來同す。是に於て(三一)貢篚相繼ぎ、商估交〻入り、諸の獻納する所、常に倍多し、金玉は恒に餘り有れども、國用は恒に・足らず。苟くも之が(三二)分限を爲すに非ずんば、但だ恐らくは歲計、充たざらん。今より、請ふ(三三)要須非ざる者は、一切、受けざらん』と。魏主、之を納る。

【三〇】帳扆。とばりとついたて。

【三一】貢篚の二語、禹貢に本づく。貴細の物はこれを盛るに篚筐を以てして入貢するを謂ふなり。

【三二】分限。制限なり。

【三三】要須。必要なり。

【三四】淮陰は梁の重鎭なり。角城を以て叛くや、軍を遣はして其の叛に從はざる者を援くるなり。

秋七月癸丑、角城の戍主柴慶宗、城を以て魏に降る。魏の徐州の刺史元鑒、淮陽の太守吳秦生を遣はし、千餘人を將ゐて之に赴かしむ。(三四)淮陰の援軍、其の路を斷つ。秦生屢〻戰ひて之を破り、遂に角城を取る。

甲子、皇子綜を立てて豫章王と爲す。

魏の李崇、東荆の叛蠻を破り、樊素安を生擒し、進みて(三五)西荆の諸蠻を討ち、悉く之を降す。

魏人、蔡道恭が卒せるを聞き、義陽を攻むること益〻急なり。短兵日〻に接す。曹景宗、鑿峴に頓して・進まず。但だ兵を耀して遊獵するのみ。上復た寧朔將軍馬仙琕を遣はし、義陽を救はしむ。仙琕、轉戰して前み、兵勢甚だ鋭し。元英、壘を(三六)上雅山に結び、分ちて諸將に命じ、四山に伏せしめ、之に示すに弱きを以てす。仙琕、勝に乘じ、直に長圍に抵り、英の營を掩ふ。英僞り北げて以て之を誘ひ、平地に至り、兵を縱ちて之を擊つ。統軍傅永、甲を擐し槊を執り、單騎にて先づ入る。唯だ軍主蔡三虎のみ之に副たり。陳を突きて横過す。梁の兵、永を射、其の左股を洞く。永、箭を拔きて復た入る。仙琕大に敗れ、一子戰死す。仙琕退き走る。英、永に謂つて曰はく、『公傷つけり。且く營に還れ』と。永曰はく、『昔(三七)漢高、足を捫で、人の知るを欲せざりき。下官は微なりと雖も、國家の一將なり。柰何ぞ賊をして將を傷つくるの名有らしめんや』と。遂に諸軍と與に之を追ひ、夜を盡して返る。時に年七十餘。軍中、之を壯とせざるもの莫し。仙琕復た萬餘人を帥ゐ、進みて英を擊つ。英又之を破り、將軍陳秀之を殺す。(三八)仙琕、義陽の危急なるを知り、鋭を盡して決戰す。一日に三たび交はる。皆大に敗れて返る。蔡靈恩、勢窮まり、八月乙酉、魏に降る。三關の戍將、之を聞き、(三九)辛酉、亦城を棄てて走る。英、司馬陸希道をして露板を爲らしむ。其の精ならざるを嫌ひ、傅永に命じて之を改めしむ。永、文彩を增さず、直に之が爲めに軍事の處置形要を陳列するのみ。(四〇)英深く之を賞して曰はく、『此の經算を觀れば、金城湯池有りと雖も、守る能はじ』と。初め南安の惠王、(四一)穆泰の謀に預るを以て、爵邑を追奪せらる。英が義陽に克つに及び、乃ち復た英を立てて中山王と爲す。御史中丞任昉、曹景宗を奏彈す。上、其の功臣なるを以て、寢めて・治せず。

衛尉鄭紹叔、上に事ふるに忠にして、外、聞知する所、纖豪も隱す無し。上の爲めに事を言ふ毎に、善なれば則ち功を上に推し、不善なれば則ち咎を引きて己に歸す。上、是を以て之を親しむ。詔して、(四二)南義陽に於て司州を置き、移して關南に鎮せしめ、紹叔を以て刺史と爲す。紹叔、城隍を立て、器械を繕ひ、田を廣め穀を積み、流散を招集す。百姓、之に安んず。魏、(四三)鄢州を義陽に置き、司馬悅を以て刺史と爲す。上、馬仙琕を遣はし、竹敦・(四四)麻陽の二城を三

【三五】西荆。正に荆州を指すなり。魏の太和中、荆州を徙して襄城に治し、南陽・順陽・新野・東恒農・漢廣・襄城・北淸・恒農等の郡を領す。其の地正に東荆州の西に在り。

【三六】上雅山。當に士雅山に作るべし。卽ち大木山にして、晉の祖逖が家を將ゐて難を避けて居りし所なり。逖の字は士雅、後人因つて以て山に名づく。今の河南省汝陽道桐柏縣に在り。

【三七】事、十卷漢の高祖四年に見ゆ。

【三八】胡三省曰はく、馬仙琕力戰するとき、曹景宗をして大軍を以てこれに繼がしめしならば、魏必ず敗れ退き、義陽全かりしならんと。

【三九】辛酉。當に辛卯に作るべし。

【四〇】英、其の功に伐る、故に深く傅永が能くこれが爲めに陳列するを賞するなり。

【四一】穆泰の事、一百四十卷齊の明帝建武三年に見ゆ。

【四二】南義陽。鹿城關に治す。今の湖北省江漢道黄岡縣の地なり。

【四三】鄢州。安陽・城陽・汝南郡を領す。

【四四】麻陽。今の湖北省江漢道麻城縣の地。

關の南に築かしむ。司馬悅、兵を遣はし、竹敦を攻め、之を拔く。

九月壬子、吐谷渾王伏連籌を以て西秦河二州の刺史・河南王と爲す。

柔然、魏の沃野及び懷朔鎭を侵す。車騎大將軍源懷に詔して、出でて北邊を行り、方略を指授し、(四五)須に隨つて徵發し、皆、便宜を以て事に從はしむ。懷、雲中に至る。柔然遁れ去る。懷以爲へらく、夏を用て夷を制するは、城郭に如くは莫しと。還りて恒代に至り、諸鎭の左右の要害の地・以て城を築き戍を置く可きの處を按視し、東西に九城を爲らんと欲し、及び糧を儲へ仗を積むの宜、犬牙相救ふの勢、凡そ五十八條、之を表上して曰はく、『今、鼎を成周に定め、北を去ること遙遠にして、(四六)代表の(四七)諸國、頗る或は外に叛く。仍ほ旱饑に遭はば、戎馬甲兵、十分して八を闕かん。謂ふに宜しく舊鎭の東西相望み・形勢をして相接せしめしに準じ、城を築き戍を置き、兵を要害に分ち、農を勸め粟を積むべし。警急の日、便に隨つて翦討せば、彼の遊騎の寇、終に敢て城を攻めず、亦、敢て城を越えて南に出でざらん。此の如くせば、北方、憂無からん』と。魏主、之に從ふ。

魏の太和の十六年、(四八)高祖、中書監高閭に詔して、給事中公孫崇と與に、雅樂を考定せしむ。之を久しくして未だ就らず。會〻高祖・殂し、高閭・卒す。景明中、崇、太樂令と爲り、調する所の金石

【四五】須に隨ふ。軍行の必要に隨ふ也。
【四六】代表。魏の代都の塞外をいふ。
【四七】諸國。高車諸部を謂ふ。
【四八】一百三十七卷齊の武帝永明十一年に見ゆ。

及び書を上る。是に至りて、世宗始めて八座已下に命じて之を議せしむ。

冬十一月戊午、魏詔して、國學を營繕せしむ。時に魏、平寧なること日久しく。學業大に盛に、燕齊趙魏の間、敎授する者、勝げて數ふ可からず。(四九)弟子の著錄、多き者は千餘人、少き者も猶ほ數百。州、(五〇)茂異を擧げ、郡、孝廉を貢すること、毎年、衆に逾ゆ。

甲子、(五一)金を以て罪を贖ふの科を除く。

十二月丙子、魏詔して、殿中郎陳郡の袁飜等をして、議して律令を立てしめ、彭城王勰等をして之を監せしむ。

己亥、魏主、伊闕に(五二)幸す。

上雅より儒術を好み、以へらく、東晉・宋・齊、國學を開置すと雖も、十年に及ばずして、輒ち之を廢せり。其の存するものも亦文具はるのみにして、講授の實無しと。

【四九】弟子の著錄。名簿に載せたる弟子。
【五〇】茂異。茂材異等なり。
【五一】贖を聽すこと前の元年に見ゆ。
【五二】南北分治せしより、人主の出行して至る所、通鑑、皆「如く」と曰ふ。此より以後、率れ「幸す」と書す。未だ義例の變ずる所由を曉らず、蓋し一時、刊正を失せるなり。

卷の第一百四十六

梁紀二

高祖武皇帝二

(一)天監四年、春正月癸卯朔、詔して曰はく、(二)『二漢、賢を登すは、經術に非ざるは莫く、雅道を(三)服膺し、名立ち行成る。魏晉は浮蕩し、儒教淪歇す。風節の樹つ罔きは、抑〻此に之れ由る。五經博士各〻一人を置き・廣く館宇を開き・後進を(四)招内す可し』と。是に於て賀瑒及び平原の明山賓・吳興の沈峻・建平の嚴植之を以て、博士に補し、各〻一館を主らしむ。館ごとに數百生有り、其の餼廩を給す。其の(五)射策の通明なる者は、卽ち除して吏と爲す。朞年の間に、經を懷き笈を負ふ者雲のごとく會す。瑒は(六)循の玄孫なり。又、學生を選び、會稽の(七)雲門山に往き、

【一】天監四年。西紀五〇五年なり。
【二】二漢。前漢・後漢なり。
【三】服膺。服は著くる也、膺は胸なり。奉持してこれを心胸の間に著くる也。
【四】招内。招き納るる也。内は音ナフ。
【五】射策。對策なり。
【六】晉氏南渡の初、賀循を以て儒宗と爲す。
【七】胤、時に雲門山に隱る。今の浙江省會稽道紹興縣の南に在り。亦、東山と曰ふ。

何胤に從つて業を受けしむ。胤に命じ、門徒の中の經明かに行脩まれる者を選び、具に名を以て聞せしむ。博士祭酒を分遣し、州郡を巡りて學を立てしむ。

初め譙國の夏侯道遷、輔國將軍を以て裴叔業に從ひ、壽陽に鎮し、(八)南譙の太守と爲る。叔業と隙有り、單騎にて魏に犇る。魏、道遷を以て驍騎將軍と爲し、王肅に從つて壽陽に鎮せしめ、道遷をして合肥を守らしむ。肅・卒す。道遷、戍を棄てて來犇し、梁秦二州の刺史莊丘黑に從ふ。(黑丘)南鄭に鎮し、道遷を以て長史と爲し、漢中の太守を領せしむ。黑・卒す。詔して、都官尚書王珍國を以て刺史と爲す。未だ至らざるに、道遷、陰に軍主考城の江忱之等と、魏に降らんと謀る。是より先、(九)魏の仇池の鎮將楊靈珍、魏に叛きて來犇す。朝廷、以て征虜將軍・假武都王と爲し、助けて漢中に戍せしむ。部曲六百人有り。道遷、之を憚る。上、左右吳公之等を遣はし、南鄭に使せしむ。道遷遂に使者を殺し、兵を發して靈珍父子を擊ち、之を斬り、使者の首を幷せて魏に送る。白馬の戍主尹天寶、之を聞き、兵を引きて道遷を擊つ。其の將龐樹を敗り、遂に南鄭を圍む。道遷、救を氐王楊紹先・楊集義に求む。皆、應せず。集義の弟集朗、兵を引きて道遷を救ひ、天寶を擊ち、之を殺す。魏、道遷を以て平南將軍・豫州の刺史・豐縣侯と爲す。又、尚書邢巒を以て鎮西將軍・都督征梁漢諸軍事と爲し、兵を將ゐて之に赴かしむ。道遷、平南を受け、(一〇)豫州を辭し、且つ公爵を求む。魏主、許さず。

辛亥、上、南郊に祀り、大赦す。

乙丑、魏、驃騎大將軍高陽王雍を以て司空と爲す。

二月丙子、魏、宕昌の世子梁彌博を以て宕昌王と爲す。

上、魏を伐たんと謀る。壬午、衞尉卿楊公則を遣はし、宿衞の兵を將ゐて(一一)洛口を塞がしむ。

壬辰、交州の刺史李凱、州に據りて反す。長史李叟、討ちて之を平ぐ。

魏の邢巒、漢中に至り、諸城戍を擊つ。向ふ所摧破す。晉壽の太守王景胤、(一二)石亭に據る。巒、統軍李義珍を遣はし、擊ちて之を走らす。魏、巒を以て梁秦二州の刺史と爲す。巴西の太守龐景民、郡に據りて・下らず。郡民嚴玄思、衆を聚め、自ら巴州の刺史と稱し、魏に附き、景民を攻めて之を斬る。楊集起・集義、魏が漢中に克てるを聞きて懼る。閏月、羣氐を帥ゐて魏に叛き、漢中の糧道を斷つ。巒屢〻軍を遣はし、擊ちて之を破る。

夏四月丁巳、行宕昌王梁彌博を以て河涼二州の刺史・宕昌王と爲す。

冠軍將軍孔陵等、兵二萬を將ゐて、深杭に戍し、魯方達、(一三)南安に戍し、任僧褒等、石同に戍し、

【八】南譙。齊の南譙は、蓋し歷陽の西界に置きたるなるべし。

【九】事は一百四十一卷齊の明帝建武四年に見ゆ。

【一〇】豫州を辭す。梁州を得んと欲するなり。

【一一】洛口。洛澗、北して秦虛を逕、下、淮に注ぐ、これを洛口と謂ふ。今の陝西省漢中道洋縣に在り。

【一二】石亭。漢水、武興城北より西南流して關城の北を逕、又西して石亭戍を逕、又、晉壽城の西を逕。今の四川省嘉陵道廣元縣に在り。

【一三】南安。今の四川省嘉陵道劍閣縣に在り。

以て魏を拒ぐ。邢巒、統軍王足を遣はし、兵を將ゐて之を擊たしむ。至る所皆捷つ。遂に劍閣に入る。陵等退きて梓潼に保す。足又進み擊ちて之を破る。梁州十四郡の地、東西七百里、南北千里、皆魏に入る。初め益州の刺史鄧元起、母老いたるを以て・歸らんと乞ふ。詔して、徵して右衞將軍と爲し、西昌侯淵藻を以て之に代らしむ。淵藻は(一四)懿の子なり。夏侯道遷が叛くや、尹天寶、使を馳せて元起に報ず。魏が晉壽に寇するに及び、王景胤等、竝に(使ヲ)遣はして急を告ぐ。衆、元起に・急に之を救はんことを勸む。元起曰はく、『朝廷萬里、軍、猝に至らず。若し寇賊(一五)侵淫せば、方に須く撲討すべし。董督の任、我に非ずして誰ぞ。何事ぞ怨怨として之を救はん』と。詔して、元起に都督征討諸軍事を假し、漢中を救はしむ。而して晉壽已に陷り、蕭淵藻將に至らんとす。元起、還裝を營み、糧儲器械、之を取りて・遺す無し。淵藻、城に入り、之を恨む。又、其の良馬を求む。元起曰はく、『年少の郎子、何ぞ馬を用ふるを爲さん』と。淵藻恚り、醉に因りて之を殺す。元起の麾下、城を圍みて哭し、且つ故を問ふ。淵藻曰はく、『天子、詔有り』と。衆乃ち散ず。遂に誣ふるに反を以てす。上これを疑ふ。元起の故の吏廣漢の羅研、闕に詣りて之を訟ふ。上曰はく、『果して我が量る所の如し』と。淵藻を讓めしめて曰はく、『元起は汝が爲めに(一六)讎を報せり。汝は讎の爲めに讎を報せり。忠孝の道如何』と。乃ち淵藻の號を貶して冠軍將軍と爲し、元

【一四】懿。東昏の手に死す。
【一五】侵淫。癰疽を以て喩と爲す。毒、好肉を侵すを、淫肉と爲す。
【一六】力を協せて東昏侯を誅し其の父の讎を報いしを謂ふ。

起に征西將軍を贈り、謚して忠侯と曰ふ。

李延壽・論じて曰はく、元起、勤は乃ち(一七)胥附し、功は惟れ(一八)土を闢く。勞を之れ圖らず、禍機に先づ陷る。冠軍の貶は、罰に於て已だ輕し。梁の政刑、斯に於て失せりと爲す。私戚の端、斯よりして啓く。年の永からざるは、亦宜ならずや。

益州の民焦僧護、衆を聚めて亂を作す。蕭淵藻、年未だ(一九)弱冠ならず。僚佐を集め、自ら之を擊たんと議す。或るひと不可なるを陳ぶ。淵藻、大に怒り、階側に斬り、(二〇)平肩輿に乘りて、賊壘を巡行す。賊弓・亂射し、矢下ること雨の如し。從者、楯を擧げて矢を禦ぐ。淵藻・命じて之を去らしむ。是に由りて、人心大に安んず。僧護等を擊ち、皆、之を平ぐ。

六月庚戌、初めて孔子の廟を立つ。

(二一)豫州の刺史王超宗、兵を將ゐて魏の小峴を圍む。丁卯、魏の揚州の刺史薛眞度、兼統軍李叔仁等を遣はして之を擊たしむ。超宗の兵大に敗る。冠軍將軍王景胤・李昳・輔國將軍魯方達等、魏の王足と戰ひ、屢〻敗る。秋七月、足進みて涪城に逼る。

八月壬寅、魏の中山王英、雍州に寇す。

【一七】胥附。下を率ゐて上に親しむを胥附と曰ふ。
【一八】土を闢く。梁益の土を開きしを謂ふ。
【一九】弱冠。人生れて二十なるを弱冠といふ。
【二〇】平肩輿。人をして擧に就きてこれを肩にせしむ。故に平肩といふ。
【二一】此の時、梁、豫州を晉熙に置く。今の安徽省安慶道潛山縣治。

庚戌、秦梁二州の刺史魯方達、魏の王足・統軍紀洪雅・盧祖遷と戰ひて敗れ、方達等十五將皆死す。壬子、王景胤等、又、祖遷と戰ひて敗れ、景胤等二十四將皆死す。楊公則、洛口に至り、魏の豫州の長史石榮と戰ひ、之を斬る。甲寅、將軍姜慶眞、魏と(三三)羊石に戰ひ、利あらず。公則退きて馬頭に屯す。

(三四)雍州の蠻河東の太守田青喜、叛きて魏に降る。

魏、芝有り、太極殿の(三五)西序に生ず。魏主、以て侍中崔光に示す。光・上表して以爲はく、『此れ莊子の所謂「氣蒸して菌を成す」者なり。柔脆の物、墟落穢濕の地に生じ、當に殿堂高華の處に生ずべからず。今忽ち之れ有り、厥の狀・扶疎たり。誠に・異とするに足るなり。夫れ野木、朝に生じ、野鳥、廟に入るは、古人皆以て敗亡の象と爲す。故に(三六)大戊・中宗、災を懼れ德を脩め、殷道以て昌なり。所謂「家利にして怪先だち、國興りて妖豫めする」者なり。今、西南の二方、兵革未だ息まず。郊甸の內、大旱、時を踰ゆ。民勞し物悴ふること、此よりも甚だしきは莫し。天を承け民を育する者、宜しく矜恤すべき所なり。伏して願はくは陛下、躬を側て意を聳かし、聖道を新にするを惟ひ、夜飲の樂を節し、(三七)方に富むの年を養はんことを。則ち魏祚、以て永隆なる可く、皇壽、山岳に等しからん』と。(三八)是に於て魏主、宴樂を好む。故に光の言、之に及ぶ。

九月己巳、楊公則等、魏の揚州の刺史元嵩と戰ふ。公則・敗績す。

冬十月丙午、上、大舉して魏を伐つ。揚州の刺史臨川王宏を以て、北討諸軍事を都督せしめ、尙書右僕射柳惔を副と爲す。王公以下、各〻(三九)國租及び(三〇)田穀を上り、以て軍を助く。宏、洛口に軍す。

楊集起・集義、楊紹先を立てて帝と爲し、自ら皆王と稱す。十一月戊辰朔、魏、光祿大夫楊椿を遣はし、兵を將ゐて之を討たしむ。

魏の王足、涪城を圍む。蜀人・震恐す。益州の城戍、魏に降る者、什に二三。民自ら名籍を上る者、五萬餘戶。邢巒、魏主に表し、勝に乘じて進みて蜀を取らんと請ひ、以爲はく、『建康・成都、相去ること萬里、(三一)陸行旣に絕え、惟だ水路に資る。水軍・西上するは、周年に非ざれば達せず。益州は外に軍援無し。一の圖る可きなり。頃、經に(三二)劉季連・反し、鄧元起・攻圍し、資儲・空竭し、吏民、復た固守するの志無し。二の圖る可きなり。蕭淵藻は、(三三)裘展の少年、未だ治務に洽からず。宿昔の名將は、多く囚戮せられ、今の任ずる所は、皆左右の少年なり。三の圖る可きなり。蜀の恃む所は、唯だ劍閣に在り。今旣に南安に克ち、已に其の險を奪へり。彼の

【三三】羊石。蓋し卽ち陳伯之が屯する所の陽石なり。

【三四】青喜の據る所の地は、蓋し襄陽の東、竟陵の西に在りしなるべし。

【三五】序。殿廡をいふ。

【三六】大戊・中宗云云。商王太戊の時、亳に祥有り、桑穀共に朝に生じ、一日の暮に大さ拱なり。太戊懼れて德を脩む。祥桑枯死し、殷道復た興る。中宗は當に高宗に作るべし。高宗、成湯を祭る。雉雊有り、鼎の耳に升りて雊く。祖己、進言する所あり。高宗、德を修む。殷道復た昌なり。

【三七】方に富むの年。年若きをいふ。

【三八】是に於て。是の時の意。

【三九】國租。封國の入る所の租。

【三〇】田穀。職田の入る所の穀。

【三一】陸行旣に絕ゆ。襄陽より西行し、陸に遵ひ、以て蜀に至る可し。梁州旣に魏に入りたれば、陸路斷えたる也。

【三二】事は、前卷元年二年に見ゆ。

【三三】裘は下裳なり。展は蹻なり。裘展とは、只だ自ら能く修飾するのみ、重きに任ずるの器に非ざるなり。

竟内に據ること、三分して已に一なり。南安より涪に向ふに、軌を方ぶるに礙ふる無し。前軍累に敗れ、後衆、魄を喪ふ。四の圖る可きなり。淵藻は是れ蕭衍の骨肉・至親、必ず・死する理無し。若し涪城に克たば、淵藻安んぞ肯て城中に坐して困を受けん。必ず將に風を望みて逃去せんとす。若し其れ出でて鬬ふとも、(三三)庸蜀の士卒は駑怯にして、弓矢は寡弱なり。五の圖る可きなり。臣、(三四)内省するに文吏にして、軍旅に習はざれども、將士が力を竭すに賴り、頻に薄捷有り。既に(三五)重阻に克ち、民心懷服す。(三六)涪・益を瞻望するに、旦夕、圖る可し。止だ兵少く糧匱しきを以て、未だ宜しく前出すべからず。今若し取らずんば、後圖便ち難からん。況んや益州は殷實にして、戶口十萬あり、(三七)壽春・義陽に比し、其の利三倍なり。朝廷若し進取せんと欲せば、時、失ふ可からず。若し境を保ち民を寧んせんと欲せば、則ち臣此に居るとも事無し。乞ふ歸りて(三八)侍養せん』と。魏主詔して以はく、『蜀を平ぐるの擧は、當に更に後勅を聽くべし。寇難未だ夷がず。何ぞ親を養ふを以て辭と爲すを得ん』と。巒又表して稱す、『昔、(三九)鄧艾・鍾會、十八萬の衆を帥ゐ、中國の資儲を傾け、僅に能く蜀を平げき。然る所以の者は、實力を鬬はせばなり。況んや臣が才は古人に非ず、何ぞ宜しく二萬の衆を以てして、蜀を平ぐるを希ふべけ

【三三】庸は上庸の地。蜀は蜀郡の地。
【三四】内省。自ら反省する也。
【三五】重阻。重險なり。
【三六】涪・益。時に梓潼の太守、涪城に治し、益州の刺史、成都に治す。
【三七】魏、此より先、已に壽春・義陽を得たり、故に然云ふ。
【三八】侍養。親の側に侍して奉養するをいふ。
【三九】鄧文鍾會云云。事は、七十八卷魏の元帝景元四年に見ゆ。

んや。敢てする所以の者は、正に、要險を據得し・土民・義を慕ひ・此の往くは則ち易く・彼の來るは則ち難く・力に任せて行き・理克つ可き有るを以てなり。今、王足已に涪城に逼れり。脫し涪を得ば、益州は乃ち擒と成るの物なり。但だ之を得ること早晩有るのみ。且つ梓潼已に附き、(四〇)民戶・數萬あり。朝廷豈に守らざる可けんや。又、劒閣の天險、得て而も之を棄つるは、良に・惜む可し。臣誠に知る、戰伐は危事にして、未だ爲す可きこと易からざるを。軍・劒閣を度りしより以來、鬢髮中白じ。日夜戰懼す、何ぞ心と爲す可けん。勉强する所以の者は、既に此の地を得、而も自ら退きて・守らずんば、陛下の爵祿に負くを恐るるが故なり。且つ臣の意算、正に、先づ涪城を取り・以て漸くにして進まんと欲す。若し涪城を得ば、則ち益州の地を中分し、水陸の衝を斷たん。彼、外に援軍無く、孤城自ら守らば、何ぞ能く復た久しきを持せんや。臣、今、軍軍をして相次ぎ・聲勢をして連接せしめ・先づ萬全の計を爲し・然る後功を圖らんと欲す。之を得ば則ち大利なり。得ずとも則ち自ら全かからん。又、巴西・南鄭、相距ること千四百里、州を去ること(四一)迢遞にして、恒に擾動多し。昔、南に在るの日、其の統綰の勢難きを以て、曾て(四二)巴州を立て、夷獠を鎭靜し、梁州は利に藉り、因りて表して罷む。彼の土の民望、嚴・蒲・何・楊、唯だ一族のみに非ず。山谷に率ひ居ると雖も、而も豪右甚だ多し。文學風流、亦、少からずと爲す。但だ州

【四〇】民戶。已に名籍を上れる民を謂ふ。
【四一】迢遞。はるかに遠し。
【四二】巴州を立つる事、一百三十五卷齊の高帝建元二年に見ゆ。巴州を省く事、武帝永明元年に見ゆ。

を去ること既に遠きを以て、仕進するを獲ず。㊃州綱に至るまで、迹を廁ふるに由無し。是を以て鬱快として、多く異圖を生ず。比道遷の建義の始、嚴玄思自ら巴州の刺史と號す。城に克ちて以來、仍て事を行はしむ。巴西は廣袤千里、戶、四萬に餘れり。若し彼に於て州を立て、㊄華獠を鎭攝せば、則ち大に民情を帖んせん。㊅墊江より已還、征伐を勞せず、自ら國有と爲らん』と。魏主、從はず。是より先、魏主、王足を以て益州の刺史を行はしむ。上、天門の太守張齊を遣はし、兵を將ゐて益州を救はしむ。未だ至らず。魏主更めて梁州の軍司泰山の羊祉を以て益州の刺史と爲す。王足、之を聞き、悅ばず、輒ち兵を引きて還る。遂に蜀を定むる能はず。之を久しくして、足、魏より來降す。邢巒、梁州に在り、豪右に接するに禮を以てし、小民を撫するに惠を以てす。州人、之を悅ぶ。巒が巴西に克つや、軍主李仲遷をして之を守らしむ。仲遷、酒色に溺れ、兵儲を費散し、公事諮承するに、能く見る者無し。巒、之を忿りて切齒す。仲遷懼れ、叛を謀る。城人、其の首を斬り、城を以て來り降る。十二月庚申、魏、驃騎大將軍源懷を遣はし、武興の氐を討たしむ。邢巒等、竝に節度を受く。司徒尙書令謝朏、母の憂を以て職を去る。

【㊃】州綱。州の上佐を謂ふ。
【㊄】華獠。巴西の地、華人、獠と雜居す。故に華獠といふ。
【㊅】墊江は今の四川省東川道合川縣治。墊江より已還は墊江以西をいふ。胡三省曰はく、李雄・譙縱、蜀を取り、東のかた、墊江を過ぐる能はず。苻秦、兵力の盛なるを以て、梁益を取ること、掌を反すが如くなりしが、墊江以東は、苻秦、有つ能はざりしなり。邢巒が蜀を圖るも、亦、墊江以西を規るのみと。

是の歲、大に穰る。米、斛ごとに三十錢。大赦す。

五年、春正月丁卯朔、魏の于后、子昌を生む。楊集義、魏の㊀關城を圍む。邢巒、建武將軍傅豎眼を遣はして之を討たしむ。集義逆へ戰ふ。豎眼擊ちて之を破り、勝に乘じ、北ぐるを逐ひ、壬申、武興に克ち、楊紹先を執へて洛陽に送る。楊集起。楊集義亡げ走る。遂に㊁其の國を滅ぼし、以て武興鎭と爲す。又改めて㊂東益州と爲す。乙亥、前の司徒謝朏を以て中書監・司徒と爲す。冀州の刺史桓和、㊃魏の南青州を擊ち、克たず。魏の秦州の屠各王法智、衆二千を聚め、秦州の主簿呂苟兒を推して主と爲し、建明と改元し、百官を置き、州郡を攻逼す。㊄涇州の民陳瞻、亦、衆を聚めて王と稱し、聖明と改元す。

【一】關城。陽平の關城なり。今、陽安關と曰ふ。今の陝西省漢中道寧羌縣の西北に在り。
【二】其の國を滅ぼす。晉の惠帝元康六年、氐王楊茂搜、始めて仇池百頃に據る。其の後浸く盛に、盡く漢の武都郡の地を有ち、北は隴西天水を侵し、南は漢中を侵す。拓拔既に盛にして、武都仇池の地を取り、楊氏僅に武興に據る。今、魏、漢中を取り、遂に楊氏を滅ぼす。
【三】東益州は武興・仇池・盤頭・廣長・廣業・梓潼・洛讙郡を領す。
【四】梁の青冀二州は鬱洲（今の江蘇省徐海道灌雲縣の東北海中に在り）に治す。魏の顯祖、三齊を取り、東徐州を團城（今の山東省濟寧道沂水縣）に置く。高祖太和二十二年、改めて南青州と爲す。
【五】涇州。魏、涇州を置き、臨涇城（今の甘肅省涇原道鎭原縣）に治し、安定・隴東・新平・趙平・平涼・平源等の郡を領す。

己卯、楊集起兄弟、相帥ゐて魏に降る。

甲申、皇子綱を封じて晉安王と爲す。

二月丙辰、魏主、王公以下に詔して、直言忠諫せしむ。治書侍御史陽固・上表して以爲はく、『當今の務は、宜しく宗室を親しみ、庶政を勤め、農桑を貴び、工賈を賤しみ、虛を談じ微を窮むるの論を絕ち、(六)桑門の無用の費を簡にし、以て饑寒の苦を救ふべし』と。時に魏主、高肇に委任し、宗室を疎薄し、桑門の法を好み、政事を親らせず、故に固の言、之に及ぶ。

戊午、魏、右衞將軍元麗を遣はし、諸軍を都督し、呂苟兒を討たしむ。麗は(七)小新成の子なり。

乙丑、徐州の刺史歷陽の昌義之、魏の平南將軍陳伯之と、(八)梁城に戰ふ。義之・敗績す。

將軍蕭昞、兵を將ゐて魏の徐州を擊ち、(九)淮陽を圍む。

三月丙寅朔、日、之を食する有り。

己卯、魏の荊州の刺史趙怡・平南將軍奚康生、淮陽を救ふ。

魏の咸陽王(一〇)禧の子翼、赦に遇ひ、其の父を葬らんことを求め、屢〻泣きて魏主に請ふ。魏主、許さず。癸未、翼、其の弟昌・曄と與に來奔す。上、翼を以て咸陽王と爲す。翼、曄が嫡母李妃の子なるを以て、爵を以て之に讓らんと請ふ。上、許さず。

輔國將軍劉思效、魏の青州の刺史元繫を(一一)膠水に敗る。

臨川王宏、記室吳興の丘遲をして書を爲りて陳伯之に遺らしめて曰はく、『君が去就の際を尋ぬるに、他故有るに非ず、直だ、內諸を己に審かにする能はず・外流言を受くるを以て、沈迷猖蹶し、以て此に至る。主上、法を屈し恩を申べ、(一二)呑舟を是れ漏す。將軍の(一三)松柏翦られず、(一四)親戚安居し、(一五)高臺未だ傾かず、(一六)愛妾尙ほ在り。而るに將軍、沸鼎の中に魚游し、(一七)飛幕の上に鷰巢す。亦惑はずや。想ふに早く良圖を勵まし、自ら多福を求めよ』と。庚寅、伯之、壽陽の梁城より、衆八千を擁して來り降る。魏人、其の子虎牙を殺す。詔して、復た伯之を以て西豫州の刺史と爲す。未だ任に之かず。復た(一八)以て通直散騎常侍と爲す。之を久しくし

【一】膠水。水の名。今の山東省膠東道に在り。

【二】呑舟を是れ漏す。寬大なるを言ふ。漢、秦の法の苛に懲り、禁罔疏闊なり。時に稱して呑舟の魚を漏すと爲す。

【三】松柏翦られず。其の先世の墳墓を毀夷せざるをいふ。

【四】親戚安居す。其の親戚、江南に在る者、皆、叛黨を以て連坐せず、安居自若たるをいふ。

【五】高臺未だ傾かず。居第未だ嘗て汙潴たらず、池臺、故の如きをいふ。

【六】愛妾尙ほ在り。其の婢妾猶ほ其の家を守り、官に沒せず、及び他家に流落せざるを謂ふなり。

【七】飛幕の上に鷰巢す。左傳に、吳の季札、孫林父に謂つて曰はく、夫子の此に居るや、猶ほ燕の幕上に巢ふがごとしと。蓋し至つて危きを言ふなり。

【八】これをして田でて邊鎭に當らしめざるは、其の復た叛かんことを恐るればなり。

【六】桑門。佛教の僧。

【七】小新成。一百二十九卷宋の孝武大明五年に見ゆ。

【八】梁城。晉の孝武の太元中、梁郡を淮南の壽春の界に僑立す、故に梁城有り。其の地は、壽陽の東北、鍾離の西南に在り。

【九】淮陽。角城は淮水の陽に在り。淮陽、又、角城の北十八里に在り、宿預に治す。梁、後、角城に於て淮陽郡を置く。

【一〇】禧が誅せらるる事、一百四十四卷齊の和帝中興元年に見ゆ。

て家に卒す。

初め魏の御史中尉甄琛・表して稱す、『周禮に、(一九)山林川澤に、虞衡の官有り、之が厲禁を爲す。蓋し之を取るに時を以てし、戕賊せしめざるのみ。故に有司を置くと雖も、實は民の爲めに之を守るなり。夫れ一家の長は、必ず子孫を惠養し、天下の君は、必ず兆民を惠養す。未だ人の父母と爲りて、而も其の醯醢を吝み、富、羣生を有ちて、而も其の一物を(二〇)榷する者有らざるなり。今、縣官、河東の鹽池を鄣護して、其の利を收むるは、是れ專ら口腹に奉じて、四體に及ばざるなり。蓋し天子は富、四海を有つ。何ぞ貧しきを患へん。乞ふ鹽禁を弛め、民と之を共にせん』と。(二一)錄尚書事勰・尚書邢巒・奏して以爲はく、『琛の陳ぶる所は、坐談すれば則ち理高く、之を行へば則ち事闕く。竊に惟みるに、古の善く民を治むる者は、必ず汚隆、時に隨ひ、豐儉、事に稱ひ、役養消息し、以て其の性命を成す。若し其の自ら生ずるに任せ、其の飲啄するに隨はば、乃ち是れ(二二)萬物を芻狗とするなり。何ぞ君を以て爲さん。是の故に、聖人は(二三)山澤の貨を斂め、以て田疇の賦を寬め、關市の稅を收め、以て什一の儲を助く。此に取りて彼に與ふるは、皆、身の爲めにするに非ず、所謂天地の產に資り、天地の民を惠むなり。今、鹽池の禁は、日たること已に久し。積みて而も之を散じ、以て軍國を濟ふ。專ら・大官の膳羞に供し・後宮の服玩を給する爲めに非ず。既に利、己に在らざれば、則ち彼我、一なり。然れども鹽を禁じてより以來、有司、多く出納の間を慢にし、或は法の如くならず。是れ細民をして嗟怨し、負販をして輕しく議せしむ。此れ乃ち之を用ふる者方無きなり。之を作る者失有るに非ざるなり。一旦、之を罷めば、恐らくは本旨に乖かん。一たび行ひ一たび改むること、法、(二四)弈棊の若くならん。理要を參論するに、宜しく舊式の如くなるべし』と。魏主卒に琛の議に從ふ。夏四月乙未、鹽池の禁を罷む。

庚戌、魏、中山王英を以て、征南將軍・都督揚徐二州諸軍事と爲し、衆十餘萬を帥ゐ、以て梁の軍を拒がしめ、諸節度を指授し、至る所、便宜を以て事に從はしむ。江州の刺史王茂、兵數萬を將ゐて、魏の荊州を侵し、魏の邊民及び諸蠻を誘ひ、(二五)更めて宛州を立つ。其の署する所の宛州の刺史雷豹狼等を遣はし、襲うて魏の(二六)河南城を取らしむ。魏、平南將軍楊大眼を遣はし、諸軍を都督して茂を擊たしむ。辛酉、茂、戰ひ敗れ、二千餘人を失亡す。大眼進みて河南城を攻む。茂逃れ還る。大眼追うて漢水に至り、攻めて五城を拔く。魏の征虜將軍宇文福、司州に寇し、千餘口を俘にして去る。五月辛未、太子の右衞率張惠紹等、魏の徐州を侵し、(二七)宿預を拔

【一九】山林川澤に、虞衡の官有り。周禮に、山虞は山林の政令を掌り、林衡は林麓の禁令を掌り、川衡は川澤を巡るの禁令を掌り、澤虞は國澤の政令を掌る。

【二〇】榷。專賣なり。

【二一】勰。彭城王勰なり。

【二二】老子曰はく、天地は仁ならず。萬物を以て芻狗と爲すと。

【二三】山澤の貨を斂め云云。此れ田疇の什一の賦、以て國用に供するに足らず、故に山澤を斂め、關市に稅し、以てこれを助くるなり。

【二四】弈棊の若し。定法無きを言ふ。

【二五】魏の荊州を更めて宛州と爲すなり。

【二六】河南城。當に南陽の棘陽縣(今の河南省汝陽道新野縣)に在るべし。

【二七】宿預。晉の安帝、宿預縣を立て、淮陽郡に屬す。魏の高祖、以て南徐州の治所と爲す。故城は今の江蘇省徐海道宿遷縣の東南に在り。

き、城主馬成龍を執ふ。乙亥、(二六)北徐州の刺史昌義之、梁城を拔く。豫州の刺史韋叡、長史王超等を遣はし、小峴を攻めしむ。未だ拔けず。叡、圍柵を行る。魏、數百人を出して、門外に陳す。叡、之を擊たんと欲す。諸將皆曰はく、『向者輕く來り、未だ戰備有らず。徐ろに還りて甲を授け、乃ち進むべきのみ』と。叡曰はく、『然らず。魏の城中二千餘人、以て固く守るに足る。今、故無くして人を外に出す。必ず其の驍勇なる者なり。苟くも能く之を挫かば、其の城自ら拔けん』と。衆猶ほ遲疑す。叡、其の節を指して曰はく、『朝廷、此を授くるは、以て飾と爲すに非ず。韋叡の法は、犯す可からざるなり』と。遂に進みて之を擊つ。士皆殊死して戰ふ。魏の兵、敗走す。因つて急に之を攻め、中宿にして拔く。遂に合肥に至る。是より先、右軍司馬胡景略等、合肥を攻む。久しくして未だ下らず。叡、山川を按じ、夜、衆を帥ゐて肥水を堰く。之を頃くして、堰成り水通じ、舟艦繼ぎて至る。魏、東西の小城を築き、合肥を夾む。叡先づ二城を攻む。魏の將楊靈胤、衆五萬を帥ゐて奄至す。衆、敵せざらんことを懼れ、奏して兵を益さんと請ふ。叡笑つて曰はく、『賊、城下に至り、方に兵を益すを求むとも、將た何の及ぶ所あらん。且つ吾、兵を益すを求めば、彼も亦兵を益さん。兵は奇を用ふるを貴ぶ。豈に衆に在らんや』と。遂に靈胤を擊ち、之を破る。叡、軍主王懷靜をして城を岸に築き、以て堰を守らしむ。魏攻めて之を拔く。城中の千餘人皆沒す。魏人、勝に乘じて堤下に至り、兵勢甚だ盛なり。諸將、退きて濠湖に還らんと欲し、或は(二七)三叉に保せんと欲す。叡怒りて曰はく、『寧ぞ此れ有らんや』と。命じて纖扇麾幢を取り、之を堤下に樹て、動志無きを示す。魏人來りて堤を整る。叡親ら之と爭ふ。魏の兵卻く。因つて壘を堤に築き、以て自ら固む。叡、鬬艦を起し、高さ合肥城と等し。四面、之に臨む。城中の人皆哭す。守將杜元倫、城に登りて督戰し、弩に中りて死す。辛巳、城潰ゆ。俘斬萬餘級、牛羊を獲ること萬を以て數ふ。叡、體素より羸く、未だ嘗て馬に跨らず。戰ふ毎に、常に板輿に乘り、將士を督厲し、勇氣、敵無し。晝は賓旅に接し、夜半起きて軍書を算し、燈を張りて曙に達す。其の衆を撫循すること、常に・及ばざるが如し。故に投募の士、爭うて之に歸す。至る所頓舍するに、館宇藩牆、皆、準繩に應ず。諸軍進みて東陵に至る。(三〇)詔有りて師を班す。魏の城を去ること既に近く、諸將、其の追躡せんことを恐る。叡悉く輜重を遣りて前に居らしめ、身は小輿に乘りて後に殿す。魏人、叡の威名に服し、之を望めども敢て逼らず。軍を全くして還る。是に於て、豫州を遷して合肥に治す。壬午、魏、尚書元遙を遣はし、南して梁の兵を拒がしむ。癸未、魏、征西將軍于勁を遣はし、秦隴の諸軍を節度せしむ。丁亥、廬江の太守閭喜の裴邃、魏の羊石城に克つ。庚寅、又、(三一)霍丘城に克つ。六月庚子、青冀

【二六】南徐は京口に治す。故に鍾離を以て北徐と爲す。

【二七】三叉。濠湖の水、此に於て三叉に分る、故に名づく。退きて此に保するときは、船に入るに利あり、故に衆これを欲す。

【三〇】師を班すの詔は、必ず洛口の師潰ゆるの後に在らん。史、叡の事を書するに因りて終にこれを言ふ。

【三一】霍丘。今の安徽省淮泗道霍丘縣の地。

二州の刺史桓和、朐山城に克つ。

乙巳、魏の安西將軍元麗、王法智を擊ち、之を破る。斬首六千級。

張惠紹、假徐州刺史宋黑と與に、水陸俱に進み、彭城に趣き、(三二)高塚戍を圍む。魏の武衞將軍奚康生、兵を將ゐて之を救ふ。丁未、惠紹の兵、利あらず、黑・戰死す。

太子統生れて五歲、能く遍く五經を誦す。庚戌、始めて禁中より出でて東宮に居る。

丁巳、魏、度支尚書邢巒を以て東討諸軍事を都督せしむ。

魏の驃騎大將軍馮翊の惠公源懷・卒す。懷、性寬簡にして、煩碎を喜ばず。常に曰はく、『貴人たるものは、當に綱維を擧ぐべし。何ぞ必ずしも事事詳細ならん。譬へば屋を爲るが如し。但だ外望高顯に、楹棟平正に、基壁完牢なれば足る。斧斤、平かならず、斲削、密ならざるは、屋の病に非ざるなり』と。

秋七月丙寅、桓和、魏の兗州を擊ち、(三三)固城を拔く。

呂苟兒、衆十餘萬を率ゐて(三四)孤山に屯し、秦州を圍逼す。元麗進み擊ち、大に之を破る。行秦州事李韶、孤山を掩擊し、其の父母妻子を獲たり。庚辰、苟兒、其の徒を帥ゐ、麗に詣りて降る。兼太

【三二】高塚戍。水經注に、彭城の同孝山陰に、楚の元王の冢有り、高さ十許丈、廣さ百許歩と。意ふに魏、戍を此に立てしなるべし。

【三三】固城。疑ふらくは抱犢の固城ならん。抱犢山は蘭陵の界に在り。今の山東省濟寧道嶧縣の東に在り。

【三四】孤山。此の孤山は當に上邽の左右に在るべし。魏の秦州は上邽に治す、天水・略陽・漢陽郡を領す。上邽は今の甘肅省渭川道天水縣に在り。

僕卿楊椿、別に陳瞻を討つ。瞻、險に據りて拒守す。諸將、或は、兵を山蹊に伏し・其の出入を斷ち・糧の盡くるを待ちて之を攻めんと請ひ、或は、木を斬り山を焚き・然る後進み討たんと欲す。椿曰はく、『皆、計に非ざるなり。官軍の至りしより、向ふ所輒ち克てり。賊が深く竄るる所以は、正に死を避くるのみ。今、諸軍を約勒し、更に侵掠する勿からしめば、賊必ず我險を見て前まずと謂はん。其の備無きを待ち、然る後奮擊せば、一擧にして平ぐ可からん』と。乃ち止まり屯して・進まず。賊果して出でて抄掠す。椿復た馬畜を以て之に餌し、討逐を加へず。之を久しくして、陰に精卒を簡び、枚を銜み、夜、之を襲ひ、瞻を斬りて首を傳ふ。秦・涇・二州皆平ぐ。

戊子、徐州の刺史王伯敖、魏の中山王英と、(三五)陰陵に戰ふ。伯敖、兵敗れ、五千餘人を失亡す。己丑、魏、定・冀・瀛・相・幷・肆・六州の十萬人を發し、以て南行の兵を益す。上、將軍角念を遣はし、兵一萬を將ゐて(三六)蒙山に屯し、兗州の民を招納せしむ。降る者甚だ衆し。是の時、將軍蕭及、固城に屯し、桓和、(三七)孤山に屯す。魏の邢巒、統軍樊魯を遣はして和を攻めしめ、別將元恒をして及を攻めしめ、統軍畢祖朽をして念を攻めしむ。壬寅、魯大に和を孤山に破り、恒、固城を拔き、祖朽、

【三五】陰陵。縣、漢には九江郡に屬し、晉には淮南郡に屬す。梁の北譙郡は陰陵城に治す。故城は今の安徽省淮泗道定遠縣の西北に在り。

【三六】蒙山。南青州東安郡新泰縣の東南に蒙山有り、今の山東省濟寧道費縣の西北に在り。蓋し蒙山は卽ち古の所謂東蒙なり。固城・孤山と、皆魏の兗州の東界に近し。故に梁、兵を連ねてこれに據り、以て兗州の民を招く。

【三七】孤山。魏收志に、蘭陵郡蘭陵縣に石孤山有り、又、昌慮縣に孤山有りと。

念を擊ちて之を走らす。己酉、魏、平南將軍安樂王詮に詔し、後發の諸軍を督して淮南に赴かしむ。詮は㊇長樂の子なり。將軍藍懷恭、魏の邢巒と㊈睢口に戰ふ。懷恭・敗績す。巒進みて宿預を圍む。懷恭復た㊉淸南に於て城を築く。巒、平南將軍楊大眼と、合して之を攻む。九月癸酉、之を拔き、懷恭を斬り、殺獲萬計。㊋張惠紹、宿預を棄て、蕭昞、淮陽を棄て、遁れ還る。臨川王宏、帝の弟を以て兵を將ゐ、器械精新に、軍容甚だ盛なり。北人以爲へらく、百數十年、未だ之れ有らざる所なりと。軍、㊌洛口に次す。㊍前軍、梁城に克つ。諸將、勝に乘じて深く入らんと欲す。宏、性懦怯にして、部分、方に乖く。魏、邢巒に詔し、兵を引きて淮を度り、中山王英と、合して梁城を攻めしむ。宏、之を聞きて懼れ、諸將を召し、師を旋さんと議す。呂僧珍曰はく、『難きを知りて退くは、亦善からずや』と。宏曰はく、『我も亦以て然りと爲す』と。柳惔曰はく、『我が大衆の臨む所たるより、何の城か服せざらん。何ぞ難しと謂ふや』と。裴邃曰はく、『是の行や、固より敵を是れ求む。何の難きをか之れ避けん』と。馬仙琕曰はく、『王安にか亡國の言を得たる。天子、境內を掃つて以て王に屬す。㊎前死一尺有り、却生一寸無し』と。昌義之怒り、須髮盡く㊏磔り、曰はく、『呂僧珍をば斬る可きなり。豈に百萬の師、出でて未だ敵に逢はず、風を望みて遽に退く有らんや。何の面目ありてか聖主に見ゆるを得んや』と。朱僧勇・胡辛生、劒を拔きて㊐退きて曰はく、『退かんと欲せば自ら退け。下官は當に㊑前向して死を取るべし』と。議者罷め出づ。僧珍、諸將に謝して曰はく、『殿下、昨來㊒風動き、意、軍に在らず。深く恐る大に沮喪を致さんことを。故に師を全くして返らんと欲するのみ』と。宏、敢て遽に羣議に違はず、軍を停めて・前まず。魏人、其の武ならざるを知り、遺るに巾幗を以てし、且つ之を歌ひて曰はく、㊓『蕭娘と呂姥とを畏れず。但だ合肥に韋虎有るを畏る』と。虎とは韋叡を謂ふなり。僧珍・歎じて曰はく、㊔『始興・吳平をして帥と爲らしめて之を佐けば、豈に敵人の侮る所と爲ること是の如き有らんや』と。裴邃を遣はし・軍を分ちて壽陽を取らしめ・大衆をば洛口に停めんと欲す。宏固く執りて・聽かず。軍中に令して曰はく、『人馬、前行する者有らば斬らん』と。是に於て、將士、人〻憤怒を懷く。魏の奚康生、馳せて楊大眼を遣はし、中山王英に謂つて曰はしむ、『梁人、梁城に克ちしより已後、久しく・軍を進めず。其の勢、見る可し、必ず我を畏るるなり。王若し進みて洛水に據らば、彼自ら犇敗せん』と。英曰はく、『蕭臨川、騃なりと雖も、其の下に良將韋裴の屬有り、未だ

【㊇】安樂王長樂は、一百三十三卷宋の蒼梧王元徽三年に見ゆ。

【㊈】睢口。睢水の泗に入る口。今の江蘇省徐海道舊徐州に在り。

【㊉】清南。清水の南なり。

【㊋】張惠紹、宿預を棄つ。胡三省曰はく、此れ、後の「張惠紹、洛口敗れしを聞き、兵を引きて退く」と、もと、一事なるのみと。

【㊌】洛口。洛谷水が漢に入る口。今の陝西省漢中道洋縣に在り。

【㊍】昌義之が梁城に克ちしを謂ふ。

【㊎】進みて死する有るも、退きて生くる無し。

【㊏】磔。張り開く也。

【㊐】退。南史宏傳に據れば、當に起に作るべし。

【㊑】前向。進前する也。

【㊒】風動く。宏の心風發動するを謂ふ。

【㊓】蕭宏と呂僧珍との怯懦なること婦人女子の如きを言ふなり。

【㊔】始興は始興王憺、吳平は吳平侯昺なり。

輕んず可からざるなり。宜しく且く形勢を觀るべし。與に鋒を交ふる勿かれ』と。張惠紹、號令嚴明にして、至る所獨り克ち、(五一)下邳に軍す。下邳の人、降らんと欲する者多し。惠紹、之に諭して曰はく、『我若し城を得ば、諸卿は皆是れ(五二)國人なり。若し克つ能はずんば、徒らに諸卿をして鄉里を失はしめん。朝廷の・民を弔ふの意に非ざるなり。今且く安堵して業に復せよ。妄に自ら辛苦する勿かれ』と。降人咸悅ぶ。己丑夜、洛口・暴風雨あり、軍中驚く。臨川王宏、數騎と與に逃れ去る。將士、宏を求むれども得ず。皆散じて歸る。甲を棄て戈を投じ、水陸に塡滿し、病者及び羸老を捐棄し、死する者、五萬人に近し。宏、小船に乘りて江を濟り、夜、白石壘に至り、城門を叩き、入らんことを求む。臨汝侯淵猷、城に登りて謂つて曰はく、『百萬の師、一朝にして鳥のごとく散せり。國の存亡、未だ知る可からざるなり。恐らくは姦人、間に乘じて變を爲さん。城は夜開く可からず』と。宏、以て對ふる無し。乃ち食を絶して之に饋る。淵猷は淵藻の弟なり。時に昌義之、梁城に軍す。洛口敗れぬと聞き、(五三)張惠紹と、皆、兵を引きて退く。魏主、中山王英に詔し、勝に乘じて東南を平蕩せしむ。北ぐるを逐うて馬頭に至り、攻めて之を拔く。城中の糧儲、魏悉く之を遷して

【五一】 胡三省曰はく、前に已に「張惠紹、宿預を棄てて遁れ還る」と言へり。宿預は下邳の東南百餘里に在り。此に「下邳に軍す」と言ふ。是れ未だ宿預を棄てざるの前の事なり。李延壽、此の事を以て、これを臨川王宏の傳に載す。通鑑因つて亦連ねてこれを書すと。

【五二】 國人。王民と言ふが如きなり。

【五三】 胡三省曰はく、此れ卽ち張惠紹が宿預を棄つると一事なり。通鑑、南史の臨川王宏傳の載する所の者に因りてこれを書し、遂に複出するを致せりと。

北に歸る。議者咸曰はく、『魏、米を運びて北に歸る。當に復た南に向はざるべし』と。上曰はく、『然らず。此れ必ず兵を進めんと欲し、詐計を爲すのみ』と。乃ち命じて(五四)鍾離城を脩めしめ、昌義之に勑して、戰守の備を爲さしむ。冬十月、英、進みて鍾離を圍む。魏主、邢巒に詔し、兵を引きて之に會せしむ。巒・上表して以爲はく、『南軍は、野戰は敵に非ずと雖も、而も城守は餘り有り。今、銳を盡して鍾離を攻め、之を得とも則ち利する所幾くも無く、得ざるときは則ち虧損甚だ大なり。且つ淮外に介在し、借使手を束ねて順に歸すとも、猶ほ恐らくは糧無く守り難からん。況んや士卒を殺し以て之を攻むるをや。又、征南の士卒、(五五)戎に從ふこと二時、疲弊死傷せること、問はずして知る可し。勝に乘ずるの資有りと雖も、懼らくは用ふ可きの力無からん。臣が愚見の若きは、謂ふに宜しく舊戍を脩復し、諸州を撫循し、以て後擧を俟つべし。江東の釁は、其の無きを患へず』と。詔して曰はく、『淮を濟りて掎角するは、事、前敕の如し。何ぞ(五六)猶爾(五七)盤桓し・方に此の請有る容けんや。速かに軍を進む可し』と。巒又表して以爲はく、『今、中山進みて鍾離に軍するは、實に未だ解らざる所なり。若し(五八)得失の計を爲し、萬金を顧みず、直に廣陵を襲ひ、其の備へざるに出でば、或は(五九)未だ知る可か

【五四】 馬頭城は、鍾離の西に在り。馬頭既に陷る。魏必ず東して鍾離を攻めん。故に預めこれが備を爲す。

【五五】 戎に從ふこと二時。兵連なりて解けず、夏より秋に至るを謂ふ。

【五六】 猶爾の爾は助辭。

【五七】 盤桓。進まざるの貌。

【五八】 得失の計を爲すとは、一切の計を爲し、或は得或は失、未だ必ず可からざるを謂ふ。

【五九】 未だ知る可からず。勝利を得るかも知れずとの意。

らず。若し正に・(六〇)八十日の糧を以て鍾離城を取らん欲せば、臣未だ之を前に聞かざるなり。彼、城を堅くして自ら守り、人と戰はずば、城塹水深く、塡塞す可きに非ず。空しく坐して春に至らば、士卒自ら弊れん。若し臣を遣はし彼に赴かしむとも、何に從りてか糧を致さん。夏來るの兵は、冬の服を齎さず。脫し氷雪に遇はば、何の方か濟を取らん。臣寧ろ怯懦にして進まざるの責を荷ふとも、敗損し空しく行くの罪を受けじ。鍾離は天險なること、(六一)朝貴の具にする所なり。若し內應有らば、則ち知らざる所なれども、如し其れ無くんば、必ず(六二)克狀無し。若し臣の言を信ぜば、願はくは臣に停まることを賜へ。若し臣行くを憚り還るを求むと謂はば、臣が領する所の兵、乞ふ、盡く中山に付し、其の處分に任せ、臣は止だ單騎を以て、之に隨つて東西せん。臣屢〻・將と爲るを更、頗る可否を知る。臣既に・難しと謂ふ。何ぞ强ひて遣はす容けんや』と。乃ち繼を召して還らしむ。更に鎭東將軍蕭寶寅に命じて、英と同じく鍾離を圍ましむ。侍中盧昶、素より繼を惡み、侍中領右衞將軍元暉と共に之を譖し、御史中尉崔亮をして繼を彈ぜしむ。(六三)『漢中に在りて人を掠して奴婢と爲せり』と。繼、漢中に得たる所の美女を以て暉に賂ふ。暉、魏主に言つて曰はく、『繼、新に大功有り。當に(六四)赦前の小事を以て之を案ずべからず』と。魏主、以て然りと爲し、遂に・問はず。暉、盧昶と、皆、魏主に寵有り、而して貪縱なり。時人、之を餓虎將軍・饑鷹侍中と謂ふ。暉尋ぎて吏部尙書に遷り、官を用ふるに皆定價有り、大郡は二千匹、次郡下郡は、(六五)其の半ばを遞減し、餘官は各〻等差有り。選者、之を(六六)市曹と謂ふ。丁酉、梁の兵の・義陽を圍む者、(六七)夜遁る。魏の郢州の刺史婁悅、追擊して之を破る。

柔然の庫者可汗・卒す。子伏圖立つ。(六八)佗汗可汗と號し、始平と改元す。戊申、佗汗、使者紇奚勿六跋を遣はし、魏に如きて和を請はしむ。魏主、其の使に報せず、勿六跋に謂つて曰はく、『蠕蠕の遠祖(六九)社崙は、乃ち魏の叛臣なり。往者包容し、暫く・使を通ずるを聽せり。今、蠕蠕・衰微して、疇昔に及ばず。大魏の德、方に周漢よりも隆なり。正に・江南未だ平がざるを以て、少しく北略を寬む。通和の事は、未だ相許す容からず。若し藩禮を脩め、欵誠昭著ならば、當に爾に孤かざるべきなり』と。

魏の京兆王愉・廣平王懷、國臣多く驕縱にして、公に屬請を行ふ。魏主、中尉崔亮に詔して、之を窮治せしむ。坐して死する者三十餘人。其の死せざる者は、悉く名を除きて民と爲す。惟だ(七〇)廣平

【六〇】八十日の糧。英、八十日の糧を以て鍾離を取らんと期す。故に繼然云ふ。

【六一】朝貴云云。朝の貴臣の具に知る所なるをいふ。

【六二】克狀。克つ可きの狀。

【六三】繼の傳に曰はく、繼始め漢中に至るや、豪右を接するに禮を以てし、衆を撫するに惠を以てす。歲餘の後、頗る其の去就に因り、百姓を誅滅し、籍して奴婢と爲す者、二百餘人と。

【六四】赦。是の年正月、皇子生れしを以て赦せしを謂ふ。

【六五】遞減。だんだんに減するなり。

【六六】選曹にして、貨賂して市を爲すを以て、因つてこれを市曹と謂ふ。

【六七】洛口の師潰えしを聞くが故に亦遁る。

【六八】佗汗。中國の言の緒の意なり。

【六九】社崙が魏に叛きし事、一百八卷晉の孝武太元十九年に見ゆ。

【七〇】往者包容云云。事、一百三十六卷齊の武帝永明五年に見ゆ。

【七一】晉より以來、王國に師友文學各〻一人・左右常侍各〻一人を置く。

の右常侍楊昱・文學崔楷は、忠諫を以て・免るるを獲たり。昱は(七三)椿の子なり。

十一月乙丑、大赦す。右衛將軍曹景宗に詔して、諸軍二十萬を都督し、鍾離を救はしむ。上、景宗に勑して、(七四)道人洲に頓し、衆軍の齊しく集まるを俟ちて俱に進ましむ。景宗固く啓して、先づ邵陽洲尾に據らんことを求む。上、許さず。景宗、其の功を專らにせんと欲し、詔に違うて進む。暴風猝に起るに値ひ、頗る・溺るる者有り。復た還りて(七五)先の頓を守る。上、之を聞きて曰はく、『景宗が進まざるは、蓋し天意なり。若し孤軍獨り往かば、城、時に立たず、必ず狼狽を致さん。今、賊を破らんこと必せり』と。

初め漢の(七六)歸義侯勢の末、羣獠始めて出で、北は漢中より、南は邛笮に至るまで、山谷に布滿す。勢既に亡ぶるや、蜀の民多く東に徙り、山谷の空地、皆、獠の據る所と爲る。其の郡縣に近くして華民と雜居する者は、頗る租賦を輸すれども、遠く深山に在る者は、郡縣、制する能はず。梁・益・二州、歳ごとに獠を伐ち以て自ら潤ほし、公私、之を利とす。邢巒が梁州と爲るに及び、獠の近き者は、皆安堵して業を樂しみ、遠き者は、敢て寇を爲さず。巒既に罷め去るや、魏、羊祉を以て梁州の刺史と爲し、傅豎眼を(七七)益州の刺史と爲す。祉、性酷虐にして、(七八)物情を得ず。獠王趙清判、梁の兵を引きて州境に入りて寇を爲す。祉、兵を遣はし、擊ちて之を破る。豎眼、恩を施し信を布き、大に獠の和を得たり。

十二月癸卯、都亭の靖侯謝朏・卒す。

(七九)魏人、樂を議し、久しく・決せず。

六年、春正月、公孫崇、衞軍將軍尙書右僕射高肇に委ねて其の事を監せしめんと請ふ。魏主、肇が學ばざるを知り、太常卿劉芳に詔して之を佐けしむ。

魏の中山王英、平東將軍楊大眼等と與に、衆數十萬、鍾離を攻む。鍾離城は、北のかた淮水を阻とす。魏人、邵陽洲の兩岸に於て、橋を爲り柵を樹つること數百步、淮に跨りて道を通ず。英、南岸に據りて城を攻め、大眼、北岸に據りて城を立て、以て糧運を通ず。城中の衆總に三千人、昌義之、將士を督帥し、方に隨つて抗禦す。魏人、車を以て土を載せて塹を塡め、其の衆をして土を負うて之に隨はしめ、嚴騎、其の後に蹙り、人、未だ回るに及ばざる者有れば、因つて土を以て之に(一)迮り、俄にして塹滿つ。衝車の撞く所、城土輒ち頹る。義之、泥を用ひて之を補ふ。衝車、入ると雖も、而も壞る能はず。魏人、晝夜苦攻し、番を分ち相代り、墜つれば復た升り、退く者有る莫し。一日に戰ふこと數十合、前後殺傷すること萬計、魏人の死する

【七三】楊椿は一百三十七卷齊の武帝永明八年に見ゆ。

【七四】道人洲。邵陽洲の東に在り。

【七五】先の頓を守る。還りて道人洲を守るをいふ。

【七六】歸義侯勢云云。事、九十七卷晉の孝宗永和二年に見ゆ。

【七七】益州。去年、魏、晉壽を得て益州を置く。

【七八】物情。人望なり。

【七九】三年、魏命じて樂を議せしむること、前卷に見ゆ。

【一】迮。迫るなり。

者、城と平かなり。二月、魏主、英を召し、還らしむ。英・表して稱す、『臣が志、逋寇を殄すにあり。而れども月初已來、霖雨止まず。若し三月晴霽せば、城、必ず・克つ可からん。願はくは少しく寛假を賜へ』と。魏主復た詔して曰はく、『彼の士は蒸濕にして、宜しく久しく淹まるべき無し。勢、必ず取るは乃ち將軍の深計なりと雖も、兵久しく力殆きは、亦朝廷の憂ふる所なり』と。英猶ほ表して稱す、『必ず克たん』と。魏主、步兵校尉范紹を遣はし、英に詣り、攻取の形勢を議せしむ。紹、鍾離城の堅きを見、英に・引き還るを勸む。㈢英、從はず。上、豫州の刺史韋叡に命じて、兵を將ゐて鍾離を救ひ、曹景宗の節度を受けしむ。叡、合肥より直道を取り、陰陵の大澤より行き、澗谷に値へば、輒ち飛橋以て師を濟す。人、魏の兵の盛なるを畏れ、多く叡に緩行するを勸む。叡曰はく、『鍾離は、今、穴を鑿りて處り、戶を負うて汲む。車馳せ卒奔るも、猶ほ其の後れんことを恐る。而るを況んや緩かにするをや。魏人已に吾が腹中に墮つ。卿が曹、憂ふる勿かれ』と。旬日にして邵陽に至る。上、豫め曹景宗に勑して曰はく、『韋叡は卿の㈢鄉望なり。宜しく善く之を敬すべし』と。景宗、叡を見、禮甚だ謹む。上、之を聞きて曰はく、『二將・和せり。師必ず濟らん』と。景宗、叡と與に、進みて邵陽洲に頓す。叡、景宗の營前二十里に於て、夜、長塹を掘り、鹿角を樹ゑ、洲を截りて城を爲る。魏の城を去ること百餘步。南梁の太守馮道根、能く馬を走らせ地を步し、馬足を計りて以て㈣功を賦し、曉に比びて營立つ。魏の中山王英、大に驚き、杖を以て地を擊ちて曰はく、『是れ何ぞ神なるや』と。景宗等、器甲精新、軍容甚だ盛なり。魏人、之を望み、氣を奪はる。景宗、城中の危み懼れんことを慮り、軍士言文達等を募り、水底を潛行し、勑を齎して城に入らしむ。城中始めて外援有るを知り、勇氣百倍す。楊大眼、勇、軍中に冠たり。萬餘騎を將ゐて來り戰ふ。向ふ所皆靡く。叡、車を結びて陳と爲す。大眼、騎を聚めて之を圍む。叡、彊弩二千を以て、一時に俱に發す。甲を洞き、中を穿ち、殺傷甚だ衆し。矢、大眼の右臂を貫く。大眼退き走る。明旦、英自ら衆を帥ゐて來り戰ふ。叡、素木の輿に乘り、白角の如意を執り、以て軍を麾く。一日に數合す。英乃ち退く。魏の師復た夜來りて城を攻む。飛矢雨のごとく集まる。叡の子黯、城を下りて以て箭を避けんことを請ふ。叡、許さず。軍中驚く。㈤叡、城上に於て、聲を厲まして之を呵す。乃ち定まる。牧人の・淮を過ぎ北して芻藁を伐る者、皆、楊大眼の略する所と爲る。曹景宗、勇敢の士千餘人を募り、大眼の城南數里に於て壘を築く。つて之を却く。壘成る。別將趙草をして之を守らしむ。抄掠する者有れば、皆、草の獲る所と爲る。大眼來り攻む。景宗、擊

【二】元英が衆議に違ひ、必ず鍾離に克たんと志せるは、義陽の勝を恃みて驕れるなり。

【三】鄉望。曹景宗は新野の人、韋叡は京兆の著姓を以て襄陽に居る。既に州鄉を同じくし、而して韋は望族たり。

【四】功を賦す。功は力なり。賦は布なり、給與なり。一夫の力の任ふる所を計りて、仕事を割り當つること。

【五】胡三省曰はく、此れ確鬬なり。兩軍、營壘相逼り、且幕接戰するは、勇にして剛無き者は、久しきを支ふる能はず。韋叡の此に於けるは、是れ能くし難きなり。比年、襄陽の守、諸將をして營を連れて進むこと韋叡の議の如くならしめば、城猶ほ全うす可く、國を誤るに至らざりしならん。嗚呼痛ましきかなと。

是の後、始めて・芻牧を縱つを得たり。上、景宗等に命じて、豫め高艦を裝ひ、魏橋と等しからしめ、火攻の計を爲さしめ、景宗と叡とをして各一橋を攻めしむ。(六)叡は其の南なるを攻め、景宗は其の北なるを攻む。三月、淮水暴に漲ること六七尺、叡、馮道根をして、廬江の太守裴邃・(七)秦郡の太守李文釗等と與に、鬬艦に乘り、競ひ發して魏の洲上の軍を擊たしむ。盡く殪す。別に小船を以て草を載せ、之に灌ぐに膏を以てし、從つて其の橋を焚く。風怒り火盛に、煙塵晦冥なり。敢死の士、柵を拔き橋を斫り、水又漂疾なり。倏忽の間に、橋柵俱に盡く。道根等、皆身自ら搏戰し、軍人、勇を奮ひ、呼聲、天地を動かし、一・百に當らざるは無し。魏の軍大に潰ゆ。英、橋絶えたるを見、身を脫し城を棄てて走る。大眼も亦營を燒きて去る。諸壘相次ぎて土崩す。悉く其の器甲を棄て、爭うて水に投じて死する者十餘萬、斬首、亦之に如く。叡、昌義之に報ぜしむ。義之・悲喜し、答語に暇あらず。但だ叫び、(八)『更生更生』と。諸軍、北ぐるを逐ひ、(九)濊水の上に至る。英、單騎にて梁城に入る。緣淮の百餘里、尸相枕藉し、五萬人を生擒す。其の資糧器械を收めて山積し、牛馬驢騾、勝げて計ふ可からず。義之、景宗及び叡を德とし、二人を請うて共に會し、錢二十萬

【六】魏、邵陽洲の兩岸に於て橋を立て、南橋は以て元英の兵に接し、北橋は以て楊大眼の兵に接す。

【七】秦郡。晉の武帝、扶風を分ちて秦國と爲す。中原亂るるや、其の民南流して堂邑に寄居す。堂邑は、もと、縣なりしが、惠帝永興元年、臨淮・淮陵を以て堂邑郡を立つ。安帝、堂邑を改めて秦郡と爲す。今の江蘇省金陵道六合縣の地。

【八】更生。蘇生なり。

【九】濊水。睢州穀陽郡連城縣に濊水有り。當に今の江蘇省徐海道碭山縣に在りしなるべし。

を設け、之を(一〇)官賭す。景宗揶げて雉を得。叡徐ろに揶げて(一一)盧を得、遽に一子を取りて之を反して曰はく、(一二)『異事』と。遂に塞と作す。景宗、羣帥と、先を爭うて捷を告ぐ。叡、獨り後に居る。世尤も此を以て之を賢とす。詔して、景宗・叡の爵邑を增す。義之等、賞を受くること各差有り。夏四月己酉、江州の刺史王茂を以て尙書右僕射と爲し、安成王秀を江州の刺史と爲す。秀將に發せんとするとき、主者、堅船を求め、以て(一三)齋舫と爲す。(一四)秀曰はく、『吾豈に財を愛して、士を愛せざらんや』と。乃ち堅き者を以て參佐に給し、下れる者をもて齋物を載す。既にして風に遭ひ、齋舫遂に破る。

丁巳、臨川王宏を以て驃騎將軍・開府儀同三司と爲し、建安王偉を揚州の刺史と爲し、右光祿大夫沈約を尙書左僕射と爲し、左僕射王瑩を中軍將軍と爲す。

六月丙午、(一五)馮翊等の七郡、叛きて魏に降る。

秋七月丁亥、尙書右僕射王茂を以て中軍將軍と爲す。

【一〇】官賭。樗蒲賭博は、私に相與に戲と爲すのみ、公庭に設けず。今、徐州府廨に官賭するは、公に之を賭するなり。博して以て財を取るを賭と曰ふ。

【一一】樗蒲に盧を得るものは勝つ。一子を反して塞と爲す。塞とは、采を揶げて未だ成らず。次に揶ぐる者、之を塞して以て勝負を決す。塞は簺と同じ。(余、樗蒲を詳かにせず、姑く胡氏の注に從ふ。蓋し韋叡、賭に勝ちて錢を得るを欲せざるなり。)

【一二】異事。怪事と言ふが如し。

【一三】齋舫。船を以て齋庫の物を載す、因つて齋舫と曰ふ。

【一四】時に諸王竝に士に下る。建安王偉と秀と、尤も人物を好む。時人これを四豪に方ぶ。

【一五】馮翊等の郡は、江左、雍州の界に僑立す。

八月戊子、大赦す。

魏の有司・奏す、『中山王英、經筭、圖を失ひ、齊王蕭寶寅等、橋を守ること固からず。皆處するに極法を以てせん』と。己亥、詔して、英・寶寅は、死を免し、名を除きて民と爲し、楊大眼は〔一六〕營州に徙して兵と爲す。中護軍李崇を以て征南將軍・揚州の刺史と爲す。崇多く產業を事とす。征南長史狄道の辛琛、屢〻諫むれども、從はず。遂に相糾擧す。詔して、竝に・問はざらしむ。崇因つて置酒して琛に謂つて曰はく、『長史、後必ず刺史と爲らん。但だ上佐の何如なる人を得るかを知らざるのみ』と。琛曰はく、『若し萬一叨りに忝くせば、一の方正なる長史を得、朝夕、過を聞かんこと、是れ願ふ所なり』と。崇、慙色有り。

九月己亥、魏、司空高陽王雍を以て太尉と爲し、尙書令廣陽王嘉を司空と爲す。

甲子、魏、〔一七〕斜谷の舊道を開く。

冬十月壬寅、五兵尙書徐勉を以て吏部尙書と爲す。勉、精力、人に過ぎ、文案塡積し・坐客充滿すと雖も、應對、流るるが如く、手、筆を停めず。又、百氏を該綜し、皆爲めに諱を避く。嘗て門人と夜集まる。客虞暠、〔一八〕詹軍五官を求む。勉、色を正しくして曰はく、『今夕は止だ風月を談ず可し。公事に及ぶ可からず』と。時人咸其の私無きに服す。

閏月乙丑、臨川王宏を以て司徒と爲し、太子の太傅を行はしめ、尙書左僕射沈約を尙書令と爲し、太子の少傅を行はしめ、吏部尙書袁昂を右僕射と爲す。

丁卯、魏の皇后于氏・殂す。是の時、高貴嬪、寵有りて而も妬なり。高肇、勢、中外を傾く。后暴に疾みて殂す。人皆咎を高氏に歸す。宮禁の事は祕にして、能く詳かにするもの莫きなり。

甲申、光祿大夫夏侯詳を以て尙書左僕射と爲す。

乙酉、魏、順皇后を永泰陵に葬る。

十二月丙辰、〔一九〕豐城の景公夏侯詳・卒す。

乙丑、魏の淮陽鎭の都軍主常邕和、城を以て來り降る。

〔一六〕營州。魏の世祖眞君五年、營州を置き、和龍城（今の熱河朝陽縣）に治し、昌黎・建德・遼東・樂浪・冀陽郡を領す。

〔一七〕斜谷。谷名、今の陝西省終南山の谷なり。郿縣の西南に在り。長さ四百二十里、西口を褒と曰ひ、東口を斜と曰ふ。漢の高祖が漢王と爲るや杜南より斜中に入り、張良送りて褒中に至る、此れ卽ち斜谷の舊道なり。

〔一八〕詹事五官。太子の詹事にも亦、五官掾あり。

〔一九〕豐城。吳、富城縣を立つ。晉武の太康元年、更めて豐城と名づけ、豫章郡に屬す。今の江西省豫章道豐城縣。

卷の第一百四十七

梁紀三

高祖武皇帝三

(一)天監七年、春正月、魏の潁川の太守王神念・來犇す。

壬子、衛尉吳平侯昺を以て領軍將軍を兼ねしむ。

吏部尚書徐勉に詔して、百官の九品を定めしめ、(二)十八班と爲し、班多き者を以て貴しと爲す。二月乙丑、鎮衛將軍以下を增置し、十品と爲し、凡そ二十四班。十品に登らざるには、別に八班有り。又、外國將軍を置施し、二十四班、凡そ一百九號。

庚午、詔して、州望・郡宗・鄉豪・各一人を置き、專ら(三)搜薦を掌らしむ。

乙亥、南兗州の刺史呂僧珍を以て、領軍將軍と爲す。領軍は內外の兵要を掌る。宋の孝建以來、

【一】天監七年。西紀五〇八年なり。

【二】十八班。一班より順次班の數多きに從つて貴し。

【三】搜薦。搜は求むるなり。才能を搜りてこれを上に薦むるをいふ。

制局、事を用ひ、領軍と兵權を分ち、典事以上、皆、に及び、職に在りて峻切にして、官曹肅然たり。制局監は皆近倖にして、頗る・命に堪へず。是を以て、久しく中に留まるを得ず。丙子、出でて雍州の刺史と爲る。

三月戊子、魏の皇子昌・卒す。㈣侍御師㈤王顯、療治を失す。時人皆以爲へらく、高肇の意を承くるなりと。

夏四月乙卯、皇太子、妃を納る。大赦す。

五月己亥、詔して、㈥復た宗正・太僕・大匠・鴻臚を置き、又、太府・太舟を增し、先に仍つて十二卿と爲す。

癸卯、安成王秀を以て荆州の刺史と爲す。是より先、巴陵の馬營蠻、江に緣りて寇を爲す。州郡、討つ能はず。秀、㈦防閤文熾を遣はし、衆を帥ゐて其の林木を燔かしむ。㈧蠻、其の險を失ひ、州境、寇無し。

秋七月甲午、魏、高貴嬪を立てて皇后と爲す。尙書令高肇、益〻貴重にして事を用ふ。肇多く先朝の舊制を變更し、封秩を減削し、勳人を抑黜す。是に由りて、怨聲、路に盈つ。羣臣宗室、皆、之に卑下す。唯だ度支尙書元匡、肇と抗衡し、先づ自ら棺を造りて聽事に置き、棺を輿して闕に詣り・肇の罪惡を論じ・自殺して以て切諫せんと欲す。肇聞きて之を惡む。會〻匡、太常劉芳と、㈨權量の事を議す。肇、芳の議を主とす。匡遂に肇と㈩喧競し、㈪『肇、鹿を指して馬と爲す』と表す。御史中尉王顯、『匡、宰相を誣毀す』と奏彈す。有司、匡を死刑に處す。詔して、死を恕し、降して光祿大夫と爲す。

八月癸丑、竟陵の壯公曹景宗・卒す。

初め魏主、京兆王愉の爲めに于后の妹を納れて妃と爲す。愉、愛せず。愛妾李氏、子寶月を生む。于后、李氏を召し、宮に入らしめて之を捶つ。愉、驕奢貪縱にして、爲す所不法多し。帝、愉を召して禁中に入らしめ、㈫推案し、愉を杖つこと五十、出して冀州の刺史と爲す。愉、自ら・年長にして・而も勢位・㈬二弟に及ばざるを以て、潛に愧恨を懷く。又、身と妾と、屢〻頓辱せらる。高肇數〻愉兄弟を譖す。愉、忿に勝へず。癸亥、長史羊靈引・司馬李遵を殺し、詐りて淸河王懌の密疏を得たりと稱し、『高肇・弑逆せり』と云ひ、遂に壇を㈭信都の南に爲り、皇帝の位に卽く。大赦し、建平と改元す。李氏を立てて皇后と爲す。法曹參軍崔伯驥、從はず。愉、

【四】侍御師。醫師、左右に侍御す、因つて以て官に名づく。侍醫なり。

【五】王顯。御史中尉の王顯に非ざるなり。此れ又一の王顯なり。

【六】五代史の志に曰はく、是の年、太常を以て太常卿と爲し、宗正卿を加へ置き、大司農を以て司農卿と爲し、是を春卿と爲す。太府卿を加へ置き、少府を以て少府卿と爲し、太僕卿を加へ置き、是を夏卿と爲す。衞尉を以て衞尉卿と爲し、廷尉を廷尉卿と爲し、將作大匠を大匠卿と爲し、是を秋卿と爲す。光祿勳を以て光祿卿と爲し、大鴻臚を鴻臚卿と爲し、都水使者を太舟卿と爲し、是を冬卿と爲す。凡て十二卿、皆、丞及び功曹主簿を置くと。

【七】梁の制、上宮・東宮には直閤を置き、王公は防閤を置く。

【八】蠻、依阻する所無し、故に敢て寇を爲さず。

【九】魏、樂を議するに因り、併せて權量を定むるを議す。

【一〇】喧・競。喧譁爭競する也。

【一一】肇を以て秦の趙高に比するなり。

【一二】推案。取調べ吟味すること。

【一三】二弟。淸河王懌・廣平王懷。

【一四】信都。魏の冀州の刺史は信都に治す。

之を殺す。(一五)在北の州鎮、皆、魏朝に變有るを疑ふ。定州の刺史安樂王詮、具に狀を以て之に告ぐ。州鎮乃ち安んず。乙丑、魏、尚書李平を以て都督北討諸軍と爲し、冀州の事を行ひ、以て愉を討たしむ。平は崇の從父弟なり。

丁卯、魏・大赦し、永平と改元す。

魏の京兆王愉、使を遣はして、平原の太守清河の房亮に說かしむ。亮、其の使を斬る。愉、其の將張靈和を遣はして之を擊たしむ。亮の敗る所と爲る。李平の軍、(一六)經縣に至る。諸軍大に集まる。夜、(一七)蠻兵數千有り、平の營を斫る。矢、平の帳に及ぶ。平、堅く臥して・動かず。俄にして自ら定まる。九月辛巳朔、愉、城南の草橋に逆へ戰ふ。平・奮擊し、大に之を破る。愉、身を脫して走り、城に入る。平進みて之を圍む。壬辰、安樂王詮、愉の兵を城北に破る。

癸巳、皇子績を立てて南康王と爲す。

魏の高后の立つや、彭城の武宣王勰固く諫む。魏主、聽かず。高肇、是に由りて之を怨み、數〻勰を魏主に譖す。魏主、之を信せず。勰、其の舅潘僧固を薦めて長樂の太守と爲す。京兆王愉が反するや、(一八)僧固を脅して之と同せしむ。肇因つて勰を誣ふ、『北は愉と通じ、南は蠻賊を招く』と。彭城の郎中令魏偃・前の防閤高祖珍、肇の提擢せんことを希ひ、其の事を構成す。肇、侍中元暉をして以て聞せしむ。暉、從はず。又、左衞元珍をして之を言はしむ。帝、以て暉に問ふ。暉、勰が然らざるを明す。又、以て肇に問ふ。肇、魏偃・高祖珍を引きて證と爲す。帝乃ち之を信ず。戊戌、勰及び高陽王雍・廣陽王嘉・清河王懌・廣平王懷・高肇を召し、俱に入りて宴す。勰の妃李氏方に產す。固辭して・赴かず。中使相繼ぎて之を召す。已むを得ずして、妃と訣し、而して車に登る。東掖門に入り、小橋を度るに、牛肯て進まず。之を擊つこと良久しくして、更に使者有り、勰が來ること遲きを責む。乃ち牛を去り、人挽きて進む。禁中に宴し、夜に至りて皆醉ふ。各〻別所に就きて(一九)消息す。俄にして元珍、武士を引き、毒酒を齎して至る。勰曰はく、『吾、罪無し。願はくは一たび至尊に見えんことを。死すとも恨無し』と。元珍曰はく、『至尊、何ぞ復た見ゆ可けん』と。勰曰はく、『至尊は聖明なり。應に事無きに我を殺すべからず。乞ふ告ぐる者と一たび曲直を對せん』と。武士、刀鐶を以て之を築く。勰・大言して曰はく、『寃なるかな皇天、忠にして殺さる』と。武士又之を築く。勰乃ち毒酒を飲む。武士就きて之を殺す。晨に向なんとして褥を以て尸を裹み、載せて其の第に歸して云はく、『王、醉に因りて薨ぜり』と。李氏・號哭し、大言して曰はく、『高肇、理を枉げて人を殺せり。天道、靈有り。汝安んぞ良死を得ん』と。魏主、哀を東堂に擧げ、贈官葬禮、皆、優厚にして等を加ふ。在朝の貴賤、氣を喪はざるもの莫

【一五】在北の州鎮。冀州の北に在る州鎮をいふ。

【一六】經縣。漢、晉、安平國に屬す。魏收志に、鉅鹿郡に屬す。今の直隸省大名道廣宗縣の東二十里に在り。

【一七】蠻兵。蓋し亦李平の統ぶる所、內變を爲さんと欲す、而して平動かず、故に自ら定まる。

【一八】冀州と長樂郡とは同じく信都に治す。故に僧固、愉に脅さる。

【一九】消息。休息する也。

し。行路の士女、皆、流涕して曰はく、(二〇)『高令公、賢王を枉殺せり』と。是に由りて、中外、之を惡むこと益〻甚だし。京兆王愉、信都を守る能はず。癸卯、門を燒き、李氏及び其の四子を攜へ、百餘騎を從へて突走す。李平、信都に入り、愉が置く所の冀州の牧韋超等を斬り、統軍叔孫頭を遣はし、追うて愉を執へ、信都に置き、以て聞す。羣臣、愉を誅せんと請ふ。魏主、許さず。命じて洛陽に鎖送し、(二一)申ぬるに家人の訓を以てせしむ。行きて野王に至る。高肇、密に人をして之を殺さしむ。諸子、洛に至る。魏主、皆、之を赦す。魏主將に李氏を屠らんとす。中書令崔光諫めて曰はく、『李氏方に姙めり。刑、胎を刳くに至るは、乃ち桀紂の爲す所にして、酷にして法に非ず。請ふ產し畢るを俟ち、然る後刑を行はん』と。之に從ふ。李平、愉の餘黨千餘人を捕へ、將に盡く之を殺さんとす。錄事參軍高顯曰はく、『此れ皆(二二)脅從なり。前に既に之に原免を許せり。宜しく爲めに表陳すべし』と。平、之に從ふ。皆、死を免るるを得たり。顯は(二三)祐の孫なり。濟州の刺史高植、州軍を帥ゐて愉を擊ち、功有り、封に當る。植、受けずして曰はく、『家、重恩を荷ひ、國の爲めに(二四)致效するは、乃ち其の常節なり。何ぞ敢て賞を求めん』と。植は肇の子なり。李平に散騎常侍を加ふ。高肇及び中尉王顯、素より平を惡む。顯、平を彈ず、『冀州に在りて隱に(二五)官口を截つ』と。肇・奏して(二六)平の名を除く。初め顯祖の世に、柔然の萬餘口、魏に降る。之を(二七)高平・薄骨律の二鎭に置く。太和の末に及び、叛き走りて略ぼ盡き、唯だ千餘戶在り。太中大夫王通、徙して淮北に置き・以て其の叛を絕たんと請ふ。太僕卿楊椿に詔し、節を持し、往きて之を徙さしむ。椿・上言す、『先朝、之を邊徼に處くは、殊俗を招附し・且つ華戎を別異する所以なり。今、新附の戶甚だ衆し。若し舊き者徙されなば、新しき者必ず自ら安んぜざらん。是れ之を驅りて・叛かしむるなり。且つ此の屬、毛を衣とし肉を食ひ、冬を樂しみ寒を便とす。南土は濕熱なり。往かば必ず殲盡せん。進みては歸附の心を失ひ、退きては藩衞の益無からん。之を中夏に置かば、或は後患を生ぜん。良策に非ざるなり』と。從はず。遂に濟州に徙し、河に緣りて之を處く。京兆王愉の亂に及び、皆、河に浮びて愉に赴き、所在抄掠すること、椿の言の如し。

庚子、魏の郢州の司馬彭珍等、魏に叛き、潛に梁の兵を引きて義陽に趨く。三關の戍主侯登等、城を以て來り降る。郢州の刺史婁悅、城に嬰りて自ら守る。魏、中山王英を以て南征諸軍事を都督し、步騎三萬を將ゐて、汝南に出で、以て之を救はしむ。

冬十月、魏の懸瓠軍主白早生、豫州の刺史司馬悅を殺し、自ら平北將軍と號し、救を(二八)司州の馬

【一〇】高令公。高肇、尙書令たり、故に稱して令公と爲す。

【一一】愉は魏主の弟なり、故にこれを訓責せんと欲す。

【一二】脅從。おびやかされて服從せしもの。

【一三】高祐は允の從祖弟、文學を以て魏の孝文に事ふ。

【一四】致效。身を致し死を效すを謂ふ。

【一五】官口。此れ叛黨の男女、合はせ沒せられて官口と爲る者を謂ふ。

【一六】名を除く。謁を禁門に通ずるを得ざるなり。

【一七】高平・薄骨律。魏の世祖太延元年、高平鎭を置く。是の後肅宗の正光五年、改めて原州を置く。今の甘肅省涇原道固原縣。又、太延二年、薄骨律鎭を置く。肅宗の孝昌中、改めて靈州を置く。太和十年薄骨律鎭を改めて沃野鎭と爲す。(今の甘肅省寧夏道靈武縣)

【一八】司州・荊州。秀、荊州の刺史を以て諸州を督す。司州は其の統ぶる所なり。

仙琕に求む。時に荊州の刺史安成王秀、都督たり。仙琕、應赴を(二九)籤求す。參佐咸謂ふ、『宜しく臺報を待つべし』と。秀曰はく、(三〇)『彼は我を待ちて以て自ら存す。之を援くること宜しく速かなるべし。敕を待つは(三一)舊なりと雖も、急に應ずるに非ざるなり』と。卽ち兵を遣はして之に赴かしむ。上、亦、仙琕に詔して早生を救はしむ。仙琕進みて(三二)楚王城に頓す。副將齊苟兒を遣はし、兵二千を以て、助けて懸瓠を守らしむ。詔して、早生を以て司州の刺史と爲す。

丙寅、吳興の太守張稷を以て尙書左僕射と爲す。

魏、尙書邢巒を以て豫州の事を行ひ、兵を將ゐて白早生を擊たしむ。魏主、之に問うて曰はく、『卿言へ、早生は走らんか、守らんか、何の時にか平ぐ可き』と。對へて曰はく、『早生は深謀大智有るに非ず。正に・司馬悅が暴虐なるを以て、衆の怒に乘じて亂を作せるなり。民、凶威に迫られ、已むを得ずして之に從ふ。縱使梁の兵、城に入るとも、水路、通ぜず、糧運繼がず、亦禽と成らんのみ。早生、梁の援を得、利欲に溺れ、必ず守りて・走らざらん。若し臨むに王師を以てせば、士民必ず翻然として順に歸せん。今年を出でずして、當に首を京師に傳ふべからん』と。魏主悅ぶ。巒に命じて先づ發せしめ、中山王英をして之に繼がしむ。巒、騎八百を帥ゐ、道を倍し兼行し、五日にして鮑口に至る。丙子、早生、其の大將胡孝智を遣はし、兵七千を將ゐて、城を離るること二百里にして逆へ

【二九】籤前に應赴を求むるなり。
【三〇】彼。白早生を謂ふ。
【三一】舊。舊制にては須く臺敕を待つべきを謂ふ。
【三二】楚王城。卽ち楚王戍。

戰はしむ。巒・奮擊し、大に之を破る。勝に乘じて長驅し、懸瓠に至る。早生、城を出でて逆へ戰ふ。又之を破る。因つて汝水を渡り、其の城を圍む。詔して、巒に都督南討諸軍事を加ふ。丁丑、魏の鎭東參軍成景儁、宿豫の戍主嚴仲賢を殺し、城を以て來り降る。時に魏の郢・豫・二州、懸瓠より以南、安陸に至るまで、諸城皆沒す。唯だ義陽の一城のみ、魏の爲めに堅く守る。蠻帥田益宗、羣蠻を帥ゐて以て魏に附く。魏、以て(三三)東豫州の刺史と爲す。上、車騎大將軍・開府儀同三司・五千戶の郡公を以て之を招く。益宗、從はず。十一月、庚寅、魏、安東將軍楊椿を遣はし、兵四萬を將ゐて、宿豫を攻めしむ。魏主、邢巒屢〻捷てるを聞き、中山王英に命じて義陽に趣かしむ。英、衆少きを以て、累表して兵を請ふ。許さず。英、懸瓠に至り、輒ち巒と共に之を攻む。十二月己未、齊苟兒等、門を開きて出で降る。白早生及び其の黨數十人を斬る。英乃ち兵を引き、前みて義陽に趨く。寧朔將軍張道凝、先に楚王城に屯す。癸亥、城を棄てて走る。英・追擊し、之を斬る。魏の義陽の太守狄道の辛祥、婁悅と、共に義陽を守る。將軍胡武城・陶平虜、之を攻む。祥夜出でて其の營を襲ひ、平虜を擒にし、武城を斬る。是に由りて、州境、全きを獲たり。功を論じ當に賞せらるべし。婁悅、功其の下に出づるを恥ぢ、之を執政に問す。賞、遂に・行はれず。

壬申、魏の東荊州・表す、『桓暉の弟叔興、前後、太陽蠻を招撫し、歸附する者萬餘戶。請ふ郡十

【三三】魏の東豫州は新息の廣陵城に治し、汝南・東新蔡・弋陽・長陵郡を領す。

六・縣五十を置かん』と。前の鎮東府の長史酈道元に詔して、案行して之を置かしむ。道元は(三四)範の子なり。

是の歳、柔然の佗汗可汗、復た紇奚勿六跋を遣はし、貂裘を魏に獻ず。魏主、受けず、之に報ずること(三五)前の如し。初め高車侯倍窮奇、(三六)嚈噠の殺す所と爲り、其の子彌俄突を執へて去らる。其の衆分散し、或は魏に犇り、或は柔然に犇る。魏主、羽林監河南の孟威を遣はし、降戶を撫納し、高平鎮に置かしむ。高車王阿伏至羅、殘暴なり。國人、之を殺し、其の宗人跋利延を立つ。嚈噠、彌俄突を奉じ、以て高車を伐つ。國人、跋利延を殺し、彌俄突を迎へて之を立つ。彌俄突、佗汗可汗と、蒲類海に戰ふ。勝たず。西に走ること三百餘里、佗汗、伊吾の北山に軍す。會〻高昌王麴嘉、內徙せんことを魏に求む。時に孟威、龍驤將軍たり。魏主、威を遣はし、涼州の兵三千人を發して之を迎へしむ。伊吾に至る。佗汗、威の軍を見、怖れて遁れ去る。彌俄突、其の離駭するを聞き、追擊し、大に之を破り、佗汗を蒲類海の北に殺し、其の髮を割きて威に送り、且つ使を遣はして魏に入貢す。魏主、東城の子于亮を使はして之に報じ、賜遺甚だ厚し。高昌王嘉、期を失ひて・至らず。威、兵を引きて還る。佗汗可汗の子醜奴立つ。(三七)豆羅伏跋豆伐可汗と號し、建昌と改元す。

宋・齊の舊儀、天を祀るに、皆、衮冕を服す。兼著作郎高陽の許懋、(三八)大裘を造らんと請ふ。之に從ふ。上將に太廟に事有らんとす。詔して以はく、『齋日には樂せず。今より、輿駕始めて出でば、鼓吹從つて・作さじ。(三九)宮に還らば常儀の如くせん』と。

八年、春正月辛巳、上、南郊に祀る。大赦す。時に、會稽に封じ(一)國山に禪せんと請ふ者有り。上、諸儒に命じて、封禪の儀を草せしめ、之を行はんと欲す。許懋・建議して以爲はく、『舜、岱宗に(二)柴す、是れ巡狩と爲す。而るに(三)鄭、孝經鉤命決を引きて云はく、「太山に封じ、績を考して柴燎し、梁甫に禪し、石に刻し號を紀す」と。此れ緯書の曲說にして、正經の通義に非ざるなり。(四)舜、五載に一たび巡狩し、春夏秋冬、四嶽を周徧す。若し封禪と爲さば、何ぞ其れ數〻なるや。又、管夷吾の說く所の七十二君の如きは、燧人の前は、世質に民淳なり。安んぞ泥金檢玉を得ん。繩を結びて治まる、安んぞ鐫文告成を得ん。夷吾又云はく、「唯だ受命の君にして、然る後、封禪するを

【三四】酈範は一百三十二卷宋の明帝泰始三年に見ゆ。

【三五】前事は前卷五年に見ゆ。

【三六】嚈噠。國の名、亦、挹怛に作る。大月氏の裔、又、匈奴の別種なりと曰ふ。巴達克山に居り、更に興都庫什山脈を踰えて印度を領有す。西曆六世紀の初、最も盛大なり。其の王都拔底城は、蓋し王舍城なり。

【三七】豆羅伏跋豆伐は、中國の言にて彩制の意。

【三八】大裘。周禮天官の司裘、大裘を爲り以て王が天を祀るの服を供するを掌どる。大裘は黑羔裘服なり、以て天を祀る。

【三九】宮に還るときは鼓吹振作す。

【一】國山。今の江蘇省蘇常道宜興縣の西南に在り。

【二】柴。柴を燔きて天を祭る也。

【三】鄭。鄭玄なり。

【四】書經堯典(今の舜典)に、歲の二月、東に巡狩し、岱宗に至り、柴し、山川を望秩す。五月、南に巡狩し、南岳に至る。八月、西に巡狩し、西岳に至る。十一月、北に巡狩し、北岳に至る。とあり。

得」と。周の成王は受命の君に非ず、云何ぞ太山に封じ社首に禪するを得ん。神農は卽ち炎帝なり。而るに夷吾分ちて二人と爲せり。妄も亦甚だし。若し聖主ならば封禪するを須ひず、若し凡主ならば應に封禪すべからず。蓋し(五)齊の桓公、此の事を行はんと欲す。夷吾、其の不可なるを知る、故に怪物を擧げて以て之を屈せしなり。秦の始皇、嘗て太山に封じ、孫皓、嘗て兼司空董朝を遣はし、(六)陽羨に至りて國山に封禪せるは、皆、盛德の事に非ず、法と爲すに足らず。然れば則ち封禪の禮は、皆、道聽の說く所にして、其の本文を失ふ。主が名を上に好み・而して臣が旨に下に阿るに由るなり。古者天を祀り地を祭るには、禮に常數有り。誠敬の道、此に盡して備はれり。封禪に至りては、敢て聞する所に非ず』と。上、之を嘉納す。因つて懋の議を推演し、制旨と稱し、以て請者に答ふ。是に由りて遂に止む。

魏の中山王英、義陽に至り、將に三關を取らんとす。先づ之を策りて曰はく、『三關相須つこと、左右の手の如し。若し一關に克たば、兩關は攻むるを待たずして破れん。難きを攻むるは易きを攻むるに如かず。宜しく先づ(七)東關を攻むべし』と。又、其の・力を東に幷せんことを恐れ、乃ち長史李華をして(八)五統を帥ゐて(九)西關に向はしめ、以て其の兵勢を分ち、自ら諸軍を督して東關に向ふ。是より先、馬仙琕、雲騎將軍馬廣をして、長薄に屯せしめ、軍主胡文超をして

【五】齊の桓公云云。齊の桓公既に霸たり、諸侯を葵丘に會して封禪せんと欲す、管仲、其の不可を知り、これを止む。事は史記封禪書に詳かなり。
【六】陽羨。義興（今の江蘇省蘇常道宜興縣）の舊名。
【七】東關。武陽關。
【八】五統。五統軍の衆。
【九】西關。平靖關。

松峴に屯せしむ。丙申、英、長薄に至る。戊戌、長薄潰ゆ。馬廣遁れて武陽に入る。英進みて之を圍む。上、冠軍將軍彭甕生・驃騎將軍徐元季を遣はし、兵を將ゐて武陽を援けしむ。英故らに之を縱して城に入らしめ、曰はく、『吾、此の城を觀るに、形勢、取り易し』と。甕生等既に入る。英、兵を促して之を攻む。六日にして拔き、三將及び士卒七千餘人を虜にす。進みて(一〇)廣峴を攻む。太子の左衞率李元履、城を棄てて走る。又、西關を攻む。馬仙琕も亦城を棄てて走る。上、(一一)南郡の太守韋叡をして兵を將ゐて仙琕を救はしむ。叡、安陸に至り、城を增築すること二丈餘、更に大塹を開き、高樓を起す。衆頗る・其の怯を譏る。叡曰はく、『然らず。將と爲りては、當に怯なる時有るべし。專ら勇なる可からず』と。中山王英、急に馬仙琕を追ひ、將に邵陽の恥を復せんとす。叡至るを聞き、乃ち退く。上、亦、詔有りて兵を罷めしむ。初め魏主、中書舍人鮦陽の董紹を遣はし、叛城を慰勞せしむ。白早生、襲うて之を囚へ、建康に送る。魏主既に懸瓠に克ち、齊苟兒等に命じ、四將の中、二人を分遣し、揚州に敕して(一二)移を爲さしめ、以て紹及び司馬悅の首に易へんとす。移書未だ至らず。領軍將軍呂僧珍、紹と言ひ、其の文義を愛し、上に言ふ。上、主書霍靈超を遣はして紹に謂つて曰はしむ、『今、卿の還るを聽し、卿をして兩家の好を通ぜしむ。彼此民を息めば、豈に善からずや』と。因つて召し見て衣物を賜ふ。(一三)舍人周捨をして之を慰勞せしめ、

【一〇】廣峴。黃峴關。
【一一】邵陽の捷、叡、左衞將軍に遷り、尋ぎて安西の長史南郡の太守と爲る。
【一二】移。移文なり。
【一三】舍人。中書通事舍人なり。

且つ曰はく、『戰爭すること多年、民物塗炭す。吾、是を以て先の言に恥ぢず、魏朝と好を通せん。比亦、書有り、全く・報ずる者無し。卿宜しく備に此の意を申ぶべし。今、傳を遣はし、霍靈秀に詔して、卿を送りて國に至り、嘉問有るを遲たしむ』と。又、紹に謂つて曰はく、『卿、死せざるを得る所以を知るや不や。今者卿を獲しは、乃ち天意なり。夫れ君を立つるは、以て民の爲めにするなり。凡そ民の上に在るもの、豈に以て此を思はざる可けんや。若し好を通せんと欲せば、今、宿豫を以て彼に還さん。彼當に漢中を以て歸さるるべし』と。紹、魏に還りて之を言ふ。魏主、從はず。

三月、魏の荆州の刺史元志、兵七萬を將ゐて、(四)潺溝に寇し、羣蠻を驅迫す。羣蠻悉く漢水を渡りて來り降る。雍州の刺史吳平侯昺、之を納る。(五)綱紀皆以はく、『蠻累に邊患を爲す。此に因りて之を除くに如かず』と。昺曰はく、『窮し來りて我に歸す。之を誅するは(六)不祥なり。且つ魏人來り侵すに、吾、蠻を得て以て屏蔽と爲すは、亦善からずや』と。乃ち樊城を開きて其の降を受け、司馬朱思遠等に命じて、志を潺溝に擊たしむ。大に之を破り、斬首萬餘級。志は(七)齊の孫なり。

夏四月戊申、臨川王宏を以て司空と爲し、車騎將軍王茂に開府儀同三司を加ふ。丁卯、魏の楚王城主李國興、城を以て降る。

【四】潺溝。漢の北に在り。其の水、南して漢に注ぐ。

【五】綱紀。州郡の上佐を綱紀と謂ふ。其の州郡の事を綱紀するを言ふなり。

【六】不祥。不吉なり。

【七】拓拔齊は一百二十卷宋の文帝元嘉四年に見ゆ。

秋七月癸巳、巴陵王蕭寶義・卒す。

九月辛巳、魏、故の(八)北海王詳の子顥を封じて北海王と爲す。

魏の公孫崇、樂尺を造り、(九)十二黍を以て寸と爲す。劉芳、之を非とし、更めて十黍を以て寸と爲す。尚書令高肇等・奏す、『崇が造る所の八音の器及び度量、皆、經傳と同じからず。其の然る所以を詰れば、云はく、「必ず經文に依れば、聲則ち協はず」と。請ふ更に芳をして周禮に依りて樂器を造らしめ、成るを俟ちて集議し、竝に呈し、其の善き者に從はん』と。詔して之に從ふ。

冬十月癸丑、魏、司空廣陽王嘉を以て司徒と爲す。

十一月己丑、魏主、式乾殿に於て、諸僧及び朝臣の爲めに(一〇)維摩詰經を講ず。時に魏主專ら釋氏を尚び、經籍を事とせず。中書侍郎河東の裴延儁・上疏して以爲はく、『漢の光武・魏の武帝、戎馬の間に在りと雖も、未だ嘗て書を廢せざりき。先帝、都を遷し師を行るにも、手に卷を釋てざりき。良に・學問は益多くして・暫くも輟む可からざるを以ての故なり。陛下、法座に升り、親ら大覺を講じ、凡そ瞻聽に在るもの、塵蔽俱に開く。然れども五經は世を治むるの模楷、務に應ずるの先とする所なり。伏して願はくは、經書互に覽、孔釋兼ね存せば、則ち(一一)內外俱に周く、(一二)眞俗斯に暢

【八】詳が罪を得て死する事一百四十五卷天監元年に見ゆ。

【九】黍。樂を作るには先づ律を定む。律は黃鍾に起り、黃鍾の長さは黍を以て其の度を審かにす。黃鍾の龠は、黍を以て其の容を審かにす。

【一〇】維摩詰經。佛經の名。

【一一】內外。內は佛敎。外は儒敎。

【一二】眞俗。眞は出世間、俗は世間の事をいふ。

びん』と。時に佛教、洛陽に盛に、沙門の外、西域より來る者、三千餘人。魏主、別に之が爲めに永明寺千餘間を立て、以て之を處く。處士南陽の馮亮、巧思有り。魏主、河南の尹甄琛・沙門統僧暹と與に、嵩山の形勝の地を擇びて、閑居寺を立てしめ、巖壑土木の美を極む。是に由りて遠近、風を承け、佛に事へざるは無し。延昌に及ぶ比ほひ、州郡共に一萬三千餘寺有り。

是の歳、魏の宗正卿元樹・來犇す。爵鄴王を賜ふ。樹は〔三三〕翼の弟なり。時に翼、青冀二州の刺史と爲り、〔三四〕郁洲に鎮す。之を久しくして、翼、州を擧げて魏に降らんと謀る。事泄れて死す。

九年、春正月乙亥、尚書令沈約を以て左光祿大夫と爲し、右光祿大夫王瑩を尚書令と爲す。約、文學、一時に高けれども、而も榮利を貪冒す。事を用ふること十餘年、政の得失は、唯唯たるのみ。自ら・久しく〔一〕端揆に居るを以て、台司に志有り。論者も亦以て宜しと爲す。而れども上、終に・用ひず。乃ち外に出でんこと求む。又、許さず。徐勉、之が爲めに〔二〕三司之儀を請ふ。上、許さず。

庚寅、新に緣淮塘を作り、北岸は石頭に起り、東冶に迄り、南岸は後渚の籬門に起り、三橋に迄る。

〔三三〕元翼が來り降りしこと、前卷五年に見ゆ。
〔三四〕郁洲。胸山の東北海中に大洲有り、これを郁洲と謂ふ。即ち鬱洲なり。
〔一〕端揆。宰相を謂ふ。
〔二〕梁の官制に、開府同三司之儀有り、開府儀同三司の下に在り。

三月丙戌、魏の皇子詡生る。〔三〕詡の母胡充華は〔四〕臨涇の人なり。父國珍、〔五〕武始伯を襲ぐ。充華初めて選ばれて掖庭に入るや、同列、〔六〕故事を以て之を祝す、『願はくは諸王・公主を生み、太子を生む勿かれ』と。充華曰はく、『妾の志は諸人に異なり。奈何ぞ一身の死を畏れて、國家をして嗣無からしめんや』と。娠める有るに及び、同列勸めて之を去らしむ。充華、可かず。私に自ら誓つて曰はく、『若し幸にして男を生まば、次第當に長たるべし。男生れて身死するは、憾みざる所なり』と。既にして詡を生む。是より先、魏主頻に皇子を喪ふ。年漸く長じ、深く愼護を加へ、良家の・子に宜しき者を擇び、以て乳保と爲し、別宮に養ふ。皇后・充華、皆、近づくを得ず。

己丑、上、國子學に幸し、親ら〔七〕講肄に臨む。乙未、詔して、皇太子以下及び王侯の子の、年、師に從ふ可き者は、皆、學に入らしむ。

舊制、尚書五都令史は、皆、寒流を用ふ。夏四月丁巳、詔して曰はく、『尚書五都は、職、政要に參し、但だ衆局を總領するのみに非ず、亦乃ち〔八〕軌を二丞に方ぶ。〔九〕革めて士流を用ひ・此の羣目を秉る可し』と。是に於て都令史を以て奉朝請に視へ、太學博士劉納を用ひて殿中都を兼ねしめ、司空法曹參軍劉顯をして吏部都を兼ねしめ、太學博士孔虔孫をして金部都を兼ねしめ、司空法曹參軍蕭軌をして左右戶都を兼ね

〔三〕充華。女官の名。
〔四〕臨涇。故城は今の甘肅省涇原道鎭原縣の西に在り。
〔五〕武始。今の甘肅省蘭山道狄道縣の地。
〔六〕故事を以て。先例に從つての意。
〔七〕講肄。講習なり。
〔八〕軌を方ぶとは駕を竝ぶるを謂ふ。二丞は左右丞を謂ふ。
〔九〕士流を用ひて尚書の五都令史に任すべしとの意。

しめ、(一〇)宣毅墨曹參軍王顒をして中兵都を兼ねしむ。竝に、才地兼ね美なるを以て、首として其の選に膺る。

六月、宣城の郡吏吳承伯、妖術を挾みて衆を聚め、癸丑、郡を攻め、太守朱僧勇を殺し、轉じて旁縣を屠る。閏月己丑、承伯、山を踰え、吳興に奄至す。東土の人素より兵に習はず。吏民恇擾して奔り散ず。或るひと太守蔡撙に之を避けんことを勸む。撙、可かず。勇敢を募り、門を閉ぢて拒守す。承伯、銳を盡して之を攻む。撙、衆を帥ゐて出で戰ひ、大に之を破り、陳に臨みて承伯を斬る。撙は(一一)興宗の子なり。承伯の餘黨、新安に入り、黟・歙の諸縣を攻め陷る。太守謝覽、兵を遣はして之を拒ぐ。勝たず。逃れて會稽に奔る。臺軍、賊を討ちて之を平ぐ。覽は(一二)瀹の子なり。

冬十月、魏の中山の獻武王英・卒す。

上、位に卽くの三年、詔して、新曆を定めしむ。員外散騎侍郎祖暅・奏す、『其の父冲之、古法を考へて正曆を爲れり。改む可からず』と。八年に至り、太史に詔して、(一三)新舊二曆を課せしむ。新曆は密に、舊曆は疎なり。是の歲、始めて冲之の大明曆を行ふ。

魏の劉芳・奏す、『造る所の樂器及び文武を敎ふる二舞・登歌・鼓吹の曲等、已に成れり。乞ふ前敕の如く、公卿・羣儒を集めて議定せんことを。舊樂と與に參呈す。若し臣等が造る所、形制、古に合ひ、擊拊、節に會はば、請ふ來年の元會に於て之を用ひん』と。詔す、『舞は新を用ふ可し。餘は且く舊に仍らん』と。

【一〇】宣毅墨曹參軍。宣毅將軍府の墨曹參軍なり。

【一一】蔡興宗は宋の大明泰始の間に仕ふ、方正を以て自ら持す。

【一二】謝瀹は宋齊の間に仕ふ、要近に位し、清望有り。

【一三】新曆は祖冲之の曆なり。仲之が曆を上ること、一百二十九卷宋の孝武帝大明六年に見ゆ。舊曆は何承天の曆なり。

十年、春正月辛丑、上、南郊に祀る。大赦す。

尙書左僕射張稷、自ら謂へらく(一)功大にして賞薄しと。嘗て宴に樂壽殿に侍し、酒酣にして、怨望、辭色に形はる。上曰はく、『卿の(二)兄は郡守を殺し、弟は其の君を殺せり。何の名稱か有らん』と。稷曰はく、『臣は乃ち名稱無し。陛下に至りては、勳無しと言ふを得ず。東昏暴虐にして、義師亦來りて之を伐てり。豈に臣に在るのみならんや』と。上、其の(三)須を捋でて曰はく、『張公、人を畏る可し』と。稷既に懼れ且つ恨む。乃ち外に出でんことを求む。癸卯、稷を以て靑冀二州の刺史と爲す。(四)王珍國も亦怨望す。梁秦二州の刺史を罷めて還り、酒後、坐に於て啓して云はく、『臣近ごろ梁山に入れり』と。便ち哭す。上、大に驚きて曰はく、『卿若し東昏を哭するならば則ち已に晚し。若し我を哭するならば、我は復た未だ死せず』と。珍國起ちて拜謝し、竟に・答へず。坐卽ち散ず。此に因りて疎退す。之を久しくして、都

【一】功。張稷、齊の東昏侯を殺すを以て功と爲す。

【二】兄郡守を殺す。稷の兄瓊、劉遐を殺す事、一百三十四卷宋の順帝昇明元年に見ゆ。

【三】須。鬚に通ず。

【四】王珍國、稷と同じく東昏侯を殺し、其の怨望の心も、稷と同じ。

官尚書に除す。

丁巳、魏の汾州の山胡劉龍駒、衆を聚めて反し、夏州を侵擾す。諫議大夫薛和に詔して、㊁東秦・汾・華・夏・四州の衆を發し、以て之を討たしむ。

辛酉、上、明堂に祀る。

三月、琅邪の民王萬壽、東莞・琅邪二郡の太守劉晰を殺し、朐山に據り、魏の軍を召す。

壬戌、魏の廣陽の懿烈王嘉・卒す。

魏の徐州の刺史盧昶、㊅鄒城の戍副張天惠・琅邪の戍主傅文驥を遣はし、相繼ぎて朐山に赴かしむ。青冀二州の刺史張稷、兵を遣はして之を拒ぐ。勝たず。夏四月、文驥等、朐山に據る。振遠將軍馬仙琕に詔して之を擊たしむ。魏、又、假安南將軍蕭寶寅・假平東將軍天水の趙遐を遣はし、兵を將ゐて朐山に據り、盧昶の節度を受けしむ。

甲戌、魏の薛和、劉龍駒を破り、悉く其の黨を平げ、表して㊆東夏州を置く。

五月丙辰、魏、天文學を禁ず。

國子祭酒張充を以て尚書左僕射と爲す。充は㊇緒の子なり。

【五】魏の高祖太和十一年、秦州を分ちて華州を置き、華陰（今の陝西省關中道華陰縣）に治し、華山・登城・白水郡を領す。又（夏州を置き、統萬（今の陝西省榆林道横山縣の西）に治し、化政・闡熙・金明・代の各郡を領す。

【六】鄒城。今の山東省濟寧道鄒城縣。

【七】東夏州。偏城・朔方・定陽・上郡を領す。今の陝西省榆林道膚施縣の東に治す。

【八】張緒は侑の兄の子、善く名理を談ず。

馬仙琕、朐山を圍む。張稷、權に六里に頓し、以て饋運を督す。上數〻兵を發して之を助く。秋、魏の盧昶・上表し、兵六千・米十萬石を益さんと請ふ。魏主、兵四千を以て之に給す。冬十一月己亥、魏主、揚州の刺史李崇等に詔して、兵を壽陽に治め、以て朐山の勢を分たしむ。盧昶は本儒生にして、軍旅に習はず。朐山の城中、糧穫俱に竭き、傅文驥、城を以て降る。十二月庚辰、昶、兵を引きて先づ遁る。諸軍相繼ぎて皆潰ゆ。會〻大に雪ふり、軍士凍死し、及び手足を墮す者、三分の二なり、仙琕・追擊し、大に之を破り、二百里の間、㊈僵尸相屬く。魏の兵免るる者什に一二。其の糧畜器械を收むること、勝げて數ふ可からず。昶、單騎にて走り、其の節傳儀衞を棄てて俱に盡く。鄒城に至り、趙遐の節を借り、以て軍威を爲す。魏主、黃門侍郎甄琛に命じて、㊉馹を馳せ昶を鎖し、其の敗狀を窮めしむ。及び趙遐皆官を免ぜらる。唯だ蕭寶寅のみ、軍を全くして歸る。盧昶が朐山に在るや、御史中尉游肇、魏主に言つて曰はく、『朐山は蕞爾として、海濱に僻在し、卑濕にして居り難く、我に於ては急に非ず、賊に於ては利と爲す。利と爲す、故に必ず死を致して以て之を爭ふ。急に非ず、故に已むを得ずして戰ふ。已むを得ざるの衆を以て、必死の師を擊つ。恐らくは歲月を稽延し、費す所甚だ大ならん。假令朐山を得とも、徒らに交爭を致し、終に全守し難からん。所謂㊋無用の田なり。聞く賊屢〻宿豫を以て、

【九】僵尸。たふれたるしかばね。

【一〇】馹。驛傳なり。

【一一】無用の田。左傳に、吳、將に齊を伐たんとす。子胥諫めて曰はく、志を齊に得とも、猶ほ石田を獲るがごとし。これを用ふる所無しと。

朐山に易へんことを求むと。若し必ず此の如くば、此の無用の地を持して、彼の舊有の疆を復し、兵役時に解けん。其の利、大なりと爲す』と。魏主、將に之に從はんとす。會〻昶敗る。肇を侍中に遷す。肇は(三)明根の子なり。馬仙琕、將と爲り、能く士卒と勞逸を同じくし、衣る所は布帛に過ぎず、居る所は幃幕衾屏無く、飲食は(三)厮養の最下の者と同じ。其の邊境に在るや、常に單身潛に敵境に入り、壁壘村落の險要の處を伺ひ知り、攻戰する所多く捷つ。士卒も亦、之が用を爲すを樂しむ。

魏、甄琛を以て河南の尹と爲す。琛・表して曰はく、『國家、代に居るとき、盜竊多きを患ふ。世祖、憤を發し、廣く主司を置き、里宰皆下を以て令長に代り、及び(四)五等の散男にして經略有る者、乃ち之と爲るを得、又、多く吏士を置き、其の羽翼と爲し、崇びて之を重んじ、始めて・禁止するを得たり。今、遷都以來、天下轉た廣く、四遠赴き會し、事、代都に過ぎ、五方雜沓し、寇盜公行す。里正、職輕く任碎に、多くは是れ下材にして、人、苟且を懷ひ、督察する能はず。請ふ武官の八品將軍已下の幹用(五)貞濟なる者を取り、本官(六)俸恤を以て、里尉の任を領し、高き者は(七)六部の尉を領し、中なる者は(八)經途の尉を領し、下き者は里正を領せしめん。爾らずんば、請ふ少しく里尉の品を高くし、下品中の應に遷るべき者を選び、進めて之と爲さん。督責、所有らば、(九)輦轂、清む可からん』と。詔して曰はく、『里正は進みて(一〇)勳品に至る可し。經途は從九品。六部の尉は正九品。諸職中に簡び取り、必ずしも武人ならざれ』と。琛又奏す、『羽林を以て游軍と爲し、諸坊巷に於て、盜賊を司察せしめん』と。是に於て、洛城清靜なり。後常に焉に踵ぐ。

是の歲、梁の境內、(一一)州二十三・郡三百五十・縣千二十二有り。是の後、州名浸く多く、廢置離合、勝げて記す可からず。魏朝も亦然り。

上、九族を敦睦し、朝士を優借し、罪を犯す者有れば、皆法を屈げて之を申ぶ。百姓、罪有れば、則ち之を案ずること法の如くし、其の緣坐は則ち老幼も免れず、一人逃亡すれば、家を擧げて(一二)質作せしむ。民既に窮窘し、姦宄益〻深し。嘗て郊祀に因りて、(一三)秣陵の老人有り、車駕を遮り、言つて曰はく、『陛下、法を爲り、庶民に急に、權貴に緩なり。長久の道に非ず。誠に能く是に反せば、天下幸甚なり』と。上、是に於て、以て之を寬にする有るを思ふ。

【一】 游明根は、魏の太武及び孝文に事へ、耆宿を以て重んぜらる。

【二】 厮養。厮は薪を折る者。養は炊烹する者、又馬を養ふ者。

【四】 五等の散男。爵、五等の男と爲りて、散官に居る者を謂ふ。魏書に曰はく、魏、公侯伯子男に、開國有り、散有り。凡そ散は各〻開國に降ること一品、其の散官に居るを以てこれを散男と謂ふに非ざるなりと。

【五】 貞濟。堅貞にして事を濟すを謂ふ。

【六】 俸恤。魏の官既に俸を給し、又、恤親の祿を給す、故にこれを俸恤と謂ふ。

【七】 六部。魏、洛陽城中を分ちて六部と爲し、六部の尉を置く。

【八】 經途。城中の大途なり。經途九軌あり、經途尉を置き、其の餘處には各〻里正を置く。

【九】 輦轂。京師を謂ふ。

【一〇】 勳品。勳官の初品なり。

【一一】 州二十三。揚・南徐・豫・兗・南兗・北徐・青・冀・江・廣・交・越・荆・巴・郢・司・雍・梁・秦・益・寧・湘・南豫なり。

【一二】 質作。其の家屬を質としてこれを罰作せしむるをいふ。

【一三】 秣陵。今の江蘇省金陵道江寧縣。江南は建康・秣陵を以て赤縣と爲す。

十一年、春正月壬辰、詔す、(一)『今より、逋謫の家、及び罪應に質作すべきものにして、若し年、老小有れば、將送するを停む可し』と。

臨川王宏を以て太尉と爲し、驃騎將軍王茂を司空・尚書令と爲す。

丙辰、魏、車騎大將軍尚書令高肇を以て司徒と爲し、清河王懌を司空と爲し、廣平王懷は號を驃騎大將軍に進め、儀同三司を加ふ。肇、三司に登ると雖も、猶ほ自ら・(二)要任を去るを以て、怏怏として、言色に形はる。見る者、之を嗤ふ。尚書右丞高綽・國子博士封軌、素より方直を以て自ら(三)業とす。肇が司徒と爲るに及び、綽は送迎往來し、軌は竟に肇に詣らず。綽、顧みるに軌を見ず、乃ち遽に歸り、嘆じて曰はく、『吾平生自ら謂へらく、規矩を失はずと。今日の舉措、封生に如かざること遠し』と。綽は(四)允の孫。軌は(五)懿の族孫なり。清河王懌、才學聞望有り、(六)彭城の禍に懲り、宴に侍するに因りて、肇に謂つて曰はく、『天子の兄弟、詎ぞ幾人か有らん、而るに之を翦りて幾ど盡せり。昔、(七)王莽、頭禿にして、渭陽の資に籍り、遂に漢室を簒へり。今、君、身曲れり。亦、恐る終に亂階を成さんことを』と。會、大に旱す。肇、擅に囚徒を錄し、以て衆心を收めんと欲す。懌、魏

【一】胡三省曰はく、謂はゆる庶民に寬なる者、此の如きのみ、而して權貴を繩すに法を以てする能はず。君子、是を以て、梁の政の亂れたるを知るなりと。

【二】要任。尚書令をいふ。

【三】業。事なり。强めてこれを爲す也。

【四】高允は魏の世祖以下四朝に事ふ。

【五】封懿は燕を去りて魏に歸し、疎慢を以て黜けらる。

【六】彭城の禍。彭城王勰が罪無くして殺されしを謂ふ。

【七】王莽が漢の天下を簒ひし事、漢紀に見ゆ。

主に言つて曰はく、『昔、季氏、泰山に(八)旅し、孔子、之を疾めり。誠に、君臣の分は宜しく微を防ぎ漸を杜ぐべく・瀆す可からざるを以てなり。膳を減じ囚を錄するは、乃ち陛下の事なり。今、司徒、之を行ふは、豈に人臣の義ならんや、明君、之を上に失ひ、姦臣、之を下に竊む。禍亂の基、此に於て在り』と。帝、笑つて・應へず。夏四月、魏、尚書と羣司とに詔して、獄訟を鞫理せしめ、饑民をして穀に燕・恒・二州及び六鎮に就かしむ。

乙酉、魏・大赦し、延昌と改元す。

冬十月乙亥、魏、皇子詡を立てて太子と爲す。始めて・其の母を殺さず。

尚書右僕射郭祚を以て太子の少師を領せしむ。祚、嘗て魏主の・東宮に幸するに從ひ、(九)黃瓜を懷にして、以て太子に奉ず。時に應詔左右趙桃弓、深く帝の信任する所と爲る。祚、私に之に事ふ。時人、之を桃弓僕射・黃瓜少師と謂ふ。

十一月乙未、吳郡の太守袁昂を以て尚書右僕射を兼ねしむ。

初め齊の太子の步兵校尉平昌の伏曼容、表して・一代の禮樂を制せんことを求む。世祖・詔して、學士十人を選びて、(一〇)五禮を脩めしめ、丹楊の尹王儉をして之を總べしむ。儉・卒す。事を以て國子祭酒何胤に付す。(一一)胤、東山に還る。齊の明帝、尚書令徐孝嗣に敕して之を掌らしむ。孝嗣・誅せら

【八】旅。祭の名。禮に、諸侯は封內の山川を祭る、季氏これを祭るは、僭なり。季氏、泰山に旅し、孔子、之を疾めること、論語八佾篇に見ゆ。

【九】黃瓜。瓜の屬。

【一〇】五禮。吉禮、凶禮、軍禮、賓禮、嘉禮をいふ。

【一一】何胤、還りて會稽の東山に隱る。

れ、率ね多く散逸す。驃騎將軍何佟之に詔して之を掌らしむ。齊末の兵火を經、僅に在る者有り。帝、位に卽くや、佟之・啓す、(二)『省置の宜を審かにせよ』と。敕して、(三)外詳せしむ。時に尙書以爲へらく、(四)庶務・權輿す。宜しく隆平を俟つべしと。且く禮局を省き、併せて尙書儀曹に還さんと欲す。詔して曰はく、『禮壞れ樂缺くるは、實に宜しく時を以て修定すべし。但だ頃の修撰、其の人を得ず。年を歷れども就らず・名有りて實無き所以なり。此れ旣に經國の先にする所、卽ち撰次す可し』と。是に於て、尙書僕射沈約等・奏す、(五)『請ふ五禮各〻舊學士一人を置き、自ら學古一人を擧げ・相助けて抄撰せしめ、其の中の疑はしき者は、(六)石渠・(七)白虎の故事に依り、制旨を請うて斷決せん』と。乃ち右軍記室明山賓等を以て五禮を分掌せしめ、佟之をして其の事を總べしむ。佟之・卒し、鎭北諮議參軍伏暅を以て之に代らしむ。暅は曼容の子なり。是に至りて、五禮成り、之を列上す。合せて八千一十九條。有司に詔して、遵行せしむ。

己酉、臨川王宏、公事を以て驃騎大將軍に左遷せらる。

是の歲、魏、桓叔興を以て南荊州の刺史と爲し、(八)安昌に治せしめ、東荊州に隸す。

【一】これを上に啓し、禮局を省くべきか置くべきかを審かにすべし、と言ふなり。

【二】外官をして詳議して以て聞せしむるなり。

【三】權輿は始なり。王業の創始せるを言ふ。

【四】舊學士十人、共に五禮を修む。今、五禮を分ちて各〻學士を置かんと請ふ。

【五】石渠の事、二十七卷漢の宣帝甘露三年に見ゆ。

【六】白虎の事、四十六卷章帝建初四年に見ゆ。

【七】安昌。今の湖北省襄陽道棗陽縣の東に在り。

十二年、春正月辛卯、上、南郊に祀る。大赦す。

二月辛酉、兼尙書右僕射袁昂を以て右僕射と爲す。

己卯、魏の高陽王雍、位を太保に進む。

鬱洲、魏の境に迫近し、其の民多く私に魏人と交市す。朐山の亂に、或は陰に魏と通ず。朐山平ぎ、心、自ら安んぜず。青冀二州の刺史張稷、志を得ず、政令寬弛し、僚吏頗る多く浸漁す。庚辰、鬱洲の民徐道角等、夜、州城を襲うて稷を殺し、其の首を送りて魏に降る。魏、前の南兗州の刺史樊魯を遣はし、兵を將ゐて之に赴かしむ。是に於て魏饑ゑ、民餓死する者數萬。侍中游肇、諫めて以爲はく、『朐山は濱海、卑濕にして居り難し。鬱洲、又、海中に在り。之を得るも尤も無用と爲す。其の地、賊に於ては(一)要近にして、此を去ること(二)閑遠なり。閑遠の兵を以て要近の衆を攻むるは、敵す可からざるなり。方今年饑ゑ民困しむ。唯だ宜しく安靜にすべし。而るに復た勞するに軍旅を以てし、費すに饋運を以てせば、臣、其の損を見、未だ其の益を見ず』と。魏主、從はず。復た平西將軍奚康生を遣はして、兵を將ゐて之を逆へしむ。未だ發せず。(三)北兗州の刺史康絢、司馬霍奉伯を遣はし、討ちて之を平ぐ。

【一】要近。要は海道の要を謂ひ、近は南のかた江淮に近きを謂ふ。

【二】閑遠。魏、東南を圖り、其の兵を用ふるは、必ず淮漢の間に於てす。鬱洲は海中に介在し、又、兵衝に非ず、故に閑遠と曰ふ。必要の地に非ず、且つ遙遠なるをいふ。

【三】梁の北兗州は當に淮陰に治せるなるべし。

辛巳、新に太極殿を作る。

上嘗て侍中太子の少傅建昌侯沈約と、各〻栗事を疏す。約、上よりも少きこと三事、出でて人に謂つて曰はく、『此の公は㈣前を護す。不ずんば則ち羞ぢ死せん』と。上、之を聞きて怒り、其の罪を治せんと欲す。徐勉固く諫めて止む。上、㈤張稷に憾有り。從容として約と語り、之に及ぶ。約曰はく、『左僕射、出でて㈥邊州と作る。已往の事は、何ぞ復た論ずるに足らん』と。上、約が稷と㈦昏家にして相爲めにすと以ひ、怒りて曰はく、『卿が言此の如きは、是れ忠臣なりや』と。乃ち輦して內殿に歸る。約懼れ、上の起つを覺えず、猶ほ坐すること初の如し。還るに及びて、未だ牀に至らずして、空に憑り、戶下に㈧頓す。因つて病む。夢に齊の和帝、劒を以て其の舌を斷つ。乃ち道士を呼び、赤章を天に奏し、禪代の事は己より出でざるを稱す。上、主書黃穆之を遣はして疾を視しむ。夕に還り、增損、卽ち啓聞せず。罪を懼れ、乃ち赤章の事を白す。上、大に怒り、中使譴責する者數四。約益〻懼れ、㈨閏月乙丑、卒す。有司謚して文と曰ふ。上曰はく、『情懷盡さざるを隱と曰ふ』と。改めて隱侯と謚す。

【四】帝、文學の士を集めて經史の事を策する每に、羣臣多く短を引き長を推せば帝乃ち悅ぶ。故に約退きて是の言あり。前を護すとは、自ら其の短なる所を護り、人をして己が前に在らしめず、人が己の前に在るを忌むなり。

【五】張稷が怨望せるを以て、故にこれを怨む。

【六】青冀二州の刺史と爲れるを謂ふ。

【七】昏家。婚姻のあひだがら。

【八】頓。踏きて首先づ地に至るを頓と爲す。

【九】閏月。閏三月なり。

夏五月、壽陽久しく雨ふり、大水、城に入り、廬舍皆沒す。魏の揚州の刺史李崇、兵を勒して城上に泊す。水增すこと未だ已まず。乃ち船に乘りて㈩女墻に附く。城、沒せざる者二板。將佐、崇に勸む。『壽陽を棄てて㈪北山に保せよ』と。崇曰はく、『吾、藩岳を守るを忝くし、德薄くして災を致せり。淮南の萬里、吾が身に繫る。一旦、足を動かさば、百姓瓦解し、揚州の地、恐らくは國の物に非ざらん。吾、豈に一身を愛して愧を㈫王尊に取らんや。但だ憐む此の士民、辜無くして同じく死するを。筏を結びて高きに隨ひ、人〻自ら脫るるを規る可し。吾は必ず此の城と俱に沒せん。幸に諸君言ふ勿かれ』と。揚州の治中裴絢、城南の民數千家を帥ゐ、舟を汎べて南に走り、水を高原に避け、謂へらく崇、北に還れりと。因つて自ら㈬豫州の刺史と稱し、別駕鄭祖起等と、任子を送り、來りて降を請ふ。馬仙琕、兵を遣はして之に赴かしむ。崇、絢が叛けるを聞けども、未だ虛實を測らず、㈭國侍郎韓萬興を遣はし、單舸にて之を召さしむ。絢、崇が在るを聞き、悵然として驚恨し、報じて曰はく、『比、大水に因り、顚狽し、衆の推す所と爲れり。今大計已に爾り。勢、追ふ可からず。恐らくは民は公の民に非ず、吏は公の吏に非ざら

【一〇】女墻。城上の短墻。

【一一】壽陽の北山は卽ち八公山なり。

【一二】王尊。漢の王尊、東郡の太守と爲り、河水盛溢し、瓠子金隄を泛浸す。老弱奔走す。尊止まりて隄上に宿す。吏民爭うて叩頭して、去らんと請ふ。尊肯て去らず。水盛に隄壞るるに及び、吏民皆奔走す。唯だ一主簿泣きて尊の旁に在り、立ちて動かず。而して水波稍く却きて回還す。吏民、咸、尊の勇節を壯とす。

【一三】宋より以來、豫州の刺史は壽陽に治す。絢、水に乘じて民を聚め、自ら豫州の刺史と稱し、以て梁の應援を求む。

【一四】崇の僞は陳留公たり、故に國侍郎有り。

ん。願はくは公早く行り、將士を犯す無かれ』と。崇、從弟寧朔將軍神等を遣はし、水軍を將ゐて之を討たしむ。絢、戰敗る。神、追うて其の營を拔く。絢走り、村民の執ふる所と爲り、送られて尉升湖に至る。曰はく、『吾、何の面ありて李公を見んや』と。乃ち水に投じて死す。絢は(一五)叔業の兄の孫なり。鄭祖起等、皆、誅に伏す。崇・上表し、水災を以て、州任を解かんことを求む。魏主、許さず。崇、沈深寬厚にして、方略有り、士衆の心を得たり。壽春に在ること(一六)十年、常に壯士數十人を養ひ、寇來れば、摧破せざるは無し。鄰敵、之を臥虎と謂ふ。上屢〻反間を設け、以て之を疑はしめ、又、崇に車騎大將軍・開府儀同三司・萬戶郡公を授け、諸子を皆縣侯と爲す。而れども魏主素より其の忠篤なるを知り、委信して・疑はず。

六月癸巳、新に太廟を作る。

秋八月戊午、臨川王宏を以て司空と爲す。

魏の(一七)恒・肆・二州、地震ひ山鳴り、年を踰えて・已まず。民の覆壓死傷甚だ衆し。

魏主、東宮に幸し、中書監崔光を以て太子の少傅と爲し、太子に命じて之を拜せしむ。光、辭して・敢て當らず。帝、許さず。太子、南面して再拜す。詹事王顯、啓し請うて太子に從つて拜す。是に於て宮臣皆光を拜す。(光)北面して立ち、敢て答へず。唯だ西面して拜謝して出づ。

【一五】裴叔業が魏に降る事、一百四十三卷齊の東昏侯の永元二年に見ゆ。

【一六】十年。天監六年、魏主、李崇に命じて壽春に鎭せしむ。是の年に至るまで纔に七年のみ。十五年に至りて、乃ち徵せられて左僕射と爲る、適に十年。史、終にこれを言ふ。

【一七】肆州。魏の世祖眞君七年、肆州を置き、新興・秀容・鴈門郡を領し、九原に治す。

十三年、春二月丁亥、上、藉田を耕し、大赦す。宋・齊の藉田は、皆、正月を用ふ。是に至りて、始めて二月を用ひ、及び齋を致して(一)先農を祀る。

魏の東豫州の刺史田益宗、衰老し、諸〻の子孫と與に、聚斂して・厭く無し。部內、之に苦しむ。咸言ふ、『叛かんと欲す』と。魏主、中書舍人劉桃符を遣はし、益宗を慰勞せしむ。桃符還り、益宗の侵擾の狀を啓す。魏主、詔を賜うて曰はく、『桃符聞く、卿が息魯生、(二)淮南に在りて貪暴なりと。爾るを爲すこと已まずんば、卿が誠効を損せん。魯生をして闕に赴かしむ可し。當に任使を加ふべし』と。魯生久しくして未だ至らず。詔して、益宗を徙して鎭東將軍・濟州の刺史と爲す。又、其の・代を受けざらんことを慮り、後將軍李世哲を遣はし、桃符と與に、衆を帥ゐて之を襲はしむ。奄ち(三)廣陵に入る。魯生、其の弟魯賢・超秀と、皆、關南に奔り、梁の兵を招引し、攻めて(四)光城已南の諸戍を取る。上、魯生を以て(五)北司州の刺史と爲し、魯賢を北豫州の刺史と爲し、超秀を定

【一】先農。卽ち炎帝神農氏なり。

【二】淮南。淮水の南を謂ふ。

【三】廣陵。此れ新息の廣陵なり。

【四】光城。宋の文帝元嘉十五年、豫部の蠻民を以て光城等の七縣を立つ。明帝の大明中、光城左郡を立つ。今の河南省汝陽道光山縣。

【五】定州は蒙籠城に治し、弋陽・汝陰・安定・新蔡・北建寧郡を領す、皆、蠻郡なり。北司・北豫は各人の統ぶる所の地に因りて刺史を授くる也。

州の刺史と爲す。三月、魏の李世哲、魯生等を擊ち、之を破り、復た郡戍を置く。益宗を以て洛陽に還らしめ、征南將軍・金紫光祿大夫を授く。益宗・上表し、『桃符の讒する所と爲る』と稱し、及び『魯生等、桃符に逼逐して叛かしめらる。乞ふ、桃符を攝して、臣と虛實を對辯せしめよ』と言ふ。詔して、許さずして曰はく、(六)『既に大宥を經たり。方に更に獄を爲す容からず』と。

秋七月乙亥、皇子綸を立てて邵陵王と爲し、繹を湘東王と爲し、紀を武陵王と爲す。

冬十月庚辰、魏主、驍騎將軍馬義舒を遣はし、柔然を慰諭せしむ。

(七)魏の王足が入寇するや、上、寧州の刺史涪の人李略に命じて之を禦がしめ、事平がば用ひて益州と爲さんことを許す。足退く。上、用ひず。略・怨望し、異謀有り。上、之を殺す。其の兄の子苗、魏に奔る。歩兵校尉泰山の淳于誕、嘗て益州の主簿と爲り、漢中より魏に入る。二人共に魏主に說くに蜀を取るの策を以てす。魏主、之を信ず。辛亥、司徒高肇を以て大將軍・平蜀大都督と爲し、歩騎十五萬を將ゐて、益州に寇せしめ、益州の刺史傅豎眼に命じて(八)巴北に出でしめ、梁州の刺史羊祉をして涪城に出でしめ、安西將軍奚康生をして綿竹に出でしめ、撫軍將軍甄琛をして劒閣に出でしむ。乙卯、中護軍元遙を以て征南將軍都督と爲し、(九)梁楚を鎭遏せしむ。游肇諫めて以爲はく、『今、頻年・水旱し、百姓、宜しく勞役すべからず。(一〇)往昔・開拓せしは、皆、城主が歸款せしに因る。故に征有りて戰無し。今の・計を陳する者、眞僞、分ち難く、或は彼に怨み有り、全く信ず可からず。蜀地は險隘にして、鎭戍、隙無し。豈に虛しく浮說を承けて・大軍を動かすを得んや。擧ぐるに始を愼まずんば、悔ゆとも將た何ぞ及ばん』と。從はず。淳于誕を以て驍騎將軍と爲し、李苗に龍驤將軍を假し、皆、(一一)鄉導統軍を領せしむ。

魏の降人(一二)王足、計を陳し、淮水を堰きて以て壽陽に灌がんことを求む。上、以て然りと爲し、水工陳承伯・材官將軍祖暅をして地形を視しむ。咸謂ふ、『淮內は沙土、漂輕にして堅實ならず。功、就る可からず』と。上、聽かず。徐揚の民を發し、(一三)率二十戶ごとに五丁を取り、以て之を築く。太子の右衞率康絢に都督淮上諸軍事を假し、幷せて(一四)堰作を鍾離に護せしむ。役人及び戰士、合はせて二十萬、南は(一五)浮山に起り、北は巉石に抵り、岸に依りて土を築き、脊を中流に合す。

【六】既に大宥を經たり。已に其の謀叛の罪を宥恕せるを謂ふ。

【七】王足が入寇する事、一百四十六卷五年に見ゆ。

【八】巴北。巴郡以北を謂ふ。巴西郡には、梁、北巴州を置き、閬中縣（今の四川省嘉陵道閬中縣）には、梁、北巴郡を置く。

【九】この梁楚は古の梁楚の大界・汴汝の間を謂ふ。

【一〇】胡三省曰はく、薛安都・常珍奇・沈文秀に因らずんば、魏、淮汝青徐を得ざりしならん。裴叔業に因らずんば、魏、壽陽を得ざりしならん。游肇の言、深く當時の疆事を知る者と謂ふ可しと。

【一一】鄉導統軍。統軍を以て鄉導す、因つて以て官に名づく。

【一二】王足が來奔すること、前卷六年に見ゆ。

【一三】率。民を徵發する割合を謂ふ。

【一四】唐絢、堰作を監護し、而して司を鍾離に置く。

【一五】浮山・巉石。淮水は鍾離縣より、又、東して浮山を逕。浮山は北、巉石山に對す。浮山は今の安徽省淮泗道盱眙縣の西一百二十里に在り。

魏、前の定州の刺史楊津を以て、華州の刺史と爲す。津は椿の弟なり。是より先、官、調絹を受くるに、尺度・特に長く、(一六)任事(一七)因緣し、共に相(一八)進退す。百姓、之に苦しむ。津・令して悉く公尺に依らしむ。其の輸物の尤も善き者には、賜ふに杯酒を以てす。輸する所少しく劣れるも、亦爲めに之を受く。但だ酒無く以て恥を示す。是に於て、人競うて相勸む。官調更に舊日に勝る。

魏の太子尚ほ幼なり。東宮に出入する毎に、左右乳母のみ。宮臣、皆、之を知らず。詹事楊昱・上言す、『乞ふ今より太子を召すには、必ず手敕を降し、臣等をして翼從せしめよ』と。魏主、之に從ふ。宮臣の・直に在る者に命じ、從つて(一九)萬歲門に至らしむ。

魏の御史中尉王顯、治書侍御史陽固に問うて曰はく、『吾、太府卿と作り、府庫充實せり。卿、以て何如と爲す』と。固曰はく、『公、百官の祿・四分の一を收め、州郡の贓贖、悉く京師に輸し、此を以て府に充たす。未だ多と爲すに足らず。且つ(二〇)聚斂の臣有らんよりは、寧ろ盜臣有れ。戒めざる可けんや』と。顯、悅ばず。事に因りて奏して固の官を免ず。

國譯資治通鑑第八終

(一六) 任事。絹を受くるの事に任ずる者を謂ふなり。
(一七) 因緣。因緣して姦を爲すを謂ふ。
(一八) 進退。賂有る者をば進めて長と爲し、賂無き者をば退けて短と爲すを謂ふ。
(一九) 萬歲門。蓋し洛陽の宮城の東門ならん。
(二〇) 聚斂の臣云云。大學に出づ、孟獻子の言。

資治通鑑卷第一百二十八

宋紀十

世祖孝武皇帝上

孝建元年。春。正月。己亥朔。上祀南郊。改元。大赦。○甲辰。以尚書令何尚之爲左光祿大夫。護軍將軍。以左衞將軍顏竣爲吏部尚書。領驍騎將軍。○壬戌。更鑄孝建四銖錢。○乙丑。魏以侍中伊敞爲司空。○丙寅。立皇子子業爲太子。○初江州刺史臧質。自謂人才。足爲一世英雄。太子劭之亂。質潛有異圖。以荆州刺史南郡王義宣。庸闇易制。欲外相推奉。因而覆之。質於義宣爲內兄。既至江陵。卽稱名拜義宣。義宣驚愕問故。質曰。事中宜然。時義宣已奉帝爲主。故其計不行。及至新亭。又拜江夏王義恭曰。天下屯危。禮異常日。劭既誅。義宣與質。功皆第一。由是驕恣。事多專行。凡所求欲。無不必從。義宣在荆州十年。財富兵彊。朝廷所下制度。意有不同。一不遵承。質自建康之江州。舫千餘乘。部伍前後百餘里。帝方自攬威權。而質以少主遇之。政刑慶賞。一不咨稟。擅用溢口鉤圻米。臺符屢加檢詰。漸致猜懼。帝淫義宣諸女。義宣由是恨怒。質乃遣密信。說義宣。以爲負不賞之功。挾震主之威。自古。能全者有幾。今萬物係心於公。聲迹已著。見幾不作。將爲它人所先。若命徐遺寶。魯爽。驅西北精兵。來屯江上。質帥九江樓船。爲公前驅。已爲得天下之半。公以八州之衆。徐進而臨之。雖韓白更生。不能爲建康計矣。且少主失德。聞于道路。沈柳諸將。亦我之故人。誰肯爲少主盡力者。夫不可留者年也。不可失者時也。質常恐溘先朝露。不得展其旅力。爲公掃除。於時悔之何及。義宣腹

心將佐諸議參軍蔡超司馬竺超民等咸有富貴之望欲倚質威名以成其業共勸義宣從其計質女爲義宣子採之婦義宣謂質無復異同遂許之超民夔之子也臧敦時爲黃門侍郎帝使敦至義宣所道經尋陽質更令敦說誘義宣義宣意遂定豫州刺史魯爽有勇力義宣素與之相結義宣密使人報爽及兗州刺史徐遺寶期以今秋同舉兵使者至壽陽爽方飲醉失義宣指卽日舉兵爽弟瑜在建康聞之逃叛爽使其衆戴黃標竊造法服登壇自號建平元年疑長史韋處穆中兵參軍楊元駒治中庾騰之不與己同皆殺之徐遺寶亦勒兵向彭城二月義宣聞爽已反狼狽舉兵魯瑜弟弘爲質府佐帝敕質收之質卽執臺使舉兵義宣與質皆上表言爲左右所讒疾欲誅君側之惡義宣進爽號征北將軍爽於是送所造輿服詣江陵使征北府戶曹板義宣等文曰丞相劉今補天子名義宣車騎臧今補丞相名質平西朱今補車騎名修之皆板到奉行義宣駭愕爽所送法物竝留竟陵不聽進質加魯弘輔國將軍下戍大雷義宣遣諮議參軍劉諶之將萬人就弘召司州刺史魯秀欲使爲諶之後繼秀至江陵見義宣出拊膺曰吾兄誤我乃與癡人作賊今年敗矣義宣兼荊江兗豫四州之力威震遠近帝欲奉乘輿法物迎之竟陵王誕固執不可曰奈何持此坐與人乃止○己卯以領軍將軍柳元景爲撫軍將軍辛卯以左衞將軍王玄謨爲豫州刺史命元景統玄謨等諸將以討義宣癸巳進據梁山洲於兩岸築偃月壘水陸待之義宣自稱都督中外諸軍事命僚佐悉稱名○甲午魏主詣道壇受圖籙○丙申以安北司馬夏侯祖歡爲兗州刺史三月己亥內外戒嚴辛丑以徐州刺史蕭思話爲江州刺史柳元景爲雍州刺史癸卯以太子左衞率龐秀之爲徐州刺史義宣移檄州郡加進位號使同發兵雍州刺史朱修之僞許之而遣使陳誠於帝益州刺史劉秀之斬義宣使者遣中兵參軍韋崧將萬人襲江陵戊申義宣帥衆十萬發江津舳艫數百里以子慆爲輔國將軍與左司馬竺超民留鎭江陵檄朱修之使發兵萬人繼進修之不從義宣知修之貳於己乃以魯秀爲雍州刺史使將萬餘人擊之王玄謨聞秀不來喜曰臧質易與耳冀州刺史垣護之妻徐遺寶之姊也遺寶邀護之同反護之不從發兵擊之遺寶遣兵襲徐州長史明胤於彭城不克胤與夏侯祖歡垣護之共擊遺寶於胡陸遺寶弃衆焚城奔魯爽義宣至尋陽以質爲前鋒而進爽亦引兵直趣歷陽與質水陸俱下殿中將軍沈靈賜將百舸破質前軍於南陵擒軍主徐慶安等質至梁山夾陳兩岸與官軍相拒夏四月戊辰以後將軍劉義綦爲湘州刺史甲申以朱修之爲荊州刺史上遣左軍將軍薛安都龍驤將軍南陽宗越等戍歷陽與魯爽前鋒楊胡興等戰斬之爽不能進留軍大峴使魯瑜屯小峴上復遣鎭軍將軍沈慶之濟江督諸將討爽爽食少引兵稍退自留斷後慶之使薛安都帥輕騎追之丙戌及爽於小峴爽將戰飲酒過醉安都望見爽卽躍馬大呼直往刺之應手而倒左右范雙斬其首爽衆奔散瑜亦爲部下所殺遂進攻壽陽克之徐遺寶奔東海東海人殺之

李延壽論曰凶人之濟其身非世亂莫由焉魯爽以亂世之情而行之於平日其取敗也宜哉

南郡王義宣至鵲頭慶之送爽首示之幷與書曰僕荷任一方而釁生所統近聊帥輕師指往蒭撲軍鋒裁及賊爽授首公情契異常或欲相見及其可識指送相呈爽累世將家驍猛善戰號萬人敵義宣與質聞其死皆駭懼柳元景軍于采石王玄謨以臧質衆盛遣使來求益兵上使元景進屯姑孰太傅義恭與義宣書曰往時仲堪假兵靈寶尋害其族孝伯推誠牢之旋踵而敗臧質少無美行弟所具悉今藉西楚之彊力圖濟其私凶謀若果恐非復池中物也義宣由此疑之五月甲辰義宣至蕪湖質進計曰今以萬人取南州則梁山中絕萬人綴梁山則玄謨必不敢動下官中流鼓棹直趣石頭此上策也義宣將從之劉諶之密言

于義宣曰質求前驅此志難測不如盡銳攻梁山事克然後長驅此萬安之計也義宣乃止冗從僕射胡子反等守梁山西壘會西南風急質遣其將尹周之攻西壘子反方度東岸就玄謨計事聞之馳歸偏將劉季之帥水軍殊死戰求救於玄謨玄謨不遣大司馬參軍崔勳之固爭乃遣勳之與積弩將軍垣詢之救之比至城已陷勳之詢之皆戰死詢之護之之弟也子反等犇還東岸質又遣其將龐法起將數千兵趨南浦欲自後掩玄謨游擊將軍垣護之引水軍與戰破之朱修之斷馬鞍山道據險自守魯秀攻之不克屢爲修之所敗乃還江陵修之引兵躡之或勸修之急追修之曰魯秀驍將也獸窮則攫不可迫也王玄謨使垣護之告急於柳元景曰西城不守唯餘東城萬人賊軍數倍彊弱不敵欲退還姑孰就節下協力當之更議進取元景不許曰賊勢方盛不可先退吾當卷甲赴之護之曰賊謂南州有三萬人而將軍麾下裁十分之一若往造賊壘則虛實露矣王豫州必不可來不如分兵援之元景曰善乃留羸弱自守悉遣精兵助玄謨多張旗幟梁山望之如數萬人皆以爲建康兵悉至衆心乃安質自請攻東城諮議參軍顏樂之說義宣曰質若復克東城則大功盡歸之矣宜遣麾下自行義宣乃遣劉諶之與質俱進甲寅義宣至梁山頓兵西岸質與劉諶之進攻東城玄謨督諸軍大戰薛安都帥突騎先衝其陳之東南陷之斬諶之首劉季之宗越又陷其西北質等兵大敗垣護之燒江中舟艦烟焰覆水延及西岸營壘殆盡諸軍乘勢攻之義宣兵亦潰義宣單舸迸走閉戶而泣荊州人隨之者猶百餘舸質欲見義宣計事而義宣已去質不知所爲亦走其衆皆降散己未解嚴○癸亥以吳興太守劉延孫爲尚書右僕射○六月丙寅魏主如陰山○臧質至尋陽焚燒府舍載妓妾西走使嬖人何文敬領餘兵居前至西陽西陽太守魯方平紿文敬曰詔書唯捕元惡餘無所問不如逃之文敬棄衆亡去質先以妹夫羊冲爲武昌郡質往投之冲已爲郡丞胡庇之所殺質無所歸乃逃于南湖掇蓮實噉之追兵至以荷覆頭自沈於水出其鼻戊辰軍主鄭俱兒望見射之中心兵刃亂至腸胃縈水艸斬首送建康子孫皆弃市并誅其黨樂安太守任蒼之臨川內史劉懷之鄱陽太守杜仲儒仲儒驥之兄子也功臣柳元景等封賞各有差丞相義宣走至江夏聞巴陵有軍回向江陵衆散且盡與左右十許人徒步脚痛不能前僦民露車自載緣道求食至江陵郭外遣人報竺超民超民具羽儀兵衆迎之時荊州帶甲尚萬餘人左右翟靈寶誡義宣使撫慰將佐以臧質違指授之宜用致失利今治兵繕甲更爲後圖昔漢高百敗終成大業而義宣忘靈寶之言誤云項羽千敗衆咸掩口魯秀竺超民等猶欲收餘兵更圖一決而義宣惛沮無復神守入內不復出左右腹心稍稍離叛魯秀北走義宣不能自立欲從秀去乃攜息愔及所愛妾五人著男子服相隨城內擾亂白刃交橫義宣懼墜馬逐步進竺超民送至城外更以馬與之歸而城守義宣求秀不得左右盡弃之夜復還南郡空廨旦日超民收送刺奸義宣止獄戶坐地歎曰臧質老奴誤我五妾尋被遣出義宣號泣語獄吏曰常日非苦今日分別始是苦魯秀衆散不能去還向江陵城上人射之秀赴水死就取其首詔右僕射劉延孫使荊江二州旌別枉直就行誅賞且分割二州之地議更置新州初晉氏南遷以揚州爲京畿穀帛所資皆出焉以荊江爲重鎮甲兵所聚盡在焉常使大將居之三州戶口居江南之半上惡其彊大故欲分之癸未分揚州浙東五郡置東揚州治會稽分荊湘江豫州之八郡置郢州治江夏罷南蠻校尉遷其營於建康太傅義恭議使郢州治巴陵尚書令何尚之曰夏口在荊江之中正對沔口通接雍梁寔爲津要由來舊鎮根基不易既有見城浦大容舫於事爲便上從之既而荊揚因此虛耗尚之請復合二州上不許○戊子省錄尚書事上惡宗室彊盛不欲權在臣下太傅義恭知其指故請省之○上使王公八座與荊州刺史朱修之書令丞相義宣自爲計書未達庚寅修之入江陵殺義宣并誅其子十六人及同黨

竺超民從事中郎蔡超諮議參軍顏樂之等超民兄弟應從誅何尚之上言賊既遁走一夫可擒若超民反覆昧利卽當取之非唯免愆亦可要不義之賞而超民曾無此意微足觀過知仁且爲官保全城府謹守庫藏端坐待縛今戮及兄弟則與其餘逆黨無異於事爲重上乃原之○秋七月丙申朔日有食之○庚子魏皇子弘生辛丑大赦改元興光○丙辰大赦○八月甲戌魏趙王深卒○乙亥魏主還平城○冬十一月戊戌魏主如中山遂如信都十二月丙子還幸靈丘至溫泉宮庚辰還平城

二年春正月魏車騎大將軍樂平王拔有皇賜死○鎭北大將軍南兗州刺史沈慶之請老二月丙寅以爲左光祿大夫開府儀同三司慶之固讓表疏數十上又面自陳乃至稽顙泣涕上不能奪聽以始興公就第厚加給奉頃之上復欲用慶之使何尚之往起之尚之累陳上意慶之笑曰沈公不效何公往而復返尚之慙而止辛巳以尚書右僕射劉延孫爲南兗州刺史○夏五月戊戌以湘州刺史劉遵考爲尚書右僕射○六月壬戌魏改元太安○甲子大赦○甲申魏主還平城○秋七月癸巳立皇弟休祐爲山陽王休茂爲海陵王休業爲鄱陽王○丙辰魏主如河西○雍州刺史武昌王渾與左右作檄文自號楚王改元永光備置百官以爲戲笑長史王翼之封呈其手迹八月庚申廢渾爲庶人徙始安郡上遣員外散騎侍郎東海戴明寶詰責渾因逼令自殺時年十七○丁亥魏主還平城○詔祀郊廟初設備樂從前殿中曹郎荀萬秋之儀也○上欲削弱王侯冬十月己未江夏王義恭竟陵王誕奏裁王侯車服器用樂舞制度凡九事上因諷有司奏增廣爲二十四條聽事不得南向坐劒不得爲鹿盧形內史相及封內官長止稱下官不得稱臣罷官則不復追敬詔可○庚午魏以遼西王常英爲太宰○壬午以太傅義恭領揚州刺史竟陵王誕爲司空領南徐州刺史建平王宏爲尚書令○是歲以故氐王楊保宗子元和爲征虜將軍楊頭爲輔國將軍頭

文德之從祖兄也元和雖楊氏正統朝廷以其年幼才弱未正位號部落無定主頭先戍葭蘆母妻子弟並爲魏所執而頭爲宋堅守無貳心雍州刺史王玄謨上言請以頭爲假節西秦州刺史用安輯其衆俟數年之後元和稍長使嗣故業若元和才用不稱便應歸頭頭能藩扞漢川使無虜患彼四千戶荒州殆不足惜若葭蘆不守漢川亦無立理上不從

三年春正月庚寅立皇弟休範爲順陽王休若爲巴陵王戊戌立皇子子尚爲西陽王○壬子納右衞將軍何瑀女爲太子妃瑀澄之曾孫也甲寅大赦○乙卯魏立貴人馮氏爲皇后

后遼西郡公朗之女也朗爲秦雍二州刺史坐事誅后由是沒入宮○二月丁巳魏主立子弘爲皇太子先使其母李貴人條記所付託兄弟然後依故事賜死○甲子以廣州刺史宗慤爲豫州刺史故事府州部內論事皆籤前直敘所論之事置典籤以主之宋世諸皇子爲方鎭者多幼時主皆以親近左右領典籤典籤之權稍重至是雖長王臨藩素族出鎭典籤皆出納敎命執其樞要刺史不得專其職任及慤爲豫州臨安吳喜爲典籤慤刑政所施喜每多違執慤大怒曰宗慤年將六十爲國竭命正得一州如斗大不能復與典籤共臨之喜稽顙流血乃止○丁零數千家匿井陘山中爲盜魏選部尚書陸眞與州郡合兵討滅之○閏月戊午以尚書左僕射劉遵考爲丹陽尹○癸酉鄱陽哀王休業卒○太傅義恭以南兗州刺史西陽王子尚有寵將避之乃辭揚州秋七月解義恭揚州丙子以子尚爲揚州刺史時熒惑守南斗上廢西州舊館使子尚移治東城以厭之揚州別駕從事沈懷文曰天道示變宜應之以德今雖空西州恐無益也不從懷文懷遠之兄也○八月魏平西將軍漁陽公尉眷擊伊吾克其城大獲而還○九月壬戌以丹陽尹劉遵考爲尚書右僕射○冬十月甲申魏主還平城○丙午太傅義恭進位太宰領司徒○十一月魏以尚書西平王源賀爲冀州刺史更賜爵隴西王賀上言今北虜遊竄南寇負險疆埸之間猶須防戍臣愚以爲自非

大逆。赤手殺人。其坐賊盜及過誤。應入死者。皆可原宥。遣使守邊。則是已斷之體。受更生之恩。徭役之家。蒙休息之惠。魏高宗從之。久之。謂羣臣曰。吾用賀言。一歲所活不少。增戍兵亦多。卿等人人如賀。朕何憂哉。會武邑人石華告賀謀反。有司以聞。帝曰。賀竭誠事國。朕爲卿等保之。無此明矣。命精加訊驗。華果引誣。帝誅之。因謂左右曰。以賀忠誠。猶不免誣謗。不及賀者。可無愼哉。○十二月。濮陽太守姜龍駒。新平太守楊自倫。弃郡奔魏。○上欲移青冀二州。併鎭歷城。議者多不同。青冀二州刺史垣護之曰。青州北有河濟。又多陂澤。非虜所向。每來寇掠。必由歷城。二州幷鎭。此經遠之略也。北又近河。歸順者易。近息民患。遠申王威。安邊之上計也。由是遂定。○元嘉中。官鑄四銖錢。輪郭形制。與五銖同。用費無利。故民不盜鑄。及上卽位。又鑄孝建四銖。形式薄小。輪郭不成。於是盜鑄者衆。雜以鉛錫。翦鑿古錢。錢轉薄小。守宰不能禁。坐死免者相繼。盜鑄益甚。物價踊貴。朝廷患之。去歲春。詔錢薄小無輪郭者。悉不得行。民間喧擾。是歲。始興郡公沈慶之建議。以爲宜聽民鑄錢。郡縣置錢署。樂鑄之家。皆居署內。平其準式。去其雜僞。去春所禁新品。一時施用。今鑄悉依此格。萬稅三千。嚴檢盜鑄。丹陽尹顏竣。駁之。以爲五銖輕重。定於漢世。魏晉以降。莫之能改。誠以物貨既均。改之僞生。故也。今云。去春所禁。一時施用。若巨細總行。而不從公鑄。利已既深。情僞無極。私鑄翦鑿。盡不可禁。財貨未贍。大錢已竭。數歲之間。悉爲塵土矣。今新禁初行。品式未一。須臾自止。不足以垂聖慮。唯府藏空匱。實爲重憂。今縱行細錢。官無益賦之理。百姓雖贍。無解官乏。唯簡費去華。專在節儉。求贍之道。莫此爲貴耳。議者又以爲官藏空虛。宜更改鑄。天下銅少。宜減錢式。以救交弊。賑國舒民。愚以爲不然。今鑄二銖。恣行新細。於官無解於乏。而民間姦巧大興。天下之貨。將糜碎至盡。空嚴立禁。而利深難絕。不一二年。其弊不可復救。民懲大錢之改。兼畏近日新禁。市井之間。必生紛擾。遠利未開。切患猥及。富商得志。貧民困窘。此皆甚不可者也。乃止。○魏定州刺史高陽許宗之。求取不節。深澤民馬超。謗毀宗之。宗之毆殺超。恐其家人告狀。上超詆訕朝政。魏高宗曰。此必妄也。朕爲天下主。何惡於超。而有此言。必宗之懼罪誣超。案驗果然。斬宗之於都南。○金紫光祿大夫顏延之卒。延之子竣貴重。凡所資供。延之一無所受。布衣茅屋。蕭然如故。常乘羸牛笨車。逢竣鹵簿。卽屏住道側。常語竣曰。吾平生不憙見要人。今不幸見汝。竣起宅。延之謂曰。善爲之。無令後人笑汝拙也。延之嘗早詣竣。見賓客盈門。竣尙未起。延之怒曰。汝出糞土之中。升雲霞之上。驕傲如此。其能久乎。竣丁父憂。裁踰月。起爲右將軍。丹陽尹如故。竣固辭。表十上。上不許。遣中書舍人戴明寶抱竣登車。載之郡舍。賜以布衣一襲。絮以綵綸。遣主衣就衣諸體。大明元年。春。正月。辛亥朔。改元。大赦。○壬戌。魏主畋於崞山。戊辰。還平城。○魏以漁陽王尉眷爲太尉。錄尙書事。○二月。魏人寇兗州。向無鹽。敗東平太守南陽劉胡。詔遣太子左衞率薛安都。將騎兵東陽太守沈法系。將水軍。向彭城。以禦之。竝受徐州刺史申坦節度。比至。魏兵已去。先是羣盜聚任城荊榛中。累世爲患。謂之任榛。申坦請回軍討之。上許之。任榛聞之。皆逃散。時天旱。人馬渴乏。無功而還。安都。法系。坐白衣領職。坦當誅。羣臣爲請。莫能得。沈慶之抱坦哭於市。曰。汝無辜而死。我哭汝於市。行當就汝矣。有司以聞。上乃免之。○三月。庚申。魏主畋於松山。己巳。還平城。○魏主立其弟新成爲陽平王。○上自卽吉之後。奢淫自恣。多所興造。丹陽尹顏竣。以藩朝舊臣。數懇切諫爭。無所回避。上浸不悅。竣自謂才足幹時。恩舊莫比。當居中。永執朝政。而所陳多不納。疑上欲疎之。乃求外出。以占上意。夏。六月。丁亥。詔。以竣爲東揚刺史。竣始大懼。○癸卯。魏主如陰山。○雍州所統。多僑郡縣。刺史王玄謨上言。僑郡縣。無有境土。新舊錯亂。租課不時。請皆土斷。秋。七月。辛未。詔幷雍州三郡十六縣。爲一郡。郡縣流民不願屬籍。訛言。玄謨欲反。時柳元景宗彊。羣從多爲雍部二千石。乘聲。皆欲討玄謨。

玄謨令內外晏然以解衆惑馳使啓上具陳本末上知其虛遣主書吳喜撫慰之且報曰七十老公反欲何求君臣之際足以相保聊復爲笑伸卿眉頭耳玄謨性嚴未嘗妄笑故上以此戲之○八月己亥魏主還平城○甲辰徙司空南徐州刺史竟陵王誕爲南兗州刺史以太子詹事劉延孫爲南徐州刺史初高祖遺詔以京口要地去建康密邇自非宗室近親不得居之延孫之先雖與高祖同源而高祖屬彭城延孫屬莒縣從來不序昭穆上既命延孫鎮京口仍詔與延孫合族使諸王皆序長幼上聞門無禮不擇親疎尊卑流聞民間無所不至誕寬而有禮又誅太子劭丞相義宣皆有大功人心竊向之誕多聚才力之士蓄精甲利兵上由是畏而忌之不欲誕居中使出鎮京口猶嫌其逼更徙之廣陵以延孫腹心之臣使鎮京口以防之○魏主將東巡冬十月詔太宰常英起行宮於遼西黃山○十二月丁亥更以順陽王休範爲桂陽王

二年春正月丙午朔魏設酒禁釀酤飲者皆斬之吉凶之會聽開禁有程日魏主以士民多因酒致鬬及議國政故禁之增置內外候官伺察諸曹及州鎮或微服雜亂於府寺間以求百官過失有司窮治訊掠取服百官贓滿二丈者皆斬又增律七十九章○乙卯魏主如廣甯溫泉宮遂巡平州庚午至黃山宮二月丙子登碣石山觀滄海戊寅南如信都畋於廣川○乙酉以金紫光祿大夫褚湛之爲尚書左僕射○丙戌建平宣簡王宏以疾解尚書令三月丁未卒○丙辰魏高宗還平城起太華殿是時給事中郭善明性傾巧說帝大起宮室中書侍郎高允諫曰太祖始建都邑其所營立必因農隙況建國已久永安前殿足以朝會西堂溫室足以宴息紫樓足以臨望縱有修廣亦宜馴致不可倉猝今計所當役凡二萬人老弱供餉又當倍之期半年可畢一夫不耕或受之飢況四萬人之勞費可勝道乎此陛下所宜留心也帝納之允好切諫朝廷事有不便允輒求見帝常屏左右以待之或自朝至暮或連日不出羣臣莫知其所言語或痛切帝所不忍聞命左右扶出然終善遇之時有上事爲激訐者帝省之謂羣臣曰君父一也父有過子何不作書於衆中諫之而於私室屏處諫者豈非不欲其父之惡彰於外邪至於事君何獨不然君有得失不能面陳而上表顯諫欲以彰君之短明己之直此豈忠臣所爲乎如高允者乃忠臣也朕有過未嘗不面言至有朕所不堪聞者允皆無所避朕知其過而天下不知可不謂忠乎允所與同徵者游雅等皆至大官封侯部下吏至刺史二千石者亦數十百人而允爲郎二十七年不徙官帝謂羣臣曰汝等雖執弓刀在朕左右徒立耳未嘗有一言規正唯伺朕喜悅之際祈官乞爵今皆無功而至王公允執筆佐我國家數十年爲益不小不過爲郎汝等不自愧乎乃拜允中書令時魏百官無祿允常使諸子樵采以自給司徒陸麗言於帝曰高允雖蒙寵待而家貧妻子不立帝曰公何不先言今見朕用之乃言其貧乎卽日至允第惟艸屋數間布被縕袍廚中鹽菜而已帝歎息賜帛五百匹粟千斛拜長子忱爲長樂太守允固辭不許帝重允常呼爲令公未嘗見其喜慍之色乃知古人爲不誣耳高子內文明而外柔順其言吶吶不能出口昔崔司徒嘗謂余云高生豐才博學一代佳士所乏者矯矯風節耳余亦以爲然及司徒得辠起於纖微詔指臨責司徒聲嘶股栗殆不能言宗欽已下伏地流汗皆無人色高子獨敷陳事理申釋是非辭義清辯音韻高亮人主爲之動容聽者無不神聳此非所謂矯矯者乎宗愛方用事威振四海嘗召百官於都坐王公已下皆趨庭望拜高子獨升階長揖由此觀之汲長孺可以臥見衞青何抗禮之有此非所謂風節者乎夫人固未易知吾既失之於心崔又漏之於外此乃管仲所以致慟於鮑叔也○乙丑魏東平成王陸俟卒○夏四月甲申立皇子子綏爲安陸王○帝不欲權在臣下六月戊寅分吏部尚書置二人以都官尚書謝莊度

支尙書吳郡顧覬之爲之。又省五兵尙書。初晉世。散騎常侍。選望甚重。與侍中不異。其後。職任閑散。用人漸輕。上欲重其選。乃用當時名士臨海太守孔覬。司徒長史王彧爲之。侍中蔡興宗。謂人曰。選曹要重。常侍閒淡。改之以名。而不以實。雖主意欲爲輕重。人心豈可變邪。既而常侍之選復卑。選部之貴不異。覬琳之之孫。彧謐之兄孫。興宗廓之子也。

裴子野論曰。官人之難。先王言之尙矣。周禮。始於學校。論之州里。告諸六事。而後貢于王庭。其在漢家。州郡積其功能。五府舉爲掾屬。三公參其得失。尙書奏之天子。一人之身。所閱者衆。故能官得其才。鮮有敗事。魏晉易是。所失弘多。夫厚貌深衷。險如谿壑。擇言觀行。猶懼弗周。況今萬品千羣。俄折乎一面。庶僚百位。專斷於一司。於是囂風遂行。不可抑止。干進務得。兼加諂瀆。無復廉恥之風。謹厚之操。官邪國敗。不可紀綱。假使龍作納言。舜居南面。而治致平章。不可必也。況後之官人者哉。孝武。雖分曹爲兩。不能反之於周漢。朝三暮四。其庸愈乎。

丙申。魏主畋于松山。庚午。如河西。○南彭城民高闍。沙門曇標。以妖妄相扇。與殿中將軍苗允等。謀作亂。立闍爲帝。事覺。甲辰。皆伏誅。死者數十人。於是下詔沙汰諸沙門。設諸科禁。嚴其誅坐。自非戒行精苦。並使還俗。而諸尼多出入宮掖。此制竟不能行。中書令王僧達。幼聰警。能文。而跌蕩不拘。帝初踐阼。擢爲僕射。居顏劉之右。自負才地。謂當時莫及。一二年間。卽望宰相。既而遷護軍。怏怏不得志。累啓求出。上不悅。由是稍稍下遷。五歲七徙。再被彈削。僧達既恥且怨。所上表奏。辭旨抑揚。又好非議朝政。上已積憤怒。路太后兄子。嘗詣僧達。趨升其榻。僧達令舁弃之。太后大怒。固邀上。令必殺僧達。會高闍反。上因誣僧達與闍通謀。八月。丙戌。收付廷尉賜死。

沈約論曰。夫君子小人。類物之通稱。蹈道則爲君子。違之則爲小人。是以太公起屠釣。爲周師。傅說去板築。爲殷相。明敭幽仄。唯才是與。逮于二漢。茲道未革。胡廣累世農夫。致位公相。黃憲牛醫之子。名重京師。非若晚代。分爲二途也。魏武始立九品。蓋以論人才優劣。非謂世族高卑。而都正俗士。隨時俯仰。憑藉世資。用相陵駕。因此相沿。遂爲成法。周漢之道。以智役愚。魏晉以來。以貴役賤。士庶之科。較然有辨矣。○裴子野論曰。古者。德義可尊。無擇負販。苟非其人。何取世族。名公子孫。還齊布衣之伍。士庶雖分。本無華素之隔。自晉以來。其流稍改。艸澤之士。猶顯清途。降及季年。專限閥閱。自是。三公之子。傲九棘之家。黃散之孫。蔑令長之室。轉相驕矜。互爭銖兩。唯論門戶。不問賢能。以謝靈運王僧達之才華輕躁。使其生自寒宗。猶將覆折。重以怙其庇蔭。召禍宜哉。

九月。乙巳。魏主還平城。○丙寅。魏大赦。○冬。十月。甲戌。魏主北巡。欲伐柔然。至陰山。會雨雪。魏主欲還。太尉尉眷曰。今動大衆。以威北狄。去都不遠。而車駕遽還。虜必疑我有內難。將士雖寒。不可不進。魏主從之。辛卯。軍于車嶋山。○積射將軍殷孝祖。築兩城於淸水之東。魏鎭西將軍封敕文。攻之。淸口戍主振威將軍傅乾愛。拒破之。孝祖。羨之曾孫也。上遣虎賁主龐孟虬。救淸口。靑冀二州刺史顏師伯。遣中兵參軍苟思達。助之。敗魏兵於沙溝。師伯。竣之族兄也。上遣司空參軍卜天生。將兵會傅乾愛。及中兵參軍江方興。共擊魏兵。屢破之。斬魏將窟壞公等數人。十一月。魏征西將軍皮豹子等。將三萬騎。助封敕文。寇靑州。顏師伯禦之。輔國將軍焦度。刺豹子。墜馬。獲。其鎧稍具裝。手殺數十人。度。本南安氐也。○魏主自將騎十萬。車十五萬兩。擊柔然。度大漠。旌旗千里。柔然處羅可汗遠遁。其別部烏朱駕頹等。帥數千落。降于魏。魏主刻石紀功而還。○初上在江州。山陰戴法興。戴明寶。蔡閑。爲典籤。及卽位。皆以爲南臺侍御史。兼中書通事舍人。是歲。三典籤。竝以初舉兵預密謀。賜爵縣男。閑已卒。追賜之。時上親覽朝政。不任大臣。而腹心耳目。不得無所委寄。法興頗知古今。素見親待。魯郡巢

尙之人士之末涉獵文史爲上所知亦以爲中書通事舍人凡選授誅賞大處分上皆與法興尙之參懷內外雜事多委明寶三人權重當時而法興明寶大納貨賄凡所薦達言無不行天下輻湊門外成市家產竝累千金吏部尙書顧覬之獨不降意於法興等蔡興宗與覬之善嫌其風節太峻覬之曰辛毗有言孫劉不過使吾不爲三公耳覬之常以爲人稟命有定分非智力可移唯應恭己守道而闇者不達妄意僥倖徒虧雅道無關得喪乃以其意命弟子原著定命論以釋之

資治通鑑卷第一百二十八

資治通鑑卷第一百二十九

宋紀十一

世祖孝武皇帝下

大明三年春正月己巳朔兗州兵與魏皮豹子戰于高平兗州兵不利○己丑以驃騎將軍柳元景爲尙書令右僕射劉遵考爲領軍將軍○己酉魏河南公伊馥卒○二月乙卯以揚州六郡爲王畿更以東揚州爲揚州徙治會稽猶以星變故也○三月庚寅以義興太守垣閬爲兗州刺史閬遵之子也○夏四月乙巳魏主立其弟子推爲京兆王○竟陵王誕知上意忌之亦潛爲之備因魏人入寇修城浚隍聚糧治仗誕記室參軍江智淵知誕有異志請假先還建康上以爲中書侍郎智淵夷之弟子也少有操行沈懷文每稱之曰人所應有盡有人所應無盡無者其唯江智淵乎是時道路皆云誕反會吳郡民劉成上書稱息道龍昔事誕見誕在石頭城修乘輿法物習唱警蹕道龍憂懼私與伴侶言之誕殺道龍又豫章民陳談之上書稱弟詠之在誕左右見誕書陛下年紀姓諱往巫鄭師鄰家祝詛詠之密以啓聞誕誣詠之乘酒罵詈殺之上乃令有司奏誕罪惡請收付廷尉治罪乙卯詔貶誕爵爲侯遣之國詔書未下先以羽林禁兵配兗州刺史垣閬使以之鎭爲名與給事中戴明寶襲誕閬至廣陵誕未悟也明寶夜報誕典籤蔣成使明晨開門爲內應成以告府舍人許宗之宗之入告誕誕驚起呼左右及素所畜養數百人執蔣成勒兵自衞天將曉明寶與閬帥精兵數百人猝至而門不開誕已列兵登陴自在門上斬蔣成赦作徒繫囚開門擊閬殺之明寶

從間道逃還。詔內外纂嚴。以始興公沈慶之爲車騎大將軍。開府儀同三司。南兗州刺史將兵討誕。甲子。上親總禁兵。頓宣武堂。司州刺史劉季之。誕故將也。素與都督宗慤有隙。聞誕反。恐爲慤所害。委官。間道自歸朝廷。至盱眙。盱眙太守鄭瑗。疑季之與誕同謀。邀殺之。沈慶之至歐陽。誕遣慶之宗人沈道愍齎書說慶之。餉以玉環刀。慶之遣道愍反。數以罪惡。誕焚郭邑。驅居民。悉使入城。閉門自守。分遣書檄。邀結遠近。時山陽內史梁曠。家在廣陵。誕執其妻子。遣使邀曠。曠斬使。拒之。誕怒。滅其家。誕奉表。投之城外。曰。陛下信用讒言。遂令無名小人來相掩襲。不任枉酷。卽加誅翦。雀鼠偸生。仰違詔勑。今親勒部曲。鎭扞徐兗。先經何福。同生皇家。今有何愆。便成胡越。陵鋒蹈戈。萬沒豈顧。盪定之期。冀在旦夕。又曰。陛下宮帷之醜。豈可三緘。上大怒。凡誕左右腹心。同籍非親。在建康者。並誅之。死者以千數。或有家人已死。方自城內出奔者。慶之至城下。誕登樓。謂之曰。沈公。垂白之年。何苦來此。慶之曰。朝廷以君狂愚。不足勞少壯。故耳。上慮誕奔魏。使慶之斷其走路。慶之移營白土。去城十八里。又進軍新亭。豫州刺史宗慤。徐州刺史劉道隆。並帥衆來會。兗州刺史沈僧明。慶之兄子也。亦遣兵助慶之。先是。誕誑其衆云。宗慤助我。慤至。繞城躍馬。呼曰。我宗慤也。誕見諸軍大集。欲棄城北走。留中兵參軍申靈賜。守廣陵。自將步騎數百人。親信並自隨。聲云。出戰。邪趨海陵道。慶之遣龍驤將軍武念。追之。誕行十餘里。衆皆不欲去。互請誕還城。誕曰。我還易耳。卿能爲我盡力乎。衆皆許諾。誕乃復還。築壇歃血。以誓衆。凡府州文武。皆加秩。以主簿劉琨之爲中兵參軍。琨之。遵考之子也。辭曰。忠孝不得並。琨之老父在。不敢承命。誕囚之十餘日。終不受。乃殺之。右衞將軍垣護之。虎賁中郎將殷孝祖等擊魏。還至廣陵。上並使受慶之節度。慶之進營。逼廣陵城。誕餉慶之食。提挈者百餘人。出自北門。慶之不開視。悉焚之。誕於城上。授函表。請慶之爲送。慶之曰。我受詔討賊。不得爲汝送表。汝必欲歸死朝廷。自應開門遣使。吾爲汝護送。○東揚州刺史顏竣。遭母憂。送喪還都。上恩待猶厚。竣時對親舊。有怨言。或語及朝廷得失。會王僧達得罪。疑竣譖之。將死。具陳竣前後怨望誹謗之語。上乃使御史中丞庾徽之劾奏。免竣官。竣愈懼。上啓陳謝。且請生命。上益怒。詔答曰。卿訕訐怨憤。已孤本望。乃復過煩思慮。懼不自全。豈爲下事上。誠節之至邪。及竟陵王誕反。上遂誣竣與誕通謀。五月。收竣付廷尉。先折其足。然後賜死。妻子徙交州。至宮亭湖。復沈其男口。○六月。戊申。魏主如陰山。○上命沈慶之爲三烽於桑里。若克外城。擧一烽。克內城。擧兩烽。擒劉誕。擧三烽。璽書督趣。前後相繼。慶之焚其東門。塞塹造攻道。立行樓土山。幷諸攻具。值久雨。不得攻城。上使御史中丞庾徽之奏。免慶之官。詔勿問。以激之。自四月。至于秋七月。雨止。城猶未拔。上怒。命太史擇日。將自濟江討誕。太宰義恭固諫。乃止。誕初閉城拒使者。記室參軍山陰賀弼固諫。誕怒。抽刀向之。乃止。誕遣兵出戰。屢敗。將佐多踰城出降。或勸弼。宜早出。弼曰。公擧兵向朝廷。此事既不可從。荷公厚恩。又義無違背。唯當以死明心耳。乃飲藥自殺。參軍何康之。謀開門納官軍。不果。斬關出降。誕爲高樓。置康之母於其上。暴露之。不與食。母呼康之。數日而死。誕以中軍長史濮陽范義爲左司馬。義母妻子。皆在城內。或謂義曰。事必不振。子其行乎。義曰。吾人吏也。子不可以棄母。吏不可以叛君。必若何康之而活。吾弗爲也。沈慶之帥衆攻城。身先士卒。親犯矢石。己巳。克其外城。乘勝而進。又克小城。誕聞兵入。走趨後園。隊主沈胤之等。追及之。擊傷。誕墜水。引出斬之。誕母妻皆自殺。上聞廣陵平。出宣陽門。敕左右。皆呼萬歲。侍中蔡興宗陪輦。上顧曰。卿何獨不呼。興宗正色曰。陛下今日正應涕泣行誅。豈得皆稱萬歲。上不悅。詔貶誕姓留氏。廣陵城中士民。無大小。悉命殺之。沈慶之請自五尺以下全之。其餘男子。皆死。女子。以爲軍賞。猶殺三千餘口。長水校尉宗越臨決。皆先刳腸抉眼。或笞面鞭腹。苦酒灌創。然後斬之。越對之。欣欣若有所得。上聚其首於石頭南岸。爲京觀。侍中沈懷文諫。不聽。

初誕自知將敗。使黃門呂曇濟。與左右素所信者。將世子景粹。匿於民間。謂曰。事若不濟。思相全脫。如其不免。可深埋之。各分以金寶。齎送。既出門。竝散走。唯曇濟不去。攜負景粹十餘日。捕得。斬之。臨川內史羊瑤。坐與誕素善。下獄死。擢梁曠爲後將軍。贈劉琨之給事。黃門侍郎蔡興宗奉旨。慰勞廣陵。興宗與范義素善。收斂其尸。送喪歸豫章。上謂曰。卿何敢故觸王憲。興宗抗言對曰。陛下自殺賊。臣自葬故交。何不可之有。上有慙色。宗越治軍嚴。善爲營陳。每數萬人止頓。越自騎馬前行。使軍人隨其後。馬止營合。未嘗參差。○辛未。大赦。○丙子。以丹陽尹劉秀之爲尚書右僕射。○丙戌。以南兗州刺史沈慶之爲司空。刺史如故。○八月。庚戌。魏主如雲中。壬戌。還平城。○九月。壬辰。築上林苑於玄武湖北。○初晉人築南郊壇於巳位。尚書右丞徐爰。以爲非禮。詔徙於牛頭山西。直宮城之午位。及廢帝卽位。以舊地爲吉。復還故處。帝又命尚書左丞荀萬秋。造五路。依金根車。加羽葆蓋。

四年。春。正月。甲子朔。魏大赦。改元和平。○乙亥。上耕籍田。大赦。○己卯。詔祀郊廟。初乘玉路。○庚寅。立皇子子勛爲晉安王。子房爲尋陽王。子頊爲歷陽王。子鸞爲襄陽王。○魏散騎侍郎馮闡來聘。○二月。魏衞將軍樂安王良。討河西叛胡。○三月。魏人寇北陰平。朱提太守楊歸子擊破之。○甲申。皇后親桑于西郊。皇太后觀禮。○夏。四月。魏太后常氏殂。五月。癸酉。魏葬昭太后於鳴雞山。○丙戌。尚書左僕射出入。擬於王者。魏人忿之。定陽侯曹安。表言。拾寅今保白蘭。若分軍出其左右。必走保南山。不過十日。人畜乏食。可一舉而定。六月。甲午。魏遣征西大將軍陽平王新成等。督統萬高平諸軍。出南道。南郡公中山李惠等。督涼州諸軍。出北道。以擊吐谷渾。○魏崔浩之誅也。史官遂廢。至是。復置。○河西叛胡。詣長安。首罪。魏遣使者。安慰之。○秋。七月。遣使如魏。○甲戌。開府儀同三司何尙之。卒。○壬午。魏主如河西。○魏軍至西平。吐谷渾王拾寅。走保南山。九月。魏軍濟河追之。會疾疫。引還。獲雜畜二十餘萬。○庚午。魏主還平城。○丁亥。徙襄陽王子鸞爲新安王。○冬。十月。庚寅。詔沈慶之。討緣江蠻。○前廬陵內史周朗。言事切直。上銜之。使有司奏朗居母喪。不如禮。傳送寧州。於道殺之。朗之行也。侍中蔡興宗。方在直。請與朗別。坐白衣領職。○十一月。魏散騎侍郎盧度世等來聘。○是歲。上徵青冀二州刺史顏師伯爲侍中。師伯以諂佞被親任。羣臣莫及。多納貨賄。家累千金。上嘗與之樗蒲。上擲得雉。自謂必勝。師伯次擲得盧。上失色。師伯遽斂子曰。幾作盧。是日。師伯一輸百萬。○柔然攻高昌。殺沮渠安周。滅沮渠氏。以闞伯周爲高昌王。高昌稱王自此始。

五年。春。正月。戊午朔。朝賀。雪落太宰義恭衣。有六出。義恭奏以爲瑞。上悅。義恭以上猜暴。懼不自容。每卑辭遜色。曲意祇奉。由是。終上之世。得免於禍。○二月。辛卯。魏主如中山。丙午。至鄴。遂如信都。○三月。遣使如魏。○魏主發并肆州民五千人。治河西獵道。辛巳。還平城。○夏。四月。癸巳。更以西陽王子尙爲豫章王。○庚子。詔經始明堂。直作大殿於丙巳之地。制如太廟。唯十有二間爲異。○雍州刺史海陵王休茂。年十七。司馬新野庾深之。行府事。休茂性急欲自專。處決深之及主帥。每禁之。常懷忿恨。左右張伯超。有寵。多罪惡。主帥屢責之。伯超懼。說休茂曰。主帥密疏官過失。欲以啓聞。如此。恐無好。休茂曰。爲之柰何。伯超曰。惟有殺行事及主帥。舉兵自衞。此去都數千里。縱大事不成。不失入虜中。爲王。休茂從之。丙午夜。休茂與伯超等。帥夾轂隊。殺典籤楊慶於城中。出金城。殺深之。及典籤戴雙。徵集兵衆。建牙馳檄。使佐吏上己。爲車騎大將軍。開府儀同三司。加黃鉞。侍讀博士荀洗諫。休茂殺之。伯超專任軍政。生殺在己。休茂左右曹萬期。挺身斫休茂。不克而死。休茂出城行營。諮議參軍沈暢之等。帥衆。閉門拒之。休茂馳還。不得入。義成太守薛繼考。爲休茂。盡力攻城。克之。斬暢之。及同謀數十人。其日。參軍尹玄慶。復起兵。攻休茂。生擒斬之。母妻皆自殺。同黨伏誅。城中擾亂。莫相

統攝中兵參軍劉恭之秀之之弟也。衆共推行府州事。繼考以兵脅恭之。使作啓事。言繼考立義。自乘驛還都。上以爲北中郎諮議參軍。賜爵冠軍侯。事尋泄。伏誅。以玄慶爲射聲校尉。上自卽位以來。抑黜諸弟。旣克慶陵。欲更峻其科。沈懷文曰。漢明不使其子比光武之子。前史以爲美談。陛下旣明管蔡之誅。願崇唐衞之寄。及襄陽平。太宰義恭。探知上指。請裁抑諸王。不使任邊州。及悉輸器甲。禁絕賓客。沈懷文固諫。以爲不可。乃止。○上畋遊無度。嘗出夜還。敕開門。侍中謝莊居守。以棨信或虛。執不奉旨。須墨敕乃開。上後因燕飲。從容曰。卿欲效郅君章邪。對曰。臣聞王者祭祀畋遊。出入有節。今陛下。晨往宵歸。臣恐不逞之徒。妄生矯詐。是以伏須神筆。乃敢開門耳。○魏大旱。詔州郡境內神。無大小。悉灑掃致禱。侯豐登。各以其秩祭之。於是羣祀之廢者。皆復其舊。○秋。七月。戊寅。魏主立其弟小新成爲濟陰王。加征東大將軍。鎭虎牢。萬壽爲樂浪王。加征北大將軍。鎭和龍。洛侯爲廣平王。○壬午。魏主巡山北。八月。丁丑。還平城。○戊子。立皇子子仁爲永嘉王。子眞爲始安王。○九月。甲寅朔。日有食之。○沈慶之固讓司空。柳元景固讓開府儀同三司。詔許之。仍命慶之朝會。位次司空。俸祿依三司。元景在從公之上。慶之。目不知書。家素富。產業累萬金。童奴千計。再獻錢千萬。穀萬斛。先有四宅。又有園舍。在婁湖。慶之。一夕。攜子孫。及中表親戚。徙居婁湖。以四宅輸官。慶之多蓄妓妾。優游無事。盡意歡娛。非朝賀不出門。車馬率素。從者不過三五人。遇之者。不知其爲三公也。○甲戌。移南豫州治于湖。丁丑。以潯陽王子房爲南豫州刺史。○閏月。戊子。皇太子妃何氏卒。謚曰獻妃。○壬寅。更以歷陽王子頊爲臨海王。○冬。十月。甲寅。以南徐州刺史劉延孫爲尙書左僕射。右僕射劉秀之爲雍州刺史。○乙卯。以新安王子鸞爲南徐州刺史。子鸞母殷淑儀。寵傾後宮。子鸞愛冠諸子。凡爲上所眄遇者。莫不入子鸞之府。及爲南徐州。割吳郡以屬之。初巴陵王休若爲北徐州刺史。以山陰張岱爲諮議參軍。行府州國事。後臨海王子頊爲廣州。豫章王子尙爲揚州。晉安王子勛爲南兗州。岱歷爲三府諮議。三王行事。與典籤主帥共事。事舉。而情不相失。或謂岱曰。主王旣幼。執事多門。而每能緝和公私。云何致此。岱曰。古人言。一心可以事百君。我爲政端平。待物以禮。悔吝之事。無由而及。明闇短長。更是才用之多少耳。及子鸞爲南徐州。復以岱爲別駕行事。岱。永之弟也。○魏員外散騎常侍游明根等來聘。明根。雅之從祖弟也。○魏廣平王洛侯卒。○十二月。壬申。以領軍將軍劉遵考爲尙書右僕射。○甲戌。制民戶歲輸布四匹。○是歲。詔。士族雜婚者。皆補將吏。士族。多避役逃亡。乃嚴爲之制。捕得卽斬之。往往奔竄湖山。爲盜賊。沈懷文諫。不聽。

六年。春。正月。癸未。魏樂浪王萬壽卒。○辛卯。上初祀五帝於明堂。大赦。○丁未。策秀孝于中堂。揚州秀才顧法。對策曰。源清則流潔。神聖則刑全。躬化易於上風。體訓速於草偃。上覽之。惡其諒也。投策於地。○二月。乙卯。復百官祿。○三月。庚寅。立皇子子元爲邵陵王。○初侍中沈懷文。數以直諫忤旨。懷文素與顏竣周朗善。上謂懷文曰。竣若知我殺之。亦當不敢如此。懷文嘿然。侍中王彧言。次稱竣朗人才之美。懷文與相酬和。顏師伯以白上。上益不悅。上嘗出射雉。風雨驟至。懷文與王彧。江智淵約相與諫。會召入雉場。懷文曰。風雨如此。非聖躬所宜冒。彧曰。懷文所啓。宜從。智淵未及言。上注弩作色曰。卿欲效顏竣邪。何以恒知人事。又曰。顏竣小子。恨不先鞭其面。每上燕集。在坐者。皆令沈醉。嘲謔無度。懷文素不飲酒。又不好戲調。上謂故欲異己。謝莊嘗戒懷文曰。卿每與人異。亦何可久。懷文曰。吾少來如此。豈可一朝而變。非欲異物。性所得耳。上乃出懷文爲晉安王子勛征虜長史。領廣陵太守。懷文詣建康。朝正。事畢。遣還。以女病。求申期。至是。猶未發。免官禁錮十年。懷文賣宅。欲還東。上聞大怒。收付廷尉。丁未。賜懷文死。懷文三子。澹。淵。冲。行哭。爲懷文請命。見者傷之。柳元景欲救懷文。言

於上曰。沈懷文。三子塗炭。不可見。願陛下。速正其罪。上竟殺之。○夏。四月。淑儀殷氏卒。追拜貴妃。謚曰宣。上痛悼不已。精神爲之罔罔。頗廢政事。○五月。壬寅。太宰義恭。解領司徒。○六月。辛酉。東昌文穆公劉延孫卒。○庚午。魏主如陰山。○魏石樓胡賀略孫反。長安鎮將陸眞。討平之。魏主命眞。城長蛇鎮。氐豪仇辱檀反。眞討平之。卒城而還。○秋。七月。壬寅。魏主如河西。○乙未。立皇子子雲爲晉陵王。是日。卒。謚曰孝。○初晉庾冰。議使沙門敬王者。桓玄復述其議。竝不果行。至是。上使有司奏曰。儒法枝派。名墨條分。至於崇親嚴上。厥猷靡爽。唯浮圖爲教。反經提傳。拘文蔽道。在末彌扇。夫佛以謙卑自牧。忠虔爲道。寧有屈膝四輩。而簡禮二親。稽顙者朦。而直體萬乘者哉。臣等參議。以爲沙門接見。比當盡虔。禮敬之容。依其本俗。九月。戊寅。制。沙門致敬人主。及廢帝卽位。復舊。○乙未。以尙書右僕射劉遵考爲左僕射。丹楊尹王僧朗爲右僕射。僧朗。彧之父也。○冬。十月。壬申。葬宣貴妃於龍山。鑿岡通道數十里。民不堪役。死亡甚衆。自江南葬埋之盛。未之有也。又爲之別立廟。○魏員外散騎常侍游明根等來聘。○辛巳。加尙書令柳元景司空。○壬寅。魏主還平城。○南徐州從事史范陽祖冲之上言。何承天曆。疎舛猶多。更造新曆。以爲舊法。冬至日有定處。未盈百載。輒差二度。今冬至日度。歲歲微差。將來久用。無煩屢改。又子爲辰首。位在正北。虛爲北方列宿之中。今曆上元日度。發自虛一。又日辰之號。甲子爲先。今曆上元。今法交會遲疾。悉以上元歲首爲始。上令善曆者難之。不能屈。會上晏駕。不果施行。

七年。春。正月。丁亥。以尙書右僕射王僧朗爲太常。衞將軍顏師伯爲尙書僕射。○上每因宴集。使羣臣自相謝訐。以爲樂。吏部郎江智淵。素恬雅。漸不會旨。嘗使智淵。以王僧朗戲其子彧。智淵正色曰。恐不宜有此戲。上怒曰。江僧安癡人。癡人自相惜。僧安。智淵之父也。智淵伏席流涕。由是恩寵大衰。又議殷貴妃謚曰懷。上以爲不盡美。甚銜之。它日。與羣臣乘馬至貴妃墓。舉鞭指墓前石柱。謂智淵曰。此上不容有懷字。智淵益懼。竟以憂卒。○己丑。以尙書令柳元景爲驃騎大將軍。開府儀同三司。○二月。甲寅。上巡南豫南兗二州。丁巳。校獵於烏江。壬戌。大赦。甲子。如瓜步山。壬申。還建康。○夏。四月。甲子。詔。自非臨軍戰陳。竝不得專殺。其罪應重辟者。皆先上須報。違犯者。以殺人論。○五月。丙子。詔曰。自今。刺史守宰。動民興軍。皆須手詔施行。唯邊隅外警。及姦釁內發。變起倉猝者。不從此例。○戊辰。以左民尙書蔡興宗。左衞將軍袁粲。爲吏部尙書。粲。淑之兄子也。上好狎侮羣臣。自太宰義恭以下。不免穢辱。常呼金紫光祿大夫王玄謨爲老儋。僕射劉秀之爲老慳。顏師爲醪。其餘。短長肥瘦。皆有稱目。黃門侍郎宗靈秀。體肥。拜起不便。每至集會。多所賜與。欲其瞻謝傾踣。以爲歡笑。又寵一崑崙奴。令以杖擊羣臣。尙書令柳元景以下。皆不能免。唯憚蔡興宗方嚴。不敢侵媟。顏師伯謂儀曹郎王玭之曰。蔡尙書。常免昵戲。去人實遠。玭之曰。蔡豫章。昔在相府。亦以方嚴。不狎武帝宴私之日。未嘗相召。蔡尙書今日。可謂能負荷矣。○壬寅。魏主如陰山。○六月。戊辰。以秦郡太守劉德願爲豫州刺史。德願。懷愼之子也。上既葬殷貴妃。數與羣臣至其墓。謂德願曰。卿哭貴妃。悲者當厚賞。德願應聲慟哭。撫膺擗踊。涕泗交流。上甚悅。故用豫州刺史。以賞之。上又令醫術人羊志哭貴妃。志亦嗚咽極悲。它日。有問志者。曰。卿那得此副急淚。志曰。我爾日自哭亡妾耳。上爲人。機警勇決。學問博洽。文章華敏。省讀書奏。能七行俱下。又善騎射。而奢欲無度。自晉氏渡江以來。宮室艸創。朝宴所臨。東西二堂而已。晉孝武末。始作清暑殿。宋興。無所增改。上始大修宮室。土木被錦繡。嬖妾幸臣。賞賜傾府藏。壞高祖所居陰室。於其處。起玉燭殿。與羣臣觀之。牀頭有土障。壁上挂葛燈籠。麻蠅拂。侍中袁顗。因盛稱高祖儉素之德。上不答。獨曰。田舍公得此。已爲過矣。顗。淑之兄子也。○秋。八月。乙丑。立皇子子孟爲淮南王。子產爲臨賀王。○丙寅。魏主畋于河西。九月。辛巳。還平城。○庚寅。以新安王子鸞兼司徒。○

丙申。立皇子子嗣爲東平王。○冬。十月。癸亥。以東海王禕爲司空。○己巳。上校獵姑孰。○魏員外散騎常侍游明根等來聘。明根奉使三返。上以其長者禮之。有加。○十一月。癸巳。上習水軍於梁山。十二月。丙午。如歷陽。甲寅。大赦。○己未。太宰義恭加尚書令。○癸亥。上還建康。八年。春。正月。丁亥。魏主立其弟雲爲任城王。○戊子。以徐州刺史新安王子鸞領司徒。夏。閏五月。壬寅。太宰義恭領太尉。○上末年尤貪財利。刺史二千石罷還。必限使獻奉。又以蒲戲取之。要令罄盡乃止。終日酣飲。少有醒時。常憑几昏睡。或外有奏事。卽肅然整容。無復酒態。由是內外畏之。莫敢弛惰。庚申。上殂於玉燭殿。遺詔太宰義恭解尚書令。加中書監。以驃騎將軍南兗州刺史柳元景領尚書令。入居城內。事無巨細。悉關二公。大事與始興公沈慶之參決。若有軍旅。悉委慶之。尚書中事。委僕射顏師伯。外監所統。委領軍將軍王玄謨。是日。太子卽皇帝位。年十六。大赦。吏部尚書蔡興宗。親奉璽綬。太子受之。傲惰無戚容。興宗出。告人曰。昔魯昭不戚。叔孫知其不終。家國之禍。其在此乎。○甲子。詔。復以太宰義恭錄尚書事。柳元景加開府儀同三司。領丹楊尹。解南兗州。○六月。丁亥。魏主如陰山。○秋。七月。己亥。以晉安王子勛爲江州刺史。○柔然處羅可汗卒。子予成立。號受羅部眞可汗。改元永康。部眞帥衆侵魏。辛丑。魏北鎭遊軍擊破之。○壬寅。魏主如河西。高車五部。相聚祭天衆至數萬。魏主親往臨視之。高車大喜。○丙午。葬孝武皇帝于景寧陵。廟號世祖。○庚戌。尊皇太后曰太皇太后。皇后曰皇太后。○乙卯。罷南北二馳道。及孝建以來所改制度。還依元嘉。尚書蔡興宗。於都座慨然謂顏師伯曰。先帝雖非盛德之主。要以道始終。三年無改。古典所貴。今殯宮始撤。山陵未遠。而凡諸制度興造。不論是非。一皆刊削。雖復禪代。亦不至爾。天下有識。當以此窺人。師伯不從。太宰義恭素畏戴法興。巢尚之等。雖受遺輔政。而引身避事。由是政歸近習。法興等專制朝權。威行近遠。詔敕皆出其手。尚書事。無大小。咸取決焉。義恭與顏師伯。但守空名而已。蔡興宗自以職管銓衡。每至上朝。輒爲義恭陳登賢進士之意。又箴規得失。博論朝政。義恭性恇橈。阿順法興。恒慮失旨。聞興宗言。輒戰懼無答。興宗每奏選事。法興尚之等。輒點定回換。僅有在者。興宗於朝堂謂義恭師伯曰。主上諒闇。不親萬機。而選舉密事。多被刪改。復非公筆。亦不知是何天子意。數與義恭等爭選事。往復論執。義恭法興皆惡之。左遷興宗新昌太守。既而以其人望。復留之建康。○丙辰。追立何妃曰獻皇后。○乙丑。新安王子鸞解領司徒。戴法興等惡王玄謨剛嚴。八月。丁卯。以玄謨爲南徐州刺史。○王太后疾篤。使呼廢帝。帝曰。病人間多鬼。那可往。太后怒。謂侍者。取刀來。剖我腹。那得生寧馨兒。己丑。太后殂。○九月。辛丑。魏主還平城。○癸卯。以尚書左僕射劉遵考爲特進右光祿大夫。○乙卯。葬文穆皇后于景寧陵。○冬。十二月。壬辰。以王畿諸郡爲揚州。以揚州爲東揚州。癸巳。以豫章王子尚爲司徒。揚州刺史。是歲。青州移治東陽。宋之境內。凡有州二十二。郡二百七十四。縣千二百九十九。戶九十四萬有奇。○東方諸郡。連歲旱饑。米一升。錢數百。建康亦至百餘錢。餓死什六七。

資治通鑑卷第一百二十九

宋紀　世祖孝武皇帝下大明八年

資治通鑑卷第一百三十

宋紀十二

太宗明皇帝上之上

泰始元年。春。正月。乙未朔。廢帝改元永光。大赦。○丙申。魏大赦。○二月。丁丑。魏主如樓煩宮。○自孝建以來。民間盜鑄濫錢。商貨不行。庚寅。更鑄二銖錢。形式轉細。官錢每出。民間卽模效之。而更薄小。無輪郭。不磨鑢。謂之耒子。○三月。乙巳。魏主還平城。○夏。五月。癸卯。魏高宗殂。初魏世祖經營四方。國頗虛耗。重以內難。朝野楚楚。高宗嗣之。與時消息。靜以鎭之。懷集中外。民心復安。甲辰。太子弘卽皇帝位。大赦。尊皇后曰皇太后。顯祖時年十二。侍中車騎大將軍乙渾。專權。矯詔殺尙書楊保年。平陽公賈愛仁。南陽公張天度于禁中。侍中司徒平原王陸麗。治疾於代郡溫泉。乙渾使司衞監穆多侯召之。多侯謂麗曰。渾有無君之心。今宮車晏駕。王德望素重。姦臣所忌。宜少淹留。以觀之。朝廷安靜。然後入。未晚也。麗曰。安有聞君父之喪。慮患而不赴者乎。卽馳赴平城。乙渾所爲多不法。麗數爭之。戊申。渾又殺麗及穆多侯。多侯。壽之弟也。己酉。魏以渾爲太尉。錄尙書事。東安王劉尼爲司徒。尙書左僕射代人和其奴爲司空。殿中尙書順陽公郁。謀誅乙渾。渾殺之。○壬子。魏以淮南王它爲鎭西大將軍。儀同三司。鎭涼州。魏開酒禁。○壬午。加柳元景南豫州刺史。加顏師伯丹楊尹。○秋。七月。癸巳。魏以太尉乙渾爲丞相。位居諸王上。事無大小。皆決於渾。○廢帝幼而狷暴。及卽位。始猶難太后。大臣。及戴法興等。未敢自恣。太后既殂。帝年漸長。欲有所爲。法興輒抑制之。謂帝曰。官

所爲如此。欲作營陽邪。帝稍不能平。所幸閹人華願兒。賜與無算。法興常加裁減。願兒恨之。帝使願兒於外。察聽風謠。願兒言於帝曰。道路皆言。宮中有二天子。法興眞天子。官爲贋天子。且官居深宮。與人物不接。法興與太宰顏柳。共爲一體。往來門客。恒有數百。內外士庶。莫不畏服。法興是孝武左右。久在宮闈。今與它人作一家。深恐此坐席。非復官有。帝遂發詔。免法興。遣還田里。仍徙遠郡。八月。辛酉。賜法興死。解巢尙之舍人。員外散騎侍郎東海奚顯度。亦有寵於世祖。常典作役。課督苛虐。捶扑慘毒。人皆苦之。帝常戲曰。顯度爲百姓患。比當除之。左右因唱諾。卽宣旨殺之。尙書右僕射領衞尉卿丹楊尹顏師伯。居權日久。驕奢淫恣。爲衣冠所疾。帝欲親朝政。庚午。以師伯爲尙書左僕射。解卿尹。以吏部尙書王彧爲右僕射。分其權任。師伯始懼。初世祖多猜忌。王公大臣。重足屏息。莫敢安相過從。世祖殂。太宰義恭等。皆相賀曰。今日始免橫死矣。甫過山陵。義恭與柳元景。顏師伯等。聲樂酣飲。不捨晝夜。帝內不能平。既殺戴法興。諸大臣。無不震慴。各不自安。於是元景。師伯。密謀廢帝立義恭。日夜聚謀。而持疑不能決。元景以其謀告沈慶之。慶之與義恭。素不厚。又師伯常專斷朝事。不與慶之參懷。謂令史曰。沈公爪牙耳。安得預政事。慶之恨之。乃發其事。癸酉。帝自帥羽林兵。討義恭。殺之。幷其四子。斷絕義恭支體。分裂腸胃。挑取眼睛。以蜜漬之。謂之鬼目粽。別遣使者。稱詔。召柳元景。以兵隨之。左右奔告。兵刃非常。元景知禍至。入辭其母。整朝服。乘車應召。弟車騎司馬叔仁。戎服帥左右壯士。欲拒命。元景苦禁之。既出巷。軍士大至。元景下車受戮。容色恬然。幷其八子。六弟。及諸姪。獲顏師伯於道。殺之。幷其六子。又殺廷尉劉德願。改元景和。文武進位二等。遣使誅湘州刺史江夏世子伯禽。自是公卿已下。皆被捶曳。如奴隸矣。初帝在東宮。多過失。世祖欲廢之。而立新安王子鸞。侍中袁顗。盛稱太子好學。有日新之美。世祖乃止。帝由是德之。既誅羣公。欲引進顗。任以朝政。遷爲吏部尙書。與尙書左丞徐爰。皆以誅

義恭等功。賜爵縣子。徐爰便辟善事人。頗涉書傳。自元嘉初。入侍左右。豫參顧問。既長於附會。又飾以典文。故爲太祖所任遇。大明之世。委寄尤重。時殿省舊人。多見誅逐。唯爰巧於將迎。始終無迕。廢帝待之益厚。羣臣莫及。帝每出。常與沈慶之。及山陰公主同輦。爰亦預焉。山陰公主。帝姊也。適駙馬都尉何戢。戢偃之子也。公主尤淫恣。嘗謂帝曰。妾與陛下男女雖殊。俱託體先帝。陛下六宮萬數。而妾唯駙馬一人。事太不均。帝乃爲公主置面首左右三十人。進爵會稽郡長公主。秩同郡王。吏部郎褚淵。貌美。公主就帝請以自侍。帝許之。淵侍公主十餘日。備見逼迫。以死自誓。乃得免。淵湛之之子也。帝令太廟別畫祖考之像。帝入廟指高祖像曰。渠大英雄。生擒數天子。指太祖像曰。渠亦不惡。但末年不免兒斫去頭。指世祖像曰。渠大鼈鼻。如何不鼈。立召畫工令鼈之。○以建安王休仁爲雍州刺史。湘東王彧爲南豫州刺史。皆留不遣。○甲戌。以司徒揚州刺史豫章王子尚領尚書令。以始興公沈慶之爲侍中。太尉。慶之固辭。徵青冀二州刺史王玄謨爲領軍將軍。○魏葬文成皇帝于金陵。廟號高宗。○九月。癸巳。帝如湖。熟。戊戌。還建康。○新安王子鸞。寵於世祖。帝疾之。辛丑。遣使賜子鸞死。又殺其母弟南海王子師。及其母妹。發殷貴妃墓。又欲掘景寧陵。太史以爲不利於帝。乃止。初金紫光祿大夫謝莊。爲殷貴妃誄。曰。贊軌堯門。帝以莊比貴妃於鉤弋夫人。欲殺之。或說帝曰。死者。人之所同。一往之苦。不足爲困。莊生長富貴。今繫之尚方。使知天下苦劇。然後殺之。未晚也。帝從之。○徐州刺史義陽王昶。素爲世祖所惡。民間每訛言。昶當反。是歲。訛言尤甚。廢帝常謂左右曰。我卽大位。以來。遂未嘗戒嚴。使人邑邑。昶使典籤蘧法生奉表詣建康。求入朝。帝謂法生曰。義陽與太宰謀反。我正欲討之。今知求還。甚善。又屢詰問法生。義陽謀反。何故不啓。法生懼。逃還彭城。帝因此用兵。己酉。下詔。討昶。內外戒嚴。帝自將兵渡江。命沈慶之。統諸軍。前驅。法生至彭城。昶卽聚兵反。移檄統內諸郡。皆不受命。斬昶使。將佐文武。悉懷異心。昶知事不成。棄母妻。攜愛妾。夜與數十騎。開北門奔魏。昶頗涉學能屬文。魏人重之。使尚公主。拜侍中。征南將軍。駙馬都尉。賜爵丹楊王。○吏部尚書袁顗。始爲帝所寵任。俄而失指。待遇頓衰。使有司糾奏其罪。白衣領職。顗懼。詭辭求出。甲寅。以顗督雍梁諸軍事。雍州刺史。顗舅蔡興宗。謂之曰。襄陽星惡。何可往。顗曰。白刃交前。不救流矢。今者之行。唯願生出虎口耳。且天道遼遠。何必皆驗。是時。臨海王子頊。爲都督荊湘等八州諸軍事。荊州刺史。朝廷以興宗爲子頊長史。南郡太守。行府州事。興宗辭不行。顗說興宗曰。朝廷形勢。人所共見。在內大臣。朝不保夕。舅今出居陝西。爲八州行事。顗在襄沔。地勝兵彊。去江陵咫尺。水陸流通。若朝廷有事。可以共立桓文之功。豈比受制凶狂。臨不測之禍乎。今得間不去。後復求出。豈可得邪。外釁未必可量。汝欲在外求全。我欲居中免禍。各行其志。不亦善乎。顗於是狼狽上路。得弭。外釁未必可量。汝欲在外求全。我欲居中免禍。各行其志。不亦善乎。顗於是狼狽上路。猶慮見追。行至尋陽。喜曰。今始免矣。鄧琬爲晉安王子勛鎮軍長史。尋陽內史。行江州事。顗與琬人地本殊。見者知其有異志矣。尋復以蔡興宗爲吏部尚書。○戊午。解嚴。帝因自白下濟江。至瓜步。○沈慶之復啓。聽民私鑄錢。由是。錢貨亂敗。千錢長不盈三寸。大小稱此。謂之鵝眼錢。劣於此者。謂之綖環錢。貫之以縷。入水不沈。隨手破碎。市井不復料數。十萬錢不盈一掬。斗米一萬。商貨不行。○冬。十月。丙寅。帝還建康。○帝舅東陽太守王藻。尚世祖女臨川長公主。公主妬。譖藻於帝。己卯。藻下獄死。會稽太守孔靈符。所至有政績。以忤犯近臣。近臣譖之。帝遣使鞭殺靈符。并誅其二子。寧朔將軍何邁。瑀之子也。尚帝姑新蔡長公主。帝納主於後宮。謂之謝貴嬪。詐言公主薨。殺宮婢。送邁第。殯葬行喪禮。庚辰。拜貴嬪爲夫人。加鸞輅龍旂。出警入蹕。邁素豪俠。多養死士。謀因帝出遊。廢之。立晉安王子勛。事泄。十一月。壬辰。帝自將兵誅邁。初沈慶之既發顏柳之謀。遂自昵於帝。

數盡言規諫。帝浸不悅。慶之懼。杜門不接賓客。嘗遣左右范羨至吏部尚書蔡興宗所。興宗使羨謂慶之曰。公閉門絕客。以避悠悠請託者耳。如興宗非有求於公者也。何爲見拒。慶之使羨邀興宗。興宗往見慶之。因說之曰。主上比者所行。人倫道盡。率德改行。無可復望。今所忌憚。唯在於公。百姓喁喁。所瞻賴者。亦在公一人而已。公威名素著。天下所服。今舉朝遑遑。人懷危怖。指麾之日。誰不響應。如猶豫不斷。欲坐觀成敗。豈惟旦夕及禍。四海重責。將有所歸。僕蒙眷異常。故敢盡言。願公詳思其計。慶之曰。僕誠知今日憂危。不復自保。但盡忠奉國。始終以之。當委任天命耳。加老退私門。兵力頓闕。雖欲爲之。事亦無成。興宗曰。當今懷謀思奮者。非欲邀功賞富貴。止求脫朝夕之死耳。殿中將帥。唯聽外間消息。若一人唱首。則俯仰可定。況公統戎累朝。舊日部曲。布在宮省。受恩者多。沈攸之輩。皆公家子弟耳。何患不從。且公門徒義附。並三吳勇士。殿中將軍陸攸之。公之鄉人。今入東討賊。大有鎧仗。在青溪未發。公取其器仗。以配衣麾下。使陸攸之帥以前驅。僕在尚書中。自當帥百僚。案前世故事。更簡賢明。以奉社稷。天下之事立定矣。又朝廷諸所施爲。民間傳言。公悉豫之。公今不決。當有先公起事者。公亦不免。附從之禍。聞車駕屢幸貴第。酣醉淹留。又聞屏左右。獨入閤內。此萬世一時。不可失也。慶之曰。感君至言。然此大事。非僕所能行。事至。固當抱忠以沒耳。青州刺史沈文秀慶之弟子也。將之鎮帥部曲。出屯白下。亦說慶之曰。主上狂暴如此。禍亂不久。而一門受其寵任。萬物皆謂與之同心。且若人愛憎無常。猜忍特甚。不測之禍。進退難免。今因此衆力圖之。易於反掌。機會難值。不可失也。再三言之。至於流涕。慶之終不從。文秀遂行。及帝誅何邁。量慶之必當入諫。先閉青溪諸橋。以絕之。慶之聞之。果往。不得進。而還。帝乃使慶之從父兄子直閤將軍攸之賜慶之藥。慶之不肯飲。攸之以被揜殺之。時年八十。慶之子侍中文叔。欲亡。恐如太宰義恭被支解。謂其弟中書郎文季曰。我能死。爾能報。遂飲慶之之藥。而死。弟祕書郎昭明亦自經死。文季揮刀馳馬而去。追者不敢逼。遂得免。帝詐言慶之病薨。贈侍中太尉。謚曰忠武公。葬禮甚厚。領軍將軍王玄謨數流涕諫帝。以刑殺過差。帝大怒。玄謨。宿將。有威名。道路訛言。玄謨已見誅。蔡興宗嘗爲東陽太守。玄謨典籤包法榮。家在東陽。玄謨使法榮至興宗所。興宗謂法榮曰。領軍殊當憂懼。法榮曰。領軍。比日殆不復食。夜亦不眠。恒言。收已在門。不保俄頃。興宗曰。領軍憂懼。當爲方略。那得坐待禍至。因使法榮勸玄謨舉事。玄謨使法榮謝曰。此亦未易。可行。期當不泄。君言。右衛將軍道隆。爲帝所寵任。專典禁兵。興宗嘗與之俱從帝夜出。道隆過興宗車後。興宗曰。劉君。比日思一閑寫。道隆解其意。揞興宗手曰。蔡公勿多言。○壬寅。立皇后路氏。太皇太后弟道慶之女也。○帝畏忌諸父。恐其在外爲患。皆聚之建康。拘於殿內。歐捶陵曳。無復人理。湘東王彧。建安王休仁。山陽王休祐。皆肥壯。帝爲竹籠。盛而稱之。以彧尤肥。謂之豬王。謂休仁爲殺王。休祐爲賊王。以三王年長。尤惡之。常錄以自隨。不離左右。東海王禕。性凡劣。謂之驢王。桂陽王休範。巴陵王休若。年尚少。故並得從容。嘗以木槽盛飯。幷雜食攪之。掘地爲坑。實以泥水。裸彧。內坑中。使以口就槽食之。用爲歡笑。前後欲殺三王。以十數。休仁多習數。每以談笑佞諛說之。故得推遷。少府劉曚妾。孕臨月。帝迎入後宮。候其生男。欲立爲太子。或嘗忤旨。帝裸之。縛其手足。貫之以杖。使人擔付太官。曰。今日屠豬。休仁笑曰。豬未應死。帝問其故。休仁曰。待皇子生。殺豬。取其肝肺。帝怒乃解。曰。且付廷尉。一宿釋之。丁未。曚妾生子。名曰皇子。爲之大赦。賜爲父後者爵一級。帝又以太祖世祖。在兄弟數。皆第三。江州刺史晉安王子勛。亦第三。故惡之。因何邁之謀。使左右朱景雲送藥。賜子勛死。景雲至湓口。停不進。子勛典籤謝道邁。主帥潘欣之。侍書褚靈嗣。聞之。馳以告長史鄧琬。泣涕請計。琬曰。身南土寒士。蒙先帝殊恩。以愛子見託。豈得惜門戶百口。期當以死報効。幼主昏暴。社稷危殆。雖曰天子。事猶獨夫。今便指帥文武。直造京邑。與

羣公卿士。廢昏立明耳。戊申。琬稱子勛教。令所部。戒嚴。子勛戎服出聽事。集僚佐。使潘欣之口宣旨諭之。四座未對。錄事參軍陶亮。首請效死前驅。衆皆奉旨。乃以亮爲諮議參軍。領中兵。總統軍事。功曹張沈爲諮議參軍。統作舟艦。南陽太守沈懷寶。岷山太守薛常寶。彭澤令陳紹宗等。竝爲將帥。初帝使荊州錄送前軍長史荊州行事張悅。至溢口。琬稱子勛命。釋其桎梏。迎以所乘車。以爲司馬。悅。暢之弟也。琬悅二人。共掌內外衆事。遣將軍俞伯奇。帥五百人。斷大雷。禁絕商旅。及公私使命。遣使上諸郡民丁。收斂器械。旬日之內。得甲士五千人。出頓大雷。於兩岸築壘。又以巴東。建平二郡太守孫冲之爲諮議參軍。領中兵。與陶亮。竝統前軍。移檄遠近。○戊午。帝召諸妃主。列於前。彊左右。使辱之。南平王鑠妃江氏。不從。帝怒。殺妃三子。南平王敬猷。廬陵王敬先。安南侯敬淵。鞭江妃一百。先是民間訛言。湘中出天子。帝將南巡荊湘二州。以厭之。明旦。欲先誅湘東王彧。然後發。初帝既殺諸公。恐羣下謀己。以直閤將軍宗越。譚金。童太一。沈攸之等。有勇力。引爲爪牙。賞賜美人金帛。充牣其家。越等。久在殿省。衆所畏服。皆爲帝盡力。帝恃之。益無所顧憚。恣爲不道。中外騷然。左右宿衞之士。皆有異志。而畏越等。不敢發。時三王久幽。不知所爲。湘東王彧主衣會稽阮佃夫。內監吳興王道隆。學官令臨淮李道兒。與直閤將軍柳光世。及帝左右琅邪淳于文祖等。謀弒帝。帝以立后故。假諸王閹人。或左右錢藍生。亦在中。或密使候帝動止。先是帝遊華林園竹林堂。使宮人倮相逐。一人不從命。斬之。夜。夢在竹林堂。有女子罵曰。帝悖虐不道。明年不及熟矣。帝於宮中。求得一人似所夢者。斬之。又夢所殺者罵曰。我已訴上帝矣。於是巫覡言。竹林堂有鬼。是日晡時。帝出華林園。建安王休仁。山陽王休祐。會稽公主竝從。湘東王彧。獨在祕書省。不被召。益憂懼。帝素惡主衣吳興壽寂之。見輒切齒。阮佃夫。以其謀告寂之。及外監典事東陽朱幼。細鎧主南彭城姜產之。細鎧將晉陵王敬則。中書舍人戴明寶。寂之等聞之。皆響應。幼豫約勒內外。使錢藍生密報休仁。休祐。時帝欲南巡。腹心宗越等。竝聽出外裝束。唯隊主樊僧整。防華林園。柳光世與僧整鄉人。因密邀之。僧整卽受命。凡同謀十餘人。阮佃夫慮力少不濟。更欲招合壽寂之曰。謀廣或泄。不煩多人。其夕。帝悉屏侍衞。與羣巫及綵女數百人。射鬼於竹林堂。事畢。將奏樂。壽寂之抽刀前入。姜產之次之。淳于文祖等。皆隨其後。休仁聞行聲甚疾。謂休祐曰。事作矣。相隨奔景陽山。帝見寂之至。引弓射之。不中。綵女皆迸走。帝亦走。大呼寂寂者三。寂之追而弒之。宣令宿衞曰。湘東王受太皇太后令。除狂主。今已平定。殿省惶惑。未知所爲。休仁就祕書省。見湘東王。卽稱臣。引升西堂。登御座。召見諸大臣。于時。事起倉猝。王失履。跣至西堂。猶著烏帽。坐定。休仁呼主衣。以白帽代之。令備羽儀。雖未卽位。凡事。悉稱令書施行。宣太皇太后令。數廢帝罪惡。命湘東王纂承皇極。及明宗越等始入。湘東王撫接甚厚。廢帝母弟司徒揚州刺史豫章王子尙。頑悖有兄風。己未。湘東王以太皇太后令。賜子尙及會稽公主死。建安王休仁等。始得出居外舍。釋謝莊之囚。廢帝猶橫尸太醫閤口。蔡興宗謂尙書右僕射王彧曰。此雖凶悖。要是天下之主。宜使喪禮粗足。若直如此。四海必將乘人。乃葬之秣陵縣南。初湘東王母沈婕妤。早卒。路太后養之。王事太后甚謹。太后愛王。亦篤。王既弒廢帝。欲慰太后心。下令。以太后弟子休之爲黃門侍郎。茂之爲中書侍郎。論功行賞。壽寂之等十四人。皆封縣侯縣子。十二月。庚申朔。以東海王禕爲中書監。太尉。進鎭軍將軍江州刺史晉安王子勛爲車騎將軍。開府儀同三司。癸亥。以建安王休仁爲司徒。尙書令。揚州刺史。以山陽王休祐爲荊州刺史。桂陽王休範爲南徐州刺史。○乙丑。徙安陸王子綏爲江夏王。○丙寅。湘東王卽皇帝位。大赦。改元。其廢帝時昏制謬封。竝皆刊削。庚午。以右衞將軍劉道隆爲中護軍。道隆暱於廢帝。嘗無禮於建安王。休仁求解職。明帝乃賜道隆死。宗越。譚金。童太一等。雖爲上所撫接。內不自安。上亦不欲使居中。從容謂之曰。卿等。

遭羅暴朝勤勞日久應得自養之地兵馬大郡隨卿等所擇越等素已自疑聞之皆相顧失色因謀作亂以告沈攸之攸之以聞上收越等下獄死攸之復入直閤○辛未徙臨賀王子產爲南平王晉熙王子輿爲廬陵王○壬申以尚書右僕射王景文爲尚書僕射景文卽或也避上名以字行○乙亥追尊沈太妃曰宣太后陵曰崇寧○初豫州刺史山陽王休祐入朝以長史南梁郡太守殷琰行府州事及休祐徙荊州卽以琰爲督豫司二州諸軍事豫州刺史○有司奏路太后宜卽前號移居外宮上不許戊寅尊路太后爲崇憲皇太后居崇憲宮供奉禮儀不異舊日立妃王氏爲皇后后景文之妹也○罷二銖錢禁鵝眼綖環錢餘皆通用○江州佐吏得上所下令書皆喜共造鄧琬曰暴亂既除殿下又開黃閤實爲公私大慶琬以晉安王子勛次第居三又以尋陽起事與世祖同符謂事必有成取令書投地曰殿下當開端門黃閤是吾徒事耳衆皆駭愕琬更與陶亮等繕治器甲徵兵四方袁顗既至襄陽卽與諮議參軍劉胡繕修兵械簡集士卒詐稱被太皇太后令使其起兵卽建牙馳檄奉表勸子勛卽大位辛巳更以山陽王休祐爲江州刺史荊州刺史臨海王子頊卽留本任先是廢帝以邵陵王子元爲湘州刺史中兵參軍沈仲玉爲道路行事至鵲頭聞尋陽兵起不敢進琬遣數百人劫迎之令子勛建牙於桑尾傳檄建康稱孤志遵前典黜幽陟明又謂上矯害明茂篡竊大寶干我昭穆寡我兄弟藐孤同氣猶有十三聖靈何辜而當乏饗郢州刺史安陸王子綏承子勛初檄欲攻廢帝開廢帝已隕卽解甲下標既而聞江雍猶治兵郢府行事苟卞之大懼卽遣諮議領中兵參軍鄭景玄帥衆馳下并送軍糧荊州行事孔道存奉刺史臨海王子頊會稽將佐奉太守尋陽王子房皆舉兵以應子勛

資治通鑑卷第一百三十

資治通鑑卷第一百三十一

宋紀十三

太宗明皇帝上之下

泰始二年春正月己丑朔魏大赦改元天安○癸巳徵會稽太守尋陽王子房爲撫軍將軍以巴陵王休若代之甲午中外戒嚴以司徒建安王休仁都督征討諸軍事車騎將軍江州刺史王玄謨副之休仁軍於南州以沈攸之爲尋陽太守將兵屯虎檻時玄謨未發前鋒凡十軍絡繹繼至每夜各立姓號不相稟受攸之謂諸將曰今衆軍姓號不同若有耕夫漁父夜相呵叱便致駭亂取敗之道也請就一軍取號衆咸從之○鄧琬稱說符瑞詐稱受路太后璽書帥將佐上尊號於晉安王子勛乙未子勛卽皇帝位於尋陽改元義嘉以安陸王子綏爲司徒揚州刺史尋陽王子房臨海王子頊並加開府儀同三司以鄧琬爲尚書右僕射張悅爲吏部尚書袁顗加尚書左僕射自餘將佐及諸州郡除官進爵號各有差○丙申以征虜司馬申令孫爲徐州刺史令孫坦之子也置司州於義陽以義陽內史龐孟虬爲司州刺史徐州刺史薛安都冀州刺史清河崔道固皆舉兵應尋陽上徵兵於青州刺史沈文秀文秀遣其將劉彌之等將兵赴建康會薛安都遣使邀文秀文秀更令彌之等應安都濟陰太守申闡據睢陵應建康安都遣其從子直閤將軍索兒太原太守清河傅靈越等攻之闡令孫之弟也安都壻裴祖隆守下邳劉彌之至下邳更以所領應建康襲擊祖隆祖隆兵敗與征北參軍垣崇祖奔彭城崇祖護之之從子也彌之族人北海太守懷恭從子善明皆舉兵

以應彌之。薛索兒聞之。釋睢陵。引兵擊彌之。彌之戰敗。走保北海。申令孫進據淮陽。請降於索兒。龐孟虬亦不受命。舉兵應尋陽。帝召尋陽王長史行會稽郡事孔覬。爲太子詹事。以平西司馬庾業代之。又遣都水使者孔璪入東慰勞。璪說覬以建康虛弱。不如擁五郡。以應袁鄧。覬遂發兵馳檄。奉尋陽。吳郡太守顧琛。吳興太守王曇生。義興太守劉延熙。晉陵太守袁標。皆據郡應之。上又以庾業代延熙。爲義興業。至長塘湖。卽與延熙合。益州刺史蕭惠開。聞晉安王子勛舉兵。集將佐。謂之曰。湘東。太祖之昭。晉安。世祖之穆。其於當璧。竝無不可。但景和雖昏。本是世祖之嗣。不任社稷。其次猶多。吾荷世祖之眷。當推奉九江。乃遣巴郡太守費欣壽。將五千人。東下。於是湘州行事何慧文。廣州刺史袁曇遠。梁州刺史柳元怙。山陽太守程天祚。皆附於子勛。元怙。元景之從子也。是歲。四方貢計。皆歸尋陽。朝廷所保。唯丹楊淮南等數郡。其間諸縣。或應子勛。東兵已至永世。宮省危懼。上集羣臣。以謀成敗。蔡興宗曰。今普天同叛。宜鎭之以靜。至信待人。叛者親戚。布在官省。若繩之以法。則土崩立至。宜明罪不相及。之義。物情既定。人有戰心。六軍精勇。器甲犀利。以待不習之兵。其勢相萬耳。願陛下勿憂。上善之。○建武司馬劉順。說豫州刺史殷琰。使應尋陽。琰以家在建康。未許。右衞將軍柳光世。自省內。出奔彭城。過壽陽。言建康必不能守。琰信之。且素無部曲。爲士豪前右軍參軍杜叔寶等所制。不得已而從之。琰以叔寶爲長史。內外軍事。皆叔寶專之。上謂蔡興宗曰。諸處未平。殷琰已復同逆。頃日人情云何。事當濟不。興宗曰。逆之與順。臣無以辨。今商旅斷絕。米甚豐賤。四方雲合。而人情更安。以此卜之。清蕩可必。但臣之所憂。更在事後。猶羊公言。既平之後。方當勞聖慮耳。上曰。誠如卿言。上知琰附尋陽。非本意。乃厚撫其家。以招之。○汝南新蔡二郡太守周矜。起兵於懸瓠。以應建康。袁顗誘矜司馬汝南常珍奇。執矜斬之。以珍奇代爲太守。○上使冗從僕射垣榮祖。還徐州。說薛安都。安都曰。今京都。無百里地。不論攻圍取勝。自可拍手笑殺。且我不欲負孝武。榮祖曰。孝武之行。足致徐殃。今雖天下雷同。正是速死無能爲也。安都不從。因留榮祖。使爲將。榮祖。崇祖之從父兄也。○兗州刺史殷孝祖之甥。司法參軍葛僧韶。請徵孝祖入朝。上遣之。時薛索兒屯據津逕。僧韶間行得至。說孝祖曰。景和凶狂。開闢未有。朝野危極。假命漏刻。主上夷兇翦暴。更造天地。國亂朝危。宜立長君。而羣迷相煽。構造無端。貪利幼弱。競懷希望。使天道助逆。羣凶事申。則主幼時艱。權柄不一。兵難互起。豈有自容之地。眞少有立功之志。若能控濟義勇。還奉朝廷。非唯匡主靜亂。乃可以垂名竹帛。孝祖具問朝廷消息。僧韶隨方訓譬。幷陳兵甲精彊。主上欲委以前驅之任。孝祖卽日委妻子於瑕丘。帥文武二千人。隨僧韶還建康。時四方皆附尋陽。朝廷。唯保丹楊一郡。而永世令孔景宣。復叛。義興兵。垂至延陵。內外憂危。咸欲奔散。孝祖忽至。衆力不少。竝傖楚壯士。人情大安。甲辰。進孝祖號撫軍將軍。假節都督前鋒諸軍事。遣向虎檻。寵賚甚厚。初上遣東平畢衆敬。詣兗州募人。至彭城。薛安都以利害說之。矯上命。以衆敬行兗州事。衆敬從之。殷孝祖使司馬劉文石守瑕丘。衆敬引兵擊殺之。安都素與孝祖有隙。使衆敬盡殺孝祖諸子。州境皆附之。唯東平太守申纂據無鹽。不從。纂。鍾之曾孫也。○丙午。上親總兵。出頓中堂。辛亥。以山陽王休祐爲豫州刺史。督輔國將軍彭城劉勔。寧朔將軍廣陵呂安國等諸軍。西討殷琰。巴陵王休若督建威將軍吳興沈懷明。尙書張永。輔國將軍蕭道成等諸軍。東討孔覬。時將士。多東方人。父兄子弟。皆已附覬。上因送軍。普加宣示曰。朕方務德簡刑。使父子兄弟。罪不相及。助順向逆者。一以所從爲斷。卿等。當深達此懷。勿以親戚爲慮也。衆於是大悅。凡叛者親黨在建康者。皆使居職如故。○壬子。路太后殂。○孔覬遣其將孫曇瓘等。軍於晉陵九里。部陳甚盛。沈懷明至奔牛。所領寡弱。乃築壘自固。張永至曲阿。未知懷明安否。百姓驚擾。永退還延陵。就巴陵王休若。諸將帥咸勸休若。退保破岡。其日大寒。風雪甚猛。塘埭決壞。衆無

固心。休若宣令。敢有言退者斬。衆小定。乃築壘息甲。尋得懷明書。賊定未進。軍主劉亮又至。兵力轉盛。人情乃安。亮。懷慎之從孫也。殿中御史吳喜。以主書事世祖。稍遷河東太守。至是。請得精兵三百。致死於東。上假喜建武將軍。簡羽林勇士配之。議者以喜刀筆主者。未嘗爲將。不可遣。中書舍人巢尙之曰。喜昔隨沈慶之。屢經軍旅。性既勇決。又習戰陳。若能任之。必有成績。諸人紛紜。皆是不別才耳。乃遣之。喜先時數奉使東吳。性寬厚。所至。人竝懷之。百姓聞吳河東來。皆望風降散。故喜所至克捷。永世人徐崇之。攻孔景宣。斬之。喜板崇之領縣事。喜至國山。遇東軍。進擊。大破之。自國山。進屯吳城。劉延熙遣其將楊玄等拒戰。喜兵力甚弱。玄等衆盛。喜奮擊。斬之。進逼義興。延熙柵斷長橋。保郡自守。喜築壘。與之相持。庾業於長塘湖口。夾岸築城。有衆七千人。與延熙遙相應接。沈懷明。張永。與晉陵軍相持。久不決。外監朱幼舉。司徒參軍督護任農夫。驍勇有膽力。上以四百人配之。使助東討。農夫自延陵出長塘。庾業築城猶未合。農夫馳往攻之。力戰。大破之。庾業弃城。走義興。農夫收其船仗。進向義興。助吳喜。二月。己未朔。喜渡水。攻郡城。分兵擊諸壘。登高指麾。若令四面俱進者。義興人大懼。諸壘皆潰。延熙赴水死。遂克義興。○魏丞相太原王乙渾。專制朝權。多所誅殺。安遠將軍賈秀。掌吏曹事。渾屢言於秀。爲其妻求稱公主。秀曰。公主。豈庶姓所宜稱。秀寧取死。今日不可取笑後世。渾怒。罵曰。老奴官慳。會侍中拓跋丕告渾謀反。庚申。馮太后收渾。誅之。秀。彝之子。丕。烈帝之玄孫也。太后臨朝稱制。引中書令高允。中書侍郎高閭。及賈秀。共參大政。○沈懷明。張永。蕭道成等。軍於九里西。與東軍相持。東軍聞義興敗。皆震恐。上遣積射將軍濟陽江方興。御史王道隆。至晉陵。視東軍形勢。孔覬將孫曇瓘。程扞宗。列五城。互相連帶。扞宗城猶未固。王道隆與諸將謀曰。扞宗城猶未立。可以藉手。上副聖旨。下成衆氣。辛酉。道隆帥所領。急攻拔之。斬扞宗首。永等。因乘勝。進擊曇瓘等。壬戌。曇瓘等兵敗。與袁標俱棄城走。遂克晉陵。吳喜軍至義鄉。孔璪屯吳興南亭。太守王曇生。詣璪計事。聞臺軍已近。璪大懼。墮牀。曰。懸賞所購。唯我而已。今不遽走。將爲人擒。遂與曇生奔錢唐。喜入吳興。任農夫引兵向吳郡。顧琛棄郡。奔會稽。上以四郡既平。乃留吳喜。使統沈懷明等諸將。東擊會稽。召張永等。北擊彭城。江方興等。南擊尋陽。○以吏部尙書蔡興宗爲左僕射。侍中褚淵爲吏部尙書。○丁卯。吳喜軍至錢唐。孔璪。王曇生。奔浙東。喜遣彊弩將軍任農夫等。引兵向黃山浦。東軍。據岸結寨。農夫等。擊破之。喜自柳浦渡。取西陵。擊斬庾業。會稽人大懼。將士多奔亡。孔覬不能制。戊寅。上虞令王晏。起兵攻郡。覬逃奔嶀山。車騎從事中郎張綏。封府庫。以待吳喜。己卯。王晏入城。殺綏。執尋陽王子房於別署。縱兵大掠。府庫皆空。獲孔璪。殺之。庚辰。嶀山民縛孔覬。送晏。晏謂之曰。此事。孔璪所爲。無預卿事。可作首辭。當相爲申上。覬曰。江東處分。莫不由身。委罪求活。便是君輩行意耳。晏乃斬之。顧琛。王曇生。袁標等。詣吳喜歸罪。喜皆宥之。東軍主。凡七十六人。臨陳斬十七人。其餘皆原宥。○薛索兒攻申闡。久不下。使申令孫入睢陵。說闡。闡出降。索兒并令孫殺之。○山陽王休祐。在歷陽。輔國將軍劉勔。進軍小峴。殷琰所署南汝陰太守裴季之。以合肥來降。○鄧琬性鄙闇貪吝。既執大權。父子賣官鬻爵。使婢僕出市道販賣酢歌博弈。日夜不休。大自矜遇。賓客到門者。歷旬不得前。內事悉委褚靈嗣等三人。羣小橫恣。競爲威福。於是士民忿怨。內外離心。琬遣孫冲之。帥龍驤將軍薛常寶。陳紹宗。焦度等。兵一萬。爲前鋒。據赭圻。冲之於道與晉安王子勛書曰。舟檝已辦。糧仗亦整。三軍踴躍。人爭效命。便欲沿流挂帆。直取白下。願速遣陶亮衆軍。兼行相接。分據新亭南洲。則一麾定矣。子勛加冲之左衛將軍。以陶亮爲右衛將軍。統郢荊湘梁雍五州兵。合二萬人。一時俱下。陶亮本無幹略。聞建安王休仁自上。殷孝祖又至。不敢進。屯軍鵲洲。殷孝祖負其誠節。陵轢諸將。臺軍。有父子兄弟在南者。孝祖悉欲推治。由是人情乖離。莫樂爲用。寧朔將軍沈攸之。內撫將士。

外諸羣帥。衆並賴之。孝祖每戰。常以鼓蓋自隨。軍中人相謂。殷統軍。可謂死將矣。今與賊交鋒。而以羽儀自標顯。若善射者十人共射之。欲不斃得乎。三月。庚寅。衆軍水陸並進。攻赭圻。陶亮等。引兵救之。孝祖於陳爲流矢所中死。軍主范潛。帥五百人降於亮。人情震駭。並謂沈攸之宜代孝祖爲統。時建安王休仁軍虎檻。遣寧朔將軍江方興。龍驤將軍襄陽劉靈遺。各將三千人。赴赭圻。攸之以爲孝祖既死。亮等有乘勝之心。明日。若不更攻。則示之以弱。方興名位相亞。必不爲己下。軍政不壹。致敗之由也。乃帥諸軍主詣方興。曰。今四方並反。國家所保。無復百里之地。唯有殷孝祖。爲朝廷所委賴。鋒鏑裁交。輿尸而反。文武喪氣。朝野危心。事之濟否。唯在明旦一戰。戰若不捷。大事去矣。詰朝之事。諸人咸謂。吾應統之。自卜懦薄。幹略不如卿。今輒相推爲統。但當相與勠力耳。方興甚悅。許諾。攸之既出。諸軍主並尤之。攸之曰。吾本濟國活家。豈計彼此之升降。且我能下彼。彼必不能下我。豈可自措同異也。孫冲之謂陶亮曰。孝祖梟將。一戰便死。天下事定矣。不須復戰。便當直取京都。亮不從。辛卯。方興帥諸將進戰。建安王休仁。又遣軍主郭季之。步兵校尉杜幼文。屯騎校尉垣恭祖。龍驤將軍濟地頓生。京兆段佛榮等。三萬人。往會戰。自寅及午。大破之。追北至姥山。而還。幼文。驥之子也。孫冲之於湖白口。築二城。軍主竟陵張興世。攻拔之。壬辰。詔以沈攸之爲輔國將軍。假節。代殷孝祖。督前鋒諸軍事。陶亮聞湖白二城不守。大懼。急召孫冲之。還鵲尾。留薛常寶等。守赭圻。先於姥山及諸岡。分立營寨。亦各散還。共保濃湖。時軍旅大起。國用不足。募民。上錢穀者。賜以荒縣荒郡。或五品至三品散官。有差。軍中食少。建安王休仁。撫循將士。均其豐儉。弔死問傷。身自隱卹。故士萬之衆。莫有離心。鄧琬遣其豫州刺史劉胡。帥衆三萬。鐵騎二千。東屯鵲尾。并舊兵凡十餘萬。胡。宿將。勇健多權略。屢有戰功。將士畏之。司徒中兵參軍冠軍蔡那子弟在襄陽。胡每戰。懸之城外。那進戰不顧。吳喜既定三吳。帥所領五千人。并運資實。至于赭圻。

○薛索兒。將馬步萬餘人。自睢陵渡淮。進逼青冀二州。刺史張永營。丙申。詔南徐州刺史桂陽王休範。統北討諸軍事。進據廣陵。又詔蕭道成。將兵救永。○戊戌。尋陽王子房。至建康。上宥之。貶爵爲松滋侯。○庚子。魏以隴西王源賀爲太尉。○上遣寧朔將軍劉懷珍。帥龍驤將軍王敬則等。步騎五千。助劉勔。討壽陽。斬廬江太守劉道蔚。懷珍。善明之從子也。○中書舍人戴明寶。啓上。遣軍主竟陵黃回。募兵。擊斬尋陽所署馬頭太守王廣元。○前奉朝請壽陽鄭黑。起兵於淮上。以應建康。東扞殷琰。西拒常珍奇。乙巳。以黑爲司州刺史。○殷琰將劉順。柳倫。皇甫道烈。龐天生等。馬步八千人。東據宛唐。劉勔帥衆軍。並進。去順數里。立營。時琰所遣諸軍。並受順節度。而以皇甫道烈士豪。柳倫臺之所遣。順本卑微。唯不使統督二軍。勔始至。塹壘未立。順欲擊之。道烈倫不同。順不能獨進。乃止。勔營既立。不可復攻。因相持守。○壬子。斷新錢。專用古錢。○沈攸之帥諸軍。圍赭圻。薛常寶等糧盡。告劉胡求救。胡以囊盛米。繫流查及船腹。陽覆船。順風流下。以餉之。沈攸之疑其有異。遣人取船及流查。大得囊米。丙辰。劉胡帥步卒一萬。夜斫山開道。以布囊運米。餉赭圻。平旦至城下。猶隔小塹。未能入。沈攸之帥諸軍邀之。殊死戰。胡衆大敗。捨糧棄甲。緣山走。斬獲甚衆。胡被創。僅得還營。常寶等惶懼。夏四月。辛酉。開城突圍。走還。胡軍。攸之拔赭圻城。斬其寧朔將軍沈懷寶等。納降數千人。陳紹宗。單舸奔鵲尾。建安王休仁。自虎檻。進屯赭圻。劉胡等兵猶盛。上欲綏慰人情。遣吏部尚書褚淵。至虎檻。選用將士。時以軍功除官者衆。板不能供。始用黃紙。鄧琬以晉安王子勛之命。徵袁顗。下尋陽。顗悉雍州之衆。馳下。琬以黃門侍郎劉道憲。行荊州事。侍中孔道存。行雍州事。上庸太守柳世隆。乘虛襲襄陽。不克。世隆。元景之弟子也。○散騎侍郎明僧暠。起兵攻沈文秀。以應建康。壬午。以僧暠爲青州刺史。平原樂安二郡太守王玄默。據琅邪清河廣川二郡太守王玄邈。據盤陽城。高陽勃海二郡太守劉乘民。據臨濟城。並起兵。以應建康。玄邈。玄

謨之從弟。乘民。彌之之從子也。沈文秀遣軍主解彥士攻北海。拔之。殺劉彌之。乘民從弟伯宗。合帥鄉黨。復取北海。因引兵向青州。所治東陽城。文秀拒之。伯宗戰死。僧暠。玄默。玄邈。乘民。合兵攻東陽城。每戰。輒爲文秀所破。離而復合。如此者十餘。卒不能克。○杜叔寶謂臺軍住歷陽。不能遽進。及劉勔等至。上下震恐。劉順發車千五百乘。載米餉順。自將五千精兵。送之。呂安國聞之。言於劉勔曰。劉順精甲八千。我衆不能居半。相持既久。彊弱勢殊。更復推遷。則無以自立。所賴者。彼糧行竭。我食有餘耳。若使叔寶米至。非唯難可復圖。我亦不能持久。今唯有間道。襲其米車。出彼不意。若能制之。當不戰走矣。勔以爲然。以疲弱守營。簡精兵千人。配安國。及龍驤將軍黃回。使從間道出順後。於橫塘抄之。安國始行。齎二日熟食。食盡。叔寶不至。將士欲還。安國曰。卿等。旦已一食。今晚。米車不容不至。若其不至。夜去不晚。叔寶果至。以米車爲函箱陳。叔寶於外爲遊軍。幢主楊仲懷。將五百人居前。安國回等擊斬之。及其士卒皆盡。叔寶至。回欲乘勝擊之。安國曰。彼將自走。不假復擊。退三十里。止宿。夜遣騎參候。叔寶果弃米車走。安國復夜往。燒米車。驅牛二千餘頭而還。五月。丁亥朔。夜。劉順衆潰。走淮西。就常珍奇。於是劉勔鼓行。進向壽陽。叔寶斂居民。及散卒。嬰城自守。勔與諸軍。分營城外。山陽王休祐。與殷琰書。爲陳利害。上又遣御史王道隆。齎詔。宥琰罪。勔與琰書。并以琰兄瑗。子邈書。與之。琰與叔寶等。皆有降意。而衆心不壹。復嬰城固守。○弋陽西山蠻田益之。起兵應建康。詔以益之爲輔國將軍。督弋陽蠻事。○壬辰。以輔國將軍沈攸之爲雍州刺史。丁未。以尚書左僕射王景文爲中軍將軍。庚戌。以寧朔將軍劉乘民爲冀州刺史。○甲寅。葬昭太后於修寧陵。○張永。蕭道成等。與薛索兒戰。大破之。索兒退保石梁。食盡而潰。走向樂平。爲申令孫子孝叔所斬。薛安都子道智。走向合肥。詣裴季之降。傅靈越走至淮西。武衛將軍沛郡王廣之。生獲之。送詣劉勔。勔詰其叛逆。靈越曰。九州倡義。豈獨在我。薛公不能專任智勇。委付子姪。此其所以敗也。人生歸於一死。實無面求活。勔送詣建康。上欲赦之。靈越辭終不改。乃殺之。○鄧琬以劉胡與沈攸之等相持。久不決。乃加袁顗督征討諸軍事。六月。甲戌。顗帥樓船千艘。戰士二萬。來入鵲尾。顗本無將略。性又怯橈。在軍中。未嘗戎服。語不及戰陳。唯賦詩談義而已。不復撫接諸軍。劉胡每論事。酬對甚簡。由此大失人情。胡常切齒恚恨。胡以南運米未至。軍士匱乏。就顗借襄陽之資。顗不許曰。都下兩宅未成。方應經理。又信往來之言。云建康米貴。斗至數百。以爲將不攻自潰。擁甲以待之。○田益之帥蠻衆萬餘人。圍義陽。鄧琬使司州刺史龐孟虬帥精兵五千。救之。益之不戰潰去。○安成太守劉襲。始安內史王識之。建安內史趙道生。並舉郡來降。襲。道憐之孫也。蕭道成世子賾。爲南康顓令。鄧琬遣使。收繫之。門客蘭陵桓康。擔賾妻裴氏及其子長懋。子良。逃於山中。與賾族人蕭欣祖等。結客得百餘人。攻郡。破獄。出賾。南康相沈肅之。帥將吏追賾。賾與戰。擒之。賾自號寧朔將軍。據郡起兵。與劉襲等相應。琬以中護軍殷孚爲豫章太守。督上流五郡。以防襲等。○衡陽內史王應之。起兵應建康。襲擊湘州行事何慧文於長沙。應之與慧文。捨軍身戰。斫慧文八創。慧文斫應之。斷足殺之。○始興人劉嗣祖等。據郡起兵。擒曇遠。斬之。上以萬周行廣州事。○初武都王楊元和。治白水。微弱不能自立。棄國奔魏。元和從弟僧嗣。復自立。屯葭萌。費欣壽至巴東。巴東人任叔兒。據白帝。自號輔國將軍。擊欣壽。斬之。叔兒遂阻守三峽。蕭惠開復遣治中程法度。將兵三千。出梁州。楊僧嗣帥羣氏。斷其道。間使以聞。秋。七月。丁酉。以僧嗣爲北秦州刺史。武都王。○諸軍與袁顗相拒於濃湖。久未決。龍驤將軍張興世。建議曰。賊據上流。兵彊地勝。我雖持之有餘。而制之不足。若以奇兵數千。潛出其上。因險而壁。見利而動。使其首尾周遑。進退疑阻。中流既梗。糧運自艱。此制賊之奇也。

錢溪。江岸最狹。去大軍不遠。下臨洄洑。船下。必來泊岸。又有橫浦。可以藏船。千人守險。萬夫不能過。衝要之地。莫出於此。沈攸之。吳喜。竝贊其策。會龐孟虬引兵來助。殷琰劉勔遣使求援。甚急。建安王休仁。欲遣興世救之。沈攸之曰。孟虬蟻聚。必無能爲。遣別將。馬步數千。足以相制。興世之行。是安危大機。必不可輟。乃遣段佛榮將兵救勔。而選戰士七千。輕舸二百。配興世。興世帥其衆。泝流稍上。尋復退歸。如是者累日。劉胡聞之。笑曰。我尚不敢越彼下。取揚州。張興世何物人。欲輕據我上。不爲之備。一夕四更。值便風。興世舉帆直前。渡湖白。過鵲尾。胡既覺。乃遣其將胡靈秀。將兵於東岸。翼之而進。戊戌夕。興世宿景洪浦。靈秀亦留。興世潛遣其將黃道標。帥七十舸。徑趣錢溪。立營寨。己亥。興世引兵進據之。靈秀不能禁。庚子。劉胡自將水步二十六軍。來攻錢溪。將士欲迎擊之。興世禁之曰。賊來尚遠。氣盛而矢驟。驟既易盡。盛亦易衰。不如待之。令將士治城如故。俄而胡來轉近。船入洄洑。興世命壽寂之任農夫。率壯士數百。擊之。衆軍相繼竝進。胡敗走。斬首數百。胡收兵而下。時興世城寨未固。建安王休仁。慮袁顗幷力。更攻錢溪。欲分其勢。辛丑。命沈攸之吳喜等。以皮艦。進攻濃湖。斬獲千數。是日。劉胡帥步卒二萬。鐵馬一千。欲更攻興世。未至錢溪數十里。袁顗以濃湖之急。遽追之。錢溪城。由此得立。胡遣人傳唱。錢溪已平。衆竝懼。沈攸之曰。不然。若錢溪實敗。萬人中。應有一人逃亡得還者。必是彼戰失利。唱空聲。以惑衆耳。勒軍中。不得妄動。錢溪捷報尋至。攸之以錢溪所送胡軍耳鼻示濃湖。袁顗駭懼。攸之曰。暮引歸。○龍驤將軍劉道符。攻山陽。程天祚請降。○龐孟虬進至弋陽。劉勔遣呂安國等。迎擊於蓼潭。大破之。孟虬走。向義陽。王玄謨之子曇善。起兵據義陽。以應建康。孟虬走死蠻中。○劉胡遣輔國將軍薛道標。襲合肥。殺汝陰太守裴季之。劉勔遣輔國將軍垣閎。擊之。閎。闡之弟。道標。安都之子也。○淮西人鄭叔舉。起兵擊常珍奇。以應鄭黑。辛亥。以叔舉爲北豫州刺史。○崔道固爲士人所攻。閉門自守。上遣使宣慰。道固請降。甲寅。復以道固爲徐州刺史。○八月。皇甫道烈等。聞龐孟虬敗。竝開門出降。○張興世既據錢溪。濃湖軍乏食。鄧琬大送資糧。畏興世。不敢進。劉胡率輕舸四百。由鵲頭內路。欲攻錢溪。既而謂長史王念叔曰。吾少習步戰。未閑水鬬。若步戰。恒在數萬人中。水戰。在一舸之上。舸舸各進。不復相關。正在三十人中。此非萬全之計。吾不爲也。乃託瘧疾。住鵲頭不進。遣龍驤將軍陳慶。將三百舸。向錢溪。戒慶。不須戰。張興世吾之所悉。自當走耳。陳慶至錢溪。軍於梅根。胡遣別將王起。將百舸。攻興世。興世擊起。大破之。胡率其餘舸馳還。謂顗曰。興世營寨已立。不可猝攻。昨日小戰。未足爲損。陳慶已與南陵大雷諸軍。共遏其上。大軍在此。鵲頭諸將。又斷其下流。已墮圍中。不足復慮。顗怒胡不戰。謂曰。糧運鯁塞。當如此何。胡曰。彼尚得泝流越。我而上。此運。何以不得。沿流越彼而下。邪。乃遣安北府司馬沈仲玉。將千人。步趣南陵。迎糧。仲玉至南陵。載米三十萬斛。錢布數十舫。竪榜爲城。規欲突過。行至貴口。不敢進。遣間信報胡。令遣重軍援接。張興世遣壽寂之。任農夫等。將三千人。至貴口。擊之。仲玉走還。顗營。悉虜其資實。胡衆駭懼。胡將張喜。來降。鎮東中兵參軍劉亮。進兵逼胡營。胡不能制。袁顗懼曰。賊入人肝脾裏。何由得活。胡陰謀遁去。己卯。誑顗云。欲更帥步騎二萬。上取錢溪。兼下大雷餘運。令顗悉選馬配之。其日。胡委顗去。徑趣梅根。先令薛常寶辦船。悉發南陵諸軍。燒大雷諸城而走。至夜。顗方知之。大怒。罵曰。今年爲小子所誤。呼取常所乘善馬飛驚。謂其衆曰。我當自追之。因亦走。庚辰。建安王休仁。勒兵入顗營。納降卒十萬。遣沈攸之等追顗。顗走至鵲頭。與戍主薛伯珍。幷所領數千人。偕去。欲向尋陽。夜止山間。殺馬以勞將士。顧謂伯珍曰。我非不能死。且欲一至尋陽。謝罪主上。然後自刎耳。因慷慨。叱左右索節。無復應者。及旦。伯珍請屏人言事。遂斬顗首。詣錢溪軍主襄陽俞湛之。湛之。因斬伯珍。幷送首。以爲己功。劉胡帥二萬人。向尋陽。詐晉安王子勛云。袁顗已降。軍皆散。唯己帥所領獨返。宜速處分。

爲一戰之資。當停據湓城。誓死不貳。乃於江外夜趣沔口。鄧琬聞胡去憂惶無計。呼中書舍人褚靈嗣等謀之。竝不知所出。張悅詐稱疾。呼琬計事。令左右伏甲帳後。戒之若聞索酒便出。琬既至。悅曰。卿首倡此謀。今事已急。計將安出。琬曰。正當斬晉安王。封府庫以謝罪耳。悅曰。今日寧可賣殿下求活邪。因呼酒子洵。提刀出。斬琬。中書舍人潘欣之聞琬死。勒兵而至。悅使人語之曰。鄧琬謀反。今已梟戮。欣之乃還。取琬子竝殺之。悅因單舸齎琬首。馳下。詣建安王休仁降。尋陽亂。蔡那之子道淵。在尋陽。被繫作部。脫鎖入城。執子勛。囚之。沈攸之諸軍。至尋陽。斬晉安王子勛。傳首建康。時年十一。初鄧琬遣臨川內史張淹。自鄱陽嶠道入三吳。軍於上饒。聞劉胡敗。軍副鄱陽太守費暐。斬淹以降。淹。暢之子也。廢帝之世。衣冠懼禍。咸欲遠出。至是。流離外難。百不一存。衆乃服蔡興宗之先見。九月。壬辰。以山陽王休祐爲荊州刺史。癸巳。解嚴。大赦。庚子。司徒休仁。至尋陽。遣吳喜張興世向荊州。沈懷明向鄖州。劉亮及寧朔將軍南陽張敬兒向雍州。孫超之向湘州。沈思仁任農夫向豫章。平定餘寇。劉胡逃至石城。捕得斬之。鄖州行事張沈。變形爲沙門。潛走。追獲殺之。荊州行事劉道憲。聞濃湖平。散兵。遣使歸罪。荊州治中宗景等。勒兵入城。殺道憲。執臨海王子頊。以降。孔道存知尋陽已平。遣使請降。尋聞柳世隆劉亮當至。道存及三子。皆自殺。上以何慧文才兼將吏。使吳喜宣旨赦之。慧文曰。既陷逆節。手害忠義。何面見天下之士。遂自殺。安陸王子綏。臨海王子頊。邵陵王子元。竝賜死。劉順及餘黨在荊州者。皆伏誅。詔追贈諸死節之臣。及封賞有功者。各有差。○己酉。魏初立郡學。置博士。助教。生員。從中書令高允。相州刺史李訢之請也。訢。崇之子也。○上既誅晉安王子勛等。待世祖諸子。猶如平日。司徒休仁。還自尋陽。言於上曰。松滋侯兄弟尚在。將來非社稷計。宜早爲之所。冬。十月。乙卯。松滋侯子房。永嘉王子仁。始安王子眞。淮南王子孟。南平王子產。廬陵王子輿。子趨。子期。東平王子嗣。子悅。竝賜死。及鎮北諮議參軍路休之。司徒從事中郎路茂之。兗州刺史劉祗。中書舍人嚴龍。皆坐誅。世祖二十八子。於此盡矣。祗。義欣之子也。○劉勔圍壽陽。垣閎攻合肥。俱未下。勔患之。召諸將會議。馬隊主王廣之曰。得將軍所乘馬。判能平合肥。幢主皇甫肅怒曰。廣之敢奪節下馬。可斬。勔笑曰。觀其意。必能立功。卽推鞍下馬與之。廣之往攻合肥。三日克之。薛道標突圍奔淮西。歸。常珍奇。勔擢廣之爲軍主。廣之薦於齊世祖。爲東海太守。○沈寶靈。自廬江引兵。攻晉熙。晉熙太守閻湛之。棄城走。○徐州刺史薛安都。益州刺史蕭惠開。梁州刺史柳元怙。兗州刺史畢衆敬。豫章太守殷孚。汝南太守常珍奇。竝遣使乞降。上以南方已平。欲示威淮北。乙亥。命鎮軍將軍張永。中領軍沈攸之。將甲士五萬。迎薛安都。蔡興宗曰。安都歸順。此誠非虛。正須單使尺書。今以重兵迎之。勢必疑懼。或能招引此虜。爲患方深。若以叛臣罪重。不可不誅。則歸之所宥。亦已多矣。況安都。外據大鎮。密邇邊陲。地險兵彊。攻圍難克。考之國計。尤宜馴養。如其外叛。將爲朝廷旰食之憂。上不從。謂征北司馬行南徐州事蕭道成曰。吾今因此北討。卿意以爲何如。對曰。安都。狡猾有餘。今以兵逼之。恐非國之利。上曰。諸軍猛銳。何往不克。卿勿多言。安都聞大兵北上。懼。遣使乞降於魏。常珍奇亦以懸瓠降魏。皆請兵自救。○戊寅。立王子昱爲太子。○薛安都。以其子爲質於魏。魏遣鎮東大將軍代人尉元。鎮東將軍魏郡孔伯恭等。帥騎一萬。出東道。救彭城。鎮西大將軍西河公石。都督荊豫南雍州諸軍事張窮奇。出西道。救懸瓠。以安都爲都督徐雍等五州諸軍事。鎮南大將軍徐州刺史河東公常珍奇爲平南將軍。豫州刺史河內公兗州刺史申纂。詐降於魏。尉元受之。而陰爲之備。魏師至。無鹽纂閉門拒守。薛安都之召魏兵也。畢衆敬不與之同。遣使來請降。上以衆敬爲兗州刺史。衆敬子元賓。在建康。先坐它罪誅。衆敬聞之。怒。拔刀斫柱曰。吾皓首。唯一子。不能全。安用獨生。十一月。壬子。魏師

至瑕丘。衆敬請降於魏。尉元遣部將先據其城。衆敬悔恨。數日不食。元長驅而進。十二月。己未。軍于柁西河公石。至上蔡。常珍奇帥文武出迎。石欲頓軍汝北。未卽入城。中書博士鄭羲曰。今珍奇雖來。意未可量。不如直入其城。奪其管籥。據有府庫。制其腹心。策之全者也。石遂策馬入城。因置酒嬉戲。羲曰。觀珍奇之色。甚不平。不可不爲之備。乃嚴兵設備。其夕。珍奇使人燒府屋。欲爲變。以石有備而止。羲。豁之曾孫也。淮西七郡民。多不願屬魏。連營南奔。魏遣建安王陸整。宣慰新附。民有陷軍爲奴婢者。整悉免之。新民乃悅。○乙丑。詔。坐依附尋陽。削官爵禁錮者。皆從原。藉隨才銓用。○劉勔圍壽陽。自首春至于末冬。內攻外禦。戰無不捷。以寬厚得將士心。尋陽既平。上使中書爲詔。諭殷琰。蔡興宗曰。天下既定。是琰思過之日。陛下宜賜手詔數行。以相慰引。今直中書爲詔。彼必疑謂非眞。非所以速淸方難也。不從。琰得詔。謂劉勔詐爲之。不敢降。杜叔寶閉絕尋陽敗問。有傳者。卽殺之。守備益固。凡有降者。上輒送壽陽城下。使與城中人語。由是衆情離沮。琰欲請降於魏。主簿譙郡夏侯詳說琰曰。今日之舉。本效忠節。若社稷有奉。便當歸身朝廷。何可北面左衽乎。且今魏軍。近在淮次。官軍未測吾之去就。若建使歸款。必厚相慰納。豈止免罪而已。琰乃使詳出見劉勔。詳說勔曰。今城中士民知困。而猶固守者。畏將軍之誅。皆欲自歸於魏。願將軍緩而赦之。則莫不相帥而至矣。勔許諾。使詳至城下。呼城中人。諭以勔意。內寅。琰帥將佐。面縛出降。勔悉加慰撫。不戮一人。入城。約勒將士。士民貲財。秋毫無所失。壽陽人大悅。魏兵至師水。將救壽陽。聞琰已降。乃掠義陽數千人。而去。久之。琰復仕至少府。而卒。○蕭惠開在益州。多任刑誅。蜀人猜怨。聞費欣壽敗沒。程法度不得前。於是晉原一郡反。諸郡皆應之。合兵圍成都。城中東兵。不滿二千。惠開悉遣蜀人出。獨與東兵拒守。蜀人聞尋陽已平。爭欲屠城。衆至十餘萬人。惠開每遣兵出戰。未嘗不捷。上遣其弟惠基。自陸道。使成都赦惠開罪。惠基至涪。蜀人遏留惠基。不聽進。惠基帥部曲擊之。斬其渠帥。然後得前。惠開奉旨歸降。城圍得解。上遣惠開宗人寶首。自水道慰勞益州。寶首欲以平蜀爲己功。更奬說蜀人。使攻惠開。於是處處蜂起。凡諸離散者。一時還合。與寶首進逼成都。衆號二十萬。惠開欲擊之。將佐皆曰。今慰勞使至。而拒之。何以自明。惠開曰。今表啓路絕。不戰。則何以得通。使京師。乃遣宋寧太守蕭惠訓等。將萬兵與戰。大破之。生擒寶首。囚於成都。遣使言狀。上使執送寶首。召惠開。還建康。上問以舉兵狀。惠開曰。臣唯知逆順。不識天命。且非臣不亂。非臣不平。上釋之。○是歲。僑立兗州。治淮陰。徐州治鍾離。靑冀二州。共一刺史。治鬱州。鬱州在海中。周數百里。累石爲城。高八九尺。虛置郡縣。荒民無幾。○張永。沈攸之。進兵逼彭城。軍于下蘧。分遣羽林監王穆之。將卒五千。守輜重於武原。魏尉元至彭城。薛安都出迎。元遣李璨。與安都先入城。收其管籥。別遣孔伯恭。以精甲二千。安撫內外。然後入。其夜張永攻南門。不克而退。元不禮於薛安都。安都悔降。復謀叛魏。元和之。不果發。安都重賂元等。委罪於女婿裴祖隆。而殺之。元使李璨與安都守彭城。自將兵擊張永。絕其糧道。又破王穆之於武原。穆之帥餘衆就永。元進攻之。

資治通鑑卷第一百三十一

宋紀　太宗明皇帝上之下泰始二年

資治通鑑卷第一百三十二

宋紀十四

太宗明皇帝中

泰始三年。春。正月。張永等。弃城夜遁。會天大雪。泗水氷合。永等。弃船步走。士卒凍死者太半。手足斷者什七八。尉元邀其前。薛安都乘其後。大破永等於呂梁之東。死者以萬數。枕尸六十餘里。委弃軍資器械。不可勝計。永足指亦墮。與沈攸之。僅以身免。梁南秦二州刺史垣恭祖等。爲魏所虜。上聞之。召蔡興宗。以敗書示之曰。我愧卿甚。永降號左將軍。攸之免官。以貞陽公領職。還屯淮陰。由是失淮北四州。及豫州淮西之地。

裴子野論曰。昔齊桓矜於葵丘。而九國叛。曹公不禮張松。而天下分。一失豪釐。其差遠矣。太宗之初。威令所被。不滿百里。卒有離心。士無固色。而能開誠心。布欵實。莫不感恩服德。致命效死。故西摧北蕩。宇內寰開。既而六軍獻捷。方隅束手。天子欲賈其餘威。師出無名。長淮以北。倏忽爲戎。惜乎。若以嚮之虛懷。不驕不伐。則三叛奚爲而起哉。高祖蟣蝨生介冑。經啓疆埸。後之子孫。日蹙百里。播穫堂構。豈云易哉。

魏尉元。以彭城兵荒之後。公私困竭。請發冀相濟兗四州粟。取張永所弃船九百艘。沿清運載。以賑新民。魏朝從之。○魏東平王道符。反於長安。殺副將駙馬都尉萬古眞等。丙午。司空和其奴等。將殿中兵。討之。丁未。道符司馬段太陽。攻道符。斬之。以安西將軍陸眞爲長安鎮將。以撫之。道符。翰之子也。○閏月。魏以頓丘王李峻爲太宰。○沈文秀。崔道固。爲土人所攻。

遣使。乞降於魏。且請兵自救。○二月。魏西河公石。自懸瓠引兵。攻汝陰太守張超。不克。退屯陳項。議還長社。待秋擊之。鄭羲曰。張超。蟻聚窮命。糧食已盡。不降當走。可翹足而待也。今弃之。遠去。超修城浚湟。積薪儲穀。更來。恐難圖矣。石不從。遂還長社。○初尋陽既平。帝遣沈文秀弟文炳。以詔書諭文秀。又遣輔國將軍劉懷珍。將馬步三千人。與文炳偕行。未至。值張永等敗退。懷珍還鎮山陽。文秀攻青州刺史明僧暠。帝使懷珍帥龍驤將軍王廣之。將五百騎步卒二千人。浮海救之。至東海。僧暠已退保東萊。懷珍進據朐城。衆心兇懼。欲且保郁洲。懷珍曰。文秀。欲以青州歸索虜。計齊之士民。安肯甘心左衽邪。今揚兵直前。宣布威德。諸城可飛書而下。柰何守此不進。自爲沮撓乎。遂進至黔陬。文秀所署高密平昌二郡太守。弃城走。懷珍送致文炳。達朝廷意。文秀猶不降。百姓聞懷珍至。皆喜。文秀所署長廣太守劉桃根。將數千人。戍不其城。懷珍軍於洋水。衆謂。且宜堅壁伺隙。懷珍曰。今衆少糧竭。懸軍深入。正當以精兵速進。掩其不備耳。乃遣王廣之。將百騎。襲不其城。拔之。文秀聞諸城皆敗。乃遣使請降。帝復以爲青州刺史。崔道固亦請降。復以爲冀州刺史。懷珍引還。○魏濟陰王小新成卒。○沈攸之自彭城還也。留長水校尉王玄載守下邳。積射將軍沈韶。守宿豫。睢陵。淮陽。皆留兵戍之。玄載。玄謨之從弟也。時東平太守申纂。守無鹽。幽州刺史劉休賓。守梁鄒。幷州刺史清河房崇吉。守升城。輔國將軍清河張讜。守團城。及兗州刺史王整。蘭陵太守桓忻。肥城麋溝。垣苗等戍。皆不附於魏。休賓。乘民之兄子也。魏遣平東將軍長孫陵等。將兵赴青州。征南大將軍慕容白曜。將騎五萬。爲之繼援。白曜。燕太祖之玄孫也。白曜至無鹽。欲攻之。將佐。皆以爲攻具未備。不宜遽進。左司馬苑陽酈範曰。今輕軍遠襲。深入敵境。豈宜淹緩。且申纂必謂。我軍來速。不暇攻圍。將不爲備。今若出其不意。可一鼓而克。白曜曰。司馬策是也。乃引兵僞退。申纂。不復設備。白曜夜中部分。三月。甲寅旦。攻城。食時克之。纂走。追擒殺之。白曜欲盡以

無鹽人爲軍賞。酈範曰。齊。形勝之地。宜遠爲經略。今王師始入其境。人心未洽。連城相望。咸有拒守之志。苟非以德信懷之。未易平也。白曜曰。善。皆免之。白曜將攻肥城。酈範曰。肥城雖小。攻之引日。勝之不能益軍勢。不勝。足以挫軍威。彼見無鹽之破死傷塗地。不敢不懼。若飛書告諭。縱使不降。亦當逃散。白曜從之。肥城果潰。獲粟三十萬斛。白曜謂範曰。此行得卿。三齊不足定也。遂取垣苗糜溝二戍。一旬中。連拔四城。威震齊土。○丙子。以尚書左僕射蔡興宗爲郢州刺史。○房崇吉守升城。勝兵者。不過七百人。慕容白曜築長圍。以攻之。自二月至于夏四月。乃克之。白曜忿其不降。欲盡阬城中人。參軍事昌黎韓麒麟諫曰。今勍敵在前。而阬其民。自此以東諸城。人自爲守。不可克也。師老糧盡。外寇乘之。此危道也。白曜乃慰撫其民。各使復業。崇吉脫身走。崇吉母傅氏。申纂妻賈氏。與濟州刺史盧度世。有中表親。然已疎遠。及爲魏所虜。度世奉事甚恭。贍給優厚。度世。閨門之內。和而有禮。雖世有屯夷。家有貧富。百口怡怡。豐儉同之。崔道固閉門拒魏。沈文秀遣使。迎降於魏。請兵援接。白曜欲遣兵赴之。酈範曰。文秀。室家墳墓。皆在江南。擁兵數萬。城固甲堅。彊則拒戰。屈則遁去。我師未逼其城。無朝夕之急。何所畏忌。而遽求援軍。且觀其使者。視下而色愧。語煩而志怯。此必挾詐以誘我。不可從也。不若先取歷城。克盤陽。下梁鄒。平樂陵。然後案兵徐進。不患其不服也。白曜曰。崔道固等。兵力單弱。不敢出戰。吾通行無礙。直抵東陽。彼自知必亡。故望風求服。夫又何疑。範曰。歷城。兵多糧足。非朝夕可拔。文秀坐據東陽。爲諸城根本。今多遣兵。則無以攻歷城。少遣兵。則不足以制東陽。若進爲文秀所拒。退爲諸城所邀。腹背受敵。必無全理。願更審計。無墮賊彀中。白曜乃止。文秀果不降魏。尉元上表稱。彭城。賊之要藩。不有重兵積粟。則不可固守。若資儲既廣。雖劉彧師徒悉起。不敢窺淮北之地。又言。若賊向彭城。必由清泗。過宿豫。歷下邳。趨青州。亦由下邳沂水。經東安。此數者皆爲賊用師之要。今若先定下邳。平宿豫。鎮淮陽。戍東安。則青冀諸鎮。可不攻而克。若四城不服。青冀雖拔。百姓狼顧。猶懷僥倖之心。臣愚以爲宜釋青冀之師。先定東南之地。斷劉彧北顧之意。絕愚民南望之心。夏水雖盛。無津途可由。冬路雖通。無高城可固。如此。則淮北自舉。暫勞永逸。兵貴神速。久則生變。若天雨既降。彼或因水通。運糧益衆。規爲進取。恐近淮之民。翻然改圖。青冀二州。猝未可拔也。○五月。壬戌。以太子詹事袁粲爲尚書右僕射。○沈攸之自送運米。至下邳。魏人遣清泗間人。詐攸之云。薛安都欲降。求軍迎接。軍副吳喜。請遣千人。赴之。攸之不許。既而來者益多。喜固請不已。攸之乃集來者。告之曰。君諸人既有誠心。若能與薛徐州子弟俱來者。皆卽假君以本鄉縣。唯意所欲。如其不爾。無爲空勞往還。自是一去不返。攸之使軍主彭城陳顯達將千人。助成下邳而還。薛安都子伯令亡。命梁雍之間。聚黨數千人。攻陷郡縣。秋。七月。雍州刺史巴陵王休若。遣南陽太守張敬兒等。擊斬之。○上復遣中領軍沈攸之等。擊彭城。攸之以爲清泗方涸。糧運不繼。固執以爲不可。使者七返。上怒。强遣之。八月。壬寅。以攸之行南兗州刺史。將兵北出。使行徐州事蕭道成將千人。鎮淮陰。道成收養豪俊。賓客始盛。魏之入彭城也。垣崇祖將部曲。奔朐山。據之。遣使來降。蕭道成以爲朐山戍主。朐山瀕海孤絕。人情未安。崇祖浮舟水側。欲有急則逃入海。魏東徐州刺史成固公戍圉城。崇祖部將有罪。亡降魏。成固公遣步騎二萬。襲朐山。去城二十里。崇祖方出送客。城中人驚懼。皆下船欲去。崇祖還。謂腹心曰。虜非有宿謀。承叛者之言而來耳。易誑也。今得百餘人還。事必濟矣。但人情一駭。不可斂集。卿等可亟去。此一里外。大呼而來。云艾塘義人。已得破虜。須戍軍速往。相助逐之。舟中人果喜。爭上岸。崇祖引入據城。遣羸弱入嶋。人持兩炬火。登山鼓譟。魏參騎以爲軍備甚盛。乃退。上以崇祖爲北琅邪蘭陵二郡太守。垣榮祖亦自彭城奔朐山。以奉使不效。畏罪不敢出。往依蕭道成。于淮陰。榮祖少學騎射。或謂之曰。武事可畏。何不學書。榮祖曰。昔曹公父子。上馬

橫槊下馬談詠。此於天下可不負飲食矣。君輩無自全之伎。何異犬羊乎。劉善明從弟僧副。將部曲二千人。避魏居海嶋。道成亦召而撫之。○魏於天宮寺作大像。高四十三尺。用銅十萬斤。黃金六百斤。○魏尉元遣孔伯恭帥步騎一萬。拒沈攸之。又以攸之前敗所喪士卒塚墮膝行者。悉還攸之。以沮其氣。上尋悔遣攸之等。復召使還。攸之至焦墟。去下邳五十餘里。陳顯達引兵迎攸之。至睢清口。伯恭擊破之。攸之引兵退。伯恭追擊之。攸之大敗。龍驤將軍姜彥之等戰沒。攸之創重。入保顯達營。丁酉夜。衆潰。攸之輕騎南走。委棄軍資器械以萬計。還屯淮陰。尉元以書諭徐州刺史王玄載。棄下邳走。魏以隴西辛紹先爲下邳太守。紹先不尙苛察。務舉大綱。敎民治生。禦寇而已。由是下邳安之。孔伯恭進攻宿豫。宿豫戍將魯僧遵。亦棄城走。魏將孔大恒等。將千騎。南攻淮陽。淮陽太守崔武仲。焚城走。慕容白曜進屯瑕丘。崔道固之未降也。綏邊將軍房法壽。爲王玄邈司馬。屢破道固軍。歷城人畏之。及道固降。皆罷兵。道固畏法壽。扇動百姓。迫遣法壽。使還建康。會從弟崇吉自升城來。以母妻爲魏所獲。謀於法壽。法壽雅不欲南行。怨道固迫之。時道固遣兼治中房靈賓。督清河廣川二郡事。戍磐陽。法壽乃與崇吉謀。襲磐陽據之。降於慕容白曜。以贖崇吉母妻。道固遣兵攻之。白曜自瑕丘遣將軍長孫觀。救磐陽。道固兵退。白曜表冠軍將軍韓麒麟。與法壽對爲冀州刺史。以法壽從弟靈民。思順。靈悅。伯憐。伯玉。叔玉。思安。幼安等八人。皆爲郡守。白曜自瑕丘引兵。攻崔道固於歷城。遣平東將軍長孫陵等。攻沈文秀於東陽。道固拒守不降。白曜築長圍守之。陵等至東陽。文秀請降。陵等入其西郭。縱士卒暴掠。文秀悔怒。閉城拒守。擊陵等破之。陵等退屯清西。屢進攻城。不克。○癸卯。大赦。○戊申。魏主李夫人生子宏。夫人。惠之女也。馮太后自撫養宏。頃之還政於魏主。魏主始親國事。勤於爲治。賞罰嚴明。拔清節。黜貪汙。於是魏之牧守。始有以廉潔著聞者。○太中大夫徐爰。自太祖時用事。素不禮於上。上銜之。詔數其姦佞之罪。徙交州。○冬。十月。辛巳。詔徙義陽王昶爲晉熙王。使員外郎李豐。以金千兩贖昶於魏。魏人弗許。使昶與上書。爲兄弟之儀。上責其不稱臣。不答。魏主復使昶與上書。昶辭曰。臣本實或兄。未經爲臣。若改前書。事爲二敬。苟或不改。彼所不納。臣不敢奉詔。乃止。魏人愛重昶。凡三尙公主。○十一月。乙卯。分徐州置東徐州。以輔國將軍張讜爲刺史。十二月。庚辰。以幽州刺史劉休賓爲兗州刺史。休賓之妻。崔邪利之女也。生子文曄。與邪利皆沒於魏。慕容白曜將其妻子。至梁鄒城下。示之。休賓密遣主簿尹文達。至歷城。見白曜。且見其妻子。休賓欲降。而兄子聞慰不可。白曜使人至城下呼曰。劉休賓。數遣人來。見僕射約降。何故違期不至。由是城中皆知之。共禁制休賓。不得降。魏兵圍之。○魏西河公石。復攻汝陰。汝陰有備。無功而還。常珍奇雖降於魏。實懷貳心。劉勔復以書招之。曾西河公石攻汝陰。珍奇乘虛。燒劫懸瓠。驅掠上蔡安成平輿三縣民。屯於灌水。

四年。春。正月。己未。上祀南郊。大赦。○魏汝陽司馬趙懷仁。帥衆寇武津。豫州刺史劉勔。遣龍驤將軍申元德。擊破之。又斬魏于都公閼于拔於汝陽臺東。獲運車千三百乘。魏復寇義陽。勔使司徒參軍孫臺瓘擊破之。淮西民賈元友上書。陳伐魏取陳蔡之策。上以其書示劉勔。勔上言。元友稱虜主幼弱。內外多難。天亡有期。臣以爲虜自去冬。蹈藉王土。磐據數郡。百姓殘亡。今春以來。連城圍逼。國家未能復境。何暇滅虜。元友所陳。率多夸誕狂謀。皆無事實。言之甚易。行之甚難。臣竊尋元嘉以來。倉荒遠人。多干國議。負擔歸闕。皆勸討虜。從來信納。皆貽後悔。境上之人。唯視强弱。王師至彼。必壺漿候塗。裁見退軍。便抄截蜂起。此前後所見。明驗非一也。上乃止。○魏尉元遣使。說東徐州刺史張讜。讜以團城降魏。魏以中書侍郎高閭。與讜對爲東徐州刺史。李璨與畢衆敬對爲東兗州刺史。元又說兗州刺史王整。蘭陵太守桓忻。整忻皆降於魏。魏以元爲開府儀同三司。都督徐南北兗三州諸軍事。徐州刺史。鎮彭

城。召薛安都畢衆敬入朝。至平城。魏以上客待之。羣從皆封侯。賜第宅。資給甚厚。○慕容白曜圍歷城經年。二月。庚寅。拔其東郭。癸巳。崔道固面縛出降。白曜遣道固之子景業。與劉文曄同至梁鄒。劉休賓亦出降。白曜送道固休賓及其僚屬於平城。○辛丑。以前龍驤將軍常珍奇。爲都督司北豫二州諸軍事。司州刺史。魏西河公石攻之。珍奇單騎奔壽陽。○乙巳。車騎大將軍曲江莊公王玄謨卒。○三月。魏慕容白曜。進圍東陽。上以崔道固兄子僧祐爲輔國將軍。將兵數千。從海道救歷城。至不其。聞歷城已沒。遂降於魏。○交州刺史劉牧卒。州人李長仁。殺牧北來部曲。據州反。自稱刺史。○廣州刺史羊希。使晉康太守沛郡劉思道伐俚。思道違節度失利。希遣攸之思道帥所領攻州。希兵敗而死。龍驤將軍陳伯紹。將兵伐俚。還擊思道。擒斬之。希。玄保之兄子也。○夏。四月。己卯。復減郡縣田租之半。○徙東海王禕爲廬江王。山陽王休祐爲晉平王。上以廢帝謂禕爲驢王。故以廬江封之。○劉勔敗魏兵於許昌。○魏以南郡公李惠爲征南大將軍。儀同三司。都督關右諸軍事。雍州刺史。進爵爲王。○五月。乙卯。魏主畋于崞山。遂如繁畤。辛酉。還宮。○六月。魏以昌黎王馮熙爲太傅。熙太后之兄也。○秋。七月。庚申。以驍騎將軍蕭道成爲南兗州刺史。○八月。戊子。以南康相劉勃爲交州刺史。○上以沈文秀之弟征北中兵參軍文靜爲輔國將軍。統高密等五郡軍事。自海道救東陽。至不其城。爲魏所斷。因保城自固。魏人攻之。不克。辛卯。分青州置東青州。以文靜爲刺史。○九月。辛亥。魏立皇叔楨爲南安王。長壽爲城陽王。太洛爲章武王。休爲安定王。○冬。十月。癸酉朔。日有食之。發諸州兵北伐。○十一月。李長仁遣使請降。自貶行州事。許之。○十二月。魏人拔不其城。殺沈文靜。入東陽西郭。○義嘉之亂。巫師請發修寧陵。戮玄宮。爲厭勝。是歲。改尙之戴法興皆用事。及上卽位。盡用左右細人。遊擊將軍阮佃夫。中書通事舍人王道隆。員外散騎侍郎楊運長等。竝參預政事。權亞人主。巢戴所不及也。佃夫尤恣橫。人有順迕。禍福立至。大納貨賂。所餉減二百匹絹。則不報書。園宅飲饌。過於諸王。妓樂服飾。宮掖不如也。朝士貴賤。莫不自結。僕隸皆不次除官。捉車人至虎賁中郎將。馬士至員外郎。

五年春。正月。癸亥。上耕藉田。大赦。○沈文秀守東陽。魏人圍之三年。外無救援。士卒晝夜拒戰。甲冑生蟣蝨。無離叛之志。乙丑。魏人拔東陽。文秀解戎服。正衣冠。取所持節。坐齋內。魏兵交至。問沈文秀何在。文秀厲聲曰。身是。魏人執之。去其衣。縛送慕容白曜。使之拜。文秀曰。各兩國大臣。何拜之有。白曜還其衣。爲之設饌。鎖送平城。魏主數其罪。而宥之。待爲下客。給惡衣疏食。旣而重其不屈。稍嘉禮之。拜外都下大夫。於是青冀之地。盡入於魏矣。○戊辰。魏平昌宣王和其奴卒。○二月。己卯。魏以慕容白曜爲都督青齊東徐三州諸軍事。征南大將軍。開府儀同三司。青州刺史。進爵濟南王。白曜撫御有方。東人安之。魏自天安以來。比歲旱饑。重以青徐用兵。山東之民。疲於賦役。顯祖命因民貧富。爲三等輸租之法。等爲三品。上三品輸平城。中輸它州。下輸本州。又魏舊制。常賦之外。有雜調十五。至是悉罷之。由是民稍贍給。○河東柳欣慰等謀反。欲立太尉廬江王禕。禕自以於帝爲兄。而帝及諸兄弟皆輕之。遂與欣慰等通謀。相酬和。征北諮議參軍杜幼文告之。丙申。詔降禕爲車騎將軍。開府儀同三司。南豫州刺史。出鎮宣城。帝遣腹心楊運長。領兵防衞。欣慰等竝伏誅。○三月。魏人寇汝陰。太守楊文萇。擊却之。○夏。四月。丙申。魏大赦。○五月。魏徙青齊民於平城。置升城歷城民望於桑乾。立平齊郡。以居之。自餘悉爲奴婢。分賜百官。魏沙門統曇曜奏。平齊戶及諸民。有能歲輸穀六十斛入僧曹者。卽爲僧祇戶。粟爲僧祇粟。遇凶歲。賑給飢民。又請民犯重罪及官奴以爲佛圖戶。以供諸寺洒掃。魏主竝許之。於是僧祇戶粟及寺戶。徧於州鎭矣。○六月。魏立皇子宏爲太子。○癸酉。以左衞將軍沈攸之爲郢州刺史。○上又令有司奏廬江王禕。恐懼

有怨言。請窮治。不許。丁丑。免辭官爵。遣大鴻臚持節奉詔責辭。因逼令自殺。子輔國將軍充明。廢徙新安。○冬。十月。丁卯朔。日有食之。○魏頓丘王李峻卒。○十一月。丁未。魏復遣使來修和親。自是信使歲通。○閏月。戊子。以輔師將軍孟陽爲兗州刺史。始治淮陰。○十二月。戊戌。司徒建安王休仁解揚州。休仁年與上鄰亞。素相友愛。景和之世。上賴其力以脫禍。及泰始初。四方兵起。休仁親當矢石。克成大功。任總百揆。親寄甚隆。由是朝野輻湊。上漸不悅。休仁悟其旨。故表解揚州。己未。以桂陽王休範爲揚州刺史。○分荊州之巴東建平。益州之巴西梓潼郡。置三巴校尉。治白帝。先是三峽蠻獠。歲爲抄暴。故立府以鎮之。上以司徒參軍東莞孫謙爲巴東建平二郡太守。謙將之官。敕募千人自隨。謙曰。蠻夷不賓。蓋待之失節耳。何煩兵役。以爲國費。固辭不受。至郡。開布恩信。蠻獠翕然懷之。競餉金寶。謙皆慰諭不受。○臨海賊帥田流自稱東海王。剽掠海鹽。殺鄞令。東土大震。

六年。春。正月。乙亥。初制間二年一祭南郊。間一年一祭明堂。○二月。壬寅。以司徒休仁爲太尉。領司徒。固辭。○癸丑。納江智淵孫女爲太子妃。甲寅。大赦。令百官皆獻物。始興太守孫泰伯。止獻琴書。上大怒。封樂賜死。既而原之。○魏以東郡王陸定國爲司空。定國麗之子也。○魏主遣征西大將軍上黨王長孫觀擊吐谷渾。○夏。四月。辛丑。魏大赦。○戊申。魏長孫觀與吐谷渾王拾寅戰於曼頭山。拾寅敗走。遣別駕康盤龍入貢。魏主囚之。○癸亥。立皇子燮爲晉熙王。奉晉熙王昶後。○五月。魏立皇弟長樂爲建昌王。○六月。癸卯。以江州刺史王景文爲尚書左僕射。揚州刺史。以尚書僕射袁粲爲右僕射。上宮中大宴。裸婦人而觀之。王后以扇障面。上怒曰。外舍寒乞。今共爲樂。何獨不視。后曰。爲樂之事。其方自多。豈有姑姊妹集而裸婦人以爲笑。外舍之樂。雅異於此。上大怒。遣后起。后兄景文聞之曰。后在家劣弱。今段遂能剛正如此。○南兗州刺史蕭道成。在軍中久。民間或言。道成有異相。當爲天子。上疑之。徵爲黃門侍郎。越騎校尉。道成懼。不欲內遷。而無計留。冠軍參軍廣陵荀伯玉。勸道成遣數十騎。入魏境。安置標榜。魏果遣遊騎數百。履行境上。道成以聞。上使道成復本任。秋。九月。命道成還鎮淮陰。以侍中中領軍劉勔爲都督南徐兗等五州諸軍事。鎮廣陵。○戊寅。立總明觀。置祭酒一人。儒玄文史學士各十人。○柔然部眞可汗侵魏。魏主引羣臣議之。尚書右僕射南平公目辰曰。若車駕親征。京師危懼。不如持重固守。虜懸軍深入。糧運無繼。不久自退。遣將追擊。破之必矣。給事中張白澤曰。蠢爾荒愚。輕犯王略。若鑾輿親行。必望麾崩散。豈可坐而縱敵。以萬乘之尊。嬰城自守。非所以威服四夷也。魏主從之。白澤。衮之孫也。魏主使京兆王子推等。督諸軍出西道。任城王雲等。督諸軍出東道。汝陰王天賜等。督諸軍爲前鋒。隴西王源賀等。督諸軍爲後繼。鎮西將軍呂羅漢等。掌留臺事。諸將會魏主於女水之濱。與柔然戰。柔然大敗。乘勝逐北。斬首五萬級。降者萬餘人。獲戎馬器械。不可勝計。旬有九日。往返六千餘里。改女水曰武川。司徒東安王劉尼。坐昏醉軍陳不整。免官。壬申。還至平城。是時。魏百官不給祿。少能以廉白自立者。魏主詔吏受所監臨羊一口酒一斛者死。與者以從坐論。有能糾告尚書已下罪狀者。隨所糾官輕重。授之。張白澤諫曰。昔周之下士。尚有代耕之祿。今皇朝貴臣。服勤無報。若使受禮者刑。身糾之者代職。臣恐姦人闚望。忠臣懈節。如此。而求事簡民安。不亦難乎。請依律令舊法。仍班祿以酬廉吏。魏主乃爲之罷新法。○冬。十月。辛卯。詔。以世祖繼體。陷憲無遺。以皇子智隨爲世祖子。立爲武陵王。○初魏乙渾專政。慕容白曜頗附之。魏主追以爲憾。遂稱白曜謀反。誅之。及其弟如意。○初魏南部尚書李敷。儀曹尚書李訢。少相親善。與中書侍郎盧度世。皆以才能爲世祖顯祖所寵任。參豫機密。出納詔命。其後。訢出爲相州刺史。受納貨賂。爲人所告。敷掩蔽之。顯祖聞之。檻車徵訢。案驗服罪。當死。是時。敷弟奕。得幸於馮太后。帝意已疎之。有司以中旨諷訢。告敷兄弟陰事。可以得免。訢謂

其壻裴攸曰。吾與敷族世雖遠。恩踰同生。今在事勸吾爲此。吾情所不忍。每引譬自刺。解帶自絞。終不得死。且吾安能知其陰事。將若之何。攸曰。何爲爲人死也。有馮闡者。先爲敷所敗。其家深怨之。今詢其弟。敷之陰事。可得也。訢從之。又趙郡苑撊。條列敷兄弟事狀。凡三十餘條。有司以聞。帝大怒。誅敷兄弟。訢得減死。鞭髡配役。未幾復爲太倉尚書。攝南部事。敷順之子也。○魏陽平王新成卒。○是歲。命龍驤將軍義興周山圖將兵屯浹口。討田流平之。○柔然攻于闐。于闐遣使者素目伽奉表詣魏求救。魏主命公卿議之。皆曰。于闐去京師幾萬里。蠕蠕唯習野掠。不能攻城。若其可攻。尋已亡矣。雖欲遣師。勢無所及。魏主以議示使者。使者亦以爲然。乃詔之曰。朕應急敕諸軍。以拯汝難。但去汝遐阻。必不能救。當時之急。汝宜知之。朕今練甲養士。一二歲間。當躬帥猛將爲汝除患。汝其謹脩警候。以待大舉。

資治通鑑卷第一百三十二

資治通鑑卷第一百三十三

宋紀十五

太宗明皇帝下

泰始七年。春。二月。戊戌。分交廣置越州。治臨漳。○初上爲諸王。寬和有令譽。獨爲世祖所親。即位之初。義嘉之黨。多蒙全宥。隨才引用。有如舊臣。及晚年。更猜忌忍虐。好鬼神。多忌諱。言語文書。有禍敗凶喪。及疑似之言。應回避者。數百千品。有犯必加罪戮。改騧字爲馗。以其似禍字故也。左右忤意。往往有刳斷者。時淮泗用兵。府藏空竭。內外百官。竝斷俸祿。而奢費過度。每所造器用。必爲正御副御次副各三十枚。嬖倖用事。貨賂公行。上素無子。密取諸王姬有孕者。內宮中生男。則殺其母。使寵姬子之。至是寢疾。以太子幼弱。深忌諸弟。南徐州刺史晉平剌王休祐。前鎮江陵。貪虐無度。上不使之鎮。留之建康。遣上佐行府州事。休祐性剛狠。前後忤上非一。上積不能平。且慮將來難制。欲方便除之。甲寅。休祐從上於巖山射雉。左右從者。竝在仗後。日欲闇。上遣左右壽寂之等數人。逼休祐令墜馬。因共毆拉殺之。傳呼驃騎落馬。上陽驚。遣御醫。絡驛就視。比其左右至。休祐已絕。去車輪。輿還第。追贈司空。葬之如禮。建康民間訛言。荊州刺史巴陵王休若。有至貴之相。上以此言。報之。休若憂懼。戊午。以休若代休祐爲南徐州刺史。休若腹心將佐。皆謂休若還朝必不免禍。中兵參軍京兆王敬先。說休若曰。今主上彌留。政成省閣。羣豎恟恟。欲悉去宗支。以便其私。殿下聲著海內。受詔入朝。必往而不返。荊州帶甲十餘萬。地方數千里。上可以匡天子。除姦臣。下可以保境土。全一身。

孰與賜劒邸第。使臣妾飲泣而不敢葬乎。休若素謹畏。僞許之。敬先出。使人執之。以白於上。而誅之。○三月。辛酉。魏假員外散騎常侍邢祐來聘。○魏主使殿中尚書胡莫寒簡西部敕勒。爲殿中武士。莫寒大納貨賂。衆怒。殺莫寒。及高平假鎮將奚陵。夏四月。諸部敕勒皆叛。魏主使汝陰王天賜將兵討之。以給事中羅雲爲前鋒。敕勒詐降。襲雲殺之。天賜僅以身免。○晉平剌王既死。建安王休仁。益不自安。上與嬖臣楊運長等。爲身後之計。運長等。亦慮上晏駕後。休仁秉政。已輩不得專權。彌贊成之。上疾嘗暴甚。內外莫不屬意於休仁。主書以下。皆往東府。訪休仁所親信。豫自結納。其或在直不得出者。皆恐懼。上聞愈惡之。五月。戊午。召休仁入見。既而謂曰。今夕停尚書下省宿。明可早來。其夜。遣人齎藥賜死。休仁罵曰。上得天下。誰之力邪。孝武以誅鉏兄弟。子孫滅絕。今復爲爾。宋祚其能久乎。上慮有變。力疾乘輿出端門。休仁死。乃入下詔。稱休仁規結禁兵謀爲亂逆。朕未忍明法。申詔詰厲。休仁慙恩懼罪。遽自引決。可宥其二子。降爲始安縣王。聽其子伯融襲封。上慮人情不悅。乃與諸大臣及方鎮詔稱。休仁與休祐深相親結。語休祐云。汝但作佞。此法自足安身。我從來頗得此力。休祐隕。本欲爲民除患。而休仁從此日生嬈懼。吾每呼令入省。便入辭楊太妃。吾春中多與之射雉。或陰雨不出。休仁輒語左右云。我已復得今一日。休仁既經南討。與宿衞將帥。經習狎共事。吾前者積日失適。休仁出入殿省。無不和顏。厚相撫勞。如其意趣。人莫能測。事不獲已。反覆思惟。不得不有近日處分。恐當不必卽解。故相報知。上與休仁素厚。雖殺之。每謂人曰。我與建安年時相鄰。少便款狎。景和泰始之間。勳誠實重。事計交切。不得不相除。痛念之至。不能自已。因流涕不自勝。初上在藩。與褚淵以風素相善。及卽位。深相委仗。上寢疾。淵爲吳郡太守。急召之。既至。入見。上流涕曰。吾近危篤。故召卿。欲使著黃耀耳。黃耀者。乳母服也。上與淵謀誅建安王休仁。淵以爲不可。上怒曰。卿癡人。不足與計事。淵懼而從命。復以淵爲吏部尚書。庚午。以尚書右僕射袁粲爲尚書令。褚淵爲右僕射。○上惡太子屯騎校尉壽寂之勇健。會有司奏寂之擅殺邏尉。徙越州。於道殺之。○丙戌。追廢晉平王休祐爲庶人。○巴陵王休若至京口。聞建安王死。益懼。上以休若和厚。能諧輯物情。恐將來傾奪幼主。欲遣使殺之。慮不奉詔。欲徵入朝。又恐猜駭。六月。丁酉。以江州刺史桂陽王休範爲南徐州刺史。以休若爲江州刺史。手書殷勤。召休若。使赴。七月七日宴。○丁未。魏主如河西。○秋。七月。巴陵哀王休若至建康。乙丑。賜死於第。贈侍中司空。復以桂陽王休範爲江州刺史。時上諸弟俱盡。唯休範以人才凡劣。不爲上所忌。故得全。

沈約論曰。聖人立法垂制。所以必稱先王。蓋由遺訓餘風。足以貽之來世也。太祖經國之義雖弘。隆家之道不足。彭城王照不窺古。徒見昆弟之義。未識君臣之禮。冀以家情行之國道。主猜而猶犯。恩薄而未悟。致呵訓之微行。遂成滅親之大禍。開端樹隙。垂之後人。太宗因易隙之情。據已行之典。翦落洪枝。不待顧慮。既而本根無庇。幼主孤立。神器以勢弱傾移。靈命隨樂推回改。斯蓋履霜有漸。堅氷自至。所由來遠矣。

裴子野論曰。夫噬虎之獸。知愛己子。搏狸之鳥。非護異巢。太宗保字螟蛉。剿拉同氣。既迷在原之天屬。未識父子之自然。宋德告終。非天廢也。夫危亡之君。未嘗不先棄本枝。嫗煦旁孽。推誠嬖狎。疾惡父兄。前乘覆車。後來幷轍。借使叔仲有國。猶不失配天。而他人入室。將七廟絕祀。曾是莫懷。甘心揃落。晉武背文明之託。而覆中州者賈后。太祖棄初寧之誓。而登合殿者元凶。禍福無門。奚其豫擇。友于兄弟。不亦安乎。

丙寅。魏主如陰山。○初吳喜之討會稽也。言於上曰。得尋陽王子房。及諸賊帥。皆卽於東甌之。既而生送子房。釋顧琛等。上以其新立大功。不問。而心銜之。及克荆州。剽掠贓以萬計。壽寂之死。喜爲淮陵太守。督豫州諸軍事。聞之內懼。啓乞中散大夫。上尤疑駭。或譖蕭道成在

淮陰有貳心於魏上封銀壺酒使喜自持賜道成道成懼欲逃喜以情告道成且先爲之飲道成卽飲之喜還朝保證道成或密以啓上上以喜多計數素得人情恐其不能事幼主乃召喜入內殿與共言謔甚欵既出賜以名饌尋賜死然猶發詔賻賜又與劉勔等詔曰吳喜輕狡萬端苟取物情昔大明中夥歙有亡命數千人攻縣邑殺官長劉子尙遣三千精甲討之再往失利孝武以喜將數千人至縣說誘羣賊賊卽歸降詭數幻惑乃能如此及泰始初東討止有三百人直造三吳凡再經薄戰而自破岡以東至海十郡無不淸蕩百姓聞吳河東來便望風自退若非積取三吳人情何以得弭伏如此尋喜心迹豈可奉守文之主遭國家可乘之會邪譬如餌藥當人羸冷資散石以全身及熱勢發動去堅積以止患非忘其功勢不獲已耳○戊寅以淮陰爲北兗州徵蕭道成入朝道成所親以朝廷方誅大臣勸勿就徵道成曰諸卿殊不見事主上自以太子稚弱翦除諸弟何預它人今唯應速發淹留顧望必將見疑且骨肉相殘自非靈長之祚禍難將興方與卿等戮力耳既至拜散騎常侍太子左衞率○八月丁亥魏主還平城○戊子以皇子躋繼江夏文獻王義恭○庚寅上疾有間大赦○戊戌立皇子準爲安成王實桂陽王休範之子也○魏顯祖聰睿夙成剛毅有斷而好黃老浮屠之學每引朝士及沙門共談玄理雅薄富貴常有遺世之心以叔父中都大官京兆王子推沈雅仁厚素有時譽欲禪以帝位時太尉源賀督諸軍屯漠南馳傳召之既至會公卿大議皆莫敢先言任城王雲子推之弟也對曰陛下方隆太平臨覆四海豈得上違宗廟下棄兆民且父子相傳其來久矣陛下必欲委棄塵務則皇太子宜承正統夫天下者祖宗之天下陛下若更授旁支恐非先聖之意啓姦亂之心斯乃禍福之原不可不慎也源賀曰陛下今欲禪位皇叔臣恐紊亂昭穆後世必有逆祀之譏願深思任城之言東陽公丕等曰皇太子雖聖德早彰然實冲幼陛下富於春秋始覽萬機奈何欲隆獨善不以天下爲心其若宗廟何其若億兆何尙書陸馥曰陛下若捨太子更議諸王臣請刎頸殿庭不敢奉詔帝怒變色以問宦者選部尙書酒泉趙黑黑曰臣以死奉戴皇太子不知其它帝默然時太子宏生五年矣帝以其幼故欲傳位子推中書令高允曰臣不敢多言願陛下上思宗廟託付之重追念周公抱成王之事帝乃曰然則立太子羣公輔之有何不可又曰陸馥直臣也必能保吾子乃以馥爲太保與源賀持節奉皇帝璽紱傳位於太子丙午高祖卽皇帝位大赦改元延興高祖幼有至性前年顯祖病癰高祖親吮及受禪悲泣不自勝顯祖問其故對曰代親之感內切於心丁未顯祖下詔曰朕希心玄古志存澹泊爰命儲宮踐升大位朕得優遊恭己栖心浩然羣臣奏曰昔漢高祖稱皇帝尊其父爲太上皇明不統天下也今皇帝幼冲萬機大政猶宜陛下總之謹上尊號曰太上皇帝顯祖從之己酉上皇徙居崇光宮采椽不斲土階而已國之大事咸以聞崇光宮在北苑中又建鹿野浮圖於苑中之西山興禪僧居之○冬十月魏沃野統萬二鎭敕勒叛遣太尉源賀帥衆討之降二千餘落追擊餘黨至枹罕金城大破之斬首八千餘級虜男女萬餘口雜畜三萬餘頭詔賀都督三道諸軍屯于漠南先是魏每歲秋冬發軍三道竝出以備柔然春中乃還賀以爲往來疲勞不可支久請募諸州鎭武健者三萬餘人築三城以處之使冬則講武春則耕種不從○庚寅魏以南安王楨爲都督涼州及西戎諸軍事領護西域校尉鎭涼州○上命北琅邪蘭陵二郡太守垣崇祖經略淮北崇祖自郁洲將數百人入魏境七百里據蒙山十一月魏東兗州刺史于洛侯擊之崇祖引還○上以故第爲湘宮寺備極壯麗欲造十級浮圖而不能乃分爲二新安太守巢尙之罷郡入見上謂曰卿至湘宮寺未此是我大功德用錢不少通直散騎侍郎會稽虞愿侍側曰此皆百姓賣兒貼婦錢所爲佛若有知當慈悲嗟愍罪高浮圖何功德之有侍坐者失色上怒使人驅下殿愿徐去無異容上好圍棊棊甚拙與第一品彭城丞王抗圍

基抗每假借之曰皇帝飛基臣抗不能斷上終不悟好之愈篤愿又曰堯以此教丹朱非人主所宜好也上雖怒甚以愿王國舊臣每優容之○王景文常以滿盛爲憂屢辭位任上不許然中心以景文外戚貴盛張永累經軍旅疑其將來難信乃自爲謠言曰一士不可親弓長射殺人景文彌懼自表解揚州情甚切至詔報曰人居貴要但問心若爲耳大明之世巢徐二戴位不過執戟權亢人主今袁粲作僕射領選而人往往不知有粲粲遷爲令居之不疑人情向粲淡然亦復不改常日以此居貴位要任當有致憂競不夫貴高有危殆之懼卑賤有塡壑之憂有心於避禍不如無心於任運存亡之要巨細一揆耳

泰豫元年春正月甲寅朔上以疾久不平改元戊午皇太子會四方朝賀者於東宮并受貢計○大陽蠻酋桓誕擁沔水以北澁葉以南八萬餘落降於魏自云桓玄之子亡匿蠻中以智略爲羣蠻所宗魏以誕爲征南將軍東荊州刺史襄陽王聽自選郡縣吏使起部郎京兆韋珍與誕安集新民區置諸事皆得其所○二月柔然侵魏上皇遣將擊之柔然走東部敕勒叛奔柔然上皇自將追之至石磧不及而還○上疾篤慮晏駕之後皇后臨朝江安懿侯王景文以元舅之勢必爲宰相門族彊盛或有異圖己未遣使齎藥賜景文死手敕曰與卿周旋欲全卿門戶故有此處分敕至景文正與客棊叩函看已復置局下神色不變方與客思行爭劫局竟斂子內奩畢徐曰奉敕見賜以死方以敕示客中直兵焦度趙智略憤怒曰大丈夫安能坐受死州中文武數百足以一奮景文曰知卿至心若見念者爲我百口計乃作墨啓答敕致謝飲藥而卒贈開府儀同三司上夢有人告曰豫章太守劉愔反既寤遣人就郡殺之○魏顯祖還平城○庚午魏主耕籍田○夏四月以垣崇祖行徐州事徙戍龍沮○己亥上大漸以江州刺史桂陽王休範爲司空又以尚書右僕射褚淵爲護軍將軍加中領軍劉勔右僕射詔淵勔與尚書令袁粲荊州刺史蔡興宗郢州刺史沈攸之並受顧命褚淵素與蕭道成善引薦於上詔又以道成爲右衞將軍領衞尉與袁粲等共掌機事是夕上殂庚子太子卽皇帝位大赦時蒼梧王方十歲袁粲褚淵秉政承太宗奢侈之後務弘節儉欲救其弊而阮佃夫王道隆等用事貨賂公行不能禁也○乙巳以安成王準爲揚州刺史○五月戊寅葬明皇帝于高寧陵廟號太宗六月乙巳尊皇后曰皇太后立妃江氏爲皇后○秋七月柔然部帥無盧眞將三萬騎寇魏敦煌鎭將尉多侯擊走之多侯眷之子也又寇晉昌守將薛奴擊走之○戊午魏主如陰山○戊辰尊帝母陳貴妃爲皇太妃更以諸國太妃爲太姬○右軍將軍王道隆以蔡興宗彊直不欲使居上流閏月甲辰以興宗爲中書監更以沈攸之爲都督荊襄等八州諸軍事荊州刺史興宗辭中書監不拜王道隆每詣興宗躡履到前不敢就席良久去竟不呼坐沈攸之自以材略過人自郢至夏口以來陰蓄異志及徙荊州擇郢州士馬器仗精者多以自隨到官以討蠻爲名大發兵力招聚才勇部勒嚴整常如敵至重賦斂以繕器甲舊應供臺者皆割留之養馬至二千餘匹治戰艦近千艘倉廩府庫莫不充積士子商旅過荊州者多爲所羈留四方亡命歸之者皆蔽匿擁護所部有逃亡無遠近窮追必得而止舉錯專恣不復承用符敕朝廷疑而憚之爲政刻暴或鞭撻士大夫上佐以下面加詈辱然吏事精明人不敢欺境內盜賊屏息夜戶不閉攸之賒罰羣蠻太甚又禁五溪魚鹽蠻怨叛酉溪蠻王田頭擬死弟婁侯篡立其子田都走入獠中於是羣蠻大亂掠抄至武陵城下武陵內史蕭嶷遣隊主張英兒擊破之誅婁侯立田都羣蠻乃定嶷賾之弟也○八月戊午樂安宣穆公蔡興宗卒○九月辛巳魏主還平城○冬十月柔然侵魏及五原十一月上皇自將討之將度漠柔然北走數千里上皇乃還○丁亥魏封上皇之弟略爲廣川王○己亥以郢州刺史劉秉爲尚書左僕射秉道憐之孫也和弱無幹能以宗室清令故袁褧引之○中書通事舍人阮佃夫加給事中輔國將軍權任轉重欲用其所親吳

郡張澹爲武陵郡。袁粲等皆不同。佃夫稱敕施行。粲等不敢執。○魏有司奏。諸祠祀合一千七十五所。歲用牲七萬五千五百。上皇惡其多殺。詔自今非天地宗廟社稷皆勿用牲。薦以酒脯而已。

蒼梧王上

元徽元年。春。正月。戊寅朔。改元。大赦。○庚辰。魏員外散騎常侍崔演來聘。○戊戌。魏上皇還至雲中。○癸丑。魏詔守令勸課農事。同部之內貧富相通。家有兼牛。通借無者。若不從。詔一門終身不仕。○戊午。魏上皇至平城。○甲戌。魏詔縣令能靜一縣劫盜者。兼治二縣。卽食其祿。能靜二縣者。兼治三縣。三年遷爲郡守。二千石能靜二郡。上至三郡。亦如之。三年遷爲刺史。○桂陽王休範。素凡訥。少知解。不爲諸兄所齒遇。物情亦不向之。故太宗之末。得免於禍。及帝卽位。年在沖幼。素族秉政。近習用權。休範自謂尊親莫二。應入爲宰輔。旣不如志。怨憤頗甚。典籤新蔡許公興。爲之謀主。令休範折節下士。厚相資給。於是遠近赴之。歲中萬計。收養勇士。繕治器械。朝廷知其有異志。亦陰爲之備。會夏口闕鎭。朝廷以其地居尋陽上流。欲使腹心居之。二月。乙亥。以晉熙王燮爲郢州刺史。燮始四歲。以黃門郎王奐爲長史。行府州事。配以資力。使鎭夏口。復恐其過尋陽。爲休範所劫留。使自太洑徑去。休範聞之大怒。密與許公興謀襲建康。表治城隍。多解材板而蓄之。奐。景文之兄子也。○吐谷渾王拾寅寇魏澆河。夏。四月。戊申。魏以司空長孫觀爲大都督。發兵討之。○魏以孔子二十八世孫乘爲崇聖大夫。給十戶。以供洒掃。○秋。七月。魏詔。河南六州之民。戶收絹一匹。綿一斤。租三十石。○乙亥。魏主如陰山。○八月。庚申。魏上皇如河西。長孫觀入吐谷渾境。芻其秋稼。吐谷渾王拾寅窘急。請降。遣子斤入侍。自是歲修職貢。九月。辛巳。上皇還平城。○遣使如魏。○冬。十月。癸酉。割南兗豫州之境。置徐州。治鍾離。○魏上皇將入寇。詔州郡之民十丁取一。以充行。戶收租五十石。以備軍糧。○魏武都氐反。攻仇池。詔長孫觀回師討之。○武都王楊僧嗣卒。於葭蘆從弟文度自立爲武興王。遣使降魏。魏以文度爲武興鎭將。○十一月。丁丑。尚書令袁粲。以母憂去職。○癸巳。魏上皇南巡。至懷州。枋頭鎭將代人薛虎子。先爲馮太后所黜爲門士。時山東饑盜賊競起。相州民孫誨等五百人。稱虎子在鎭。境內淸晏。乞還虎子。上皇復以虎子爲枋頭鎭將。卽日之官。數州盜賊皆息。○十二月。癸卯朔。日有食之。○乙巳。江州刺史桂陽王休範。進位太尉。○詔起袁粲。以衞軍將軍攝職。粲固辭。○壬子。柔然侵魏。柔玄鎭二部敕勒應之。○魏州鎭十一。水旱。相州民餓死者二千八百餘人。○是歲魏妖人劉舉聚衆自稱天子。齊州刺史武昌王平原。討斬之。平原。提之子也。

二年。春。正月。丁丑。魏太尉源賀以疾罷。○二月。甲辰。魏上皇還平城。○三月。丁亥。魏員外散騎常侍許赤虎來聘。○夏。五月。壬午。桂楊王休範反。掠民船。使軍隊稱力請受。付以材板。合手裝治。數日卽辦。丙戌。休範率衆二萬。騎五百。發尋陽。晝夜取道。以書與諸執政。稱楊運長。王道隆。蠱惑先帝。使建安巴陵二王無罪被戮。望執錄二豎。以謝冤魂。庚寅。大雷。戊主杜道欣。馳下告變。朝廷惶駭。護軍褚淵征北將軍張永領軍劉勔。僕射劉秉。右衞將軍蕭道成。游擊將軍戴明寶。驍騎將軍阮佃夫。右軍將軍王道隆。中書舍人孫千齡。員外郎楊運長。集中書省。計事。莫有言者。道成曰。昔上流謀逆。皆因淹緩致敗。休範必遠懲前失。輕兵急下。乘我無備。今應變之術。不宜遠出。若偏師失律。則大沮衆心。宜頓新亭。白下。堅守宮城。東府。石頭。以待賊至。千里孤軍。後無委積。求戰不得。自然瓦解。我請頓新亭。以當其鋒。征北守白下。領軍屯宣陽門。爲諸軍節度。諸貴安坐殿中。不須競出。我自破賊必矣。因索筆下議。衆竝注同。孫千齡陰與休範通謀。獨曰。宜依舊遣軍據梁山。道成正色曰。賊今已近梁山。豈可得至。新

亭。既是兵衝。所欲以死報國耳。常時乃可屈曲相從。今不得也。坐起。道成顧謂劉勔曰。領軍已同部議。不可改易。袁粲聞難。扶曳入殿。即日。內外戒嚴。道成將前鋒兵出屯新亭。張永屯白下。前南兗州刺史沈懷明戍石頭。袁粲褚淵入衞殿省。時倉猝不暇授甲。開南北二武庫。隨將士意所取。蕭道成至新亭。治城壘未畢。辛卯。休範前軍已至新林。道成方解衣高臥。以安衆心。徐索白虎幡。登西垣。使寧朔將軍高道慶。羽林監陳顯達。員外郎王敬則帥舟師。與休範戰。頗有殺獲。壬辰。休範自新林捨舟步上。其將丁文豪請休範。直攻臺城。休範遣文豪別將兵趣臺城。自以大衆攻新亭壘。道成率將士。悉力拒戰。自巳至午。外勢愈盛。衆皆失色。道成曰。賊雖多而亂。尋當破矣。休範白服乘肩輿。自登城南臨滄觀。以數十人自衞。屯騎校尉黃回。與越騎校尉張敬兒。謀詐降以取之。回謂敬兒曰。卿可取之。我誓不殺諸王。敬兒以白道成。道成曰。卿能辦事。當以本州相賞。乃與回出城南。放仗走。大呼稱降。休範喜。召至輿側。回陽致道成密意。休範信之。以二子德宣。德嗣。付道成爲質。二子至。道成即斬之。休範置回敬兒於左右。所親李恒。鍾爽。諫不聽。時休範日飲醇酒。回見休範無備。目敬兒。敬兒奪休範防身刀。斬休範首。左右皆散走。敬兒馳馬持首歸新亭。道成遣隊主陳靈寶。送休範首還臺。靈寶道逢休範兵。弃首於水。挺身得達。唱云。已平。而無以爲驗。衆莫之信。休範將士。亦不之知。其將杜黑騾攻新亭。甚急。蕭道成在射堂。司空主簿蕭惠朗。帥敢死士數十人。突入東門。至射堂下。道成上馬。帥麾下搏戰。惠朗乃退。道成復得保城。惠朗。惠開之弟也。其姊爲休範妃。惠朗兄黃門郎惠明。時爲道成軍副。在城內。了不自疑。道成與黑騾拒戰。自晡達旦。矢石不息。其夜大雨。鼓叫不復相聞。將士積日不得寢食。軍中馬夜驚。城內亂走。道成秉燭正坐。厲聲呵之。如是者數四。丁文豪破臺軍於皂莢橋。直至朱雀桁南。杜黑騾亦捨新亭。北趣朱雀桁。右軍將軍王道隆。將羽林精兵。在朱雀門內。急召鄱陽忠昭公劉勔於石頭。勔至。命撤桁以折南軍之勢。道隆怒曰。賊至。但當急擊。寧可開桁自弱邪。勔不敢復言。道隆趣勔進戰。勔度桁南戰敗而死。黑騾等乘勝度淮。道隆弃衆走還臺。黑騾兵追殺之。黃門侍郎王蘊重傷。踣於御溝之側。或扶之以免。蘊景文之兄子也。於是中外大震。道路皆云。臺城已陷。白下石頭之衆皆潰。張永沈懷明逃還。宮中傳新亭亦陷。太后執帝手。泣曰。天下敗矣。先是月犯右執法。太白犯上將。或勸劉勔解職。勔曰。吾執心行己。無愧幽明。若災眚必至。避豈得免。勔晚年頗慕高尚。立園宅。名爲東山。遺落世務。罷遣部曲。蕭道成謂勔曰。將軍受顧命。輔幼主。當此艱難之日。而深尚從容。廢省羽翼。一朝事至。悔可追乎。勔不從。而敗。甲午。撫軍長史褚澄。開東府門。納南軍。擁安成王準。據東府。稱桂陽王教曰。安成王。吾子也。勿得侵犯。澄淵之弟也。杜黑騾徑進至杜姥宅。中書舍人孫千齡。開承明門。出降。宮省恇擾。時府藏已竭。皇太后。太妃。剔取宮中金銀器物。以充賞。衆莫有鬬志。俄而丁文豪之衆。知休範已死。稍欲退散。文豪厲聲曰。我獨不能定天下邪。許公與許稱桂楊王在新亭。士民惶惑。詣蕭道成壘。投刺者以千數。道成得皆焚之。登北城。謂曰。劉休範父子。昨已就戮。尸在南岡下。身是蕭平南。諸君諦視之。名刺皆已焚。勿憂懼也。道成遣陳顯達。張敬兒。及輔師將軍任農夫。馬軍主東平周盤龍等。將兵自石頭濟淮。從承明門入。衞宮省。袁粲慷慨謂諸將曰。今寇賊已逼。而衆情離沮。孤子受先帝付託。不能綏靜國家。請與諸君同死社稷。被甲上馬。將驅之。於是陳顯達等。引兵出戰。大破杜黑騾於杜姥宅。飛矢貫顯達目。丙申。張敬兒等。又破黑騾等於宣陽門。斬黑騾及丁文豪。進克東府。餘黨悉平。蕭道成振旅還建康。百姓緣道聚觀曰。全國家者此公也。道成與袁粲。褚淵。劉秉。皆上表。引咎解職。不許。丁酉。解嚴。大赦。○柔然遣使來聘。○六月。庚子。以平南將軍蕭道成爲中領軍。南兗州刺史。留衞建康。與袁粲。褚淵。劉秉。更日入直決事。號爲四貴。○桂陽王休範之反也。使道士陳公昭作天公書。題云沈丞相。付荊州刺

史沈攸之門者。攸之不開視。推得公昭送之朝廷。及休範反。攸之謂僚佐曰。桂陽必聲言。我與之同。若不顚沛勤王。必增朝野之惑。乃與南徐州刺史建平王景素。郢州刺史晉熙王燮。湘州刺史王僧虔。雍州刺史張興世。同舉兵討休範。休範留中兵參軍馮景祖襲之。癸卯。惠連等。開門請降。殺休範二子。諸鎭皆罷兵。景素。宏之子也。○乙卯。魏詔曰。下民兇戾。不顧親戚。一人爲惡。殃及闔門。朕爲民父母。深所愍悼。自今非謀反大逆外叛。罪止其身。於是始罷門房之誅。魏顯祖勤於爲治。賞罰嚴明。愼擇牧守。進廉退貪。諸曹疑事。舊多奏決。又口傳詔敕。或致矯擅。上皇命。事無大小。皆據律正名。不得爲疑奏。合則制可。違則彈詰。盡用墨詔。由是。事皆精審。尤重刑罰。大刑多令覆鞫。或囚繫積年。羣臣頗以爲言。上皇曰。滯獄誠非善治。不猶愈於倉猝而濫乎。夫人幽苦則思善。故智者以囹圄爲福堂。朕特苦之。欲其改悔。而加矜恕。爾由是。囚繫雖滯。而所刑多得其宜。又以赦令長姦。故自延興以後。不復有赦。○秋。七月。庚辰。立皇弟友爲邵陵王。○乙酉。加荊州刺史沈攸之開府儀同三司。攸之固辭。執政欲徵攸之。而憚於發令。乃以太后令。遣中使。謂曰。公久勞于外。宜還京師。任寄實重。未欲輕之。進退可否。在公所擇。攸之曰。臣無廊廟之資。居中實非其才。至於撲討蠻蜑。克清江漢。不敢有辭。雖自上如此。去留伏聽朝旨。乃止。○癸巳。柔然寇魏敦煌。尉多侯擊破之。尚書奏。敦煌僻遠。介居西北。强寇之間。恐不能自固。請內徙就涼州。羣臣集議。皆以爲然。給事中昌黎韓秀。獨以爲敦煌之置。爲日已久。雖逼强寇。人習戰鬬。縱有草竊。不爲大害。循常置戍。足以自全。而能隔閡西北二虜。使不得相通。今徙就涼州。不唯有蹙國之名。且姑臧去敦煌千有餘里。防邏甚難。二虜必有交通鬬鬨之志。若騷動涼州。則關中不得安枕。又士民或安土重遷。招引外寇。爲國深患。不可不慮也。乃止。○九月。丁酉。以尚書令袁粲爲中書監。領司徒。加褚淵尚書令。劉秉丹陽尹。粲固辭。求反居墓所。不許。淵以褚澄爲吳郡太守。司徒左長史蕭惠明。言於朝曰。褚澄開門納賊。更爲股肱大郡。王蘊力戰幾死。棄而不收。賞罰如此。何憂不亂。淵甚慙。冬。十月。庚申。以侍中王蘊爲湘州刺史。○十一月。丙戌。帝加元服。大赦。○十二月。癸亥。立皇弟躋爲江夏王。贊爲武陵王。○是歲。魏建安貞王陸馥卒。

三年。春。正月。辛巳。帝祀南郊明堂。○蕭道成以襄陽重鎭。張敬兒人位俱輕。不欲使居之。而敬兒求之不已。謂道成曰。沈攸之在荊州。公知其欲何所作。不出敬兒。以表裏制之。恐非公之利。道成笑而無言。三月。己巳。以驍騎將軍張敬兒爲都督雍梁二州諸軍事。雍州刺史。沈攸之聞敬兒上。恐其見襲。陰爲之備。敬兒既至。奉事攸之。親敬甚至。動輒咨稟。信饋不絕。攸之以爲誠然。酬報欵厚。累書欲因遊獵會境上。敬兒報以爲心期有在。影迹不宜過敦。攸之益信之。敬兒得其事迹。皆密白道成。道成與攸之書。問張雍州遷代之日。將欲誰擬。攸之卽以示敬兒。欲以間之。○夏。五月。丙午。魏主使員外散騎常侍許赤虎來聘。○丁未。魏主如武州山。辛酉。如車輪山。○六月。庚午。魏初禁殺牛馬。○袁粲。褚淵。皆固讓新官。秋。七月。庚戌。復以粲爲尚書令。八月。庚子。加護軍將軍褚淵中書監。○冬。十二月。丙寅。魏徙建昌王長樂爲安樂王。○己丑。魏城陽王長壽卒。○南徐州刺史建平王景素。孝友清令。服用儉素。又好文學。禮接士大夫。由是。有美譽。太宗特愛之。異其禮秩。時太祖諸子俱盡。諸孫唯景素爲長。帝凶狂失德。朝野皆屬意於景素。帝外家陳氏深惡之。楊運長。阮田夫等。欲專權勢。不利立長君。亦欲除之。其腹心將佐。多勸景素舉兵。鎭軍參軍濟陽江淹。獨諫之。景素不悅。是歲。防閤將軍王季符。得罪於景素。單騎亡奔建康。告景素謀反。運長等卽欲發兵討之。袁粲蕭道成。以爲不可。景素亦遣世子延齡。詣闕自陳。乃徙季符於梁州。奪景素征北將軍。開府儀同三司。

資治通鑑卷第一百三十三

宋紀　著雍困敦上元徽三年

資治通鑑卷第一百三十四

宋紀十六

蒼梧王下

元徽四年。春。正月。己亥。帝耕籍田。大赦。○二月。魏司空東郡王陸定國。坐恃恩不法。免官爵爲兵。○魏馮太后內行不正。以李弈之死。怨顯祖。密行鴆毒。夏。六月。辛未。顯祖殂。壬申。大赦。改元承明。葬顯祖于金陵。謚曰獻文皇帝。○魏大司馬大將軍代人萬安國。坐矯詔殺神部長奚買奴。賜死。○戊寅。魏以征西大將軍安樂王長樂爲太尉。尚書左僕射宜都王目辰爲司徒。南部尚書李訢爲司空。尊皇太后曰太皇太后。復臨朝稱制。以馮熙爲侍中。太師。中書監。熙自以外戚。固辭內任。乃除都督洛州刺史。侍中。太師如故。顯祖神主祔太廟。有司奏。廟中執事之官。請依故事。皆賜爵。祕書令廣平程駿。上言。建侯裂地。帝王所重。或以親賢。或因功伐。未聞神主祔廟。而百司受封者也。皇家故事。蓋一時之恩。豈可爲長世之法乎。太后善而從之。謂羣臣曰。凡議事。當依古典。正言。豈得但修故事。乃賜駿衣一襲。帛二百匹。太后性聰察。知書計。曉政事。被服儉素。膳羞減於故事。什七八。而猜忍多權數。高祖性至孝。能承顏順志。事無大小。皆仰成於太后。太后往往專決。不復關白於帝。所幸宦者高平王琚。安定張祐杞嶷。馮翊王遇。略陽苻承祖。高陽王質。皆依勢用事。祐官至尚書左僕射。爵新平王。琚官至征南將軍。爵高平王。嶷等官亦至侍中。吏部尚書。刺史。爵爲公侯。賞賜巨萬。賜鐵券。許以不死。又太卜令姑臧王叡。得幸於太后。超遷至侍中。吏部尚書。爵太原公。祕書令李冲。雖以才

進。亦由私寵。賞賜皆不可勝紀。又外禮人望。東陽王丕。游明根等。皆極其優厚。每褒賞叡等。輒以丕等參之。以示不私。丕。烈帝之玄孫。冲。寶之子也。太后自以失行。畏人議己。羣下語言。小涉疑忌。輒殺之。然所寵幸左右。苟有小過。必加笞箠。或至百餘。而無宿憾。尋復待之如初。或因此更富貴。故左右雖被罰。終無離心。○乙亥。加蕭道成尚書左僕射。劉秉中書令。○楊運長。阮佃夫等。忌建平王景素。益甚。景素乃與錄事參軍陳郡殷灝。中兵參軍略陽垣慶延。參軍沈顒。左暄等。謀爲自全之計。遣人往來建康。要結才力之士。冠軍將軍黃回。游擊將軍高道慶。輔國將軍曹欣之。前軍將軍韓道清。長水校尉郭蘭之。羽林監垣祇祖。皆陰與通謀。武人不得志者。無不歸之。時帝好獨出游。走郊野。欣之謀據石頭城。伺帝出。作亂。道清。蘭之。欲說賜道成因帝夜出執帝。迎景素。道成不從。者。卽圖之。景素每禁使。緩之。楊。阮微聞其事。遣傖人周天賜。僞投景素。勸令舉兵。景素知之。斬天賜首。送臺。秋。七月。祇祖率數百人。自建康。奔京口。云京師已潰亂。勸令速入。景素信之。戊子。據京口起兵。士民赴之者以千數。楊。阮開祇祖叛。走。卽命纂嚴。己丑。遣驍騎將軍任農夫。領軍將軍黃回。左軍將軍蘭陵李安民。將步軍。右軍將軍張保。將水軍。以討之。辛卯。又命南豫州刺史段佛榮爲都統。蕭道成知黃回有異志。故使安民佛榮與之偕行。回私戒其士卒。道逢京口兵。勿得戰。道成屯玄武湖。冠軍將軍蕭賾。鎭東府。始安王伯融。都鄉侯伯猷。皆建安王休仁之子也。楊。阮忌其年長。悉稱詔賜死。景素欲斷竹里。以拒臺軍。垣慶延。垣祇祖。沈顒。皆曰。今天時旱熱。臺軍遠來疲困。引之使至。以逸待勞。可一戰而克。殷灝等固爭不能得。農夫等旣至。縱火燒市邑。慶延等。各相顧望。莫有鬭志。景素本乏威略。恇擾不知所爲。黃回迫於段佛榮。且見京口軍弱。遂不發。張保泊西渚。景素左右勇士數十人。自相要結。進擊水軍。甲午。張保敗死。而諸將不相應赴。復爲臺軍所破。臺軍旣薄城下。顒先帥衆走。祇祖次之。其餘諸軍相繼奔退。獨左暄與臺軍力戰。

於萬歲樓下。而所配兵力甚弱。不能敵而散。乙未。拔京口。黃回軍先入。自以有誓不殺諸王。乃以景素讓殿中將軍張倪奴。倪奴擒景素斬之。并其三子。同黨垣祇祖等數十人。皆伏誅。蕭道成釋黃回高道慶。不問。撫之如舊。是日。解嚴。丙申。大赦。初巴東建平蠻反。沈攸之遣軍討之。及景素反。攸之急追峽中軍。以赴建康。巴東太守劉攘兵。建平太守劉道欣。疑攸之有異謀。勒兵斷峽。不聽軍下。攘兵子天賜。爲荊州西曹。攸之遣天賜往諭之。攘兵知景素實反。乃釋甲謝愆。攸之待之如故。劉道欣堅守建平。攘兵譬說不回。乃與伐蠻軍攻斬之。○甲辰。魏主追尊其母季貴人曰思皇后。○八月。丁卯。立皇弟勰爲南陽王。嵩爲新興王。禧爲始建王。○庚午。以給事黃門侍郎阮佃夫爲南豫州刺史。留鎮京師。○九月。戊子。賜驍騎將軍高道慶死。○冬。十月。辛酉。以吏部尚書王僧虔爲尚書右僕射。○十一月。戊子。魏以太尉安樂王長樂爲定州刺史。司空李訢爲徐州刺史。

順皇帝

昇明元年。春。正月。乙酉朔。魏改元太和。○己酉。略陽民王元壽。聚衆五千餘家。自稱衡天王。二月。辛未。魏秦益二州刺史尉洛侯。擊破之。○三月。庚子。魏以東陽王丕爲司徒。○夏。四月。丁卯。魏主如白登。壬申。如崞山。○初蒼梧王在東宮。好緣漆帳竿。去地丈餘。喜怒乖節。主帥不能禁。太宗屢敕陳太妃。痛捶之。及即帝位。內畏太后太妃。外憚諸大臣。未敢縱逸。自加元服。內外稍無以制。數出遊行。始出宮。猶整儀衞。俄而棄車騎。帥左右數人。或出郊野。或入市廛。太妃每乘青犢車。隨相檢攝。既而輕騎遠走。一二十里。太妃不復能追。儀衞亦懼禍。不敢追尋。唯整部伍。別往一處。瞻望而已。初太宗嘗以陳太妃。賜嬖人李道兒。已復迎還生帝。故帝每微行。自稱劉統。或稱李將軍。常著小袴衫。營署巷陌。無不貫穿。或夜宿客舍。或晝臥道傍。排突厮養。與之交易。或遭慢辱。悅而受之。凡諸鄙事。裁衣作幘。過目則能。未嘗吹觱。執管便韻。及京口既平。驕恣尤甚。無日不出。夕去晨返。晨出暮歸。從者竝執鋋矛。行人男女。及犬馬牛驢。逢無免者。民間擾懼。商販皆息。門戶晝閉。行人殆絕。鍼椎鑿鋸。不離左右。小有忤意。卽加屠剖。一日不殺。則慘然不樂。殿省憂惶。食息不保。阮佃夫與直閤將軍申伯宗等謀。因帝出江乘射雉。稱太后令。喚隊仗還。閉城門。遣人執帝廢之。立安成王準。事覺。甲戌。帝收佃夫等殺之。太后數訓戒帝。帝不悅。會端午。太后賜帝毛扇。帝嫌其不華。令太醫煮藥。欲鴆太后。左右止之曰。若行此事。官便應作孝子。豈復得出入狡獪。帝曰。汝語大有理。乃止。六月。甲戌。有告散騎常侍杜幼文。司徒左長史沈勃。游擊將軍孫超之。與阮佃夫同謀者。帝登帥衞士。自掩三家。悉誅之。刳解臠割。嬰孩不免。沈勃。時居喪在廬。左右未至。帝揮刀獨前。勃知不免。手搏帝耳。唾罵之曰。汝罪踰桀紂。屠戮無日。遂死。是日。大赦。帝嘗直入領軍府。時盛熱。蕭道成晝臥。裸袒。帝立道成於室內。畫腹爲的。自引滿將射之。道成斂板曰。老臣無罪。左右王天恩曰。領軍腹大。是佳射堋。一箭便死。後無復射。不如以匏箭射之。帝乃更以匏箭射。正中其齊。投弓大笑曰。此手何如。帝忌道成威名。嘗自磨鋋曰。明日殺蕭道成。陳太后罵之曰。蕭道成有功於國。若害之。誰復爲汝盡力邪。帝乃止。道成憂懼。密與袁粲。褚淵。謀廢立。粲曰。主上幼年。微過易改。伊霍之事。非季世所行。縱使功成。亦終無全地。淵默然。領軍功曹丹陽紀僧眞。言於道成曰。今朝廷猖狂。人不自保。天下之望。不在袁褚。明公豈得坐受夷滅。存亡之機。仰希熟慮。道成然之。或勸道成。奔廣陵起兵。道成世子賾。時爲晉熙王長史。行郢州事。欲使賾將郢州兵。東下會京口。道成密遣所親劉僧副。告其從兄行青冀二州刺史劉善明曰。人多見勸。北固廣陵。恐未爲長策。今秋風行起。卿若能與垣東海。微共動虜。則我諸計可立。亦告東海太守垣榮祖。善明曰。宋氏將亡。愚智共知。北虜若動。反爲公患。分神武高世。唯

當靜以待之。因機奮發。功業自定。不可遠去根本。自貽猖蹶。榮祖亦曰。領府去臺百步。公走人豈不知。若單騎輕行。廣陵人閉門不受。公欲何之。公今動足下牀。恐卽有叩臺門者。公事去矣。紀僧眞曰。主上雖無道。國家累世之基。猶爲安固。公百口北度。必不得俱。縱得廣陵城。天子居深宮。施號令。目公爲逆何以避之。此非萬全策也。道成族弟鎭軍長史順之及次子驃騎從事中郎嶷。皆以爲帝好單行道路。於此立計。易以成功。外州起兵。鮮有克捷。徒先人受禍耳。道成乃止。東中郎司馬行會稽郡事李安民。欲奉江夏王躋。起兵於東方。道成止之。越騎校尉王敬則。潛自結於道成。夜著青衣。扶匐道路。爲道成聽察帝之往來。道成命敬則陰結門左右楊玉夫。楊萬年。陳奉伯等二十五人。於殿中調伺機便。秋七月。丁亥夜。帝微行至領軍府。帝左右曰。一府皆眠。何不緣牆入。帝曰。我今夕欲於一處作適。宜待明夕。員外郎桓康等。於道成門間聽聞之。戊子。帝乘露車。與左右。於臺岡賭跳。仍往青園尼寺。晚至新安寺。偷狗就曇度道人煮之。飲酒醉還。仁壽殿寢。楊玉夫常得帝意。至是忽憎之。見軋切齒曰。明日當殺小子。取肺肝。是夜。令玉夫伺織女度河。曰。見當報我。不見將殺汝。時帝出入無常。省內諸閤。夜皆不閉。廂下畏相逢值。無敢出者。宿衞竝逃避。內外莫相禁攝。是夕。王敬則出外。玉夫伺帝熟寢。與楊萬年取帝防身刀刎之。敕廂下奏伎。陳奉伯袖其首。依常行法。稱敕開承明門出。以首與敬則。敬則馳詣領軍府。叩門大呼。蕭道成慮蒼梧王誑之。不敢開門。敬則於牆上投其首。道成洗視。乃戎服乘馬而出。敬則。桓康等。皆從入宮。至承明門。詐爲行還。敬則恐內人覘見。以刀環塞窒孔。呼門甚急。門開而入。佗夕蒼梧王每開門。門者震懾。不敢仰視。至是弗之疑。道成入殿。殿中驚怖。既而聞蒼梧王死。咸稱萬歲。己丑旦。道成戎服出殿庭槐樹下。以太后令。召袁粲。褚淵。劉秉。入會議。道成謂秉曰。此使君家事。何以斷之。秉未答。道成須髯盡張。目光如電。秉曰。尚書兼事。可以見付。軍旅處分。一委領軍。道成次讓袁粲。粲亦不敢當。王敬則拔白刃。在牀側。跳躍曰。天下事。皆應關蕭公。敢有開一言者。血染敬則刀。仍手取白紗帽。加道成首。令卽位曰。今日誰敢復動。事須及熱。道成正色叱之曰。卿都自不解。粲欲有言。敬則叱之。乃止。褚淵曰。非蕭公無以了此。手取事授道成。道成曰。相與不肯。我安得辭。乃下議。備法駕。詣東城。迎立安成王。於是長刀遮粲秉等。各失色而去。秉出。於路。逢從弟韞。韞開車迎問曰。今日之事。當歸兄邪。秉曰。吾等已讓領軍矣。韞拊膺曰。兄肉中詎有血邪。今年族矣。是日。以太后令。數蒼梧王罪惡曰。吾密令蕭領軍。潛運明略。安成王準宜臨萬國。追封昱爲蒼梧王。儀衞至東府門。安成王令門者勿開。以待袁司徒。粲至。王乃入居朝堂。壬辰。王卽皇帝位。時年十一。改元。大赦。葬蒼梧王於郊壇西。○魏京兆康王子推卒。○甲午。蕭道成出鎭東府。丙申。以道成爲司空。錄尚書事。驃騎大將軍。袁粲遷中書監。褚淵加開府儀同三司。劉秉遷尚書令。加中領軍。以晉熙王燮爲揚州刺史。劉秉始謂。尚書萬機本。以宗室居之。則天下無變。既而蕭道成兼總軍國。布置心膂。與奪自專。褚淵素相憑附。秉與袁粲閣手仰成矣。辛丑。以尚書右僕射王僧虔爲僕射。丙午。以武陵王贊爲郢州刺史。蕭道成改領南徐州刺史。○八月。壬子。魏大赦。○癸亥。詔袁粲鎭石頭。粲性冲靜。每有朝命。常固辭。逼切不得已。乃就職。至是。知蕭道成有不臣之志。陰欲圖之。卽時順命。○初太宗使陳昭華母養順帝。戊辰。尊昭華爲皇太妃。○丙子。魏詔曰。工商皂隸。各有厥分。而有司縱濫。或染流俗。自今。戶內有工役者。唯止本部丞。若有勳勞者。不從此制。○蕭道成固讓司空。庚辰。以爲驃騎大將軍。開府儀同三司。○九月。乙酉。魏更定律令。○戊申。封楊玉夫等二十五人爲侯伯子男。○冬。十月。氐帥楊文度。遣其弟文弘。襲魏仇池。陷之。○初魏徐州刺史李訢事顯祖。爲倉部尚書。信用盧奴令范捌。訢弟左將軍瑛諫曰。范捌能降人以色。假人以財。輕德義而重勢利。聽其言也甘。察其行也賊。不早絕之。後悔無及。訢不從。腹心之事。皆以語捌。尚書趙黑

與訴皆有寵於顯祖對掌選部訴以其私用人爲方州黑對顯祖發之由是有隙頃之訴發黑前爲監藏盜用官物黑坐黜爲門士黑恨之寢食爲之衰少踰年復入爲侍中尚書左僕射領選及顯祖殂黑白馮太后稱訴專恣出爲徐州范搠知太后怨訴乃告訴謀外叛太后徵訴至平城問狀訴對無之太后引搠使證之訴謂搠曰汝今誣我我復何言然汝受我恩如此之厚乃忍爲爾乎搠曰搠受公恩何如公受季敷恩公忍爲之於敷搠何爲不忍於公訴慨然嘆曰吾不用瑛言悔之何及趙黑復於中構成其罪丙子誅訴及其子令和令度黑然後寢食如故○十一月癸未魏征西將軍皮歡喜等三將軍率衆四萬擊楊文弘○丁亥魏懷州民伊祁苟自稱堯後聚衆於重山作亂洛州刺史馮熙討滅之馮太后欲盡誅關城之民雍州刺史張白澤諫曰凶渠逆黨盡已梟夷城中豈無忠良仁信之士柰何不問黑白一切誅之乃止○十二月魏皮歡喜軍至建安楊文弘棄城走○初沈攸之與蕭道成於大明景和之間同直殿省深相親善道成女爲攸之子中書侍郎文和婦攸之在荆州直閤將軍高道慶家在華容假還過江陵與攸之爭戲槊馳還建康言攸之反狀已成請以三千人襲之執政皆以爲不可道成仍保證其不然楊運長等惡攸之密與道慶謀遣刺客殺攸之不克會蒼梧王遇弑主簿宗儼之功曹臧寅勸攸之因此起兵攸之以其長子元琰在建康爲司徒左長史故未發寅凝之之子也時楊運長等已不在內蕭道成遣元琰以蒼梧王刳斮之具示攸之攸之以道成名位素出己下一旦專制朝權心不平謂元琰曰吾寧爲王凌死不爲賈充生然亦未暇舉兵乃上表稱慶因留元琰雍州刺史張敬兒素與攸之司馬劉攘兵善疑攸之將起事密以問攘兵攘兵無所言寄敬兒馬鐙一隻敬兒乃爲之備攸之有素書十數行常韜在裲襠角云是明帝與己約誓攸之將舉兵其妾崔氏諫曰官年已老那不爲百口計攸之指裲襠角示之且稱太后使至賜攸之燭割之得太后手令云社稷之事一以委公於是勒兵移檄遣使邀張敬兒及豫州刺史劉懷珍梁州刺史梓潼范柏年司州刺史姚道和湘州行事庾佩玉巴陵內史王文和同舉兵敬兒懷珍文和竝斬其使馳表以聞文和尋棄州奔夏口柏年道和佩玉皆懷兩端道和後秦高祖之孫也辛酉攸之遣輔國將軍孫同等相繼東下攸之遣道成書以爲少帝昏狂宜與諸公密議共白太后下令廢之柰何交結左右親行弑逆乃至不殯流蟲在戶凡在臣下誰不惋駭又移易朝舊布置親黨宮閤管籥悉關家人吾不知子孟孔明遺訓固如此乎足下既有賊宋之心吾寧敢捐包胥之節邪朝廷聞之恟懼丁卯道成入守朝堂命侍中蕭嶷代鎮東府撫軍行參軍蕭映鎮京口映嶷之弟也戊辰內外纂嚴己巳以郢州刺史武陵王贊爲荆州刺史庚午以右衛將軍黃回爲郢州刺史督前鋒諸軍以討攸之初道成以世子賾爲晉熙王燮長史行郢州事修治器械以備攸之及徵燮爲揚州以賾爲左衛將軍與燮俱下劉懷珍言於道成曰夏口衝要宜得其人道成與賾書曰汝既入朝當須文武兼資與汝意合者委以後事賾乃薦燮司馬柳世隆自代道成以世隆爲武陵王贊長史行郢州事賾將行謂世隆曰攸之一旦爲變焚夏口舟艦沿流而東不可制也若得攸之留攻郢州必未能猝拔君爲其內我爲其外破之必矣及攸之起兵賾行至尋陽未得朝廷處分衆欲倍道趨建康賾曰尋陽地居中流密邇畿甸若留屯湓口內藩朝廷外援夏首保據形勝控制西南今日會此天所置也或以爲湓口城小難固左中郎將周山圖曰今據中流爲四方聲援不可以小事難之苟衆心齊一江山皆城隍也庚午賾奉燮鎮湓口賾悉以事委山圖山圖斷取行旅船板以造樓櫓立水柵旬日皆辦道成聞之喜曰賾眞我子也以賾爲西討都督賾啓山圖爲軍副時江州刺史邵陵王友鎮尋陽賾以爲尋陽城不足固表移友同鎮湓口留江州別駕豫章胡諧之守尋陽湘州刺史王蘊遭母喪罷歸至巴陵與沈攸之深相結時攸之未舉兵蘊過郢州欲因蕭

賾出弔作難。據郢城。賾知之不出。還至東府。又欲因蕭道成出弔作難。道成又不出。蘊乃與袁粲。劉秉。密謀誅道成。將帥黃回。任候伯。孫曇瓘。王宜興。卜伯興等。皆與通謀。伯興。天與之子也。道成初聞攸之事起。自往詣粲。粲辭不見。通直郎袁達謂粲。不宜示異同。粲曰。彼若以主幼時艱。與桂陽時不異。劫我入臺。我何辭以拒之。一朝同止。欲異得乎。道成乃召褚淵。與之連席。每事必引淵共之。時劉韞爲領軍將軍。入直門下省。卜伯興爲直閤。黃回等諸將皆出屯新亭。初褚淵爲衛將軍。遭母憂。去職。朝廷敦迫。不起。粲素有重名。自往譬說。淵乃從之。及粲爲尚書令。遭母憂。淵譬說懇至。粲遂不起。淵由是恨之。及沈攸之事起。道成與淵議之。淵曰。西夏釁難。事必無成。公當先備其內耳。粲謀既定。將以告淵。衆謂淵與道成素善。不可告。粲曰。淵與彼雖善。豈容大作同異。今若不告。事定。便應除之。乃以謀告淵。淵即以告道成。道成亦先聞其謀。遣軍主蘇烈。薛淵。太原王天生。將兵助粲。守石頭。薛淵固辭。道成彊之。淵不得已。涕泣拜辭。道成曰。卿近在石頭。日夕去來。何悲如是。且又何辭。淵曰。不審公能保袁公共爲一家否。今淵往。與之同則負公。不同則立受禍。何得不悲。道成曰。所以遣卿。正爲能盡臨事之宜。使我無西顧之憂耳。但當努力。無所多言。淵。安都之從子也。道成又以驍騎將軍王敬則爲直閤。與伯興共總禁兵。粲謀矯太后令。使韞。伯興帥宿衛兵。攻道成於朝堂。同等帥所領爲應。劉秉。任候伯等。竝赴石頭。本期壬申夜發。秉恇擾不知所爲。晡後即束裝。臨去啜羹寫胷上。手振不自禁。未暗。載婦女。盡室奔石頭。部曲數百。赫奕滿道。既至見粲。粲驚曰。何事遽來。今敗矣。秉曰。得見公。萬死何恨。孫曇瓘聞之。亦奔石頭。丹陽丞王遜等。走告道成。事乃大露。遜。僧綽之子也。道成密使人告王敬則。時閤已閉。敬則欲開閤出。卜伯興嚴兵爲備。敬則乃鋸所止屋壁。得出。至中書省。收韞。韞已成嚴。列燭自照。見敬則猝至。驚起迎之曰。兄何能夜顧。敬則呵之曰。小子那敢作賊。韞抱敬則。敬則拳毆其頰。仆地而殺之。又殺伯興。蘇烈等。據倉城。拒粲。王蘊聞秉已走。歎曰。事不成矣。狼狽帥部曲數百。向石頭。本期開南門。時暗夜。薛淵據門射之。蘊謂粲已敗。即散走。道成遣軍主會稽戴僧靜。帥數百人。向石頭。助烈等。自倉門得入。與之并力攻粲。孫曇瓘。驍勇善戰。臺軍死者百餘人。王天生。殊死戰。故得相持。自亥至丑。戴僧靜分兵攻府西門。焚之。粲與秉在城東門。見火起。欲還赴府。秉與二子俣陔踰城走。粲下城。列燭自照。謂其子最曰。本知一本不能止大厦之崩。但以名義至此耳。僧靜乘暗踰城獨進。最覺有異人。以身衛粲。僧靜直前斫之。粲謂最曰。我不失忠臣。汝不失孝子。遂父子俱死。百姓哀之。謠曰。可憐石頭城。寧爲袁粲死。不作褚淵生。劉秉父子。走至額檐湖。追執斬之。任候伯等。竝乘船赴石頭。既至。臺軍已集。不得入。乃馳還。黃回嚴兵。期詰旦。帥所領從御道。直向臺門。攻道成。聞事泄。不敢發。道成撫之如舊。王蘊。孫曇瓘。皆逃竄。先捕得蘊。斬之。其餘粲黨。皆無所問。粲典籤莫嗣祖。爲粲秉宣通密謀。道成召詰之曰。袁粲謀反。何不啓聞。嗣祖曰。小人無識。但知報恩。何敢泄其大事。今袁公已死。義不求生。溫嬖人張承伯藏匿蘊。道成竝赦而用之。粲簡淡平素。而無經世之才。好飲酒。喜吟諷。身居劇任。不肯當事。主事每往諮決。或高詠對之。閒居高臥。門無雜賓。物情不接。故及於敗。

裴子野論曰。袁景倩。民望國華。受付託之重。智不足以除姦。權不足以處變。蕭條散落。危而不扶。及九鼎既輕。三才將換。區區斗城之裏。出萬死。而不辭。蓋蹈匹夫之節。而無棟梁之具矣。

甲戌。大赦。○乙亥。以尚書僕射王僧虔爲左僕射。新除中書令王延之爲右僕射。度支尚書張岱爲吏部尚書。吏部尚書王奐爲丹陽尹。延之。裕之孫也。劉秉弟遐爲吳郡太守。司徒右長史張瓌。永之子也。遭父喪。在吳。家素豪盛。蕭道成使瓌伺間取遐。會遐召瓌詣府。瓌帥部曲十餘人。直入齋中。執遐斬之。郡中莫敢動。道成聞之。以告瓌。從父領軍冲。冲曰。瓌以百口

一擲出手。得盧矣。道成卽以瓌爲吳郡太守。道成移屯閱武堂。猶以重兵付黃回。使西上。而配以腹心。回素與王宜興不協。恐宜興反告其謀。閏月。辛巳。因事收宜興斬之。諸將皆言。回握彊兵。必反。寧朔將軍桓康。請獨往刺之。道成曰。卿等何疑。彼無能爲也。沈攸之遣中兵參軍孫同等五將。以三萬人爲前驅。司馬劉攘兵等五將。以二萬人次之。又遣中兵參軍王靈秀等四將。分兵出夏口。據魯山。癸巳。攸之至夏口。自恃兵彊有驕色。以郢城弱小不足攻。云欲間訊安西。暫泊黃金浦。遣人告柳世隆曰。被太后令。當暫還都。卿旣相與奉國。想得此意。世隆曰。東下之師。久承聲問。郢城小鎭。自守而已。宗儼之勸攸之攻郢城。臧寅以爲郢城兵雖少。而地險。攻守勢異。非旬日可拔。若不時擧。挫銳損威。今順流長驅。計日可捷。旣傾根本。郢城豈能自固。攸之從其計。欲留偏師守郢城。自將大衆東下。乙未。將發。柳世隆遣人於西渚挑戰。前軍中兵參軍焦度。於城樓上肆言罵攸之。且譏辱之。攸之怒。改計攻城。令諸軍登岸。燒郭邑。築長圍。晝夜攻戰。世隆隨宜拒應。攸之不能克。道成命吳興太守沈文秀督吳錢唐軍事。文秀收攸之弟新安太守登之。誅其宗族。○乙未。以後軍將軍楊運長爲宣城太守。於是太宗嬖臣。無在禁省者矣。

沈約論曰。夫人君南面。九重奧絕。陪奉朝夕。義隔卿士。揩闔之任。宜有司存。旣而恩以狎生。信由恩固。無可憚之姿。有易親之色。孝建泰始。主威獨運。而刑政糾雜。理難遍通。耳目所寄。事歸近習。及覘歡慍。候慘舒。動中主情。擧無謬旨。人主謂其身卑位薄。以爲權不得重。曾不知鼠憑社貴。狐藉虎威。外無逼主之嫌。內有專用之効。勢傾天下。未之或悟。及太宗晚運。慮經盛衰。權倖之徒。慴憚宗戚。欲使幼主孤立。永竊國權。構造同異。興樹禍隙。帝弟宗王。相繼屠勦。實祚夙傾。實由於此矣。

辛丑。尙書左丞濟陽江謐。建議假蕭道成黃鉞。從之。○加北秦州刺史武都王楊文度。都督北秦雍二州諸軍事。以龍驤將軍楊文弘爲略陽太守。壬寅。魏皮歡喜拔葭蘆。斬文度。魏以楊難當族弟廣香爲陰平公。葭蘆戍主。仍詔歡喜築駱谷城。文弘奉表。謝罪於魏。遣子苟奴入侍。魏以文弘爲南秦州刺史。武都王。○乙巳。蕭道成出頓新亭。謂驃騎參軍江淹曰。天下紛紛。君謂何如。淹曰。成敗在德。不在衆寡。公雄武有奇略。一勝也。寬容而仁恕。二勝也。賢能畢力。三勝也。民望所歸。四勝也。奉天子以伐叛逆。五勝也。彼志銳而器小。一敗也。有威而無恩。二敗也。士卒解體。三敗也。縉紳不懷。四敗也。縣兵數千里。而無同惡相濟。五敗也。雖豺狼十萬。終爲我獲。道成笑曰。君談過矣。南徐州行事劉善明。言於道成曰。攸之收衆聚騎。造舟治械苞藏禍心。於今十年。性旣險躁。才非持重。而起逆累旬。遲廻不進。一則暗於兵機。二則人情離怨。三則有掣肘之患。四則天奪其魄。本慮其剽勇輕速。掩襲未備。決於一戰。今六師齊奮。諸侯同擧。此籠中之鳥耳。蕭賾問攸之於周山圖。山圖曰。攸之相與鄰鄉。數共征伐。頗悉其人。性度險刻。士心不附。今頓兵堅城之下。適所以爲離散之漸耳。

二年。春。正月。己酉朔。百官戎服入朝。沈攸之盡銳攻郢城。柳世隆乘間屢破之。蕭賾遣軍主桓敬等八軍。據西塞。爲世隆聲援。攸之獲郢府法曹南鄉范雲。使送書入城。餉武陵王贊。贊一羌。柳世隆魚三十尾。皆去其首。城中欲殺之。雲曰。老母弱弟。懸命沈氏。若違其命。禍必及親。今日就戮。甘心如薺。乃赦之。攸之遣其將皇甫仲賢。向武昌。中兵參軍公孫方平。向西陽。武昌太守臧渙。降於攸之。西陽太守王毓。奔湓城。方平據西陽。豫州刺史劉懷珍。遣建寧太守張謨等。將萬人擊之。辛酉。方平敗走。平西將軍黃回等軍。至西陽。泝流而進。攸之素失人情。但劫以威力。初發江陵。已有逃者。及攻郢城。三十餘日不拔。逃者稍多。攸之。日夕乘馬。歷營撫慰。而去者不息。攸之大怒。召諸軍主曰。我被太后令。建義下都。大事若克。白紗帽共著耳。如其不振。朝廷自誅我百口。不關餘人。比軍人叛散。皆卿等不以爲意。我亦不能問叛身。

自今軍中有叛者軍主任其罪於是一人叛遣人追之亦去不返莫敢發覺咸有異計劉攘兵射書入城請降柳世隆開門納之丁卯夜攘兵燒營而去軍中見火起爭棄甲走將帥不能禁攸之聞之怒銜須咀之收攘兵兄子天賜女壻張平虜斬之向旦攸之帥衆過江至魯山軍遂大散諸將皆走臧寅曰幸其成而奔其敗吾不忍爲也乃投水死攸之猶有數十騎自隨宣令軍中曰荊州城中大有錢可相與還取以爲資糧郢城未有追軍而散軍畏蠻抄更相聚結可二萬人隨攸之還江陵張敬兒既斬攸之使者即勒兵偵攸之下遂襲江陵攸之使子元琰與兼長史江夏別駕傅宣共守江陵城敬兒至沙橋觀望未進城中夜聞鶴唳謂爲軍來又宣開門出走吏民崩潰元琰奔寵洲爲人所殺敬兒至江陵誅攸之二子四孫攸之將至江陵百餘里聞城已爲敬兒所據士卒隨之者皆散攸之無所歸與其子文和走至華容界皆縊于櫟林己巳村民斬首送江陵敬兒擎之以楯覆以青繖徇諸市郭乃送建康敬兒誅攸之親黨收其財物數十萬皆以入私初倉曹參軍金城邊榮爲府錄事所辱攸之爲榮鞭殺錄事及敬兒將至榮爲留府司馬或說之使詣敬兒降榮曰受沈公厚恩共如此大事一朝緩急便易本心吾不能也城潰軍士執以見敬兒敬兒曰邊公何不早來榮曰沈公見留守城不忍委去本不祈生何須見問敬兒曰死何難得命斬之榮歡笑而去榮客太山程邕之抱榮曰與邊公周遊不忍見邊公死乞先見殺兵人不得行戮以白敬兒敬兒曰求死甚易何爲不許先殺邕之然後及榮軍人莫不垂泣孫同宗儼之等皆伏誅丙子解嚴以侍中柳世隆爲尚書右僕射蕭道成還鎮東府丁丑以左衛將軍蕭賾爲江州刺史侍中蕭嶷爲中領軍二月庚辰以尚書左僕射王僧虔爲尚書令右僕射王延之爲左僕射癸未加蕭道成太尉都督南徐等十六州諸軍事以衛將軍褚淵爲中書監司空道成表送黃鉞吏部郎王儉僧綽之子也神彩淵曠好學博聞少有宰相之志時論亦推許之道成以儉爲太尉右長史侍遇隆密事無大小專委之○丁亥魏主如代湯泉癸卯還○宕昌王彌機初立三月丙子魏遣使拜彌機征南大將軍梁益二州牧河南公宕昌王○黃回不樂在郢州固求南兗遂帥部曲輒還辛卯改都督南兗等五州諸軍事南兗州刺史○初王蘊去湘州湘州刺史南陽王翽未之鎮長沙內史庾佩玉行府事翽先遣中兵參軍韓幼宗將兵戍湘州與佩玉不相能及沈攸之反兩人互相疑佩玉襲殺幼宗黃回至郢州遣輔國將軍任候伯行湘州事候伯輒殺佩玉冀以自免湘州刺史呂安國之鎮蕭道成使安國誅候伯○夏四月甲申魏主如崞山丁亥還○蕭道成以黃回終爲禍亂回有部曲數千人欲遣收恐爲亂辛卯召回入東府至停外齋使桓康將數十人數回罪而殺之并其子竟陵相僧念○甲午以淮南宣城二郡太守蕭映行南兗州事仍以其弟晃代之○五月魏禁皇族貴戚及士民之家不顧氏族下與非類昏偶犯者以違制論○魏主與太后臨虎圈有虎逸登閣道幾至御坐侍衛皆驚靡吏部尚書王叡執戟禦之太后稱以爲忠親任愈重○六月丁酉以輔國將軍楊文弘爲北秦州刺史武都王○庚子魏皇叔若卒○蕭道成以大明以來公私奢侈秋八月奏罷御府省二尚方彫飾器玩辛卯又奏禁民間華僞雜物凡十七條○乙未以蕭賾爲領軍將軍蕭嶷爲江州刺史○九月乙巳朔日有食之○蕭道成欲引時賢參贊大業夜召驃騎長史謝朏屏人與語久之朏無言唯二小兒捉燭道成慮朏難之仍取燭遣兒朏又無言道成乃呼左右朏莊之子也太尉右長史王儉知其指它日請間言於道成曰功高不賞古今非一以公今日位地欲終北面可乎道成正色裁之而神采內和儉因曰儉蒙公殊眄所以吐所難吐何賜拒之深宋氏失德非公豈復寧濟但人情澆薄不能持久公若小復推遷則人望去矣豈唯大業永淪七尺亦不可得保道成曰卿言不無理儉曰公今名位故是經常宰相宜禮絕羣后微示變革當先令褚公知之儉請銜命道成曰我當自往

經少日道成自造褚淵欵言移晷乃謂曰我夢應得官淵曰今授始爾恐一二年間未容便移且吉夢未必應在旦夕道成還以告儉儉曰褚是未達理耳儉乃唱議加道成太傅假黃鉞使中書舍人虞整作詔道成所親任遐曰此大事應報褚公道成曰褚公不從柰何遐曰彥回惜身保妻子非有奇才異節遐能制之淵果無違異丙午詔進道成假黃鉞大都督中外諸軍事太傅領揚州牧劒履上殿入朝不趨贊拜不名使持節太尉驃騎大將軍錄尚書南徐州刺史如故道成固辭殊禮○以揚州刺史晉熙王燮爲司徒○戊申太傅道成以蕭映爲南兗州刺史冬十月丁丑以蕭晃爲豫州刺史○己卯獲孫曇瓘殺之○魏員外散騎常侍鄭羲來聘○壬寅立皇后謝氏后莊之孫也○十一月癸亥臨澧侯劉晃坐謀反與其黨皆伏誅晃秉之從子也○甲子徙南陽王翽爲隨郡王○魏馮太后忌青州刺史南郡王李惠誣云惠將南叛十二月癸巳誅惠及妻幷其子弟太后以猜嫌所夷滅者十餘家而惠所歷皆有善政魏人尤寃惜之○尚書令王僧虔奏以朝廷禮樂多違正典大明中卽以宮縣合和鞞拂節數雖會慮乖雅體又今之清商實由銅爵三祖風流遺音盈耳京洛相高江左彌貴中庸和雅莫近於斯而情變聽移稍復銷落十數年間亡者將半民間競造新聲雜曲煩淫無極宜命有司悉加補綴朝廷從之○是歲魏懷州刺史高允以老疾告歸鄉里尋復以安車徵至平城拜鎭軍大將軍中書監固辭不許乘車入殿朝賀不拜

資治通鑑卷第一百三十四

資治通鑑卷第一百三十五

齊紀一

太祖高皇帝

建元元年春正月甲辰以江州刺史蕭嶷爲都督荊湘等八州諸軍事荊州刺史尚書左僕射王延之爲江州刺史安南長史蕭子良爲督會稽等五郡諸軍事會稽太守初沈攸之欲聚衆開民相告士民坐執役者甚衆嶷至鎭一日罷遣三千餘人府州儀物務存儉約輕刑薄斂所部大悅○辛亥以竟陵世子賾爲尚書僕射進號中軍大將軍開府儀同三司○太傅道成以謝朏有重名必欲引參佐命以爲左長史嘗置酒與論魏晉故事因曰石苞不早勸晉文死方慟哭方之馮異非知機也朏曰晉文世事魏室必將身終北面借使魏依唐虞故事亦當三讓彌高道成不悅甲寅以朏爲侍中更以王儉爲左長史○丙辰以給事黃門侍郎蕭長懋爲雍州刺史○二月丙子邵陵殤王友卒○辛巳魏太皇太后及魏主如代郡溫泉○甲午詔申前命命太傅贊拜不名○己亥魏太皇太后及魏主如西宮○三月癸卯朔日有食之○甲辰以太傅爲相國總百揆封十郡爲齊公加九錫其驃騎大將軍揚州牧南徐州刺史如故乙巳詔齊國官爵禮儀竝倣天朝丙午以世子賾領南豫州刺史○楊運長去宣城郡還家齊公遣人殺之凌源令潘智與運長厚善臨川王綽義慶之孫也綽遣腹心陳讚說智曰君先帝舊人身是宗室近屬如此形勢豈得久全若招合內外計多有從者臺城內人常有此心苦無人建意耳智卽以告齊公庚戌誅綽兄弟及其黨與○甲寅齊公

受策命。放其境內。以石頭爲世子宮。一如東宮。褚淵引何曾自魏司徒爲晉丞相故事。求爲齊官。齊公不許。以王儉爲齊尚書右僕射。領吏部。儉時年二十八。夏。四月。壬申朔。進齊公爵爲王。增封十郡。甲戌。武陵王贊卒。非疾也。丙戌。加齊王殊禮。進世子爲太子。辛卯。宋順帝下詔。禪位于齊。壬辰。帝當臨軒。不肯出。逃于佛蓋之下。王敬則勒兵殿庭。以板輿入迎帝。太后懼。自帥閹人索得之。敬則啓譬令出。引令升車。帝收淚。謂敬則曰。欲見殺乎。敬則曰。出居別宮耳。官先取司馬家。亦如此。帝泣而彈指曰。願後身世世。勿復生天王家。宮中皆哭。帝拍敬則手曰。必無過慮。當餉輔國十萬錢。是日。百僚陪位。侍中謝朏在直。當解璽綬。陽爲不知曰。有何公事。傳詔云。解璽綬授齊王。朏曰。齊自應有侍中。乃引枕臥。傳詔懼使朏稱疾。欲取兼人。朏曰。我無疾。何所道。遂朝服。步出東掖門。仍登車還宅。乃以王儉爲侍中。解璽綬。禮畢。帝乘畫輪車。出東掖門。就東邸。問。今日何不奏鼓吹。左右莫有應者。右光祿大夫王琨。華之從父弟也。在晉世。已爲郎中。至是。攀車獺尾。慟哭曰。人以壽爲歡。老臣以壽爲戚。既不能先驅螻蟻。乃復頻見此事。嗚咽不自勝。百官雨泣。司空兼太保褚淵等。奉璽綬。帥百官。詣齊宮。勸進。王辭讓未受。淵從弟前安成太守炤。謂淵子賁曰。司空今日何在。賁曰。奉璽綬在齊大司馬門。炤曰。不知汝家司空。將一家物。與一家。亦復何謂。甲午。王即皇帝位于南郊。還宮。大赦。改元。奉宋順帝爲汝陰王。優崇之禮。皆倣宋初。築宮丹陽。置兵守衛之。宋神主遷汝陰廟。諸王皆降爲公。自非宣力齊室。餘皆除國。獨置南康。華容。泮鄉三國。以奉劉穆之。王弘。何無忌之後。除國者凡百二十人。二臺官僚。依任攝職。名號不同。員限盈長者。別更詳議。以褚淵爲司徒。賓客賀者滿座。褚炤歎曰。彥回少立名行。何意披猖至此。門戶不幸。乃復有今日之拜。使彥回作中書郎。而死。不當爲一名士邪。名德不昌。乃復有期頤之壽。淵固辭不拜。奉朝請河東裴顒。上表數帝過惡。掛冠徑去。帝怒殺之。太子賾請殺謝朏。帝曰。殺之。遂成其名。正應

容之度外耳。久之。因事廢于家。帝問爲政於前撫軍行參軍沛國劉斌。對曰。政在孝經。凡宋氏所以亡。陛下所以得者。皆是也。陛下若戒前車之失。加之以寬厚。雖危可安。若循其覆轍。雖安必危矣。帝歎曰。儒者之言。可寶萬世。○丙申。魏主如幸山。○丁酉。以太子詹事張緒爲中書令。齊國左衛將軍陳顯達爲中護軍。右衛將軍李安民爲中領軍。緒。岱之兄子也。○戊戌。以荊州刺史嶷爲尚書令。驃騎大將軍。開府儀同三司。揚州刺史。南兗州刺史映爲荊州刺史。○帝命羣臣。各言得失。淮南宣城二郡太守劉善明。請除宋氏大明。泰始以來諸苛政細制。以崇簡易。又以爲交州險遠。宋末政苛。遂至怨叛。今大化創始。宜懷以恩德。且彼土所出。唯有珠寶。實非聖朝所須之急。討伐之事。謂宜且停。給事黃門郎清河崔祖思。亦上言以爲。人不學則不知道。此悖逆禍亂所由生也。今無員之官。空受祿力。彫耗民財。宜開文武二學。課臺府州國。限外之人。各從所樂。依方習業。若有廢惰者。遣還故郡。經藝優殊者。待以不次。又今陛下雖躬履節儉。而羣下猶安習侈靡。宜褒進朝士之約素清修者。貶退其驕奢荒淫者。則風俗可移矣。宋元嘉之世。凡事皆責成郡縣。世祖徵求急速。以郡縣遲緩。始遣臺使督之。自是使者所在旁午。競作威福。營私納賂。公私勞擾。會稽太守聞喜公子良上表。極陳其弊。以爲臺有求須。但明下詔敕。爲之期會。則人思自竭。若有稽遲。自依糾坐之科。今雖臺使盈湊。會取正屬所辦。徒相疑憤。反更淹懈。宜悉停臺使。員外散騎郎劉思效上言。宋自大明以來。漸見凋弊。徵賦有加。而天府尤貧。小民嗷嗷。殆無生意。而貴族富室。以侈麗相高。乃至山澤之民。不敢采食其水草。陛下宜一新王度。革正其失。上皆加褒賞。或以表付外。使有司詳擇所宜。奏行之。己亥。詔二宮諸王。悉不得營立屯邸。封略山湖。○魏主還平城。○魏秦州刺史尉洛侯。雍州刺史宜都王目辰。長安鎮將陳提等。皆坐貪殘不法。洛侯目辰伏誅。提徙邊。又詔。以候官千數。重罪受賕。不列。輕罪吹毛發舉。宜悉罷之。更置謹直者數百人。使防

邏街術執喧鬬者而已自是吏民始得安業○自泰始以來內外多虞將帥各募部曲屯聚建康李安民上表以爲自非淮北常備外餘軍悉皆輸遣若親近宜立隨身者聽限人數上從之五月辛亥詔斷衆募○壬子上賞佐命之功褚淵王儉等進爵增戶各有差處士何點謂人曰我作齊書已竟贊云淵既世族儉亦國華不賴舅氏遑恤國家點尚之孫也淵母宋始安公主繼母吳郡公主又尚巴西公主儉母武康公主又尚陽羨公主故點云然○己未或走馬過汝陰王之門衞士恐有爲亂者奔入殺王而以疾聞上不罪而賞之辛酉殺宋宗室陰安公燮等無少長皆死前豫州刺史劉澄之遵考之子也與褚淵善淵爲之固請曰澄之兄弟不武且於劉宗又疎故遵孝之族獨得免○丙寅追尊皇考曰宣皇帝皇妣陳氏曰孝皇后○丁卯封皇子鈞爲衡陽王○上謂兗州刺史垣崇祖曰吾新得天下索虜必以納劉昶爲辭侵犯邊鄙壽陽當虜之衝非卿無以制此虜也乃徙崇祖爲豫州刺史○六月丙子誅游擊將軍姚道和以其貳於沈攸之也○甲申立王太子賾爲皇太子皇子嶷爲豫章王映爲臨川王晃爲長沙王曄爲武陵王昌爲安成王鏘爲鄱陽王鑠爲桂陽王鑑爲廣陵王皇孫長懋爲南郡王○乙酉葬宋順帝于遂寧陵○帝以建康居民舛雜多姦盜欲立符伍以相檢括右僕射王儉諫曰京師之地四方輻湊必也持符於事既煩理成不曠謝安所謂不爾何以爲京師也乃止○初交州刺史李長仁卒從弟叔獻代領州事以號令未行遣使求刺史於宋宋以南海太守沈煥爲交州刺史以叔獻爲煥寧遠司馬武平新昌二郡太守叔獻既得朝命人情服從遂發兵守險不納煥煥停鬱林病卒秋七月丁未詔曰交阯比景獨隔書朔斯乃前運方季因迷遂往宜曲赦交州卽以叔獻爲刺史撫安南土○魏葭蘆鎭主楊廣香請降丙辰以廣香爲沙州刺史○八月乙亥魏主如方山丁丑還宮○上聞魏將入寇九月乙巳以豫章王嶷爲荊湘二州刺史都督如故以臨川王映爲揚州刺史○丙午以司空褚淵領尚書令○壬子魏以侍中司徒東陽王丕爲太尉侍中尚書右僕射陳建爲司徒侍中尚書代人苟頹爲司空○己未魏安樂厲王長樂謀反賜死○庚申魏隴西宣王源賀卒○冬十月己巳朔魏大赦○癸未汝陰太妃王氏卒謚曰宋恭皇后○初晉壽民李烏奴與白水氐楊成等寇梁州梁州刺史范柏年說降烏奴擊成破之及沈攸之事起柏年遣兵出魏興聲云入援實候望形勢事平朝廷遣王玄邈代之詔柏年與烏奴俱下烏奴勸柏年不受代柏年計未決玄邈已至柏年乃留烏奴於漢中還至魏興盤桓不進左衞率豫章胡諧之嘗就柏年求馬柏年曰馬非狗也安能應無已求待使者甚薄使者還語諧之曰柏年云胡諧之何物狗所求無厭諧之恨之譖於上曰柏年恃險聚衆欲專據一州上使雍州刺史南郡王長懋誘柏年啓爲府長史柏年至襄陽上欲不問諧之曰見虎格得而縱上山乎甲午賜柏年死李烏奴叛入氐依楊文弘引氐兵千餘人寇梁州陷白馬戍王玄邈使人詐降誘烏奴烏奴輕兵襲州城玄邈伏兵邀擊大破之烏奴挺身復走入氐初玄邈爲青州刺史上在淮陰爲宋太宗所疑欲北附魏遣書結玄邈玄邈長史清河房叔安曰將軍居方州之重無故舉忠孝而弃之三齊之士寧蹈東海而死耳不敢隨將軍也玄邈乃不答上書及罷州還至淮陰嚴軍直過至建康啓太宗稱上有異志及上爲驃騎引爲司馬玄邈甚懼而上待之如初及破烏奴上曰玄邈果不負吾意遇也叔安爲寧蜀太守上賞其忠正欲用爲梁州會病卒○十一月辛亥立皇太子妃裴氏○癸丑魏遣假梁郡王嘉督二將出淮陰隴西公琛督三將出廣陵河東公薛虎子督三將出壽陽奉丹陽王劉昶入寇許昶以克復舊業世胙江南稱藩于魏蠻酋桓誕請爲前驅以誕爲南征西道大都督義陽民謝天蓋自稱司州刺史欲以州附魏魏樂陵鎭將韋珍引兵渡淮應接豫章王嶷遣中兵參軍蕭惠朗將二千人助司州刺史蕭景先討天蓋韋珍略七千餘戶而去景先上之從子也南兗州

刺史王敬則。聞魏將濟淮。委鎮還建康。士民驚散。既而魏竟不至。上以其功臣不問。上之輔宋也。遣驍騎將軍王洪範。使柔然。約與共攻魏。洪範自蜀出吐谷渾。歷西域。乃得達。至是。柔然十餘萬騎寇魏。至塞上而還。○是歲。魏詔中書監高允議定律令。允雖篤老。而志識不衰。詔以允家貧養薄。令樂部絲竹十人。五日一詣允。以娛其志。朝晡給膳。朔望致牛酒。月給衣服綿絹。入見則備几杖。問以政治。○契丹莫賀弗勿于帥部落萬餘口入附于魏。居白狼水東。二年。春。正月。戊戌朔。大赦。○以司空褚淵爲司徒。尚書右僕射王儉爲左僕射。淵不受。○辛丑。上祀南郊。○魏隴西公琛等攻拔馬頭戍。殺太守劉從。乙卯。詔內外纂嚴。發兵拒魏。徵南郡王長懋爲中軍將軍。鎮石頭。○魏廣川莊王略卒。○魏師攻鍾離。徐州刺史崔文仲擊破之。文仲遣軍主崔孝伯渡淮攻魏。杜眉戍主龍得侯等殺之。文仲。祖思之族人也。羣蠻依阻山谷。連帶荆湘雍郢司五州之境。聞魏師入寇。乃盡發民丁。南襄城蠻秦遠。乘虛寇潼陽。殺縣令。司州蠻引魏兵。寇平昌。平昌戍主苟元賓擊破之。北上黃蠻文勉德。寇汝陽。汝陽太守戴元賓弃城奔江陵。豫章王嶷遣中兵參軍劉伾緒。將千人討之。至當陽。勉德請降。秦遠遁去。魏將薛道標引兵趣壽陽。上使齊郡太守劉懷慰。作冠軍將軍薛淵書。以招道標。魏人聞之。召道標還。使梁郡王嘉代之。懷慰乘民之子也。二月。丁卯朔。嘉與劉昶寇壽陽。將戰。昶四向拜將士。流涕縱橫曰。願同戮力。以雪讎恥。魏步騎號二十萬。豫州刺史垣崇祖。集文武議之。欲治外城。堰肥水。以自固。皆曰。昔佛狸入寇。南平王士卒完盛。數倍於今。猶以郭大難守。退保內城。且自有肥水。未嘗堰也。恐勞而無益。崇祖曰。若弃外城。虜必據之。外修樓櫓。內築長圍。則坐成擒矣。守郭築堰。是吾不諫之策也。乃於城西北堰肥水。堰北築小城。周爲深塹。使數千人守之。曰。虜見城小。以爲一舉可取。必悉力攻之。以謀破堰。吾縱水衝之。皆爲流尸矣。魏人果蟻附攻小城。崇祖著白紗帽。肩輿上城。晡時決堰下水。魏攻城之衆。漂墜塹中。人馬溺死以千數。魏師退走。○謝天蓋部曲。殺天蓋。以降。○宋自孝建以來。政綱弛紊。簿籍訛謬。上詔黃門郎會稽虞玩之等。更加檢定。曰。黃籍。民之大紀。國之治端。自頃巧僞日甚。何以釐革。玩之上表。以爲元嘉中。故光祿大夫傅隆。年出七十。猶手自書籍。躬加隱校。今欲求治取正。必在勤明。令長。愚謂宜以元嘉二十七年籍爲正。更立明科。一聽首悔。迷而不返。依制必戮。若有虛昧。州縣同科。上從之。○上以羣蠻數爲叛亂。分荆益。置巴州。以鎮之。壬申。以三巴校尉明慧昭爲巴州刺史。領巴東太守。是時。齊之境內。有州二十三。郡三百九十。縣千四百八十五。乙酉。崔文仲遣軍主陳靖。拔魏竹邑。殺戍主白仲都。崔叔延破魏睢陵。殺淮陽太守梁惡。三月。丁酉朔。以侍中西昌侯鸞爲郢州刺史。鸞。帝兄始安貞王道生之子也。早孤。爲帝所養。恩過諸子。○魏劉昶以雨水方降。表請還師。魏人許之。丙午。遣車騎大將軍馮熙將兵迎之。○夏。四月。辛巳。魏主如白登山。五月。丙申朔。如火山。壬寅。還平城。○自晉以來。建康宮之外城。唯設竹籬。而有六門。會有發白虎樽者。言。白門三重闕。竹籬穿不完。上感其言。命改立都牆。○李烏奴數乘間。出寇梁州。豫章王嶷遣中兵參軍王圖南。將益州兵從劍閣掩擊之。梁南秦二州刺史崔慧景。發梁州兵屯白馬。與圖南。覆背擊烏奴。大破之。烏奴走保武興。慧景。祖思之族人也。○秋。七月。辛亥。魏主如火山。○戊午。皇太子穆妃裴氏卒。詔南郡王長懋移鎮西州。○角城戍主。舉城降魏。秋。八月。丁酉。魏遣徐州刺史梁郡王嘉。迎之。又遣平南將軍郎大檀等三將。出朐城。將軍白吐頭等二將。出海西。將軍元泰等二將。出連口。將軍封延等三將。出角城。鎮南將軍賀羅。出下蔡。同入寇。○甲辰。魏主如方山。戊申。遊武州山石窟寺。庚戌。還平城。○崔慧景遣長史裴叔保。攻李烏奴於武興。爲氐王楊文弘所敗。○九月。甲午朔。日有食之。○丙午。柔然遣使來聘。○汝南太守常元眞。龍驤將軍胡青苟。降於魏。○閏月。辛巳。遣領軍李安民。循行淸泗諸戍。以備魏。○魏梁郡王嘉。帥衆十萬。圍朐山。朐山戍主玄

元度。嬰城固守。青冀二州刺史范陽盧紹之。遣子奐。將兵助之。庚寅。元度大破魏師。臺遣軍主崔靈建等。將萬餘人。自淮入海。夜至。各擧兩炬。魏師望見遁去。○冬。十月。王儉固請解選職。許之。加儉侍中。以太子詹事何戢領選。上以戢資重。欲加常侍。褚淵曰。聖旨每以蟬冕不宜過多。臣與王儉。既已左珥。若復加戢。則八座遂有三貂。若帖以驍游。亦爲不少。乃以戢爲吏部尚書。加驍騎將軍。○甲辰。以沙州刺史楊廣香爲西秦州刺史。又以其子昊爲武都太守。○丁未。魏以昌黎王馮熙爲西道都督。與征南將軍桓誕出義陽。鎮南將軍賀羅出鍾離。同入寇。○淮北四州民。不樂屬魏。常思歸江南。上多遣間諜誘之。於是徐州民桓標之。兗州民徐猛子等。所在蠭起爲寇盜。聚衆保五固。推司馬朗之爲主。魏遣淮陽王尉元。平南將軍薛虎子等討之。○十一月。戊寅。丹楊尹王僧虔上言。郡縣獄。相承有上湯殺囚。名爲救疾。實行冤暴。豈有死生大命而潛制下邑。愚謂囚病。必先刺郡。求職司與醫。對共診驗。遠縣家人省視。然後處治。上從之。○戊子。以楊難當之孫後起爲北秦州刺史。武都王。鎮武興。○十二月。戊戌。以司空褚淵爲司徒。淵入朝。以腰扇障日。征虜功曹劉祥。從側過曰。作如此舉止。羞面見人。扇障何益。淵曰。塞士不遜。祥曰。不能殺袁劉。安得免塞士。祥。穆之之孫也。祥好文學。而性韻剛疎。撰宋書。譏斥禪代。王儉密以聞。坐徙廣州。而卒。太子宴朝臣於玄圃。右衞率沈文季。與褚淵語相失。文季怒曰。淵自謂忠臣。不知死之日。何面目見宋明帝。太子笑曰。沈率醉矣。○壬子。以豫章王嶷爲中書監。司空。揚州刺史。以臨川王映爲都督荆雍等九州諸軍事。荆州刺史。○是歲。魏尚書令王叡。進爵中山王。加鎮東大將軍。置王官二十二人。以中書侍郎鄭羲爲傅。郎中令以下。皆當時名士。又拜叡妻丁氏爲妃。

三年。春。正月。封皇子鋒爲江夏王。○魏人寇淮陽。圍軍主成買於甬城。上遣領軍將軍李安民爲都督。與軍主周盤龍等救之。魏人緣淮大掠。江北民。皆驚走渡江。成買力戰而死。盤龍之子奉叔。以二百人。陷陳深入。魏以萬餘騎。張左右翼圍之。或告盤龍云。奉叔已沒。盤龍馳馬奮矟。直突魏陳。所向披靡。奉叔已出復入。求盤龍。父子兩騎縈擾。魏數萬之衆。莫敢當者。魏師遂敗。殺傷萬計。魏師退。李安民等。引兵追之。戰於孫溪渚。又破之。○己卯。魏主南巡。司空苟頹留守丁亥。魏主至中山。○二月。辛卯朔。魏大赦。○丁酉。游擊將軍桓康。復敗魏師於淮陽。進攻樊諧城。拔之。○魏主自中山。如信都。癸卯。復如中山。庚戌。還至肆州。沙門法秀。以妖術惑衆。謀作亂於平城。苟頹帥禁兵收掩。悉擒之。魏主還平城。有司囚法秀。加以籠頭鐵鎖。無故自解。魏人穿其頸骨。祝之曰。若果有神。當令穿肉不入。遂穿以狗。三日乃死。議者或欲盡殺道人。馮太后不可。乃止。○垣崇祖之敗魏師也。恐魏復寇淮北。乃徙下蔡戍於淮東。既而魏師果至。欲攻下蔡。聞其內徙。欲夷其故城。己酉。崇祖引兵渡淮擊魏。大破之。殺獲千計。○晉宋之際。荆州刺史。多不領南蠻校尉。別以重人居之。豫章王嶷爲荆湘二州刺史。領南蠻。嶷罷。更以侍中王奐爲之。奐固辭曰。西土戎燼之後。痍毀難復。今復割撤太府。制置偏校。崇望不足。助彊語實。交能相弊。且資力既分。職司增廣。衆勞務倍。文案滋煩。竊以爲國計非允。癸丑。罷南蠻校尉官。○三月。辛酉朔。魏主如肆州。己巳。還平城。○魏法秀之亂。事連蘭臺御史張求等百餘人。皆以反法當族。尚書令王叡。請誅首惡。宥其餘黨。下詔應誅五族者。降爲三族。三族者門誅。門誅止其身。所免千餘人。○夏。四月。己亥。魏主如方山。馮太后樂其山川。曰。它日必葬我於是。不必祔山陵也。乃爲太后作壽陵。又建永固石室於山上。欲以爲廟。○桓標之等。有衆數萬。塞險求援。庚子。詔李安民。督諸將。往迎之。又使兗州刺史周山圖。自淮入清。倍道應接。淮北民桓磊魏。破魏師於抱犢固。李安民。赴救遲留。標之等。皆爲魏所滅。餘衆得南歸者。尚數千家。魏人亦掠三萬餘口。歸平城。○魏任城康王雲卒。○五月。壬戌。鄧至王像舒。遣使入貢于魏。鄧至者。羌之別種。國於宕昌之南。○六月。壬子。大赦。○甲辰。魏中

山宣王王叡卒。叡疾病。太皇太后。魏主。屢至其家視疾。及卒。贈太宰。立廟於平城南。文士爲叡作哀詩及誄者百餘人。及葬。自稱親姻義舊。縗絰哭送者千餘人。魏主以叡子中散大夫襲代叡爲尚書令。領吏部曹。○戊午。魏封皇叔簡爲齊郡王。猛爲安豐王。○秋。七月。己未朔。日有食之。○上使後軍參軍車僧朗使於魏。甲子。僧朗至平城。魏主問曰。齊輔宋日淺。何故遽登大位。對曰。虞夏登庸。身陟元后。魏晉匡輔。貽厥子孫。時宜各異耳。○辛酉。柔然別帥他稽。帥衆降魏。○楊文弘遣使請降。詔復以爲北秦州刺史。先是。楊廣香卒。其衆半奔文弘。半奔梁州。文弘遣楊後起。進據白水。上雖授以官爵。而陰敕晉壽太守楊公則。使伺便圖之。○宋昇明中。遣使者殷靈誕。苟昭先。如魏。聞上受禪。靈誕謂魏典客曰。宋魏通好。憂患是同。宋今滅亡。魏不相救。何用和親。及劉昶入寇。靈誕請爲昶司馬。不許。九月。庚午。魏閱武於南郊。因宴羣臣。置車僧朗於靈誕下。僧朗不肯就席曰。靈誕昔爲宋使。今爲齊民。乞魏主以禮見處。靈誕遂與相忿詈。劉昶賂宋降人解奉君。誅之。厚送僧朗之喪。放靈誕等南歸。及世祖卽位。昭先具以靈誕之語啓聞。靈誕坐下獄死。○辛未。柔然主遣使來聘。與上書。謂上爲足下。自稱曰吾。遺上師子皮袴褶。約共伐魏。○魏尉元薛虎子克五固。斬司馬朗之。東南諸州皆平。尉元入爲侍中。都曹尚書。薛虎子爲彭城鎮將。遷徐州刺史。時州鎮戍兵。資絹自隨。不入公庫。虎子上表。以爲國家欲取江東。先須積穀彭城。竊惟在鎮之兵。不減數萬。資糧之絹。人十二匹。用度無準。未及代下。不免飢寒。公私損費。今徐州良田十萬餘頃。水陸肥沃。清汴通流。足以漑灌。若以兵絹市牛。可得萬頭。興置屯田。一歲之中。且給官食。半兵芸殖。餘兵屯戍。且耕且守。不妨捍邊。一年之收。過於十倍之絹。蹔時之耕。足充數載之食。於後兵資。皆貯公庫。五稔之後。穀帛俱溢。非直戍卒豐飽。亦有吞敵之勢。魏人從之。虎子爲政。有惠愛。兵民懷之。會沛郡太守邵安。下邳太守張攀。以贓汙爲虎子所案。各遣子上書。告虎子與江南通。魏主曰。虎子必不然。推案果虛。詔安攀皆賜死。二子各鞭一百。○吐谷渾王拾寅卒。世子度易侯立。冬。十月。戊子朔。以度易侯爲西秦河二州刺史。河南王。○魏中書令高閭等。更定新律成。凡八百三十二章。門房之誅十有六。大辟二百三十五。雜刑三百七十七。○初高昌王闞伯周卒。子義成立。是歲。其從兄首歸。殺義成自立。高車王可至羅。殺首歸兄弟。以敦煌張明爲高昌王。國人殺明。立馬儒爲王。

四年。春。正月。壬戌。詔置學生二百人。以中書令張緒爲國子祭酒。○甲戌。魏大赦。○三月。庚申。上召司徒褚淵。尚書左僕射王儉。受遺詔輔太子。壬戌。殂于臨光殿。太子卽位。大赦。高帝沉深有大量。博學能文。性清儉。主衣中有玉導。上敕中書曰。留此。正是興長病源。卽命擊碎。仍檢按有何異物。皆隨此例。每曰。使我治天下十年。當使黃金與土同價。○乙丑。以褚淵錄尚書事。王儉爲侍中。尚書令。車騎將軍張敬兒開府儀同三司。丁卯。以前將軍王奐爲尚書左僕射。庚午。以豫章王嶷爲太尉。○庚辰。魏主臨虎圈。詔曰。虎狼猛暴。取捕之日。每多傷害。既無所益。損費良多。從今勿復捕貢。○夏。四月。庚寅。上大行謚曰高皇帝。廟號太祖。丙午。葬泰安陵。○辛卯。追尊穆妃爲皇后。六月。甲申朔。立南郡王長懋爲皇太子。丙申。立太子妃王氏。妃。琅邪人也。封皇子聞喜公子良爲竟陵王。臨汝公子卿爲廬陵王。應城公子敬爲安陸王。江陵公子懋爲晉安王。枝江公子隆爲隨郡王。子眞爲建安王。皇孫昭業爲南郡王。○司徒褚淵寢疾。自表遜位。世祖不許。淵固請懇切。癸卯。以淵爲司空。領驃騎將軍。侍中。錄尚書如故。○秋。七月。魏發州郡五萬人。治靈丘道。○吏部尚書濟陽江謐。性諂躁。太祖殂。謐恨不豫顧命。上卽位。謐又不遷官。以此怨望。誹謗。會上不豫。謐詣豫章王嶷。請間曰。至尊非起疾東宮。又非才。公今欲作何計。上知之。使御史中丞沈冲。奏謐前後罪惡。庚寅。賜謐死。○癸卯。南康文簡公褚淵卒。世子侍中賁。恥其父失節。服除。遂不仕。以爵讓其弟蓁。屏居墓下。終身。

○九月。丁巳。以國哀罷國子學。○氐王楊文弘卒。諸子皆幼。乃以兄子後起爲嗣。九月。辛酉。魏以後起爲武都王。文弘子集始爲白水太守。既而集始自立爲王。後起擊破之。○魏以荆州巴氐擾亂。以鎮西大將軍李崇爲荆州刺史。崇顯祖之舅子也。將之鎮。勑發陝秦二州兵送之。崇辭曰。邊人失和。本怨刺史。今奉詔代之。自然安靖。但須一詔而已。不煩發兵自防。使之懷懼也。魏朝從之。崇遂輕將數十騎。馳至上洛。宣詔慰諭。民夷帖然。崇命邊戍掠得齊人者。悉還之。由是齊人亦還其生口二百許人。二境交和。無復烽燧之警。久之。徙兗州刺史。兗土舊多劫盜。崇命村置一樓。樓皆懸鼓。盜發之處。亂擊之。旁村始聞者。以一擊爲節。次二。次三。俄頃之間。聲布百里。皆發人守險要。由是盜發。無不擒獲。其後。諸州皆效之。自崇始也。○辛未。以征南將軍王僧虔爲左光祿大夫。開府儀同三司。以尚書右僕射王奐爲湘州刺史。○宋故建平王景素。主簿何昌㝢。記室王摛。及所舉秀才劉璡。前後上書。陳景素德美。爲之訟寃。冬。十月。辛丑。詔。聽以士禮還葬舊塋。璡。斌之弟也。○十一月。魏高祖將親祠七廟。命有司具儀。法依古制。備牲牢器服及樂章。自是四時常祀皆親之。

世祖武皇帝上之上

永明元年。春。正月。辛亥。上祀南郊。大赦。改元。○詔。以邊境寧晏。治民之官。普復田秩。○以太尉豫章王嶷領太子太傅。嶷不參朝務。而常密獻謀畫。上多從之。○壬戌。立皇弟銳爲南平王。鏗爲宜都王。皇子子明爲武昌王。子罕爲南海王。○二月。辛巳。以征虜將軍楊昊爲沙州刺史。陰平王。○辛丑。以宕昌王梁彌機爲河涼二州刺史。鄧至王像舒爲西涼州刺史。○宋末。以治民之官。六年過久。乃以三年爲斷。謂之小滿。而遷換去來。又不能依三年之制。三月。癸丑。詔。自今一以小滿爲限。有司以天文失度。請禳之。上曰。應天以實。不以文。我克己求治。思隆惠政。若災眚在我。禳之何益。○夏。四月。壬午。詔。袁粲。劉秉。沈攸之。雖末節不終。而始誠可錄。皆命以禮改葬。○上之爲太子也。自以年長。與太祖同創大業。朝事大小。率皆專斷。多違制度。信任左右張景眞。景眞驕侈。被服什物。僭擬乘輿。內外畏之。莫敢言者。司空諮議荀伯玉。素爲太祖所親厚。歎曰。太子所爲。官終不知。豈得畏死。蔽官耳目。我不啓聞。誰當啓者。因太子拜陵。密以啓太祖。太祖怒。命檢校東宮。太子拜陵。還至方山。晚。將泊舟。豫章王嶷。自東府乘飛驚。東迎太子。告以上怒之意。太子夜歸入宮。太祖亦停門籥。待之。明日。太祖使南郡王長懋。聞喜公子良。宣敕詰責。幷示以景眞罪狀。使以太子令收景眞殺之。太子憂懼。稱疾月餘。太祖怒不解。晝臥太陽殿。王敬則直入叩頭。啓太祖曰。官有天下日淺。太子無事被責。人情恐懼。願官往東宮。解釋之。太祖無言。敬則因大聲宣旨。裝束往東宮。又勑大官設饌。呼左右索輿。太祖了無動意。敬則索衣被太祖。仍牽强登輿。太祖不得已。至東宮。召諸王宴於玄圃。長沙王晃捉華蓋。臨川王映執雉尾扇。聞喜公子良持酒鎗。南郡王長懋行酒。太子及豫章王嶷。王敬則自捧酒饌。至暮盡醉乃還。太祖嘉伯玉忠藎。愈見親信。軍國密事。多委使之。權動朝右。遭母憂。去宅二里許。冠蓋已塞路。左率蕭景先。侍中王晏。共弔之。自旦至暮始得前。比出。飢乏。氣息惙然。憤悒形於聲貌。明日言於太祖曰。臣等所見。二宮門庭。比荀伯玉宅。可張雀羅矣。晏。敬弘之從子也。驍騎將軍陳胤叔。先亦白景眞及太子得失。而語太子。皆云。伯玉以聞。太子由是深怨伯玉。太祖陰有以豫章王嶷代太子之意。而嶷事太子愈謹。故太子友愛不衰。豫州刺史垣崇祖。不親附太子。會崇祖破魏兵。太祖召還朝。與之密謀。太子疑之。曲加禮待。謂曰。世間流言。我已豁懷。自今以富貴相付。崇祖拜謝。會太祖復遣荀伯玉。勑以邊事。受旨夜發。不得辭東宮。太子以爲不盡誠。益銜之。太祖臨終。指伯玉以屬太子。上卽位。崇祖累遷五兵尚書。伯玉累遷散騎常侍。伯玉內懷憂懼。上以伯玉與崇祖善。恐其

爲變。加意撫之。丁亥。下詔誣崇祖招結江北荒人欲與伯玉作亂。皆收殺之。○庚子。魏主如崞山。壬寅。還宮。○閏月。癸丑。魏主後宮平涼林氏生子恂。大赦。文明太后以恂當爲太子。賜林氏死。自撫養恂。○五月。戊寅朔。魏主如武州山石窟佛寺。○車騎將軍張敬兒。好信夢。初爲南陽太守。其妻尙氏夢一手熱如火。及爲雍州。夢一胛熱。爲開府。夢半身熱。敬兒意欲無限。常謂所親曰。吾妻復夢舉體熱矣。又自言。夢舊村社樹高至天。上聞而惡之。垣崇祖死。敬兒內自疑。會有人告敬兒遣人至蠻中貨易。上疑有其異志。會上於華林園設八關齋。朝臣皆預。於坐收敬兒。敬兒脫冠貂。投地曰。此物誤我。丁酉。殺敬兒。幷其四子。敬兒弟恭兒。常慮爲兄禍所及。居於冠軍。未嘗出襄陽。村落深阻。牆垣重復。敬兒每遣信。輒上馬屬鞬。然後見之。敬兒敗問至。席卷入蠻。後自出。上恕之。敬兒女爲征北諮議參軍謝超宗子婦。超宗謂丹陽尹李安民曰。往年殺韓信。今年殺彭越。尹欲何計。安民具啓之。上素惡超宗輕慢。使兼御史中丞袁彖奏彈超宗。丁巳。收付廷尉。徙越嶲。於道賜死。以彖語不刻切。又使左丞王逡之奏彈。彖輕文略奏。撓法容非。彖坐免官。禁錮十年。超宗。靈運之孫。彖。顗之弟子也。○秋。七月。丁丑。魏主及太后如神淵池。甲申。如方山。○魏使假員外散騎常侍頓丘李彪來聘。○侍中左光祿大夫開府儀同三司王僧虔。固辭開府。謂兒子儉曰。汝任重於朝。行登三事。我若復有此授。乃是一門有二台司。吾實懼焉。累年不拜。上乃許之。戊戌。加僧虔特進。儉作長梁齋。制度小過。僧虔視之不悅。竟不入戶。儉。卽日毀之。初王弘與兄弟集會。任子孫戲適。僧達跳下地作虎子。僧綽正坐采蠟燭珠爲鳳皇。僧達奪取打壞。亦復不惜。僧虔累十二博棊。既不墜落。亦不重作。弘歎曰。僧達俊爽。當不減人。然恐終危吾家。僧綽當以名義見美。僧虔必爲長者。位至公台。已而皆如其言。○八月。庚申。驍騎將軍王洪範。自柔然還。經塗三萬餘里。○冬。十月。丙寅。遣驍騎將軍劉纘。聘於魏。魏主客令李安世主之。魏人出內藏之寶。使賈人鬻之於市。纘曰。魏金玉大賤。當由山川所出。安世曰。聖朝不貴金玉。故賤同瓦礫。纘初欲多市。聞其言。內慙而止。纘屢奉使至魏。馮太后遂私幸之。○十二月。乙巳朔。日有食之。○癸丑。魏始禁同姓爲婚。○王儉進號衛將軍。參掌選事。○是歲。省巴州。○魏秦州刺史于洛侯。性殘酷。刑人。必斷腕拔舌。分懸四體。合州驚駭。州民王元壽等。一時俱反。有司劾奏之。魏主遣使至州。於洛侯常刑人處。宣告吏民。然後斬之。齊州刺史韓麒麟。爲政尙寬。從事劉普慶。說麒麟曰。刑罰所以止惡。仁者不得已而用之。今民不犯法。又何誅乎。若必斷斬。然後可以立威。當以卿應之。普慶慚懼而退。

資治通鑑卷第一百三十五

齊紀　世祖武皇帝上之上永明元年

資治通鑑卷第一百三十六

齊紀二

世祖武皇帝上之下

永明二年。春。正月。乙亥。以後將軍柳世隆爲尚書右僕射。竟陵王子良爲護軍將軍。兼司徒。領兵置佐。鎮西州。子良少有清尚。傾意賓客。才雋之士。皆遊集其門。開西邸。多聚古人器服。以充之。記室參軍范雲。蕭琛。樂安任昉。法曹參軍王融。衞軍東閤祭酒蕭衍。鎮西功曹謝朓。步兵校尉沈約。揚州秀才吳郡陸倕。竝以文學。尤見親待。號曰八友。法曹參軍柳惲。太學博士王僧孺。南徐州秀才濟陽江革。尚書殿中郎范縝。會稽孔休源。亦預焉。琛。惠開之從子。惲。元景之從孫。融。僧達之孫。衍。順之之子。朓。述之孫。約。璞之子。僧孺。雅之曾孫。縝。雲之從兄也。子良篤好釋氏。招致名僧。講論佛法。道俗之盛。江左未有。或親爲衆僧賦食行水。世頗以爲失。宰相體。范縝盛稱無佛。子良曰。君不信因果。何得有富貴貧賤。縝曰。人生如樹花同發。隨風而散。或拂簾幌。墜茵席之上。或關籬牆。落糞溷之中。墜茵席者。殿下是也。落糞溷者。下官是也。貴賤雖復殊途。因果竟在何處。子良無以難。縝又著神滅論。以爲形者神之質。神者形之用也。神之於形。猶利之於刀。未聞刀沒而利存。豈容形亡而神在哉。此論出。朝野諠譁難之。終不能屈。太原王琰著論譏縝曰。嗚呼。范子曾不知其先祖神靈所在。欲以杜縝後對。縝對曰。嗚呼。王子知其先祖神靈所在。而不能殺身以從之。子良使王融謂之曰。以卿才美。何患不至中書郎。而故乖刺爲此論。甚可惜也。宜急毀弃之。縝大笑曰。使范縝賣論取官。已至令僕矣。何但中書郎邪。蕭衍好籌略。有文武才幹。王儉深器異之曰。蕭郎出三十。貴不可言。○壬寅。以柳世隆爲尚書左僕射。丹陽尹李安民爲右僕射。王儉領丹陽尹。○夏。四月。甲寅。魏主如方山。戊午。還宮。庚申。如鴻池。丁卯。還宮。○五月。甲申。魏遣員外散騎常侍李彪等來聘。○六月。壬寅朔。中書舍人吳興茹法亮。封望蔡男。時中書舍人四人。各住一省。謂之四戶。以法亮及臨海呂文顯等爲之。既總重權。勢傾朝廷。守宰數遷換去來。四方餉遺。歲數百萬。法亮嘗於衆中語人曰。何須求外祿。此一戶中。年辦百萬。蓋約言之也。後因天文有變。王儉極言。文顯等專權徇私。上天見異。禍由四戶。上手詔酬答。而不能改也。○魏舊制。戶調帛二匹。絮二斤。絲一斤。穀二十斛。又入帛一匹二丈。委之州庫。以供調外之費。所調各隨土之所出。丁卯。詔曰。置官班祿。行之尚矣。自中原喪亂。茲制中絕。朕憲章舊典。始班俸祿。戶增調帛三匹。穀二斛九斗。以爲官司之祿。增調外帛二匹。祿行之後。贓滿一匹者死。變法改度。宜爲更始。其大赦天下。○秋。七月。甲申。立皇子子倫爲巴陵王。○乙未。魏主如武州山石窟寺。○九月。魏詔班祿。以十月爲始。季別受之。舊律。枉法十匹。義贓二十匹。罪死。至是。義贓一匹。枉法無多少。皆死。仍分命使者。糾按守宰之貪者。秦益二州刺史恒農李洪之。以外戚貴顯。爲治貪暴。班祿之後。洪之首以贓敗。魏主命鎖赴平城。集百官。親臨數之。猶以其大臣。聽在家自裁。自餘守宰。坐贓死者四十餘人。受祿者無不跼蹐。賕賂殆絕。然吏民犯它罪者。魏主率寬之。疑罪奏讞。多減死徙邊。歲以千計。都下決大辟。歲不過五六人。州鎮亦簡。久之。淮南王佗。奏請依舊斷祿。文明太后召羣臣議之。中書監高閭。以爲飢寒切身。慈母不能保其子。今給祿。則廉者足以無濫。貪者足以勸慕。不給。則貪者得肆其姦。廉者不能自保。淮南之議。不亦謬乎。詔從閭議。閭又上表。以爲北狄悍愚。同於禽獸。所長者野戰。所短者攻城。若以狄之所短。奪其所長。則雖衆不能成患。雖來不能深入。又狄散居野澤。隨逐水草。戰則與家業俱至。

奔則與畜牧俱逃。不齎資糧而飲食自足。是以歷代能爲邊患。六鎮勢分。倍衆不鬬。互相圍逼。難以制之。請依秦漢故事。於六鎮之北築長城。擇要害之地。往往開門。造小城於其側。置兵扞守。狄既不攻城。野掠無獲。草盡則走。終必懲艾。計六鎮東西。不過千里。一夫一月之功。可城三步之地。彊弱相兼。不過用十萬人。一月可就。雖有暫勞。可以永逸。凡長城有五利。罷遊防之苦。一也。北部放牧。無抄掠之患。二也。登城觀敵。以逸待勞。三也。息無時之備。四也。歲常遊運。永得不匱。五也。魏主優詔答之。○冬。十月。丁巳。以南徐州刺史長沙王晃爲中書監。初太祖臨終以晃屬帝。使處於輦下或近藩。勿令遠出。且曰。宋氏若非骨肉相殘。它族豈得乘其弊。汝深誡之。舊制。諸王在都。唯得置捉刀左右四十人。晃好武飾。及罷南徐州。私載數百人仗。還建康爲禁司所覺。投之江水。帝聞之。大怒。將糾以法。豫章王嶷叩頭流涕曰。晃罪誠不足宥。陛下當憶先朝念晃。帝亦垂泣。由是終無異意。然亦不被親寵。論者謂帝優於魏文。減於漢明。武陵王曄。多材藝。而疎悍。亦無寵於帝。嘗侍宴。醉伏地。貂抄肉柈。帝笑曰。肉汙貂。對曰。陛下愛羽毛。而疎骨肉。帝不悅。曄輕財好施。故無蓄積。名後堂山曰首陽。蓋怨貧薄也。○高麗王璉。遣使入貢於魏。亦入貢於齊。時高麗方彊。魏置諸國使邸。齊使第一。高麗次之。○益州大度獠。恃險驕恣。前後刺史不能制。及陳顯達爲刺史。遣使責其租賦。獠帥曰兩眼刺史。尚不敢調我。況一眼乎。遂殺其使。顯達分部將吏。聲言出獵。夜往襲之。男女無少長。皆斬之。晉氏以來。益州刺史皆以名將爲之。十一月。丁亥。帝始以始興王鑑爲督益寧諸軍事益州刺史。徵顯達爲中護軍。先是劫韓韓武方聚黨千餘人。斷流爲暴。郡縣不能禁。鑑行至上明。武方出降。長史虞綜等。咸請殺之。鑑曰。殺之失信。且無以勸善。乃啓臺而宥之。於是巴西蠻夷爲寇暴者。皆望風降附。鑑時年十四。行至新城。道路籍籍云。陳顯達大選士馬。不肯就徵。乃停新城。遣典籤張曇晳。往觀形勢。俄而顯達遣使詣鑑。咸勸鑑執之。鑑曰。顯達立節本朝。必自無此。居二日。曇晳還。具言顯達已遷家出城。日夕望殿下至。於是乃前。鑑喜文學。器服如素士。蜀人悅之。○乙未。魏員外散騎常侍李彪等來聘。○是歲。詔增豫章王嶷封邑爲四千戶。宋元嘉之世。諸王入齋閣。得白服帶帽見人主。唯出太極四廂。乃備朝服。自後此制遂絕。上於嶷友愛。宮中曲宴。聽依元嘉故事。嶷固辭不敢。唯車駕至其第。乃白服烏紗帽。以侍宴。至於衣服器用制度。動皆陳啓。事無專制。務從減省。上竝不許。嶷常慮盛滿。求解揚州。以授竟陵王子良。上終不許曰。畢汝一世。無所多言。嶷長七尺八寸。善修容範。文物衞從。禮冠百僚。每出入殿省。瞻望者無不肅然。○交州刺史李叔獻。既受命。而斷割外國貢獻。上欲討之。

三年。春。正月。丙辰。以大司農劉楷爲交州刺史。發南康廬陵始興兵。以討叔獻。叔獻聞之。遣使乞更申數年。獻十二隊純銀兜鍪。及孔雀毦。上不許。叔獻懼。爲楷所襲。間道自湘州還朝。○戊寅。魏詔曰。圖讖之興。出於三季。既非經國之典。徒爲妖邪所憑。自今圖讖祕緯。一皆焚之。留者以大辟論。又嚴禁諸巫覡。及委巷卜筮。非經典所載者。○魏馮太后作皇誥十八篇。癸未。大饗羣臣于太華殿。班皇誥。○辛卯。上祀南郊。大赦。○詔復立國學。釋奠先師。用上公禮。○二月。己亥。魏制皇子皇孫有封爵者。歲祿各有差。○辛丑。上祀北郊。○三月。丙申。魏封皇弟禧爲咸陽王。幹爲河南王。羽爲廣陵王。雍爲潁川王。勰爲始平王。詳爲北海王。文明太后令置學館。選師傅。以教諸王。勰於兄弟最賢。敏而好學。善屬文。魏主尤奇愛之。○夏。四月。癸丑。魏主如方山。甲寅。還宮。○初宋太宗置總明觀。以集學士。亦謂之東觀。上以國學既立。五月。乙未。省總明觀。時王儉領國子祭酒。詔於儉宅開學士館。以總明四部書充之。又詔儉以家爲府。自宋世祖好文章。士大夫悉以文章相尚。無以專經爲業者。儉少好禮學及春秋。言論造次。必於儒者。由是衣冠翕然。更尚儒術。儉撰次朝儀國典。自晉宋以來故事。無不諳

憶。故當朝理事。斷決如流。每博議引證。八坐丞郎。無能異者。令史諮事。常數十人。賓客滿席。儉應接辨析。傍無留滯。發言下筆。皆有音彩。十日一還學。監試諸生。巾卷在庭。劒衞令史。儀容甚盛。作解散髮。斜插簪。朝野慕之。相與倣効。儉常謂人曰。江左風流宰相。唯有謝安。意以自比也。上深委仗之。士流選用。奏無不可。○六月。庚戌。進河南王度易侯爲車騎將軍。遣給事中吳興丘冠先。使河南。幷送柔然使。○辛亥。魏主如方山。丁巳。還宮。○秋。七月。癸未。魏遣使拜宕昌王梁彌機兄子彌承爲宕昌王。初彌機死。子彌博立。爲吐谷渾所逼。奔仇池。仇池鎭將穆亮。以彌機事魏素厚。矜其滅亡。彌博凶悖。所部惡之。彌承爲衆所附。表請納之。詔許之。亮帥騎三萬。軍于龍鵲。擊走吐谷渾。立彌承。而還。亮。崇之曾孫也。○戊子。魏主如魚池。登青原岡。甲午。還宮。八月。己亥。如彌澤。甲寅。登牛頭山。甲子。還宮。○魏初民多蔭附。蔭附者。皆無官役。而豪彊徵斂。倍於公賦。給事中李安世上言。歲飢民流。田業多爲豪右所占奪。雖桑井難復。宜更均量。使力業相稱。又所爭之田。宜限年斷。事久難明。悉歸今主。以絕詐妄。魏主善之。由是始議均田。冬。十月。丁未。詔遣使者。循行州郡。與牧守均給天下之田。諸男夫十五以上。受露田四十畝。婦人二十畝。奴婢依良丁。牛一頭。受田三十畝。限止四牛。所授之田。率倍之。三易之田。再倍之。以供耕作。及還受之盈縮。人年及課則受田。老免。及身沒則還田。奴婢牛隨有無。以還受。初受田者。男夫給二十畝。課種桑五十株。桑田皆爲世業。身終不還。恒計見口。有盈者。無受無還。不足者。受種如法。盈者得賣其盈。諸宰民之官。各隨近給公田。有差。更代相付。賣者坐如律。○辛酉。魏魏郡王陳建卒。○魏員外散騎常侍李彪等來聘。○十二月。乙卯。魏以侍中淮南王佗爲司徒。○柔然犯魏塞。魏任城王澄。帥衆拒之。柔然遁去。澄。雲之子也。氐羌反。詔以澄爲都督梁益荊三州諸軍事。梁州刺史。澄至州。討叛柔服。氐羌皆平。○初太祖命黃門郎虞玩之等。檢定黃籍。上卽位。別立校籍官。置令史。限人一日得數巧。既連年不已。民愁怨不安。外監會稽呂文度。啓上籍被却者。悉充遠戍。民多逃亡避罪。富陽民唐寓之。因以妖術惑衆作亂。功陷富陽。三吳却籍者奔之。衆至三萬。文度與茹法亮。呂文顯。皆以姦諂有寵於上。文度爲外監。專制兵權。領軍守虛位而已。法亮爲中書通事舍人。權勢尤盛。王儉常曰。我雖有大位。權寄豈及茹公邪。○是歲。柔然部眞可汗卒。子豆崙立。號伏名敦可汗。改元太平。

四年。春。正月。癸亥朔。魏高祖朝會。始服袞冕。○壬午。柔然寇魏邊。○唐寓之攻陷錢唐。吳郡諸縣令。多弃城走。寓之稱帝於錢唐。立太子。置百官。遣其將高道度等。攻陷東陽。殺東陽太守蕭崇之。崇之。太祖族弟也。又遣其將孫泓。寇山陰。至浦陽江。浹口戍主湯休武。擊破之。上發禁兵數千人。馬數百匹。東擊寓之。臺軍至錢唐。寓之衆烏合。畏騎兵。一戰而潰。擒斬寓之。進平諸郡縣。臺軍乘勝。頗縱抄掠。軍還。上聞之。收軍主前軍將軍陳天福。弃市。左軍將軍劉明徹免官。削爵。付東冶。天福。上寵將也。旣伏誅。內外莫不震肅。使通事舍人丹楊劉係宗。隨軍慰勞。遍至遭賊郡縣。百姓被驅逼者。悉無所問。○閏月。癸巳。立皇子子貞爲邵陵王。皇孫昭文爲臨汝公。○氐王楊後起卒。丁未。詔以白水太守楊集始爲北秦州刺史。武都王。集始文弘之子也。後起弟後明。爲白水太守。魏亦以集始爲武都王。集始入朝于魏。魏以爲南秦州刺史。○辛亥。帝耕籍田。○二月。己未。立皇弟銶爲河東王。○魏無鄉黨之法。唯立宗主督護。民多隱冒。三五十家。始爲一戶。內祕書令李冲。上言。宜準古法。五家立鄰長。五鄰立里長。五里立黨長。取鄉人彊謹者爲之。鄰長復一夫。里長二夫。黨長三夫。三載無過。則升一等。其民調。一夫一婦。帛一匹。粟二石。大率十匹爲公調。二匹爲調外費。三匹爲百官俸。此外復有雜調。民年八十已上。聽一子不從役。孤獨癃老篤疾貧窮不能自存者。三長內迭養食之。書奏。詔百官通議。中書令鄭羲等。皆以爲不可。太尉丕曰。臣謂此法若行。於公私

有賴。但方有事之月。校比戶口。民必勞怨。請過今秋。至冬。乃遣使者。於事爲宜。冲曰。民可使由之。不可使知之。若不因調時。民徒知立長校戶之勤。未見均徭省賦之益。心必生怨。宜及調課之月。令知賦稅之均。既識其事。又得其利。行之差易。羣臣多言。九品差調。爲日已久。一旦改法。恐成擾亂。文明太后曰。立三長。則課調有常準。苞蔭之戶可出。僥倖之人可止。何爲不可。甲戌。初立黨里鄰三長。定民戶籍。民始皆愁苦。豪彊者尤不願。既而課調省費十餘倍。上下安之。○三月。丙申。柔然遣使者牟提如魏。時敕勒叛柔然。柔然伏名敦可汗。自將討之。追奔至西漠。魏左僕射穆亮等。請乘虛擊之。中書監高閭曰。秦漢之世。海內一統。故可遠征匈奴。今南有吳寇。何可捨之深入虜庭。魏主曰。兵者凶器。聖人不得已而用之。先帝屢出征伐者。以有未賓之虜故也。今朕承太平之業。奈何無故動兵革乎。厚禮其使者而歸之。○夏。四月。辛酉朔。魏始制五等公服。甲子。初以法服御輦。祀南郊。○癸酉。魏主如靈泉池。戊寅。還宮。○湘州蠻反。刺史呂安國有疾。不能討。丁亥。以尚書左僕射柳世隆爲湘州刺史。討平之。○六月。辛酉。魏主如方山。○己卯。魏文明太后賜皇子恂名。大赦。○秋。七月。戊戌。魏主如方山。○八月。乙亥。魏給尚書五等爵已上。朱衣玉佩。大小組綬。○九月。辛卯。魏作明堂辟雍。○冬。十一月。魏議定民官。依戶給俸。○十二月。柔然寇魏邊。○是歲。魏改中書學曰國子學。分置州郡。凡三十八州。二十五在河南。十三在河北。

五年。春。正月。丁亥朔。魏主詔。定樂章。非雅者除之。○戊子。以豫章王嶷爲大司馬。竟陵王子良爲司徒。臨川王映。衛將軍王儉。中軍將軍王敬則。並加開府儀同三司。子良啓記室范雲爲郡。上曰。聞其常相賣弄。朕不復窮法。當有之以遠。子良曰。不然。雲動相規誨。諫書具存。遂取以奏。凡百餘紙。辭皆切直。上歎息。謂子良曰。不謂雲能爾。方使弼汝。何宜出守。文惠太子嘗出東田觀穫。顧謂衆賓曰。刈此。亦殊可觀。衆皆曰。唯唯。雲獨曰。三時之務。實爲長勤。伏願殿下。知稼穡之艱難。無徇一朝之宴逸。○荒人桓天生。自稱桓玄宗族。與雍司二州蠻相扇動。據南陽故城。請兵於魏。將入寇。丁酉。詔。假丹楊尹蕭景先節。總帥步騎。直指義陽。司州諸軍。皆受節度。又假護軍將軍陳顯達節。帥征虜將軍戴僧靜等。水軍向宛葉。雍司諸軍。皆受顯達節度。以討之。○魏光祿大夫咸陽文公高允。歷事五帝。出入三省。五十餘年。未嘗有譴。馮太后及魏主。甚重之。帝命中黃門蘇興壽扶侍。允仁恕簡靜。雖處貴重。情同寒素。執書吟覽。晝夜不去手。誨人以善。恂恂不倦。篤親念故。無所遺棄。顯祖平青徐。悉徙其望族於代。其人多允之婚媾。流離飢寒。允傾家賑施。咸得其所。又隨其才行。薦之於朝。議者多以初附間之。允曰。任賢使能。何有新舊。必若有用。豈可以此抑之。允體素無疾。至是。微有不適。猶起居如常。數日而卒。年九十八。贈侍中司空。賻襚甚厚。魏初以來。存亡蒙賚。皆莫及也。○桓天生引魏兵萬餘人。至沘陽。陳顯達遣戴僧靜等。與戰於深橋。大破之。殺獲萬計。天生退保沘陽。僧靜圍之。不克而還。荒人胡丘生。起兵懸瓠。以應齊。魏人擊破之。丘生來奔。天生又引魏兵寇舞陰。舞陰戍主殷公愍。拒擊破之。殺其副張麒麟。天生被創退走。三月。丁未。以陳顯達爲雍州刺史。顯達進據舞陽城。○夏。五月。壬辰。魏主如靈泉池。○癸巳。魏南平王渾卒。○甲午。魏主還平城。詔。復七廟子孫。及外戚緦麻服已上。賦役無所與。○魏南部尚書公孫邃。上谷公張儵。帥衆。與桓天生復寇舞陰。殷公愍擊破之。天生還竄荒中。邃。表之孫也。○魏春夏大旱。代地尤甚。加以牛疫。民餓死者多。六月。癸未。詔。內外之臣。極言無隱。齊州刺史韓麒麟上表曰。古先哲王。儲積九稔。逮於中代。亦崇斯業。入粟者。與斬敵同爵。力田者。與孝悌均賞。今京師民庶。不田者多。遊食之口。參分居二。自承平日久。豐穰積年。競相矜夸。遂成侈俗。貴富之家。童妾袨服。工商之族。僕隸玉食。而農夫闕糟糠。蠶婦乏短褐。故令耕者日少。田有荒蕪。穀帛罄於府庫。寶貨盈於市里。衣食匱於室麗。服溢於路。飢寒之本。寔在於斯。愚謂凡珍異

之物。皆宜禁斷。吉凶之禮。備爲格式。勸課農桑。嚴加賞罰。數年之中。必有盈贍。往年校比戶貫。租賦輕少。臣所統齊州租粟。纔可給俸。略無入倉。雖於民爲利。而不可長久。脫有戎役。或遭天災。恐供給之方。無所取濟。可減絹布。增益穀租。年豐多積。歲儉出賑。所謂私民之穀。寄積於官。官有宿積。則民無荒年矣。秋七月。己丑。詔有司開倉賑貸。聽民出關就食。遣使者造籍。分遣去留。所過給糧廩。所至三長贍養之。○柔然伏名敦可汗殘暴。其臣侯醫堙石洛候數諫止之。且勸其與魏和親。伏名敦怒。族誅之。由是部衆離心。八月。柔然寇魏邊。魏以尚書陸叡爲都督。擊柔然。大破之。叡。麗之子也。初高車阿伏至羅有部落十餘萬。役屬柔然。伏名敦之侵魏也。阿伏至羅諫。不聽。阿伏至羅怒。與從弟窮奇帥部落西走。至前部西北。自立爲王。國人號曰候婁匐勒。夏言天子也。號窮奇曰候倍。夏言太子也。二人甚親睦。分部而立。阿伏至羅居北。窮奇居南。伏名敦追擊之。屢爲阿伏至羅所敗。乃引衆東徙。○九月。辛未。魏詔罷起部。無益之作。出宮人不執機杼者。冬。十月。丁未。又詔。罷尚方錦繡綾羅之工。四民欲造任之無禁。是時。魏久無事。府藏盈積。詔盡出御府衣服珍寶。太官雜器。太僕乘具。內庫弓矢刀鈐十分之八。外府衣物。繒布絲纊。非供國用者。以其太半班賚百司。下至工商皁隸。逮于六鎮邊戍。畿內鰥寡孤獨貧癃。皆有差。○魏祕書令高祐。丞李彪。奏請改國書編年爲紀傳表志。魏主從之。祐。允之從祖弟也。十二月。詔彪與著作郎崔光。改脩國書。光。道固之從孫也。魏主問高祐曰。何以止盜。對曰。昔宗均立德。猛虎渡河。卓茂行化。蝗不入境。況盜賊人也。苟守宰得人。治化有方。止之易矣。祐又上疏言。今之選舉。不採識治之優劣。專簡年勞之多少。斯非盡才之謂。宜停此薄藝。弃彼朽勞。唯才是舉。則官方斯穆。又勳舊之臣。雖年勤可錄。而才非撫民者。可加之以爵賞。不宜委之以方任。所謂王者可私人以財。不私人以官者也。帝善之。祐出爲西兗州刺史。鎮滑臺。以郡國雖有學。縣黨亦宜有之。乃命縣立講學。黨立小學。

六年。春。正月。乙未。魏詔。犯死刑者。父母祖父母年老。更無成人子孫。旁無朞親者。具狀以聞。○初皇子右衛將軍子響。出繼豫章王嶷。嶷後有子。表留爲世子。子響每入朝。以車服異於諸王。每拳擊車壁。上聞之。詔車服與皇子同。於是有司奏。子響宜還本。三月。己亥。立子響爲巴東王。○角城戍將張蒲。因大霧。乘船。入清中。採樵潛納魏兵。戍主皇甫仲賢覺之。帥衆拒戰於門中。僅能却之。魏步騎三千餘人。已至塹外。淮陰軍主王僧慶等。引兵救之。魏人乃退。○夏。四月。桓天生復引魏兵。出據隔城。詔游擊將軍下邳曹虎。督諸軍討之。輔國將軍朱公恩。將兵踰伏。遇天生遊軍。與戰。破之。遂進圍隔城。天生引魏兵步騎萬餘人。來戰。虎奮擊。大破之。俘斬二千餘人。明日拔隔城。斬其襄城太守帛烏祝。復俘斬二千餘人。天生弃平氏城走。○陳顯達侵魏。甲寅。魏遣豫州刺史拓跋斤。將兵拒之。○甲子。魏大赦。○乙丑。魏主如靈泉池。丁卯。如方山。己巳。還宮。○魏築城於醴陽。陳顯達攻拔之。進攻沘陽。城中將士。皆欲出戰。鎮將韋珍曰。彼初至氣銳。未可與爭。且共堅守。待其力攻疲弊。然後擊之。乃憑城拒戰。旬有二日。珍夜開門掩擊。顯達還。○五月。甲午。以宕昌王梁彌承爲河涼二州刺史。○秋。七月。己丑。魏主如靈泉池。遂如方山。己亥。還宮。○九月。壬寅。上如琅邪城講武。○癸卯。魏淮南靖王佗卒。魏主方享宗廟。始薦。聞之。爲廢祭。臨視哀慟。○冬。十月。庚申。立冬。初臨太極殿。讀時令。○閏月。辛卯。以尚書僕射王奐爲領軍將軍。○辛未。魏主如靈泉池。癸酉。還宮。○十二月。柔然伊吾戍主高羔子。帥衆三千。以城附魏。○上以中外穀帛至賤。用尚書右丞江夏李珪之議。出上庫錢五千萬。及出諸州�ㄈ。皆令糴買。○西陵戍主杜元懿。建言。吳興無秋。會稽豐登。商旅往來。倍多常歲。西陵牛埭。稅官格。日三千五百。如臣所見。日可增倍。并浦陽南北津。柳浦四埭。乞爲官領攝一年。格外可長四百許萬。西陵戍前檢稅。無妨戍事。餘三埭。自擧腹心。上以其事下會稽。會稽行事吳郡顧憲之。議以爲始立牛埭之意。非苟逼蹴以取稅也。乃

以風濤迅險。濟急利物耳。後之監領者。不達其本。各務己功。或禁遏佗道。或空稅江行。案吳興頻歲失稔。今茲尤甚。去之從豐。良由飢棘。逮司責稅。依格弗降。舊格新減。尚未議登。格外加倍。將以何術。皇慈恤隱。振廩蠲調。而元懿幸災權利。重增困瘼。人而不仁。古今共疾。若事不副言。懼貽譴詰。必百方侵苦。爲公賈怨。元懿稟性苛刻。已彰往効。任以物土。譬以狼將羊。其所欲舉腹心。亦當虎而冠耳。書云。與其有聚斂之臣。寧有盜臣。此言盜公爲損蓋微。斂民所害乃大也。愚又以便宜者。蓋謂便於公。宜於民也。竊見頃之言便宜者。非能於民力之外。用天分地。率皆卽日不宜於民。方來不便於公。名與實反。有乖政體。凡如此等。誠宜深察。上納之而止。○魏主訪羣臣以安民之術。祕書丞李彪。上封事。以爲豪貴之家。奢僭過度。第宅車服宜爲之等制。又國之興亡。在冢嗣之善惡。冢嗣之善惡。在教諭之得失。高宗文成皇帝。嘗謂羣臣曰。朕始學之日。年尚幼冲。情未能專。既臨萬機。不遑溫習。今日思之。豈唯予咎。抑亦師傅之不勤。尚書李訢。免冠謝。此近事之可鑒者也。臣謂。宜準古立師傅之官。以訓導太子。又漢置常平倉。以救匱乏。去歲。京師不稔。移民就豐。既廢營生。困而後達。又於國體。實有虛損。曷若豫儲倉粟。安而給之。豈不愈於驅督老弱。餬口千里之外哉。宜析州郡常調。九分之二。京師度支歲用之餘。各立官司。年豐糴粟。積之於倉。儉則加私之二。糶之於人。如此。民必力田。以取官絹。積財以取官粟。年登則常積。歲凶則直給。數年之中。穀積而人足。雖災不爲害矣。又宜於河表七州人中。擢其門才。引令赴闕。依中州官比。隨能序之。一可以廣聖朝均新舊之義。二可以懷江漢歸有道之情。又父子兄弟。異體同氣。罪不相及。乃君上之厚恩。至於憂懼相連。固自然之恒理也。無情之人。父兄繫獄。子弟無慘惕之容。子弟逃刑。父兄無愧惡之色。宴安榮位。遊從自若。車馬衣冠。不變華飾。骨肉之恩。豈當然也。臣愚以爲父兄有犯。宜令子弟。素服肉袒。詣闕請罪。子弟有坐。宜令父兄。露板引咎。乞解所司若職任。必要不宜許者。慰勉留之。如此。足以敦厲凡薄。使人知所恥矣。又朝臣遭親喪者。假滿赴職。衣錦乘軒。從郊廟之祀。鳴玉垂緌。同慶賜之燕。傷人子之道。虧天地之經。愚謂。凡遭大父母父母喪者。皆聽終服。若無其人。職業有曠者。則優旨慰諭。起令視事。但綜司出納敷奏而已。國之吉慶。一令無預。其軍旅之警。墨縗從役。雖愆於禮。事所宜行也。魏主皆從之。由是公私豐贍。雖時有水旱。而民不困窮。○魏遣兵擊百濟。爲百濟所敗。

七年。春。正月。辛亥。上祀南郊。大赦。○魏主祀南郊。始備大駕。○壬戌。臨川獻王映卒。○初上爲鎮西長史。主簿王晏。以傾諂爲上所親。自是。常在上府。上爲太子。晏爲中庶子。上之得罪於太祖也。晏稱疾自疎。及卽位。爲丹陽尹。意任如舊。朝夕進見。議論朝事。自豫章王嶷及王儉。皆降意接之。二月。壬寅。出爲江州刺史。晏不願外出。復留爲吏部尚書。○三月。甲寅。立皇子子岳爲臨賀王。子峻爲廣漢王。子琳爲宣城王。子珉爲義安王。○夏。四月。丁丑。魏主詔曰。升樓散物。以賚百姓。至使人馬騰踐。多有傷毀。今可斷之。以本所費之物。賜老疾貧獨者。○丁亥。魏主如靈泉池。遂如方山。己丑。還宮。○上優禮南昌文憲公王儉。詔。三日一還朝。尚書令史。出外諮事。上猶以往來煩數。復詔儉。還尚書下省。月聽十日出外。儉固求解選。詔改中書監。參掌選事。五月。乙巳。儉卒。王晏既領選。權行臺閣。與儉頗不平。禮官欲依王導。謚儉爲文獻。晏啓上曰。導乃得此謚。但宋氏以來。不加異姓。出謂親人曰。平頭憲。事已行矣。徐湛之之死也。其孫孝嗣。在孕。得免。八歲。襲爵枝江縣公。尚宋康樂公主。及上卽位。孝嗣爲御史中丞。風儀端簡。王儉謂人曰。徐孝嗣將來必爲宰相。上嘗問儉。誰可繼卿者。儉曰。臣東都之日。共在徐孝嗣乎。儉卒。孝嗣時爲吳興太守。徵爲五兵尚書。○庚戌。魏主祭方澤。○上欲用領軍王奐爲尚書令。以問王晏。晏與奐不相能。對曰。柳世隆有勳望。恐不宜在奐後。甲子。以尚書左僕射柳世隆爲尚書令。王奐爲左僕射。○六月。丁亥。上如琅邪城。○魏懷朔鎮將汝陰靈

王天賜。長安鎮都大將雍州刺史南安惠王楨。皆坐贓當死。馮太后及魏主。臨皇信堂。引見王公。太后令曰。卿等。以爲當存親以毀令邪。當滅親以明法邪。羣臣皆言。二王。景穆皇帝之子。宜蒙矜恕。太后不應。魏主乃下詔。稱二王所犯難恕。而太皇太后追惟高宗孔懷之恩。且南安王事母孝謹。聞於中外。並特免死。削奪官爵。禁錮終身。初魏朝聞楨貪暴。遣中散閭文祖詣長安察之。文祖受楨賂。爲之隱。事覺。文祖亦抵罪。馮太后謂羣臣曰。文祖前自謂廉。今竟犯法。以此言之。人心信不可知。魏主曰。古有待放之臣。卿等自審不勝貪心者。聽辭位歸第。宰官中散慕容契進曰。小人之心無常。而帝王之法有常。以無常之心。奉有常之法。非所克堪。乞從退黜。魏主曰。契知心不可常。則知貪之可惡矣。何必求退。遷宰官令。契白曜之弟子也。○秋。七月。丙寅。魏主如靈泉池。○魏主使羣臣議。久與齊絕。今欲通使。何如。尚書游明根曰。朝廷不遣使者。又築醴陽。深入彼境。皆直在蕭賾。今復遣使。不亦可乎。魏主從之。八月。乙亥。遣兼員外散騎常侍邢產等來聘。○九月。魏出宮人。以賜北鎮人貧無妻者。○冬。十一月。己未。魏安豐匡王猛卒。○十二月。丙子。魏河東王苟頹卒。○平南參軍顏幼明等。聘於魏。○魏以尚書令尉元爲司徒。左僕射穆亮爲司空。○豫章王嶷。自以地位隆重。深懷退素。是歲。啓求還第。上令其世子子廉。代鎮東府。○太子詹事張緒領揚州中正。長沙王晃。屬用吳興閭人邕爲州議曹。緒不許。晃使書佐固請。緒正色曰。此是身家州鄉。殿下何得見逼。○侍中江斅。爲都官尚書。中書舍人紀僧眞。得幸於上。容表有士風。請於上曰。臣出自本縣武吏。邀逢聖時。階榮至此。爲兒昏。得苟昭光女。卽時無復所須。唯就陛下乞作士大夫。上曰。此由江斅。謝瀹。我不得措意。可自詣之。僧眞承旨詣斅。登榻坐定。斅顧命左右曰。移吾牀遠客。僧眞喪氣而退。告上曰。士大夫故非天子所命。斅。湛之孫。瀹。朏之弟也。○柔然別帥叱呂勤。帥衆降魏。

資治通鑑卷第一百三十六

齊紀　世祖武皇帝上之下　永明七年